

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 207

鹿 田 遺 跡

県立岡山病院第Ⅰ期・第Ⅱ期
整備事業に伴う発掘調査

2 0 0 7

岡 山 県 教 育 委 員 会

序

この報告書は、県立岡山病院建て替えに伴い、平成13・14・16年度の3か年にわたって実施した岡山市鹿田遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

鹿田遺跡の位置は岡山市街地の南部にあたりますが、かつては旭川河口と児島湾に近い河川・海上交通に好適な環境にありました。本遺跡の位置する鹿田地区周辺には、岡山県の平安時代の歴史を語る貴重な文献が残されていることで著名な、摂関家の殿下渡領四ヶ荘の一つである鹿田荘が存在したことが知られていますが、本遺跡はまさにその所在地の有力候補の一つに挙げられています。

このたび岡山県保健福祉部は、県立岡山病院が築後40年余りを経過し、老朽化が著しく、患者の状況に対応した医療を適切に進める上で支障をきたしていることから、建て替えを計画しました。この計画に対し、岡山県教育委員会では、県立病院施設敷地には周知の遺跡である鹿田遺跡が存在するため、本遺跡の取り扱いについて関係機関と協議を重ねてまいりましたが、やむなく記録保存の措置を講ずることになりました。

調査の結果、平安時代～鎌倉時代の遺構・遺物が多く確認されました。この中には、緑釉陶器や灰釉陶器など、当時の貴重な遺物も含まれていることから、本遺跡と鹿田荘の経営に携わった人々との関連性が注目されます。

これらの発掘成果を収載したこの報告書が、地域の歴史・文化を解明する基礎資料として活かされるとともに、遺跡の保護・保存のため有効に活用されることを願っています。

最後になりましたが、発掘調査の実施や報告書の作成にあたっては、岡山県保健福祉部、県立岡山病院、地元住民の方々をはじめとして、関係各位から多大な御支援と御協力をいただきました。記して厚く御礼申し上げます。

平成19年2月

岡山県古代吉備文化財センター

所 長 松 本 和 男



1 遺跡遠景（東から）

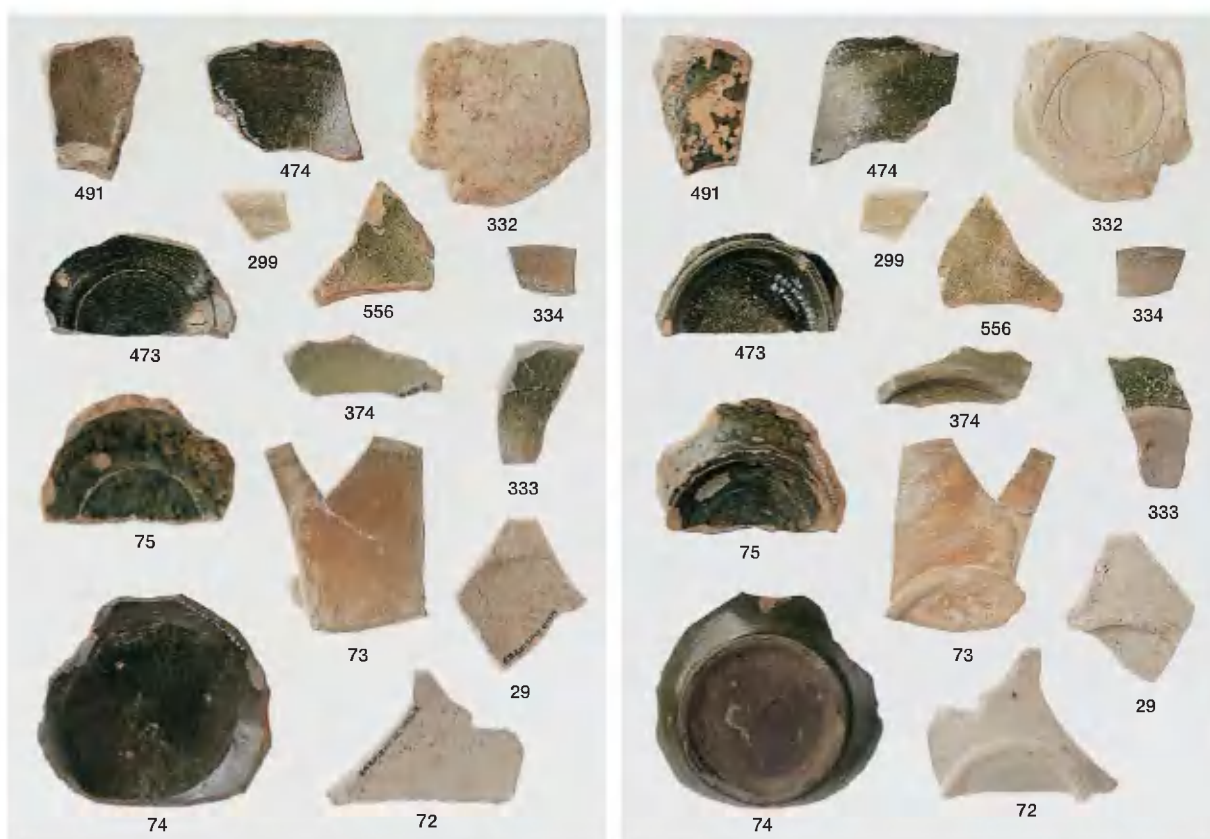


2 遺構検出状況（南から）

巻頭図版 2



1 古代の土器・陶器



2 緑釉陶器・灰釉陶器

例 言

- 1 本書は、県立岡山病院の建て替えに伴い、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した、岡山市鹿田本町3-16ほかに所在する鹿田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成11年度（6月）に確認調査（60m²）、平成13年度（4～9月）に1区（1,950m²）、平成14年度（7～9月）に2区（1,290m²）、平成16年度（8～10月）に3区（3,400m²）を対象として実施した。
- 3 調査は、平成13年度に渡邊恵里子・馬路晃祥、平成14年度に澤山孝之・福井 優、平成16年度に柳瀬昭彦・井上 弘・亀山行雄・柴田英樹・杉山一雄・稲谷知子が担当した。
- 4 調査記録および出土遺物の整理は、平成13年度（10～3月）に渡邊、平成14年度（10～12月）に澤山、平成16年度（11～3月）に柳瀬・亀山・稲谷（11月のみ）が担当し、岡山県古代吉備文化財センターにて実施した。
- 5 本書に用いた高度は、海拔高である。
- 6 本書に用いた方位は、日本測地系の平面直角第Ⅴ座標系に基づく。
- 7 本書に収載した周辺遺跡分布図は、国土地理院発行1/25,000「岡山北部」・「岡山南部」を複製・加筆して使用した。
- 8 本書の執筆は、調査担当者が分担し、文末に文責を記した。
- 9 本書の編集は、第2章第1節を渡邊、同第2節を澤山、第3節を亀山が担当し、亀山が全体をとりまとめた。
- 10 本書の作成にあたり、出土土器について岡山大学埋蔵文化財センター 山本悦世氏、出土動物遺体について岡山理科大学 富岡直人氏から有益な教示を受けた。記して厚くお礼を申し上げる。
- 11 本書の作成にあたり、遺物写真については、江尻泰幸が担当した。
- 12 本書に関連する出土遺物および図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）において保管している。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章 序説	1
第1節 遺跡をとりまく環境	1
第2節 調査と整理の経過	4
1 調査と整理の経過	4
2 調査と整理の体制	6
第2章 調査の概要	9
第1節 平成13年度の調査	9
1 概要	9
2 中世以前の遺構・遺物	10
3 近世以降の遺物・遺物	27
第2節 平成14年度の調査	30
1 概要	30
2 中世以前の遺構・遺物	32
3 近世以降の遺物・遺物	38
第3節 平成16年度の調査	43
1 概要	43
2 中世以前の遺構・遺物	43
3 近世以降の遺物・遺物	61
遺構一覧表・遺物観察表	64
第3章 総括	77
第1節 調査地の変遷	77
第2節 鹿田遺跡の自然科学分析	78

図版

報告書抄録

奥付

図 目 次

第1図 調査位置図 (1/200,000)	1	第33図 2区土層断面図 (1/100)	31
第2図 周辺遺跡 (1/40,000)	2	第34図 井戸1 (1/30)	32
第3図 調査地位置図 (1/10,000)	4	第35図 井戸1出土遺物 (1/3・1/4・1/10)	33
第4図 調査区配置図 (1/1,200)	5	第36図 土壌8・出土遺物 (1/40・1/4)	34
第5図 検出遺構全体図 (1/600)	8	第37図 土壌9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)	34
第6図 基盤層出土の遺物 (1/4)	9	第38図 溝7～8・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)	35
第7図 1区中世以前遺構全体図 (1/400)	10	第39図 溝9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)	35
第8図 1区土層断面図 (1/100)	11	第40図 溝10～12・出土遺物 (1/30・1/4)	36
第9図 土壌1～3・出土遺物 (1/60・1/4)	12	第41図 たわみ3 (1/60)	36
第10図 土壌4～6・出土遺物 (1/30・1/4)	13	第42図 たわみ3出土遺物 (1/3・1/4)	37
第11図 溝2 (1/60・1/30)	14	第43図 その他の遺物 (1/3・1/4)	38
第12図 溝3・出土遺物 (1/60・1/4)	14	第44図 2区近世以降遺構全体図 (1/400)	39
第13図 河道 (1/300・1/80)	15	第45図 土壌10～11・出土遺物 (1/30・1/4)	40
第14図 河道出土遺物1 (1/4)	16	第46図 土壌12 (1/40)	40
第15図 河道出土遺物2 (1/4)	17	第47図 土壌13～14・出土遺物 (1/40・1/30・1/4)	
第16図 河道出土遺物3 (1/4)	18		41
第17図 河道出土遺物4 (1/4)	19	第48図 溝13～15 (1/30)	42
第18図 河道出土遺物5 (1/3)	20	第49図 水田 (1/60)	42
第19図 河道内貝層・出土遺物 (1/60・1/3・1/4)		第50図 3区中世以前遺構全体図 (1/400)	44
.....	21	第51図 3区土層断面図 (1/100)	45
第20図 河道内獣骨出土状況・周辺出土遺物 (1/30・1/4)		第52図 掘立柱建物1 (1/80)	46
.....	22	第53図 掘立柱建物2・出土遺物 (1/80・1/4)	46
第21図 河道肩口出土遺物 (1/4)	23	第54図 井戸2・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)	
第22図 たわみ1・出土遺物 (1/60・1/3・1/4)	24		47
第23図 たわみ2・出土遺物1 (1/60・1/4)	24	第55図 井戸3～4・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)	
第24図 たわみ2出土遺物2 (1/4)	25		48
第25図 たわみ2出土遺物3 (1/3)	26	第56図 井戸5・出土遺物 (1/30・1/4・1/5・1/8)	
第26図 水田出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	27		49
第27図 その他の遺物 (1/4)	27	第57図 井戸6・出土遺物 (1/30・1/4)	50
第28図 1区近世以降遺構全体図 (1/400)	28	第58図 井戸7・出土遺物 (1/40・1/20・1/4・1/10)	
第29図 土壌7・出土遺物 (1/30・1/4)	29		51
第30図 溝4～6 (1/60)	29	第59図 井戸8・出土遺物 (1/40・1/4)	52
第31図 水田・出土遺物 (1/30・1/2・1/3・1/4)	29	第60図 井戸9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)	
第32図 2区中世以前遺構全体図 (1/400)	30		53

第61図	井戸10・出土遺物 1 (1/40・1/3・1/4・1/5)	54	第67図	溝16・出土遺物 (1/30・1/4)	58
第62図	井戸10出土遺物 2 (1/5・1/10)	55	第68図	その他の遺物 1 (1/4)	59
第63図	土壌15・出土遺物 (1/30・1/4)	56	第69図	その他の遺物 2 (1/4・1/5)	60
第64図	土壌16～18・出土遺物 (1/30・1/4)	57	第70図	その他の遺物 3 (1/3・1/4)	61
第65図	土壌19～21・出土遺物 (1/30・1/4)	57	第71図	3区近世以降遺構全体図 (1/400)	62
第66図	土壌22・出土遺物 (1/30・1/4)	58	第72図	土壌23～25・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)	63

巻頭図版目次

巻頭図版 1	1 遺跡遠景 (東から) 2 遺構検出状況 (南から)	巻頭図版 2	1 古代の土器・陶器 2 緑釉陶器・灰釉陶器
--------	--------------------------------	--------	---------------------------

図版目次

図版 1	1 1区南西 (北東から) 2 土壌1～3 (西から) 3 土壌5 (南東から) 4 土壌6 (北西から) 5 土壌7 (南西から)	図版 7	1 井戸2 (北東から) 2 井戸2水溜 (西から) 3 井戸4 (東から) 4 井戸4水溜 (東から) 5 井戸5 (東から) 6 井戸5水溜 (東から)
図版 2	1 1区北東 (南から) 2 河道 (北東から)	図版 8	1 井戸7 (東から) 2 井戸7井戸側 (東から) 3 井戸9 (北東から) 4 井戸9井戸側 (西から) 5 井戸10 (北から) 6 井戸10水溜 (東から)
図版 3	1 河道内獣骨出土状況 (北東から) 2 河道内緑釉陶器出土状況 (西から) 3 河道肩口土器出土状況 (西から) 4 河道内貝層検出状況 (北西から) 5 河道内遺物出土状況 (西から)	図版 9	1 井戸3 (東から) 2 井戸8 (南から) 3 土壌16 (東から) 4 土壌18 (南から) 5 土壌17 (東から) 6 土壌21 (南から)
図版 4	1 2区 (北西から) 2 井戸1土層断面 (南西から) 3 井戸1水溜 (南西から) 4 土壌8 (南から)	図版10	出土土器 1・陶器
図版 5	1 3区南 (北西から) 2 3区北 (西から)	図版11	出土土器 2
図版 6	1 掘立柱建物 1 (北から) 2 掘立柱建物 2 (北から)		

図版12	出土土器 3	図版16	出土木製品 2
図版13	出土土器 4	図版17	出土動物遺体 1
図版14	出土土器 5・土製品・石製品・金属製品	図版18	出土動物遺体 2
図版15	出土木製品 1		

表 目 次

表 1	文化財保護法に基づく提出書類一覧	7	表 4	鹿田遺跡における珪藻分析結果	82
表 2	鹿田遺跡のプラント・オパール分析	80	表 5	鹿田遺跡における寄生虫卵分析結果	82
表 3	鹿田遺跡における種実同定結果	81			

第1章 序 説

第1節 遺跡をとりまく環境

岡山市街地の中心部に位置する鹿田遺跡は、中国山地に源を発する旭川が吉備高原を貫流して運んだ大量の土砂によって形成された、かつての岡山平野の南端にあたる。この沖積平野を取り囲むように、龍ノ口山や半田山、操山、京山といった標高80～260mの山々が連なっているが、このうちの操山山塊では旧石器が採集されており、獲物を追って移動した人々の足跡を物語る。

縄文時代のはじめには、朝寝鼻貝塚や田益遺跡など岡山平野北辺の山麓や谷部に生活の場が求められたが、後期に入ると安定した沖積平野への進出がはじまり、晩期にかけて津島岡大遺跡や百間川遺跡群などの集落が形成される。晩期末に半田山の麓ではじまった水田農耕は、弥生時代前期には津島遺跡周辺にまで広がり、中期に南方遺跡群のような大規模な集落を形成する基盤となった。鹿田遺跡や天瀬遺跡が形成されるのは中期後半のことで、海浜近くの立地を物語るように漁労や製塩に関わる遺物が多数出土している。

古墳時代には、平野を望む丘陵上に都月坂1号墳や湯迫車塚古墳など全長40m余りの前方後円墳が築造されるほか、海に面した操山山塊には網浜茶臼山古墳や操山109号墳など全長約80mの前方後円墳が築かれた。津島遺跡や上伊福遺跡など平野部の中心に営まれた集落も弥生時代から順調に発展を遂げ、中期には鉄器生産を行うものも現れてくる。一方、鹿田遺跡は前期末に至って衰退するが、その背景として首長墓系譜の断絶に示されるような集団関係の再編が推定されている。後期には再び集落が形成されるものの、その規模は必ずしも大きくない。この時期、後の御野郡域にあたる旭川西岸では群集墳がほとんど形成されず、古代寺院も造営されていないことからすると、笹ヶ瀬川流域との一体性を考慮せざるをえず、郡名を負う三野氏の勢力基盤は後の津高郡を含んでいた可能性がある。

奈良時代末に藤原北家の荘園として開かれた鹿田荘は、以後摂関家の所領として代々伝えられ、多くの文献資料が残されている。中でも、寛和2年（986）の備前国司による鹿田荘濫妨を伝える記事は、拷掠・損亡された300戸余りの荘司・寄人等の居宅や荘倉の存在を伝えている。また、鹿田荘司によって対岸に開かれた荒野荘の絵図には、鹿田河と記す旭川沿いに鹿田荘の市の家並みが描かれている。

鎌倉時代、伊福郷の地頭として来住した松田氏は、南北朝時代には備前守護をつとめるまでになるが、その後は備前守護を兼帯した播磨の赤松氏のもと、守護代として勢威を奮い、その一族は鹿田氏を称して鹿田荘を蚕食していった。やがて、備前西部を根拠に守護赤松氏や守護代浦上氏と対立し抗争を重ねるが、浦上氏の麾下にあって勢力を伸



第1図 遺跡位置図 (1/200,000)



第2図 周辺遺跡 (1/40,000)

- | | | | |
|-----------------|----------------|------------|----------|
| 1 鹿田遺跡 (県立岡山病院) | 2 鹿田遺跡 (岡大医学部) | 3 二日市遺跡 | 4 新道遺跡 |
| 5 天瀬遺跡 | 6 南方遺跡 | 7 津島遺跡 | 8 津島岡大遺跡 |
| 9 朝寝鼻貝塚 | 10 神宮寺山古墳 | 11 網浜茶臼山古墳 | 12 津倉古墳 |
| 13 都月坂1号墳 | 14 津高駅家推定地 | 15 荒神魔寺 | 16 網浜魔寺 |
| 17 富山城 | 18 岡山城 | | |

ばした宇喜多氏に屈し、永禄11年（1568）には滅亡へと追い込まれる。

関ヶ原戦後、宇喜多氏に替わって入封した小早川氏の死去により、池田氏による岡山藩が成立する。鹿田荘の故地である大供村は、庭瀬往来が通じる岡山城下の出入口として賑わいを見せる一方で、農村としての景観を永く保ち続けた。明治22年（1889）、内田・西古松・東古松・岡の4村と合併して鹿田村となり、岡山市に編入された大正10年（1921）には岡山医学専門学校・付属医院（現岡山大学医学部・付属病院）が建設されて市街地化が次第に進行した。

戦後、この地域は岡山市役所をはじめ市水道局や建設省（現国土交通省）岡山工事事務所などの官公署が置かれる一方で、近年は商業地としても新たな展開を見せている。調査の契機となった県立岡山病院は、昭和21年（1946）に設置された岡南病院の業務を拡張して昭和26年（1951）に開設されたもので、今回の建て替え工事によってその装いを一新し、医療機関として機能の充実を図っている。

さて、鹿田遺跡の発掘調査は、昭和58年（1983）に岡山大学医学部付属病院の施設新築・改築に伴って同大学埋蔵文化財調査室（現埋蔵文化財調査研究センター）により本格的に着手されて以来、15次にわたって実施されて来た。その結果、弥生時代にはじまる集落の消長が明らかになるとともに、文献でのみ語られて来た鹿田荘の実態をうかがわせる考古資料が豊富に得られることとなった。また、その周辺においても岡山県および岡山市教育委員会によって天瀬遺跡や新道遺跡、二日市遺跡などの発掘調査が実施され、これまで資料に乏しかった岡山平野南部の様相が次第に明らかとなりつつある。

（馬路・亀山）

参考文献

- 『岡山県大百科事典』山陽新聞社 1980
- 岡山市地名研究会『岡山市の地名』岡山市 1989
- 中野栄夫「備前国鹿田荘事件」『岡山県史』古代Ⅱ 岡山県 1990
- 小野敏也「鴨方往来」『岡山県歴史の道調査報告書』6 岡山県教育委員会 1994
- 吉留秀敏・山本悦世ほか「鹿田遺跡Ⅰ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1988
- 松木武彦・山本悦世ほか「鹿田遺跡Ⅱ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1990
- 松木武彦・山本悦世ほか「鹿田遺跡Ⅲ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』6 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1993
- 松木武彦・山本悦世ほか「鹿田遺跡Ⅳ」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』11 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1997
- 柳瀬昭彦・杉山一雄ほか「天瀬遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』154 岡山県教育委員会 2001
- 草原孝典ほか『新道遺跡』岡山市教育委員会 2002
- 神谷正義「鹿田本町遺跡」『岡山市埋蔵文化財年報』2 岡山市教育委員会 2003
- 神谷正義・柴田英樹「鹿田（N T T ドコモ）遺跡」『岡山市埋蔵文化財年報』3 岡山市教育委員会 2004

第2節 調査と整理の経過

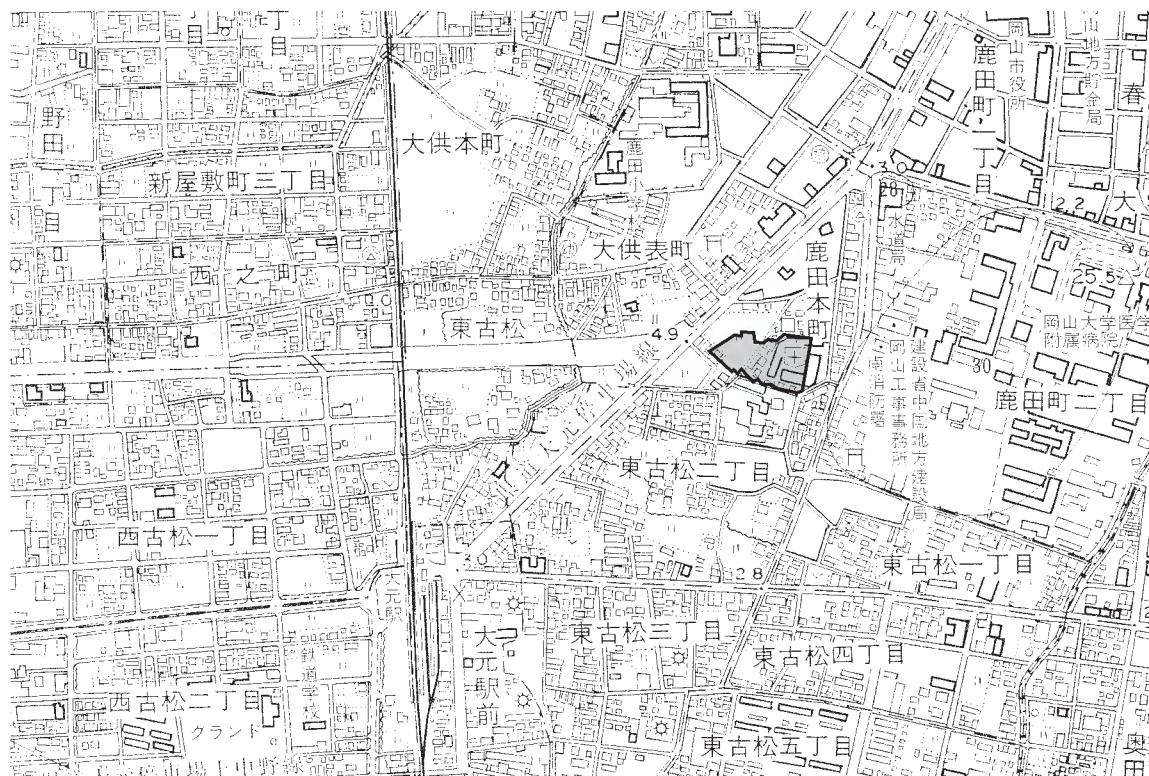
1 調査と整理の経過

鹿田遺跡が所在する旧鹿田村一帯は、摂関家の所領として著名な鹿田荘の荘域に比定されており、東に隣り合う岡山大学医学部構内では弥生～鎌倉時代にわたる集落跡が確認されている。

昭和62年（1987）8月、県立岡山病院の北東隅にデイケアセンターの建設が計画されたため、岡山県教育委員会は岡山市教育委員会とともに工事立会を行った。その結果、古代～中世の溝や包含層が確認され、病院構内に遺跡が所在することが明らかとなった。昭和63年には病院構内の北西に作業所の建設が計画されたことから、先の調査成果を踏まえて10月に確認調査を実施することとした。調査は計画地の四隅にT1～4を設定して掘り下げを行ったが、中世の包含層が認められたものの、基盤層は厚い砂層で、中世以前は低位部ないしは河道であったものと推定された。

平成11年（1999）、県保健福祉部より県立岡山病院の拡張・建て替えの計画が示されたため、県教育委員会では6月1～8日の予定で確認調査を実施した。調査は、第一期の工事範囲にT5～10のトレンチ6本を設けて掘り下げを行ったが、南東側のT8～10で微高地が確認され、中世の集落が展開するものと判断された。

この結果から、対象地のうち1,950㎡について記録保存の措置を講じることとなり、平成13年4～9月にかけて調査員2名を配置し全面調査を実施した（1区）。この調査で、近世の水田層の下から北東から南西に走る河道が検出され、緑釉・灰釉陶器を含む古代の土器や貝・獣骨などの自然遺物が



第3図 調査地位置図（1/10,000）



第4図 調査区配置図 (1/1,200)

多量に出土した。調査記録や63箱にのぼる出土遺物の整理は、文化財センターにおいて同年10月～翌年3月に実施し、自然遺物についても研究機関等に鑑定・分析を依頼した。なお平成14年1月、1区の北に隣接するマンション建設予定地で市教育委員会により発掘調査が実施され、1区から北東にのびる河道の肩口が確認されている。

平成14年度は、第一期工事追加分と第二期工事分および付け替えが完了した市道部分の計1,290㎡を対象として調査を実施した（2区）。調査は7～9月にかけて2名の調査員が担当した。ここでは近世水田の下層から北東から南西に走る中世の水路や古代の井戸・土壌などが検出されている。整理作業は10月から文化財センターにおいて実施し、12月に完了した。

平成16年度の調査は、既存の病院施設を解体後、その跡地3,400㎡を対象として実施したが（3区）、工事の遅れから実際に着手したのは9月のことであった。3区は、全域にわたって建物の基礎等による攪乱を被り、遺構の残存状況はきわめて不良であったが、それでも平安～室町時代にわたる掘立柱建物や井戸・土壌・溝などを検出することができた。また、後年次に施設建設が計画されている3区北東の地点についても確認調査を実施し、遺跡の広がりを確認している。50箱の出土遺物や調査記録の整理作業は、調査終了後の11月から翌年3月に文化財センターにおいて実施した。

報告書の作成は、各年度に実施した整理作業の成果を平成16年度にとりまとめ、平成18年度に刊行の運びとなった。

(亀山)

2 調査と整理の体制

本報告書に所収の鹿田遺跡は、平成11年度に確認調査、平成13・14・16年度にそれぞれ全面調査を実施した。また、遺物整理及び報告書作成は、全面調査に引き続いて各年度のなかで実施した。次に、全面調査と報告書作成の体制を記す。

(柳瀬)

平成11年度

岡山県教育委員会

教 育 長 黒瀬 定生

岡山県教育庁

教育次長 宮野 正司

文化課

課 長 松井 英治

課長代理 佐々部和生

参 事 正岡 睦夫

課長補佐(埋蔵文化財係長) 松本 和男

文化財保護主任 大橋 雅也

主 任 奥山 修司

岡山県古代吉備文化財センター

所 長 葛原 克人

次 長 大村 俊臣

〈総務課〉

課 長 小倉 昇

課長補佐(総務係長) 安西 正則

主 査 山本 恭輔

〈調査第一課〉

課 長 高畑 知功

課長補佐(第一係長) 中野 雅美

文化財保護主事 金田 善敬

平成13年度

岡山県教育委員会

教 育 長 宮野 正司

岡山県教育庁

教育次長 國定 忠克

文化課

課 長 松井 英治

課長代理(埋蔵文化財係長) 松本 和男

主 任 奥山 修司

文化財保護主事 尾上 元規

岡山県古代吉備文化財センター

所 長 正岡 睦夫

次 長 能登原 巧

〈総務課〉

課 長 安西 正則

係 長 田中 秀樹

主 任 小坂 文男

〈調査第一課〉

課 長 高畑 知功

課長補佐(第一係長) 平井 泰男

文化財保護主任 渡邊恵里子(調査・報告書担当)

主 事 馬路 晃祥(調査担当)

平成14年度

岡山県教育委員会

教 育 長 宮野 正司

岡山県教育庁

教育次長 三浦 一男

文化課

課 長 西山 猛

課長代理(埋蔵文化財係長) 松本 和男

文化財保護主任 尾上 元規

主 事 浜原 浩司

岡山県古代吉備文化財センター

所 長 正岡 睦夫

次 長 藤川 洋二

〈総務課〉

課 長 安西 正則

課長補佐(総務係長) 田中 秀樹

主 任 小坂 文男

〈調査第一課〉		岡山県古代吉備文化財センター	
課 長	高畑 知功	所 長	正岡 睦夫
課長補佐（第二係長）	島崎 東	次 長（総務課長）	内田 猛
文化財保護主任	澤山 孝之（調査・報告書担当）	参 事	松本 和男
主 事	福井 優（調査担当）	参 事	伊藤 晃
平成16年度		〈総務課〉	
岡山県教育委員会		総括副参事（総務班長）	笏本 弘忠
教育長	宮野 正司	主 任	小坂 文男
岡山県教育庁		主 任	小川 紀久
教育次長		〈調査第三課〉	
文化財課		課 長	柳瀬 昭彦（調査・報告書担当）
課 長	芦田 和正	総括副参事（第三班長）	山磨 康平
参 事	田村 啓介	副参事	井上 弘（調査担当）
総括副参事（埋蔵文化財班長）	平井 泰男	主 査	亀山 行雄（調査・報告書担当）
主 任	小林 利晴	主 査	柴田 英樹（調査担当）
主 事	秋山 良樹	主 任	杉山 一雄（調査担当）
		主 事	稲谷 知子（調査・報告書担当）

表1 文化財保護法に基づく提出書類一覧

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

文書番号 日付	周知・ 周知外	種類及び名称	所在地	面積（㎡）	原因	包蔵地 の有り無	報告者	担当者	期間
岡 吉 調 第86号 H11. 6. 11	周知	集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町313-2	60	病院建て替え	有	岡山県古代吉備文化財センター 所長	金田善敬	H11. 6. 1～ H11. 6. 8

埋蔵文化財発掘の通知（法第94条／旧第57条の3）

岡山県文書 番号 日付	種類及び名称	所在地	面積（㎡）	目的	届出者	期間	主な指示事項
教 文 埋 第17号 H13. 4. 1	集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町313-2	4, 273	病院本体建設 工事	岡山県知事 石井正弘	H14. 下半期～ H15年度中	発掘調査

埋蔵文化財発掘の報告（法第99条／旧第58条の2）

文書番号 日付	種類及び名称	所在地	面積（㎡）	原因	報告者	担当者	期間
岡 吉 調 第27号 H13. 4. 5	集落跡・水田 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町313-2	2, 000	県立岡山病院 建て替え	岡山県古代吉備文化財センター 所長	渡邊恵里子 馬路晃洋	H13. 4. 9～ H13. 9. 28
岡 吉 調 第128号 H14. 7. 1	集落跡・水田 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町3-16ほか 鹿田遺跡	750	病院	岡山県古代吉備文化財センター 所長	澤山孝之 福井 優	H14. 7. 1～ H14. 9. 30
岡 吉 調 第162号 H16. 9. 6	集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田本町3-16 鹿田遺跡	3, 400	病院	岡山県古代吉備文化財センター 所長	柳瀬昭彦 井上 弘 亀山行雄 柴田英樹 杉山一雄 稲谷知子	H16. 8. 1～ H16. 11. 30

埋蔵文化財発見通知（法第100条／旧第59条・第61条）

岡山県文書 番号 日付	種類及び名称	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	現保管場所
教 文 埋 第811号 H13. 10. 2	弥生土器・須恵器・土師器・備前焼・陶磁器20箱、獣骨・貝43箱	岡山市鹿田本町3-16 鹿田遺跡	H13. 4. 1～ H13. 9. 30	岡山県教育委員会 教育長 宮野正司	岡山県知事 石井正弘	岡山県古代吉備文化財センター
教 文 埋 第950号 H14. 10. 7	土師器・須恵器・陶磁器6箱、木製品3箱、獣骨・土塊2箱 など	岡山市鹿田本町3-16 鹿田遺跡	H14. 7. 1～ H14. 9. 30	岡山県教育委員会 教育長 宮野正司	岡山県知事 石井正弘	岡山県古代吉備文化財センター
教 文 埋 第854号 H16. 10. 29	土器（土師器・須恵器・陶磁器）14箱、木製品34箱、石製品・鉄製品・土製品2箱	岡山市鹿田本町3-16 鹿田遺跡	H16. 8. 1～ H16. 10. 27	岡山県教育委員会 教育長 宮野正司	岡山県知事 石井正弘	岡山県古代吉備文化財センター



第5図 検出遺構全体図 (1/600)

第2章 調査の概要

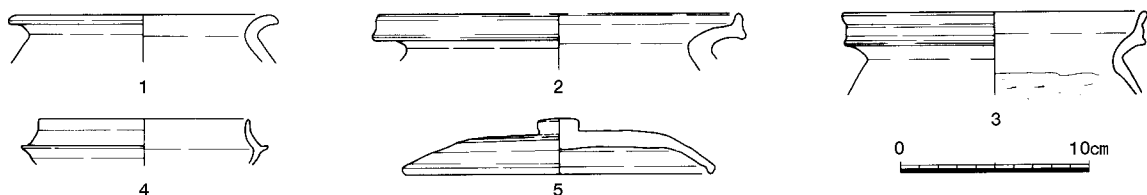
第1節 平成13年度の調査

1 概要

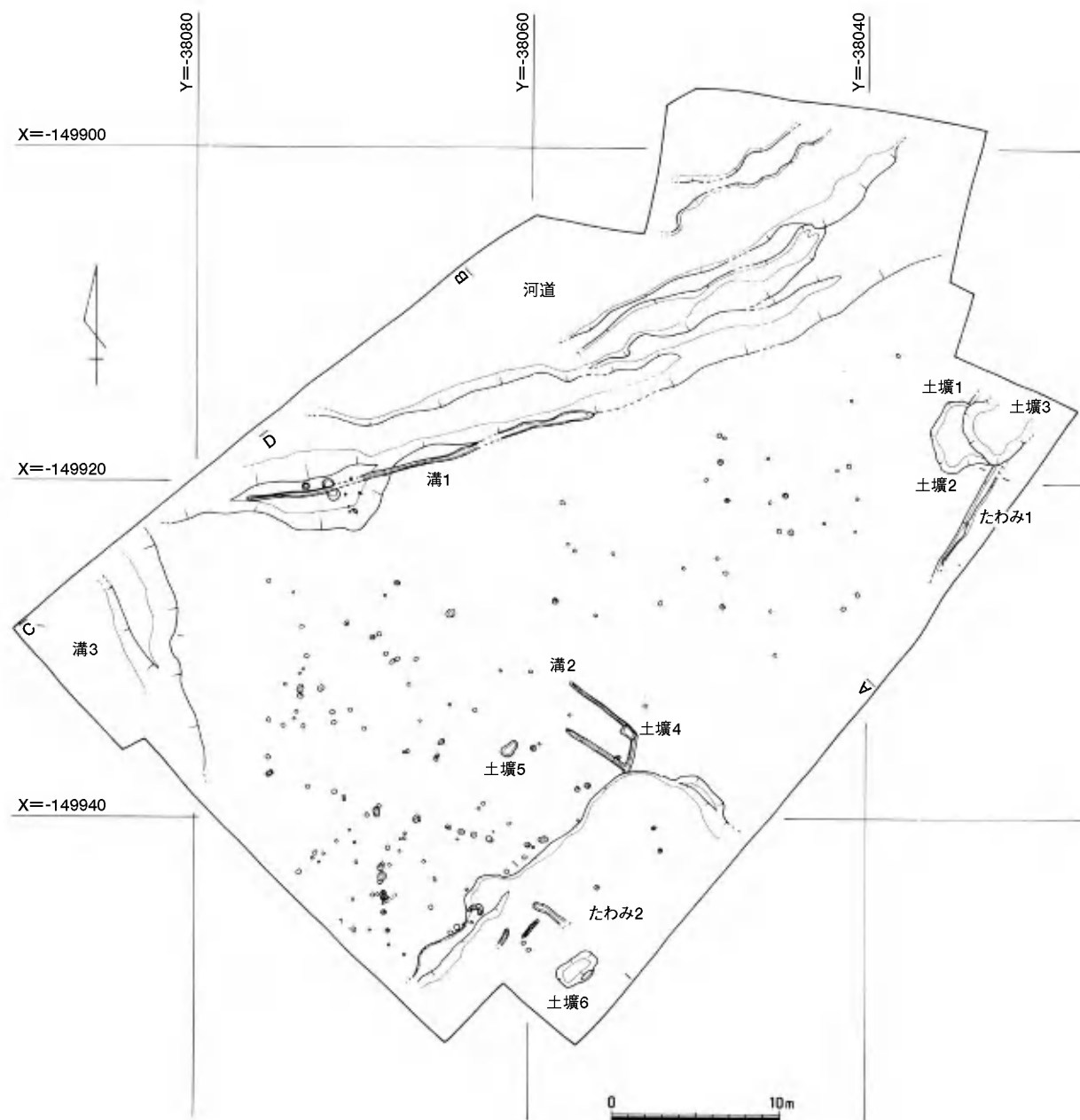
1区は全調査対象地の西側に位置し、面積的には約1/3を占める。平成11年度の確認調査の成果に基づいて全面調査が必要とされた範囲のうち、既存の建築物のなかった当地区から発掘調査に着手することとなった。

1区は調査前は駐車場として利用されており、発掘調査はまず駐車場に伴う造成土の除去から始まった。造成土の下には中世以降、明治期に至るまでの複数面の水田層が30～60cm堆積していた。近世水田上面では岡山市街地に残された条里にほぼ一致するアゼを検出している。さらにそれらの耕作土を除去したところ、調査区の東半では微高地が確認された。微高地の標高は約1.2mで、耕作によってかなり削平を受けているものの、平安～鎌倉時代の土壌6基、溝数条、柱穴等を検出した。しかし、2・3区のような後世の建築物による破壊を受けていないにもかかわらず遺構密度は希薄で、集落の縁辺にあたると思われる。一方、調査区の西部では河道を検出しており、比較的多くの遺物が出土した。河道肩口には獣骨や貝がまとまって廃棄され、土器の集中する地点も認められた。なお河道の流走方向は西に隣接する県道大元線と一致しており、当遺跡周辺に見受けられる地形の乱れ、すなわち条里とも岡山大学医学部構内に残された鹿田遺跡の軸とも異なる乱れが、平安時代にすでに存在していたことの傍証となろう。

さて平成11年度の確認調査において、当遺跡が河口近くの砂州上に形成されていることが指摘されている。そこで、幅1.5mのトレンチを地形に直行する方向に設定して基盤層を掘り下げ、微高地の成り立ちを明らかにしようと試みた。遺構検出面から約1m、標高0m前後で湧水が激しくなり、それ以上の掘削はできなかったが、脆弱な砂の堆積が続いており、岡山大学医学部構内で確認された鹿田遺跡本体の微高地の西縁に形成された砂碛と考えられる。砂層から出土した弥生土器1・2および須恵器4はいずれも摩耗した細片で、土砂と共に上流側（北側）から流されてきたものであろう。堆積速度はかなり速かったと思われる。弥生土器3は河道の最下層に混入していた。一方、南東角の土壌6周辺からは須恵器杯蓋5が出土しており、この頃にはこの砂碛も比較的安定した微高地となり、居住地としての利用が始まったと考えられる。（渡邊）



第6図 基盤層出土の遺物 (1/4)



第7図 1区中世以前遺構全体図 (1/400)

2 中世以前の遺構・遺物

土壌1～3 (第7・9図、図版1・12)

調査区の北東で検出した深さ50cm程度の不整形な窪みである。堆積状況から、3基の土壌が切り合っていると考えられる。A-B断面の第1～4層が土壌3、第5・6層が土壌2、第7層が土壌1に対応しており、この層序関係から土壌1が最も古く、土壌3が最も新しく位置付けられる。土壌1から土師器碗6、土壌2から備前焼甕12、土壌3から白磁碗7、土師器碗8、土師器皿9・10のほか備前焼の擂鉢が出土している。土師器皿10はユビオサエにより底部中央がくぼんでいる。土師器碗6・8は13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられるものであり、たわみ1と土壌3の関係から、これら3基の土壌の時期は13世紀後半～14世紀の範疇で捉えられよう。(渡邊)

- 1 暗青灰色粘質土 (7.5YR4/1)

2 灰黄色粘質細砂 (10Y4/2)

3 褐灰色粘質微砂 (10YR6/1)

4 鈍い黄橙色粘質微砂 (10YR6/3)

5 灰黄褐色粘質微砂 (10YR6/2)

6 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)

7 鈍い黄橙色粘質微砂 (10YR6/3)

8 鈍い黄褐色粘質細砂 (10YR5/3)

9 灰褐色粘質細砂 (10YR5/1)

10 酸化鉄沈着層

11 青灰色粘質細砂 (10BG5/1)

12 暗青灰色粘質微砂 (5BG4/1)

13 褐灰色砂質土 (7.5YR4/1)

14 暗青灰色砂質土 (5BG3/1)

15 青黑色粘質微砂 (10BG2/1)

16 暗青灰色砂質土 (5B2/1)

17 鈍い黄橙色粘質土 (10YR7/2)
- 1 造成土

2 灰色粘質土 (5Y4/1)

3 旧耕作土

4 灰色粘質土 (10Y1/6)

5 灰オリーブ色粘質土 (7.5Y6/1)

6 褐灰色粘質微砂 (10YR6/1)

7 灰黄色粘質微砂 (2.5Y6/2)

8 鈍い黄色砂質土 (10YR5/3)

9 黒褐色粘質微砂 (7.5YR3/1)

10 + 褐灰色砂質土 (10YR6/1)

10 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)

10 + 明黄褐色粗砂 (10YR5/6)

11 鈍い黄色細砂 (2.5Y6/4)

12 黄灰色微砂 (2.5Y6/1)

13 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)

14 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)

15 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)

16 褐灰色細砂 (10YR6/2)

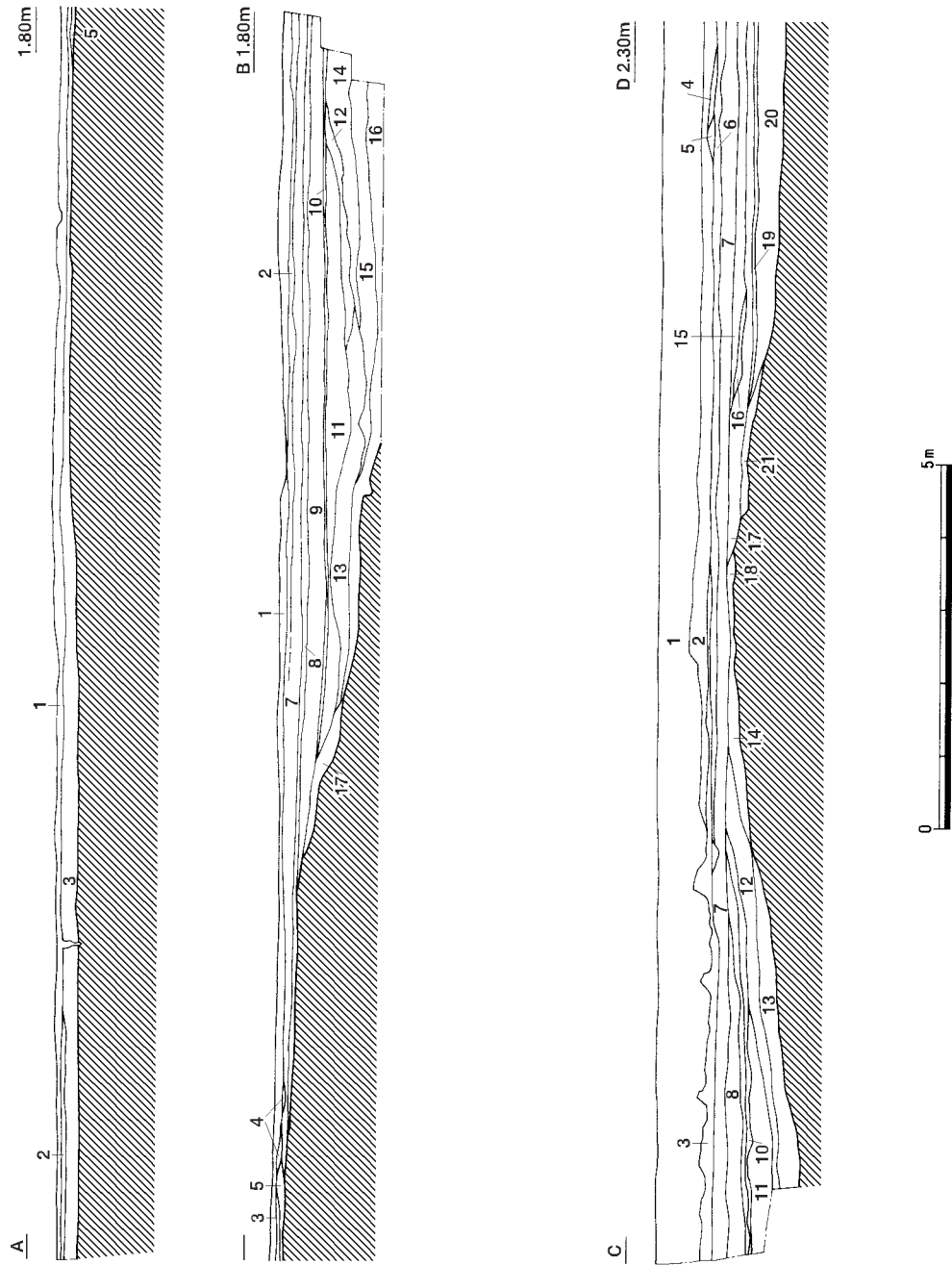
17 鈍い黄褐色粘質土 (10YR4/3)

18 酸化鉄沈着層

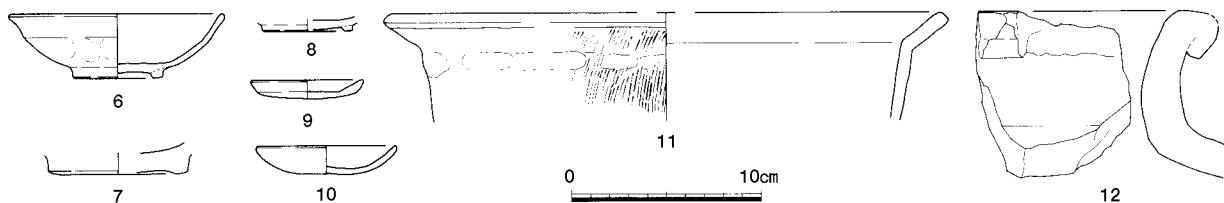
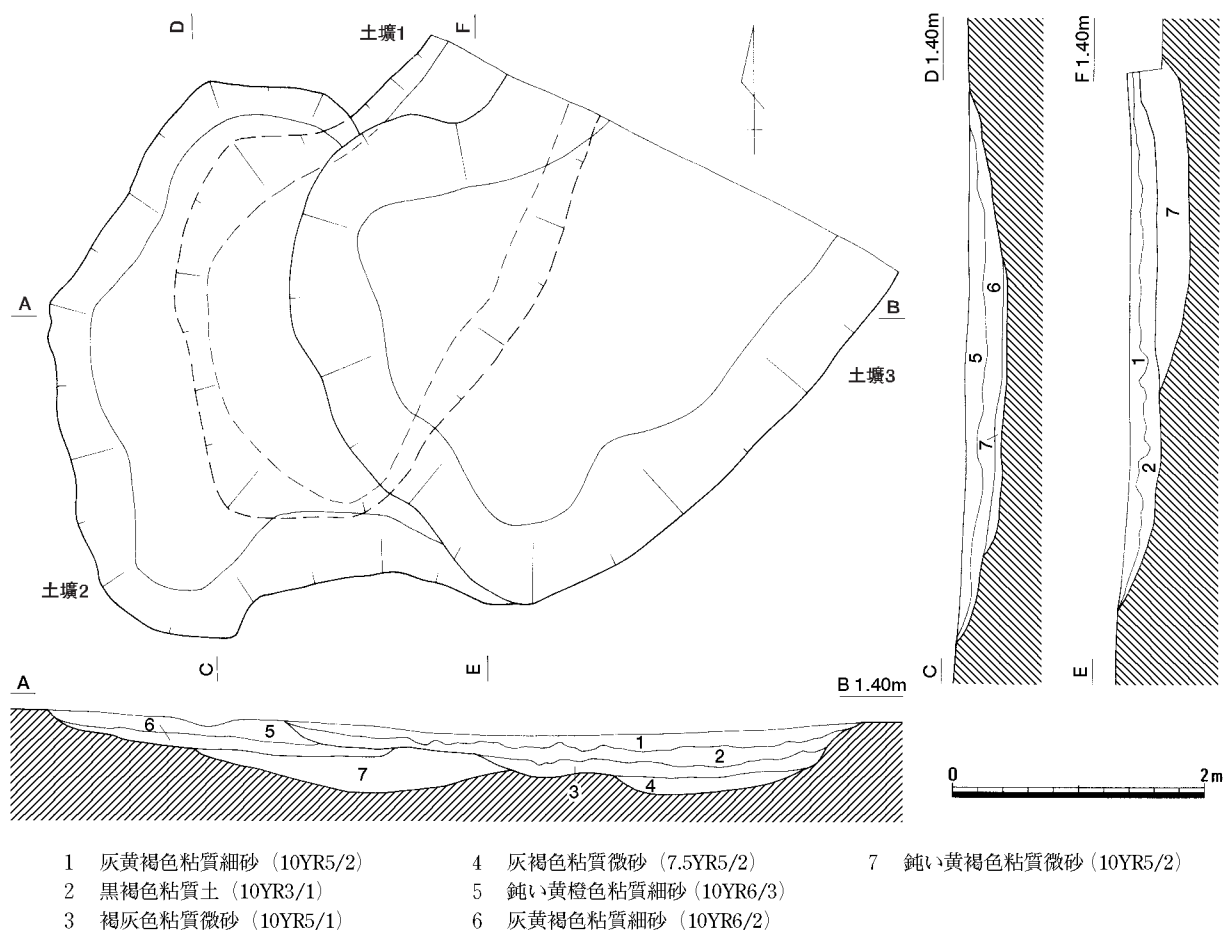
19 青灰色粘質細砂 (10BG5/1)

20 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)

21 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)



第 8 図 1 区土層断面図 (1/100)



第9図 土壌1～3・出土遺物 (1/60・1/4)

土壌4 (第7・10図)

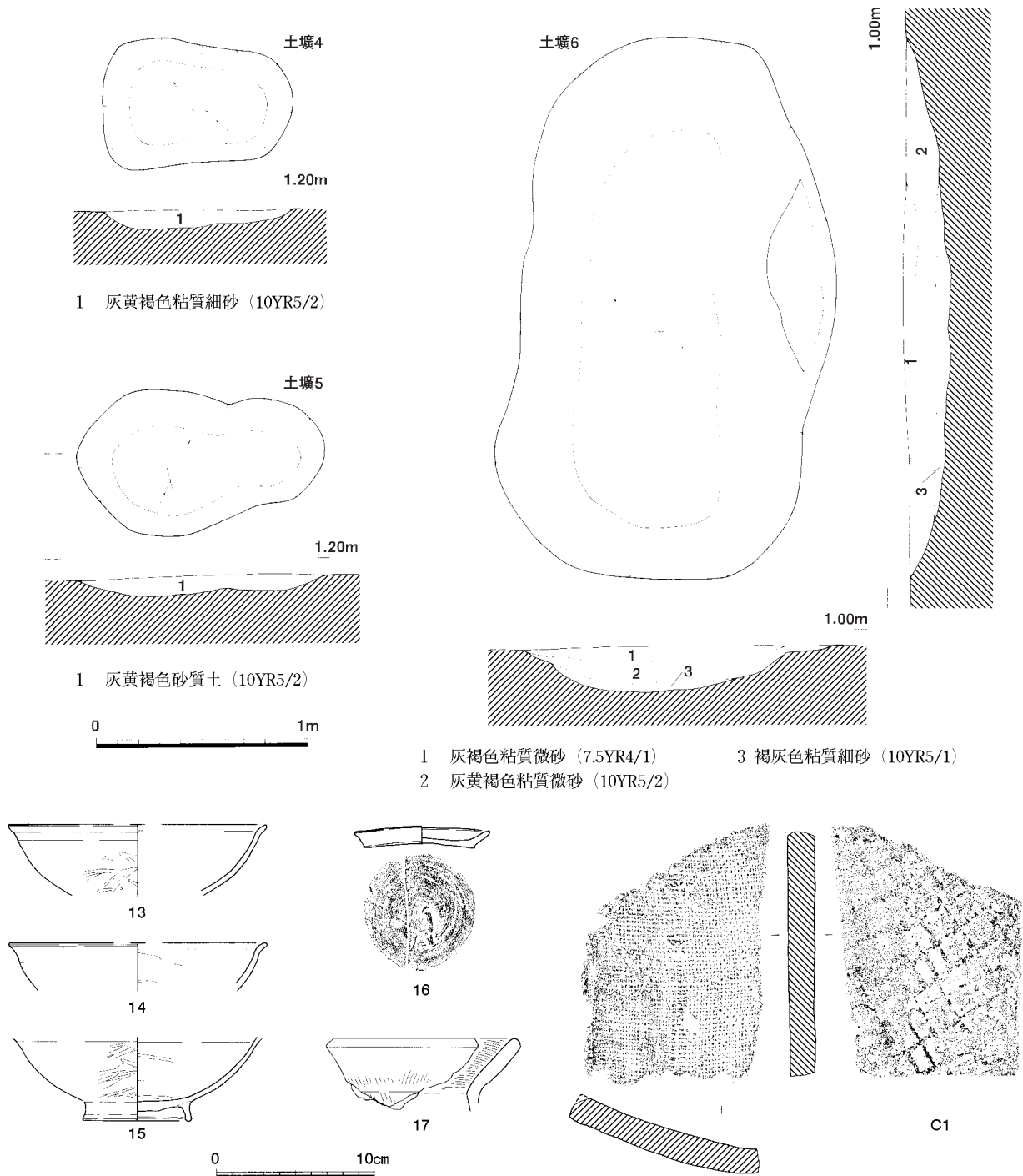
調査区の南西部に位置する。溝2を切って検出された。やや角張った楕円形を呈し、長軸90cm、深さ10cm足らずの小規模な土壌である。内面黒色土器の破片が出土しているが検出状況から溝2より新しく位置付けられ、近世以降に属すると考えられる。(渡邊)

土壌5 (第7・10図、図版1)

調査区の南西部、土壌4の西7mに位置する。東西に長い8字状の不整形な平面形で、長軸110cm、深さ約10cmの土壌である。土師器の細片しか出土しておらず、平安時代以降のものであろうとしかいえない。(渡邊)

土壌6 (第7・10図、図版1・14)

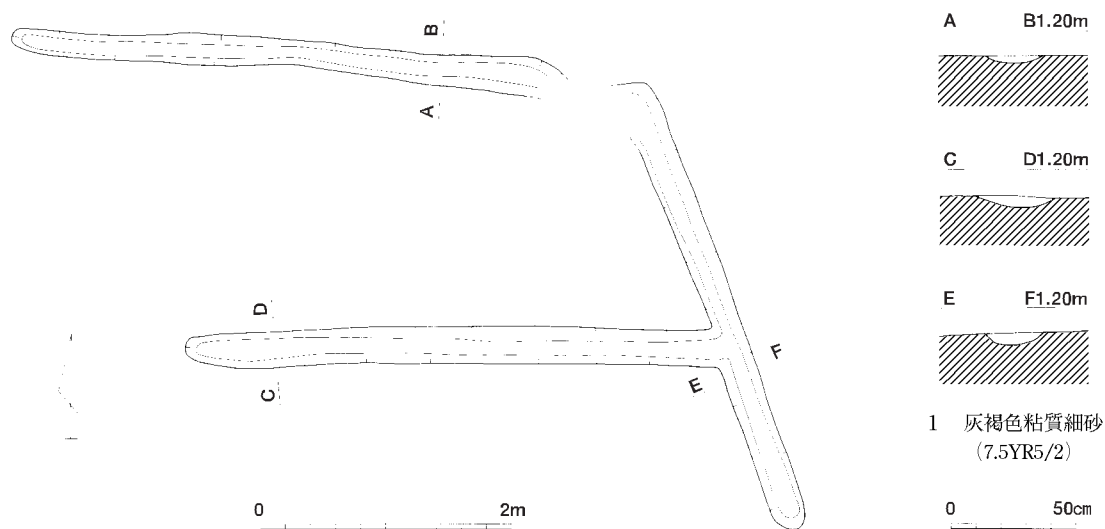
調査区の南西角、土壌5の13m南に位置する。東西に長い楕円形を呈し、東西255cm、南北149cm、深さ23cmを測る。たわみ2掘り上げ後に検出したが、出土遺物の様相からたわみ2を切り込んでいた可能性も考えられる。



第10図 土壌4～6・土壌6出土遺物 (1/30・1/4)

図示した遺物のほか、糸切り底の須恵器碗や土錘なども出土している。土師器碗13～15はいずれも白色で、薄く平滑に仕上げられ、光沢を帯びている。平安時代末に位置付けられよう。(渡邊 溝1 (第7図))

河道1南半の肩口で検出された溝で、河道に平行している。幅35cm、検出面からの深さ15～20cmを測り、断面U字形を呈する。第13図C-D断面の第2層が溝1の埋土にあたる。時期の特定できる遺物の出土はないが、C-D断面の第1層が第26図の土器を包含する水田層に対応することから、平安時代末～中世の範疇で捉えられる。(渡邊)



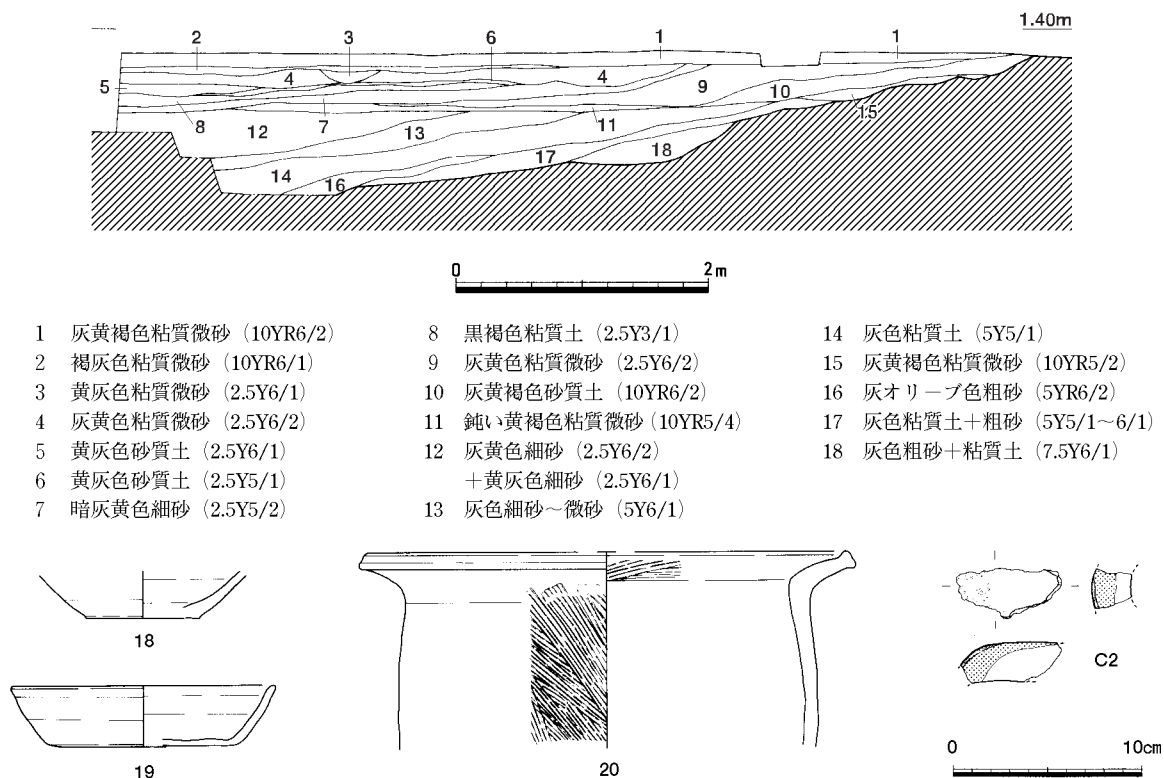
第11図 溝2 (1/60・1/30)

溝2 (第7・11図)

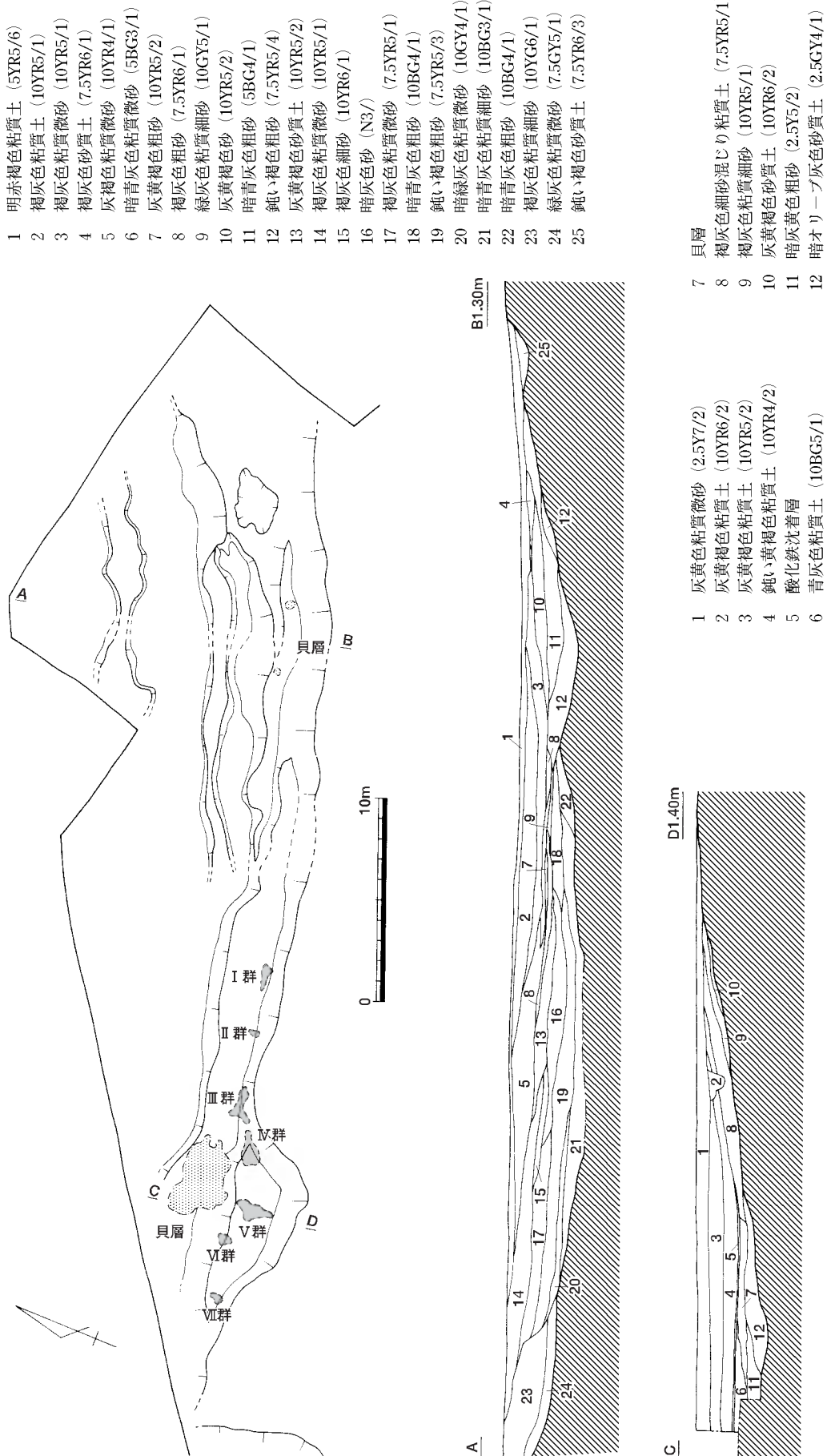
調査区の中央東より、溝1より16m東に位置する。幅25～30cm、深さ5cm弱の浅い溝が逆F字形の巡っており、何らかを囲う施設の可能性も考えたが、そのような痕跡は残されていなかった。図化しえなかったが備前焼のおろし皿が出土しており、近世に属すると考えられる。(渡邊)

溝3 (第7・12・28図)

調査区の南西角で検出された溝で、検出面からの深さ1mをこえる大規模な溝である。堆積状況は第11層を境に大きく異なり、第11層より下位が砂や有機質遺物が縞状に堆積しているのに対し、第11



第12図 溝3・出土遺物 (1/60・1/4)



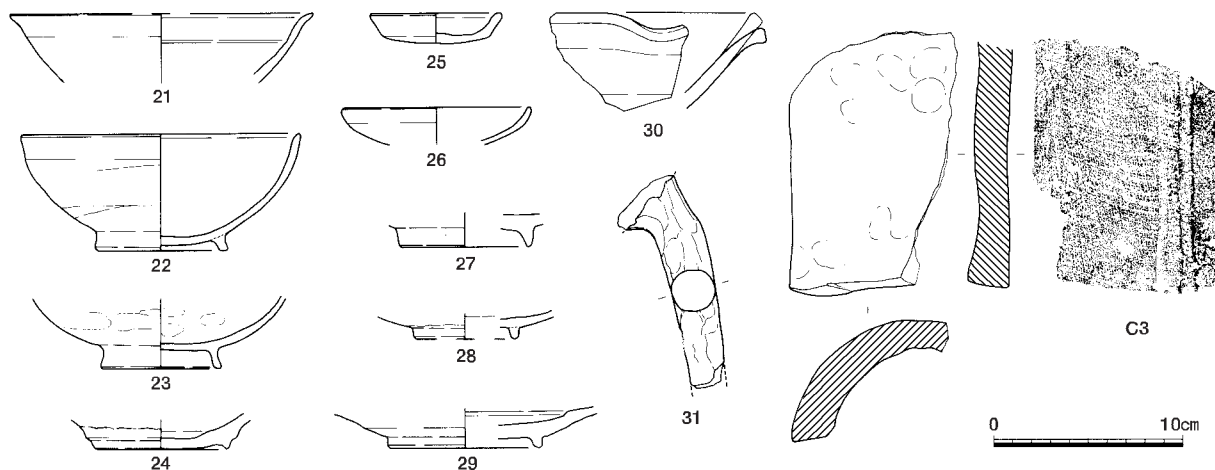
第13図 河道 (1/300・1/80)

層以上では粘性を帯びた土壌で、流れの停滞していた状況が看取される。前者を下層、後者を上層としたが、18・19が上層から、20・C2が下層から出土している。須恵器碗18は糸切り底である。後述する河道とは直交する位置関係にあり、堆積状況にも似ているうえ遺物にも大きな隔たりが認められないことから、両者が有機的に結びついていた可能性が高い。(渡邊)

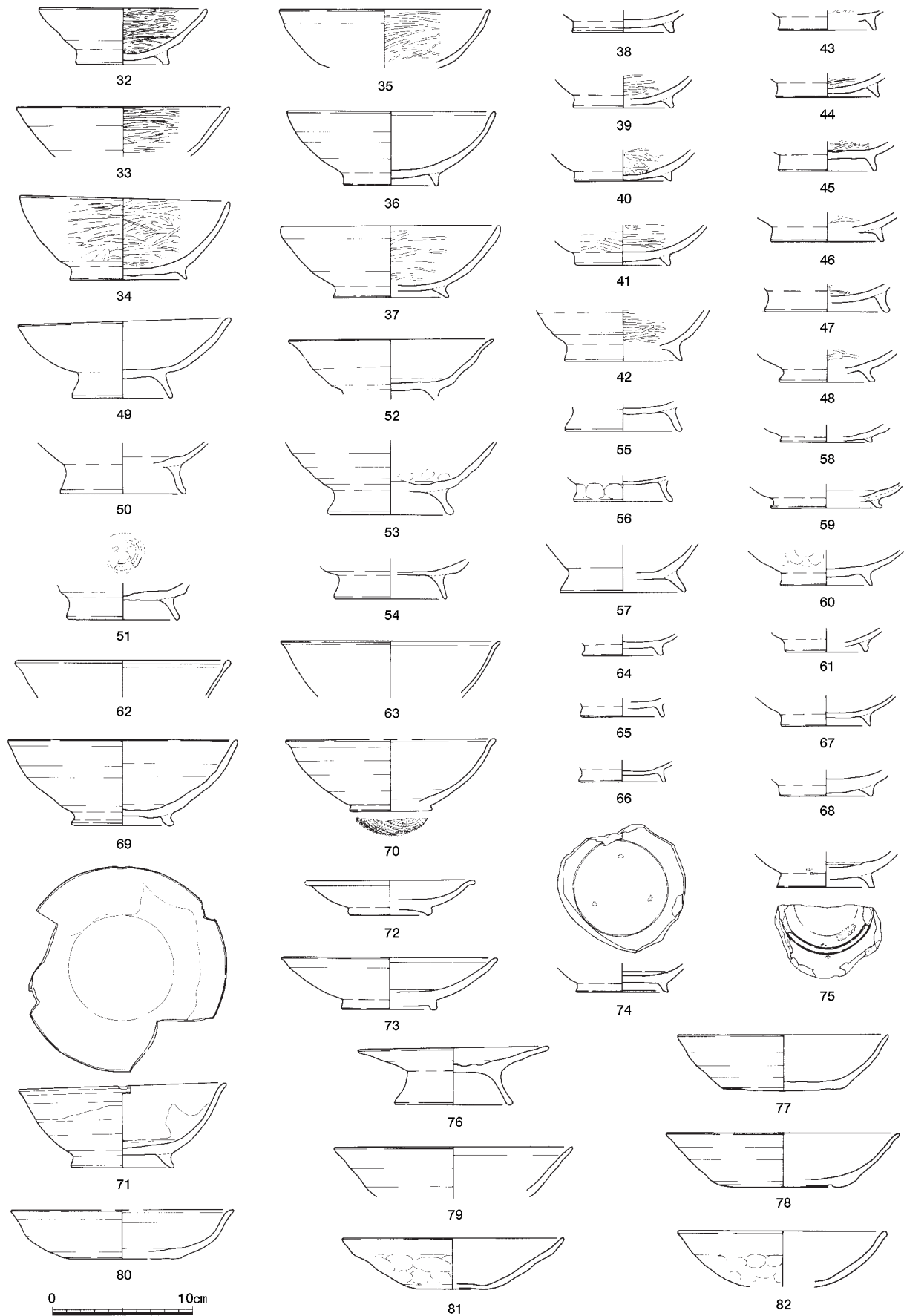
河道 (第7図・13～21図、図版2・3・13・14・17・18)

調査区の北西部で検出された北東から南西方向の河道である。これは調査地の西側に接する県道と合致する方向で、県道に重複する形で流路を想定できよう。最も広いところで幅6m、検出面からの深さ1mを測る。底面の海拔高は-0.1mである。河道の埋土は第8図A-B断面の第9層以下及びC-D断面の第15～20層、第13図A-B断面の第10層以下及びC-D断面の第3層以下にあたる。第8図A-B断面の第11層及びC-D断面の第18層、第13図C-D断面の第6～8層上面には鉄分層が形成されている。また、第13図A-B断面の第1～6層は粘性を帯びた土壌であるが第7層以下は砂であり、流れのある状況から停滞し、さらに堆積が進んで埋没していく状況が看取される。前者に対応する第8図C-D断面第19層の珪藻分析では「河川の影響のある湿地」という結果が出ており、この事と矛盾しない。調査では前者を上層、後者を下層、鉄分層以上を最上層とし、できる限り遺物を層毎に取り上げるよう努めた。第14図及び第18図C5・6・11・M1が最上層、第15・16図及び第14図C7～9・13～16、M2、S1が上層、第17図及び第18図C17が下層の出土遺物である。

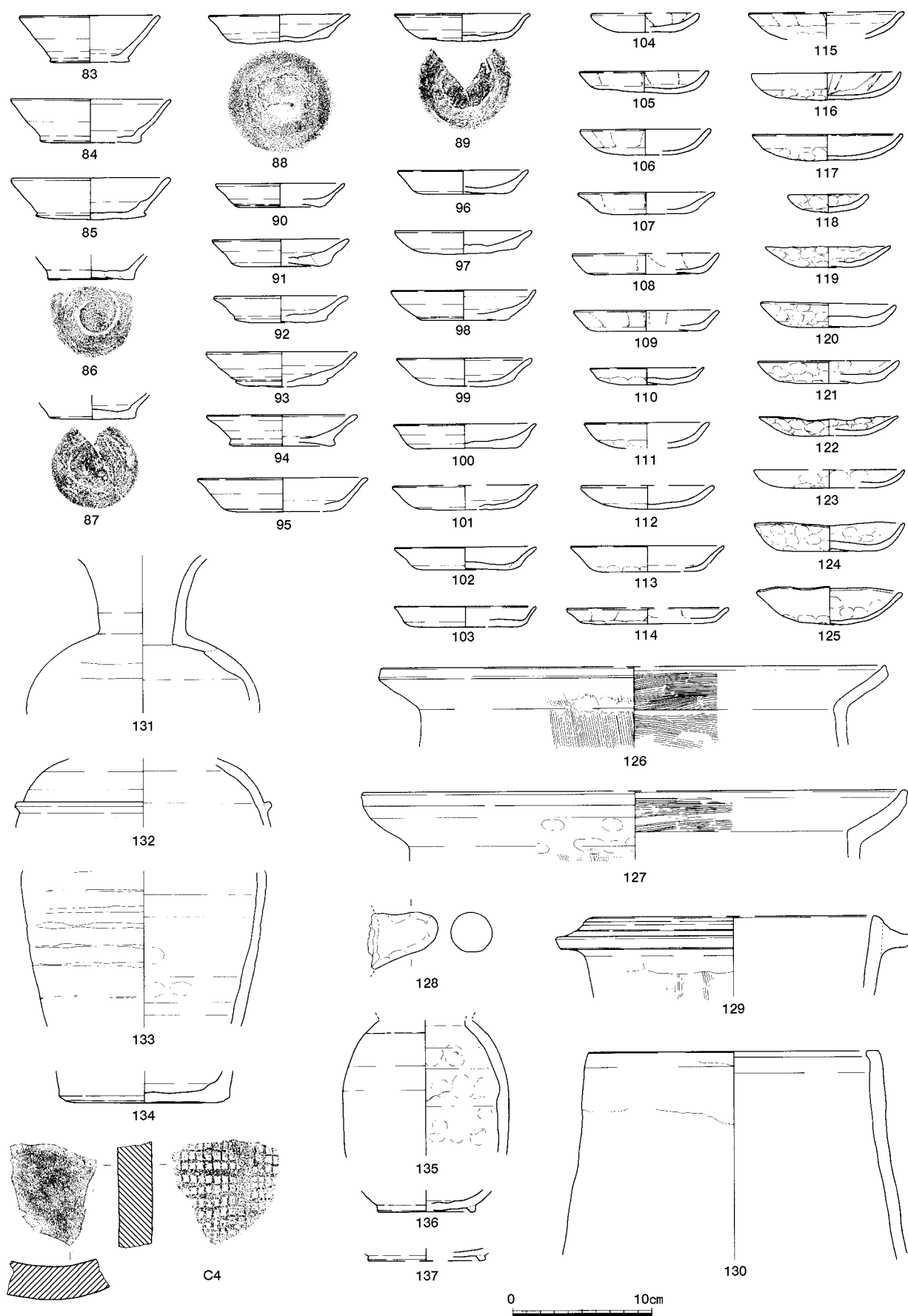
河道肩口には幅1～2mのテラス状の平坦面があり、そこから獣骨や貝、土器がまとまって出土した。第19図に貝層断面および貝層内出土遺物を、第20図に獣骨検出状況および周辺出土遺物を、第21図に肩口散布遺物を図示している。なお河道内からはウマやイノシシ、ヒトとみられる骨も出土している。貝は河道西端の4×2mの範囲に散布しており、コンテナ40箱分出土した。貝は9割以上がヤマトシジミで、淡水域に生息するオオタニシやチリメンカワニナもわずかに含まれていた。モモやヒョウタン類の種も出土している。獣骨は河道東端で3.4×2.2mの浅い窪みの中に散布していたが、掘り方は認められなかった。全てウシで、一頭分の部位がバラバラになっているが、全部は揃っていない。土器も窪み内の離れた地点間で接合することから、他地点で解体されたものが土器と共に廃棄されたと思われる。肩口の土器は河道西半に集中しており、各地点をⅠ～Ⅶ群とした。Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ群では供膳具が、Ⅲ・Ⅳ群では煮沸具が集中する傾向がみられる。また各群の杯を比較すると、各群毎



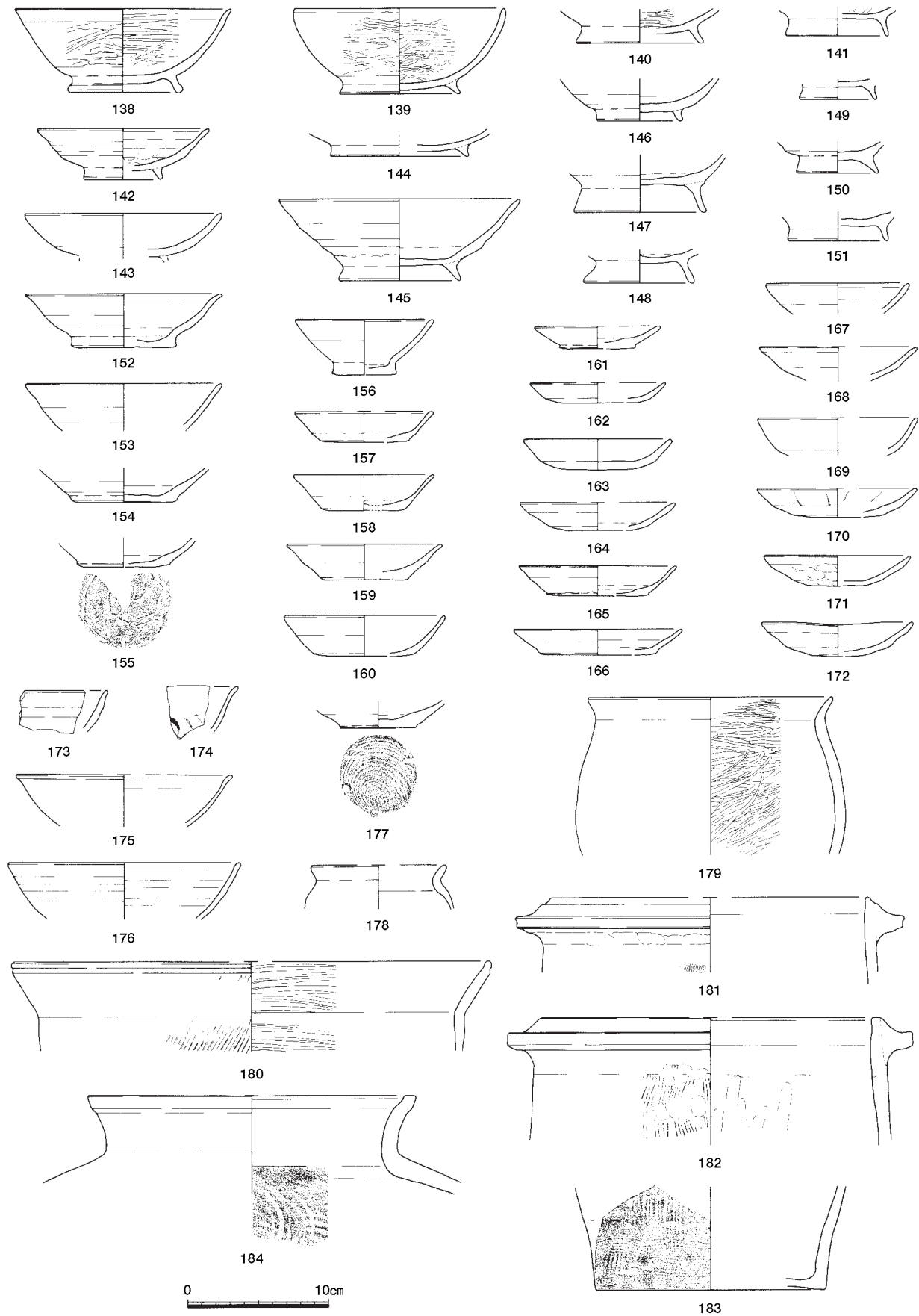
第14図 河道出土遺物 1 (1/4)



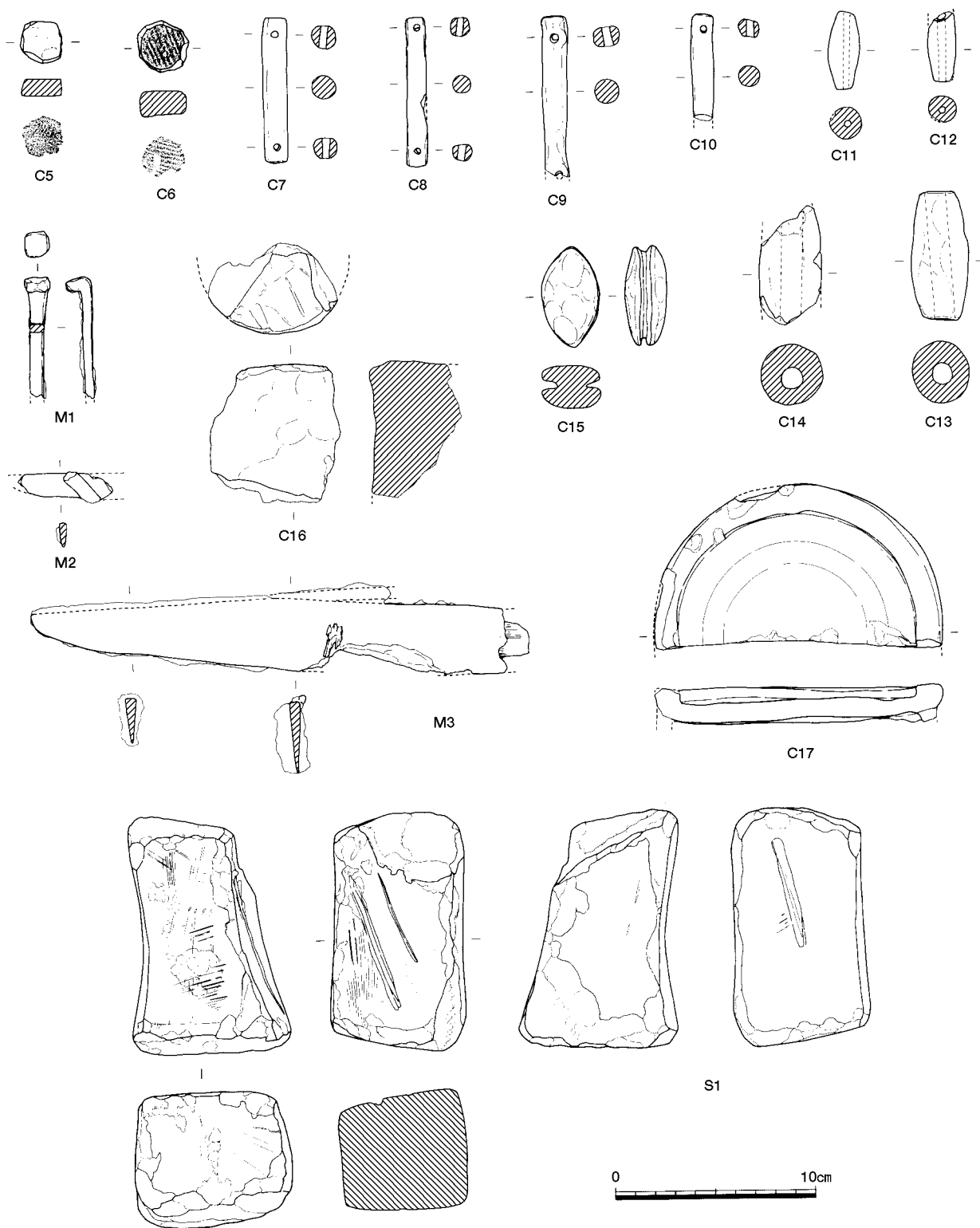
第15図 河道出土遺物 2 (1/4)



第16図 河道出土遺物 3 (1/4)



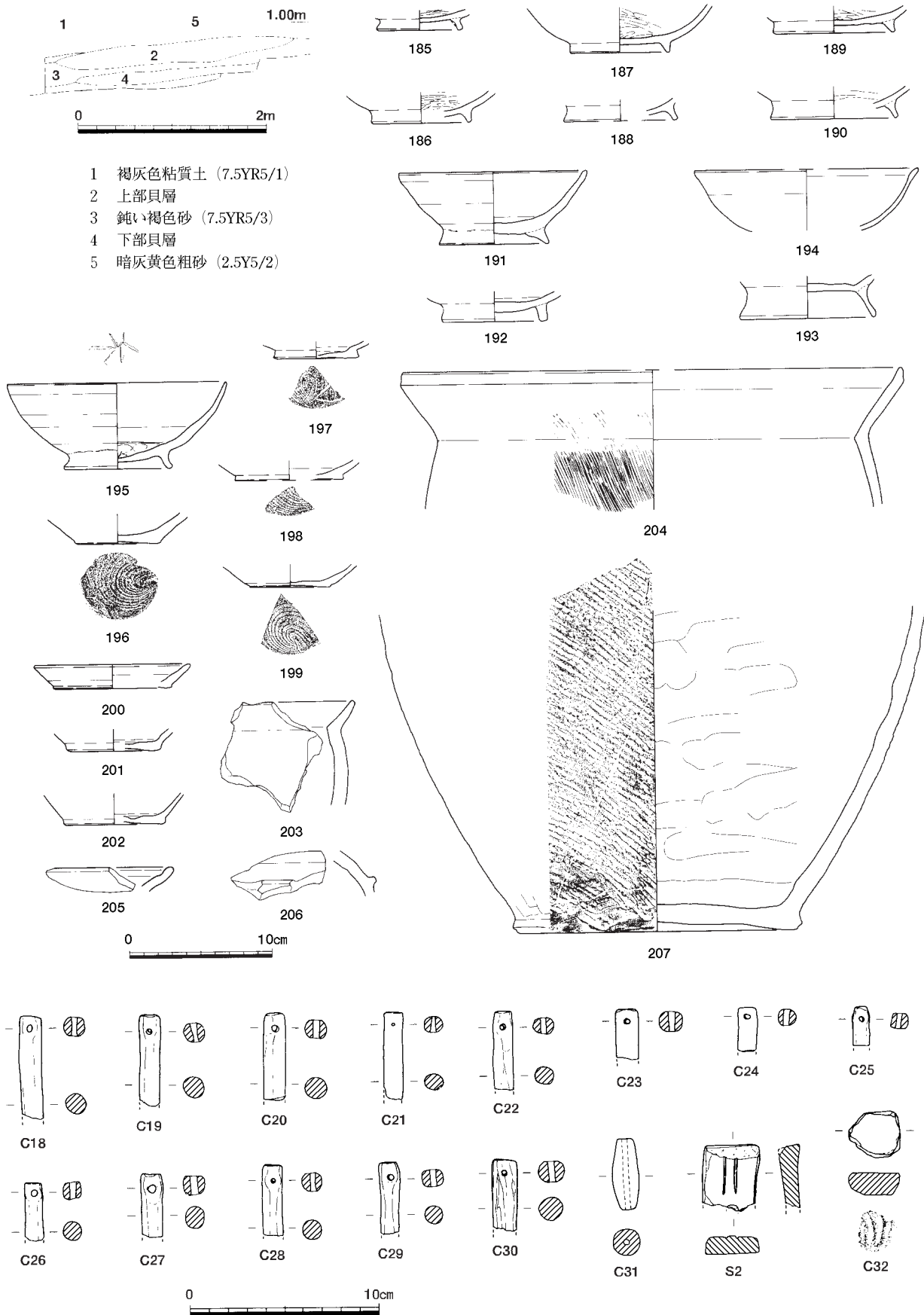
第17図 河道出土遺物 4 (1/4)



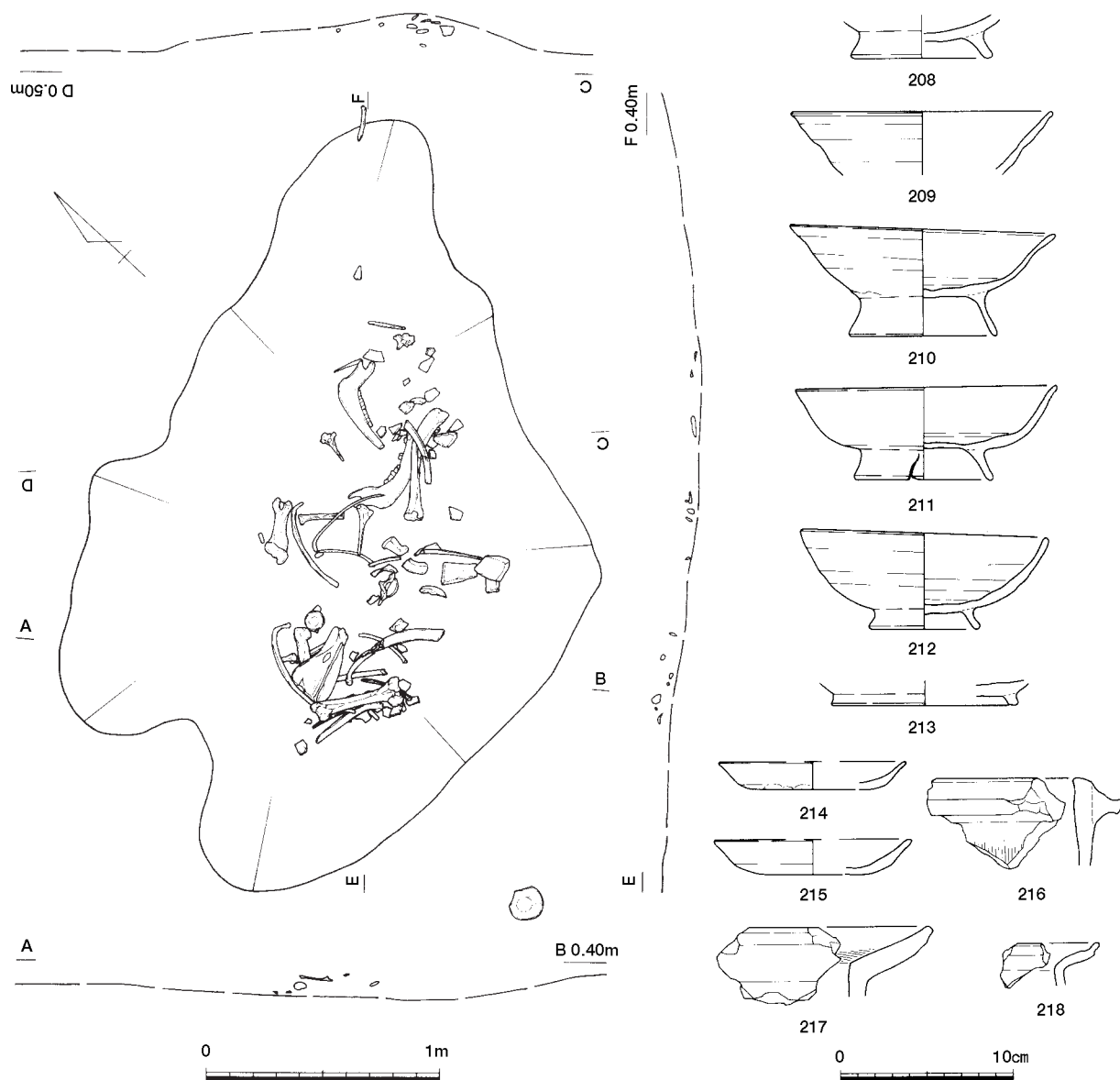
第18図 河道出土遺物 5 (1/3)

で異なる特徴を有している。さらに碗246・壺247の2点の須恵器もV群に偏るなど、廃棄に際して何らかの意図が働いている可能性が考えられる。I群では重ねられた杯・皿が、縦にずれたような状態で出土した。なお土師器杯252はVI群としているが、他の土器から約1 m南に離れて出土している。

さて各地点の出土遺物は、最上層の遺物には須恵器杯24や東海系の灰釉陶器27～29など9世紀に遡る遺物も含まれているが、白磁碗21や東播系須恵器30から埋没の最終段階を12世紀に求めること

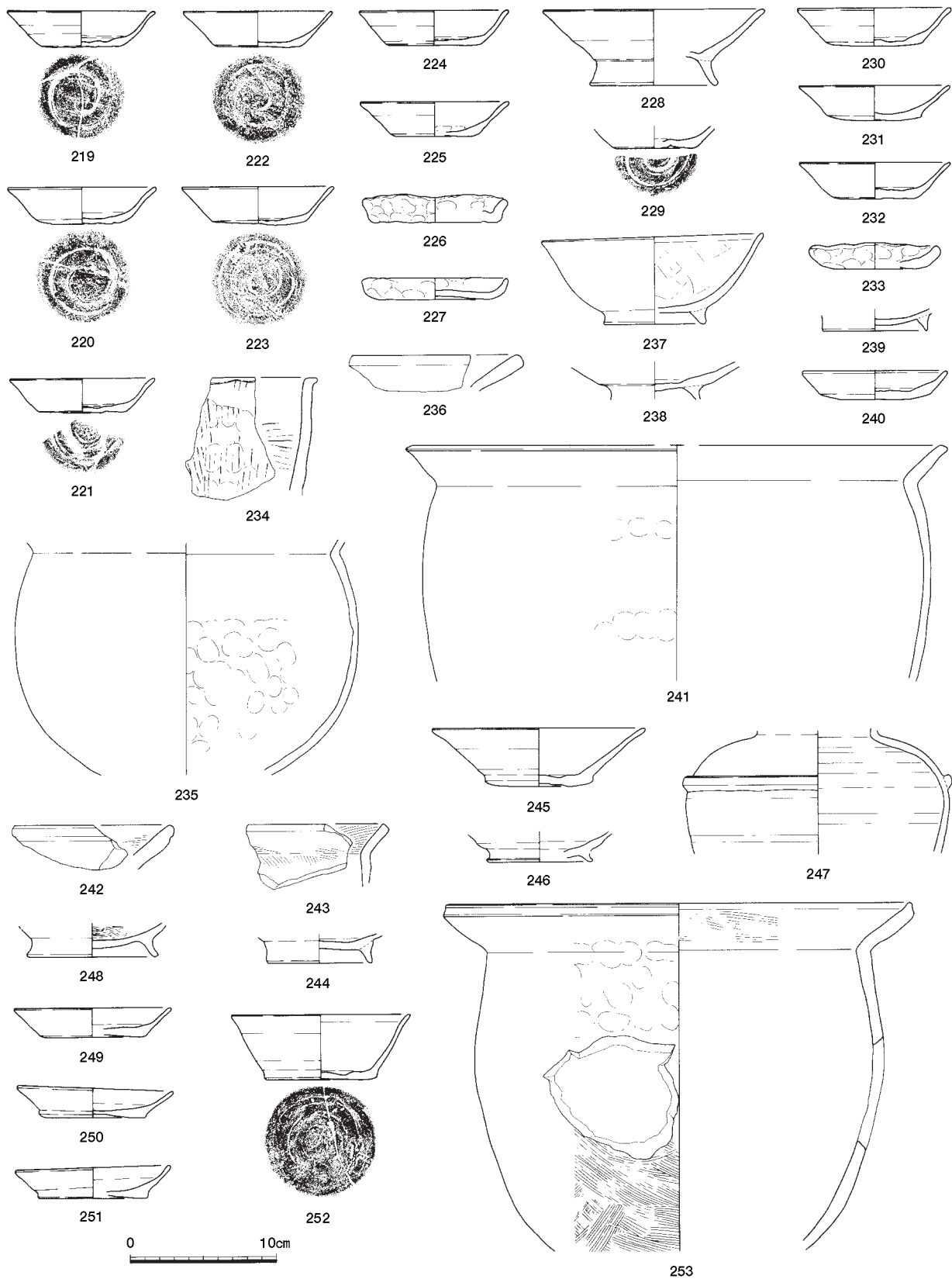


第19図 河道内貝層・出土遺物 (1/60・1/3・1/4)



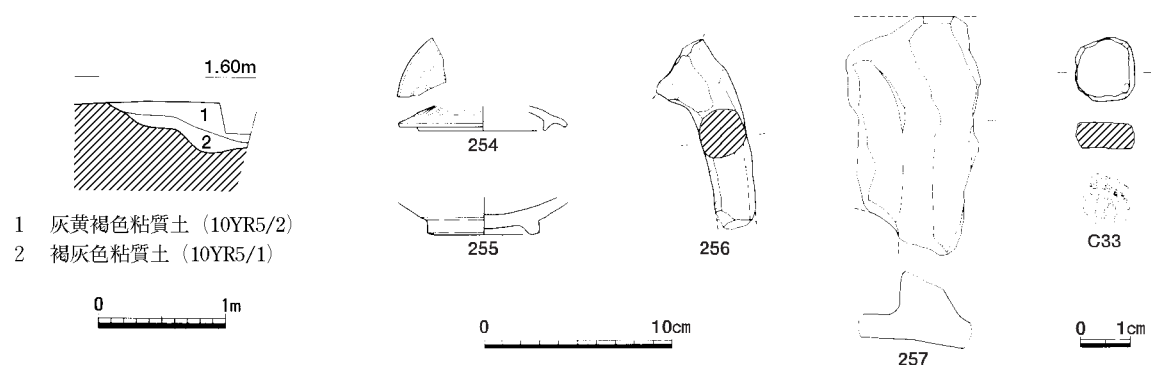
第20図 河道内獣骨出土状況・周辺出土遺物 (1/30・1/4)

ができよう。最上層以外の土器群はよく似た様相を示し、供膳具では黒色土器・土師器が主体を占め、少量の須恵器が伴い、土師器煮沸具、須恵器壺・甕が加わる構成となっている。須恵器杯**136・137・213**は混入であろう。須恵器碗**174**には墨書がある。灰釉陶器・緑釉陶器の出土は上層のみである。灰釉陶器**71・72**は美濃産で、**71**が10世紀末～11世紀初頭、**72**が9世紀後半～10世紀初頭、緑釉陶器**73**は京都産で9世紀後半、**74・75**は近江産で10世紀後半に比定されている。上層には白色化した碗が目立ち（**62～68**）、大形の皿も組成に加わるなど新しい要素を認めることができる。貝層出土の**194**も白色碗である。先述したように上層から出土した灰釉陶器や緑釉陶器の製作時期には幅があるが、これら施釉陶器には廃棄までの間に長い時間を要する場合があります、河道の存続時期を反映しているとは言い難い。一方貝層内**204・207**は上層と、獣骨周辺**212**は下層と接合することから土器や獣骨・貝の投棄から河道が埋没するまでの間にあまり時間がかかっていないと思われ、灰釉陶器の示す最も新しい年代である10世紀末～11世紀初頭頃に投棄が行われ始め、遅くとも12世紀のうちに埋没が完了したのではないだろうか。（渡邊）



I 群 219～227 II 群 228～233 III 群 234～236 IV 群 237～243 V 群 244～247 VI 群 248～252 VII 群 253

第21図 河道肩口出土遺物 (1/4)



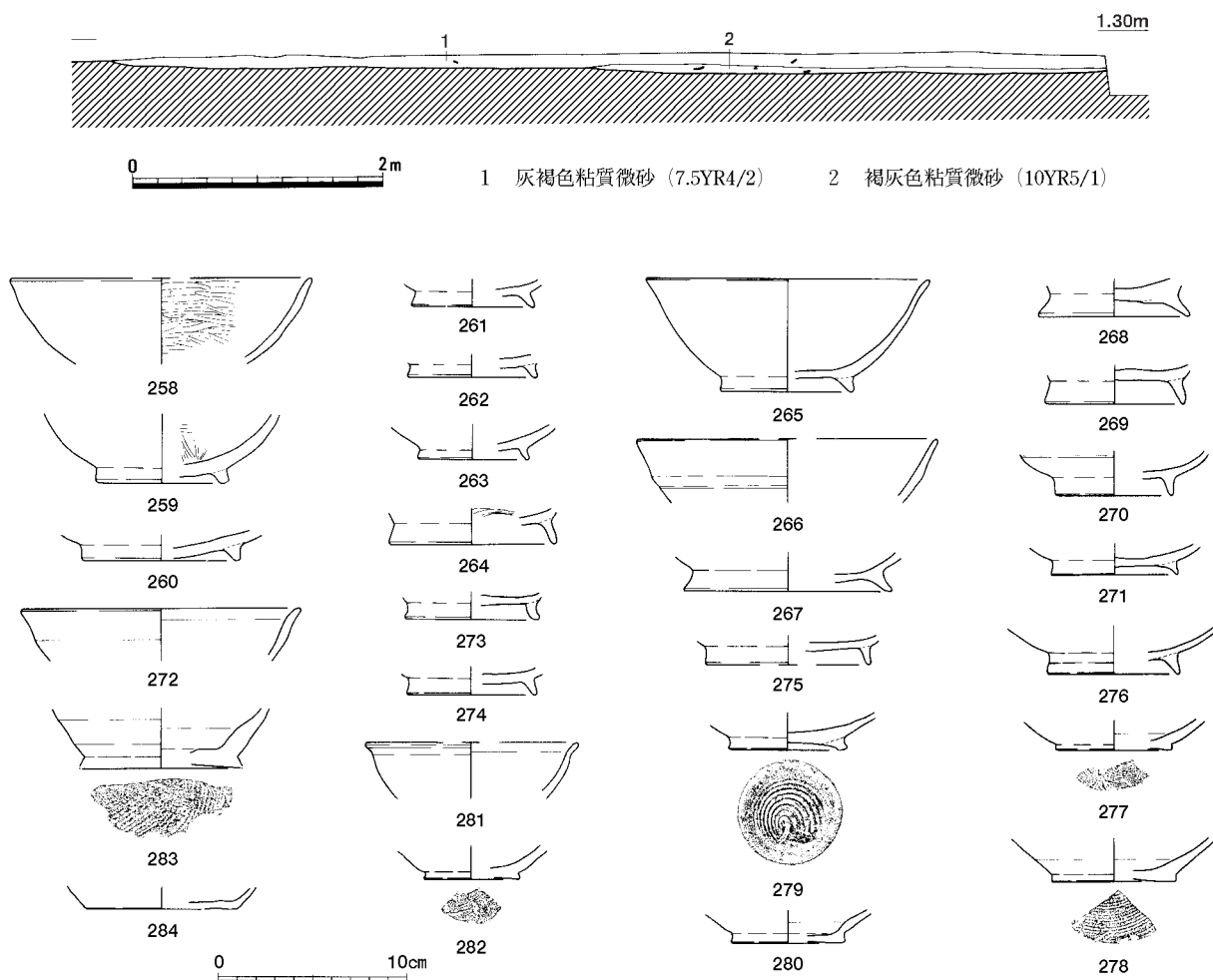
第22図 たわみ1・出土遺物 (1/60・1/3・1/4)

たわみ1 (第7・22図)

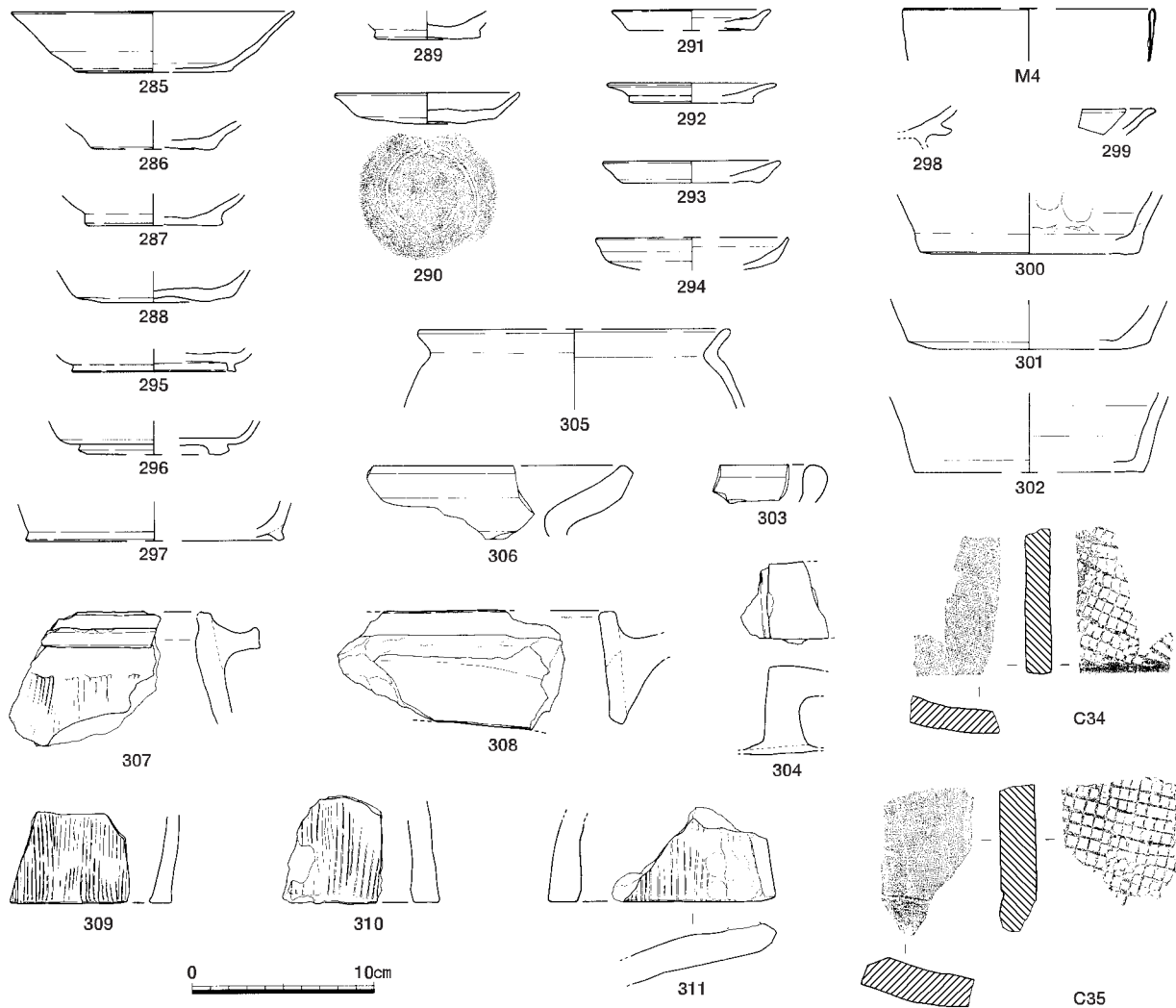
調査区の北東角に位置し、土壌1～3と重複する。調査区東壁に沿うように検出されたため、調査時点では東への下がり、もしくはたわみの肩口と考えていたが、2区の状態から、2区の溝7と同一であると考えている。出土遺物には青白磁合子蓋254や白磁碗255、土師器鍋256、竈257などがある。2区溝7出土遺物と合わせて、14世紀前半に位置付けられよう。(渡邊)

たわみ2 (第7・23～25図、図版14)

調査区の南東角に位置する。1区では2区にまたがる大きなたわみの北西角を検出したにすぎず、



第23図 たわみ2・出土遺物1 (1/60・1/4)



第24図 たわみ2出土遺物2 (1/4)

2区たわみ3が同一のたわみと考えられる。たわみ3と合わせると東西幅24mを超える。検出面からの深さは15cmを測り、底面の標高は最も深い所で0.96mである。埋土は2層に分かれるが、遺物の分離は上手くできなかった。確実に下層出土と言えるのは**265・281・292**だけである。

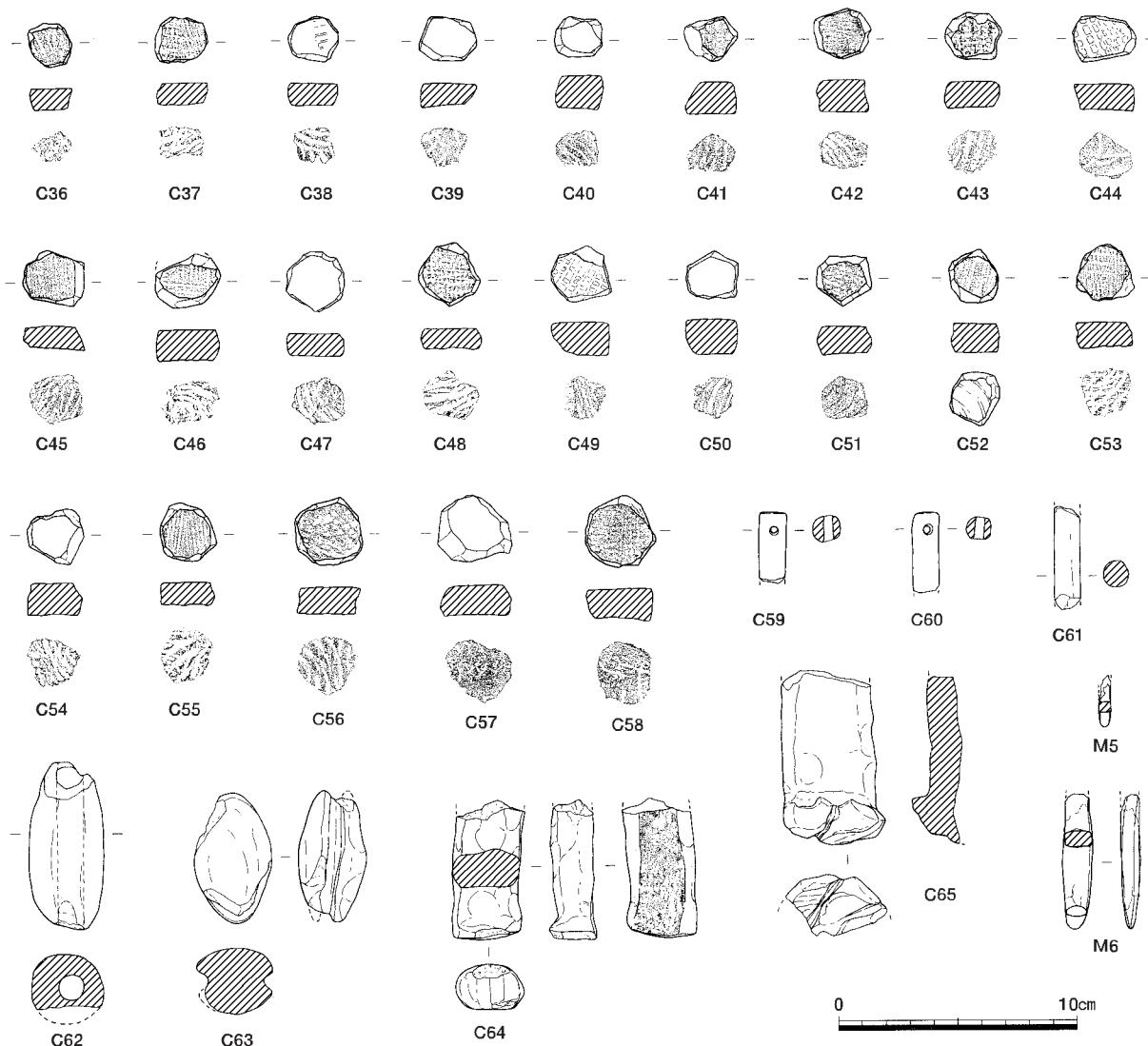
黒色土器碗・皿、土師器碗・杯・大形の皿・小皿・甕・釜・竈、須恵器碗・杯・壺、緑釉陶器、銅鏡、瓦、おはじき、土錘、釘などが出土している。おはじきは全て須恵器甕の転用である。**C64**は扁平な板状、**C65**は円柱状の土製品であるが、三手向原遺跡から出土た窯道具に類似している。銅鏡と思われる**M4**はたわみ中心部にあたる調査区南東角の底面から出土した。細片のため傾きや径は確実でない。土器では供膳具に黒色土器と土師器が主体で須恵器がわずかに加わり、土師器の煮沸具が少量伴うという河道上層と同じ構成を成し、おはじきや土錘も同様の様相を呈する。土師器碗のうち**272～276**は白色化した碗である。土師器杯・皿の底部は全てヘラ切りである。須恵器碗は**279**を除いて平高台であるが、**280・284**には糸切りが認められなかった。**280**の焼成はやや軟質である。**303**も瓦質に近い。瓦は2点とも須恵質で、堅緻に焼成されている。同一個体の可能性が高い。須恵器杯**295～297・305**は明らかに古い時期のものであるが、2区たわみ3の下には溝10～12があり、混入の可能性が高い。また土壌6と重複しており、新しい時期の遺物の混入の可能性も否定できない。土壌6を下限として河道とほぼ同じ頃、平安時代末に位置付けられる。(渡邊)

その他の遺構・遺物（第7・26・27図、図版10・14）

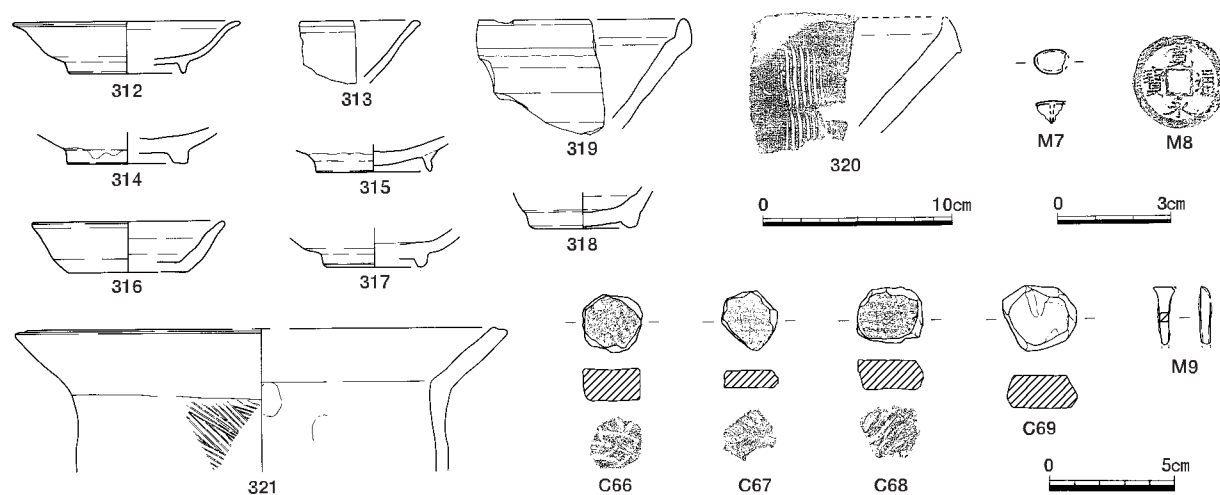
第26図は中世～近世の耕作土から出土した土器である。第8図A-B断面第8層およびC-D断面第7層に対応する。河道上面に堆積しており、その堆積状況から水田層と判断したが、土壌分析では稲作を証明しうる程のイネのプラント・オパールは検出されなかった。白磁や東播系須恵器、陶器、染付、寛永通宝などがあるが、14～15世紀の遺物が主体を占める。

第27図は遺構に伴わない遺物で、**322**は河道に混入していた。**325・331～337**は後述する近世の水田層から抽出された古代・中世の遺物で、平安時代の須恵器・土師器・緑釉陶器、中世の白磁・青磁・瓦などがある。緑釉陶器のうち**331・332**は京都産の緑釉陶器で、前者は須恵質で底部糸切り、後者は軟質で陰刻花文を施している。ともに9世紀後半に比定される。**333**は近江産緑釉陶器で、貼付高台をもち、10世紀後半に比定される。内黒碗**326・327**、土師器碗**328・329**は柱穴から出土したもので、古代末に位置付けられる。**323・324・330・瓦C70**は側溝から出土した。

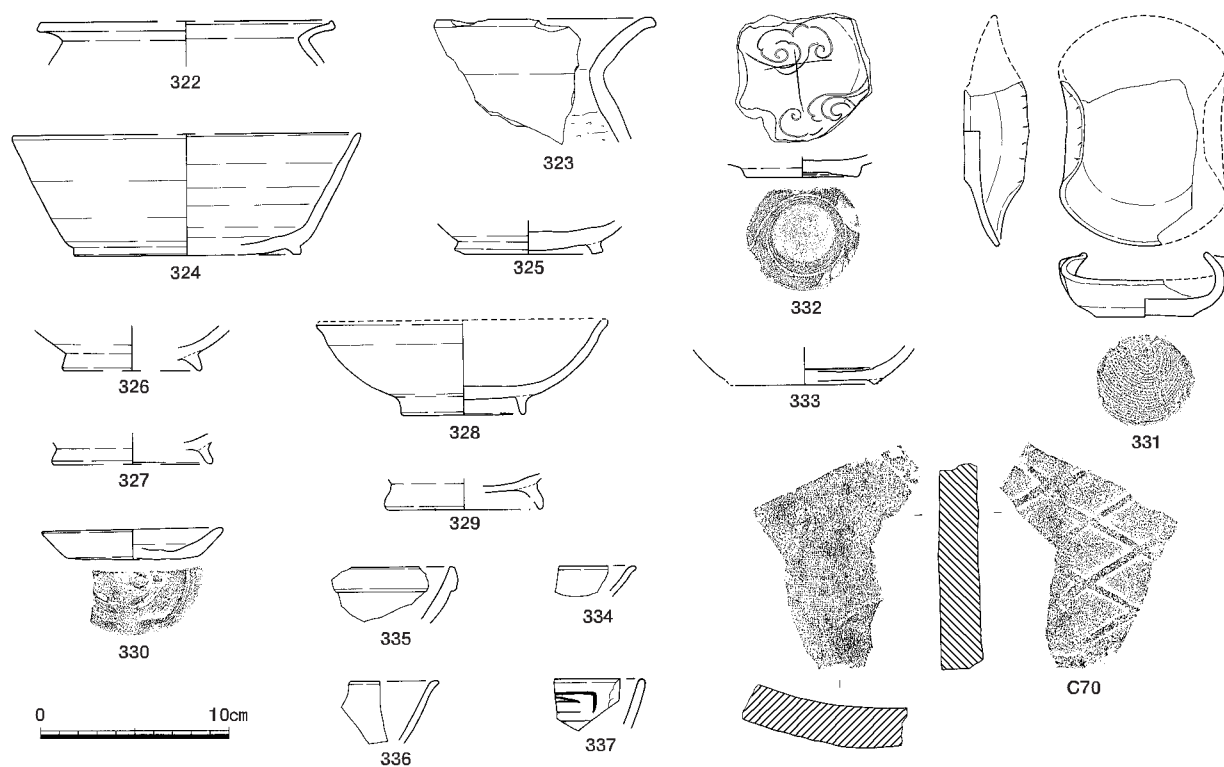
以上の遺物の帰属時期には大きな幅があるが、逆にこれらは当遺跡一帯が水田化されるまでの生活の痕跡を反映していると言えよう。（渡邊）



第25図 たわみ2出土遺物3 (1/3)



第26図 水田出土遺物 (1/2・1/3・1/4)



第27図 その他の遺物 (1/4)

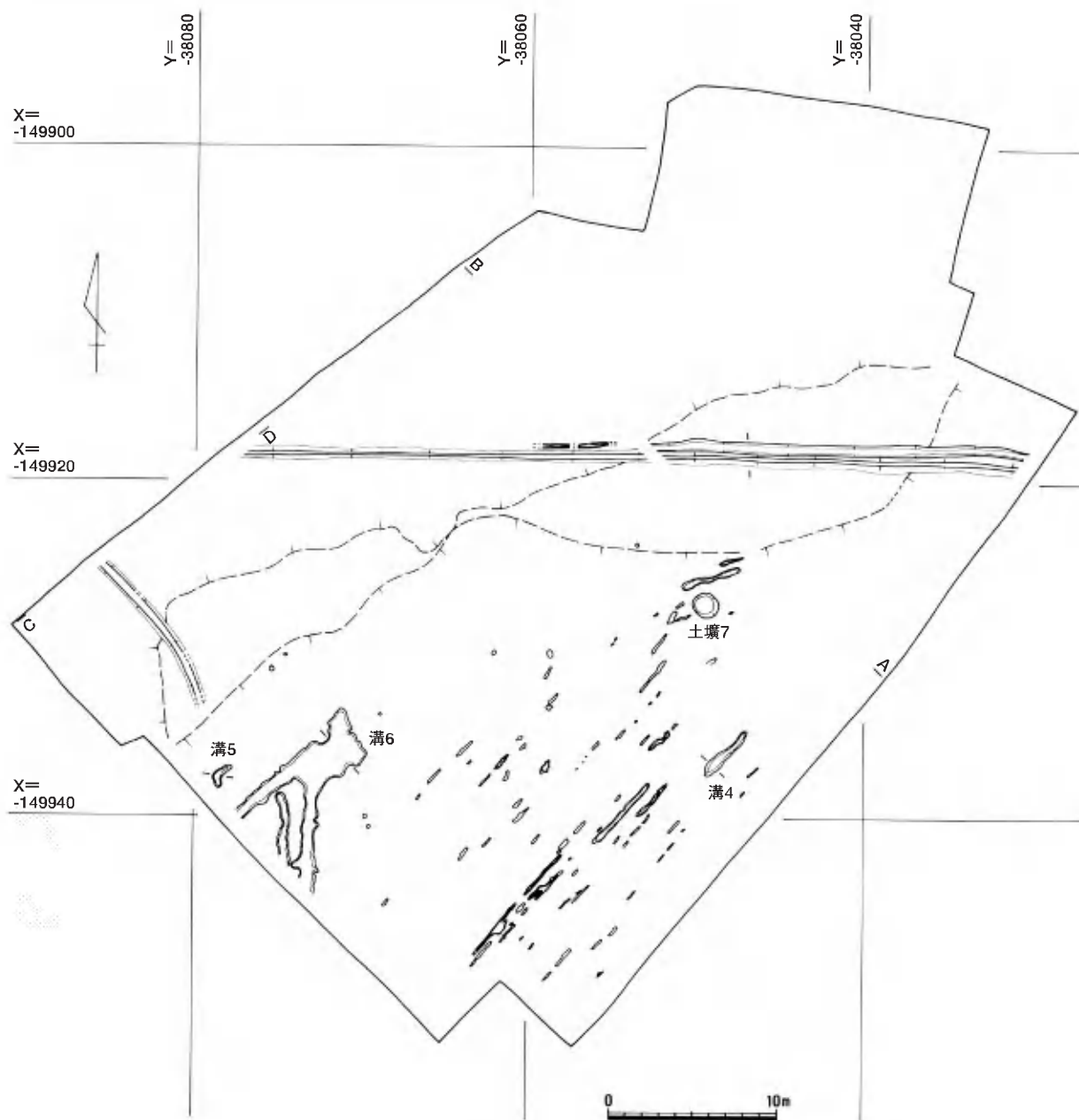
3 近世以降の以降・遺物

土壇 7 (第28・29図、図版1)

調査区のほぼ中央に位置する。140×160cmの円形を呈し、深さは30cmである。底面は平らで、土層の堆積状況から桶を埋設していたと思われる。土壇内から景德鎮系の碗338が出土しており、17世紀以降で、水田化されるまでに埋没したと考えられる。(渡邊)

溝 4 (第28・30図)

調査区中央東壁より、土壇 7 の 8 m 南に位置する。中世以降の水田層除去後に検出した。深さ10cm



第28図 1区近世以降遺構全体図 (1/400)

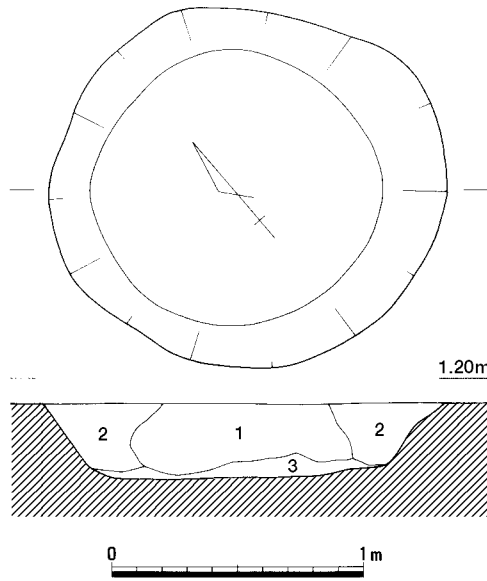
にも満たない帯状の形状で、その形状から単独で機能していたとは認めがたい。埋土の状況や長軸の方向から耕作痕の可能性が高いと考えられる。(渡邊)

溝5・6 (第28・30図)

調査区の南辺中央に位置する。溝6は細長い溝が3条まとまった形に見えるが、西端の1条は調査区に平行するが、他2条は国土座標の南北軸に一致しており、時期の異なる溝の可能性はある。いずれも浅く底面の凹凸も激しい。埋土は上面に堆積していた水田層と同じで、底面の標高は溝4や他の耕作痕と変わらない。人為的に掘削された水路などの機能は想定できず、耕作に伴う何らかの痕跡と考えられる。(渡邊)

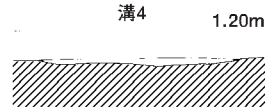
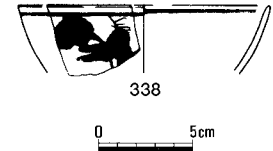
水田 (第8・28・31、図版14)

近世以降の水田層は第8図A-B断面の第6・7層およびC-D断面の第6層で、第31図では第5層

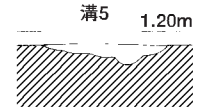


第29図 土壌7・出土遺物 (1/30・1/4)

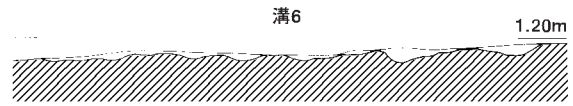
- 1 鈍い黄褐色砂質土 (10YR5/3)
- 2 褐灰色粘質微砂 (10YR5/1)
- 3 灰黄褐色粘質微砂 (7.5YR5/2)



- 1 褐灰色砂質土 (10YR6/1)



- 1 青灰色粘質微砂 (5BG5/1)

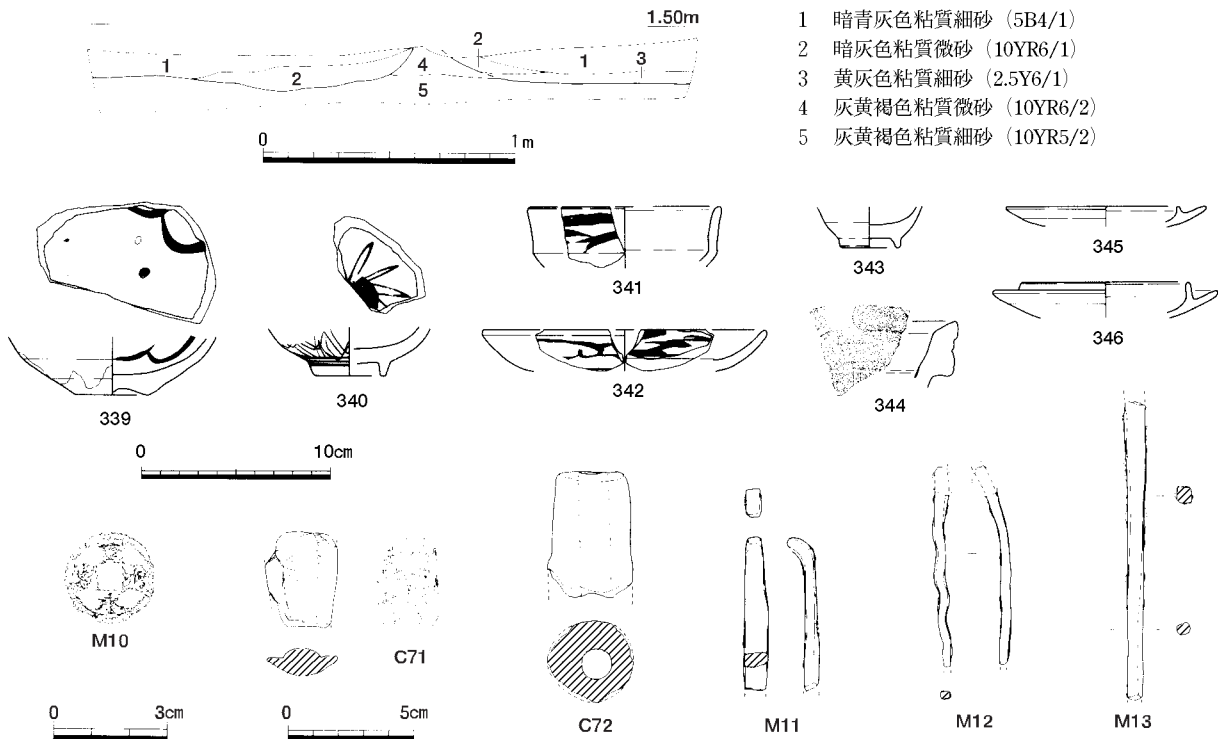


- 1 青灰色粘質微砂 (5BG5/1)

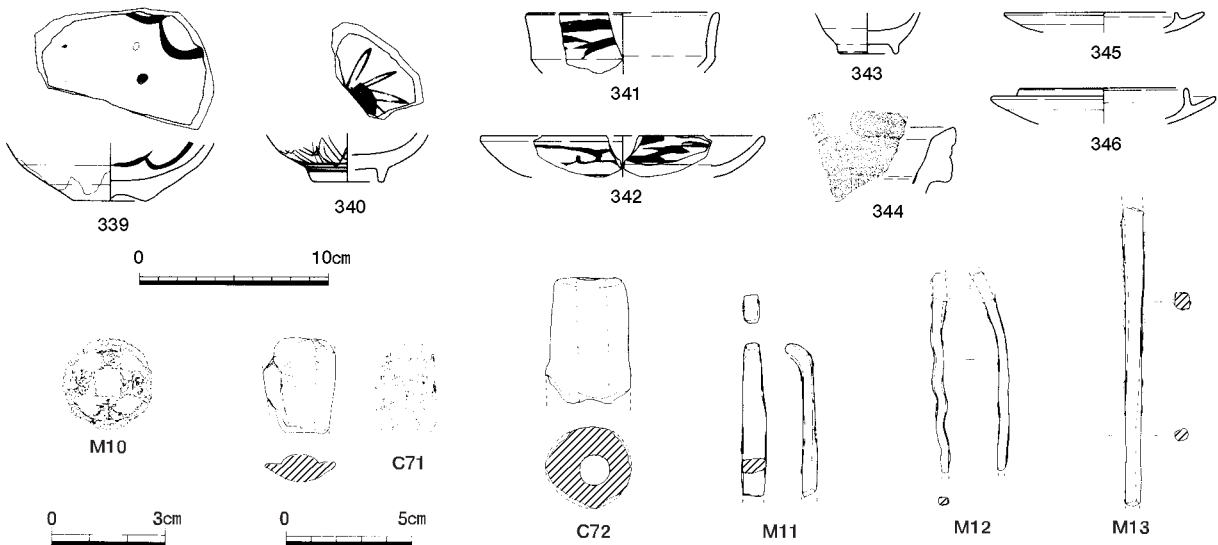


第30図 溝4～6 (1/60)

が相当するが、第28図に図示したアゼは第31図第2・4層で、近世水田上面に形成されていることになる。古代～中世の水田としたのは第5層より下位の水田層である。なお第28図は第5層を含む中世以降の水田層を除去した状況である。アゼは2条検出し、339・340・342・344・346が北側の国土地座標のX軸と一致するアゼから、341・343・345が南側のアゼから出土した。18世紀後半の肥前染付342が最も新しく位置付けられ、アゼの形成がこの時期より遡ることはないと思われるが、第31図第1層は明治時代の水田層であり、近代まで降る可能性も考えられる。(渡邊)



- 1 暗青灰色粘質細砂 (5B4/1)
- 2 暗灰色粘質微砂 (10YR6/1)
- 3 黄灰色粘質細砂 (2.5Y6/1)
- 4 灰黄褐色粘質微砂 (10YR6/2)
- 5 灰黄褐色粘質細砂 (10YR5/2)

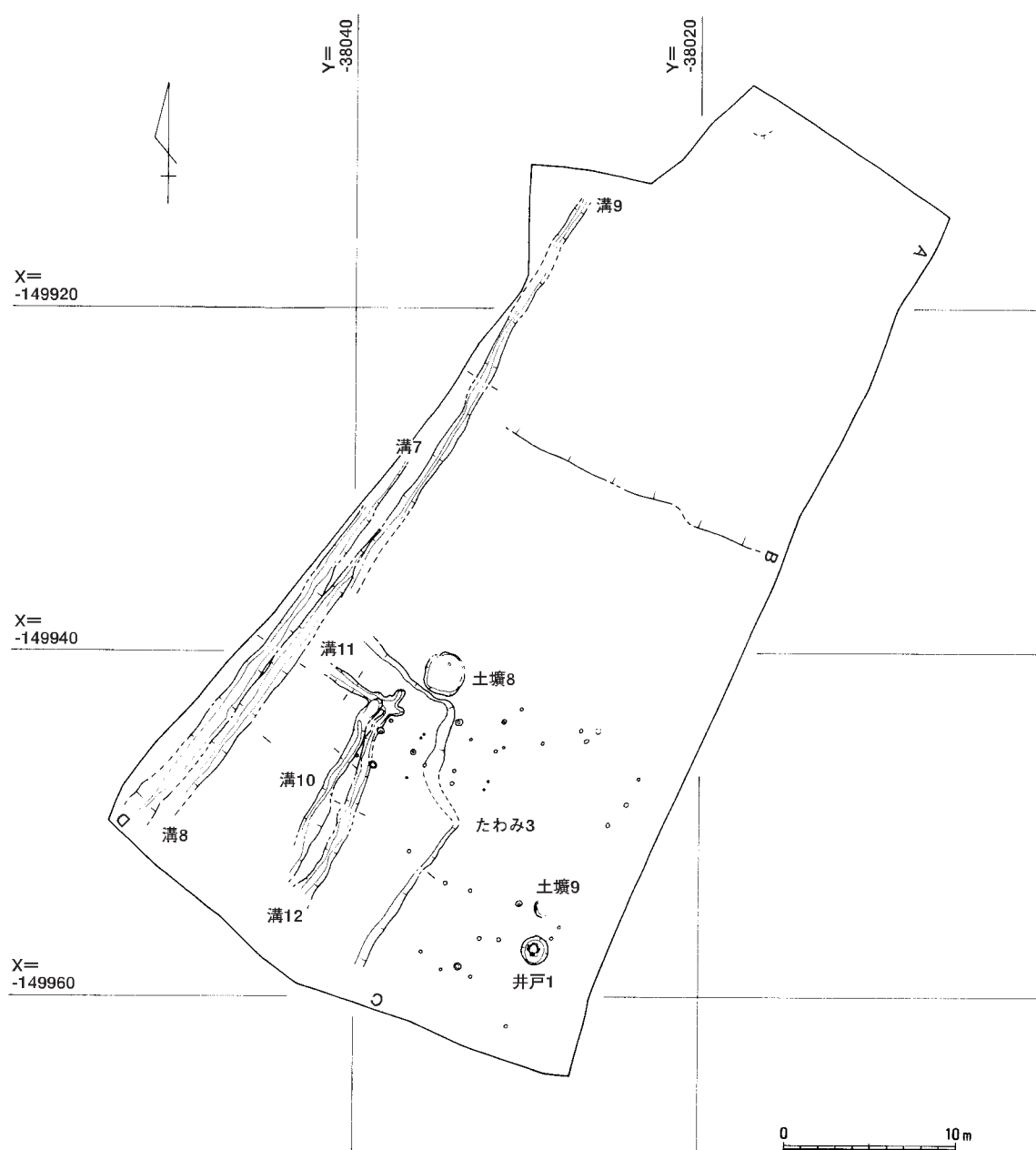


第31図 水田・出土遺物 (1/30・1/2・1/3・1/4)

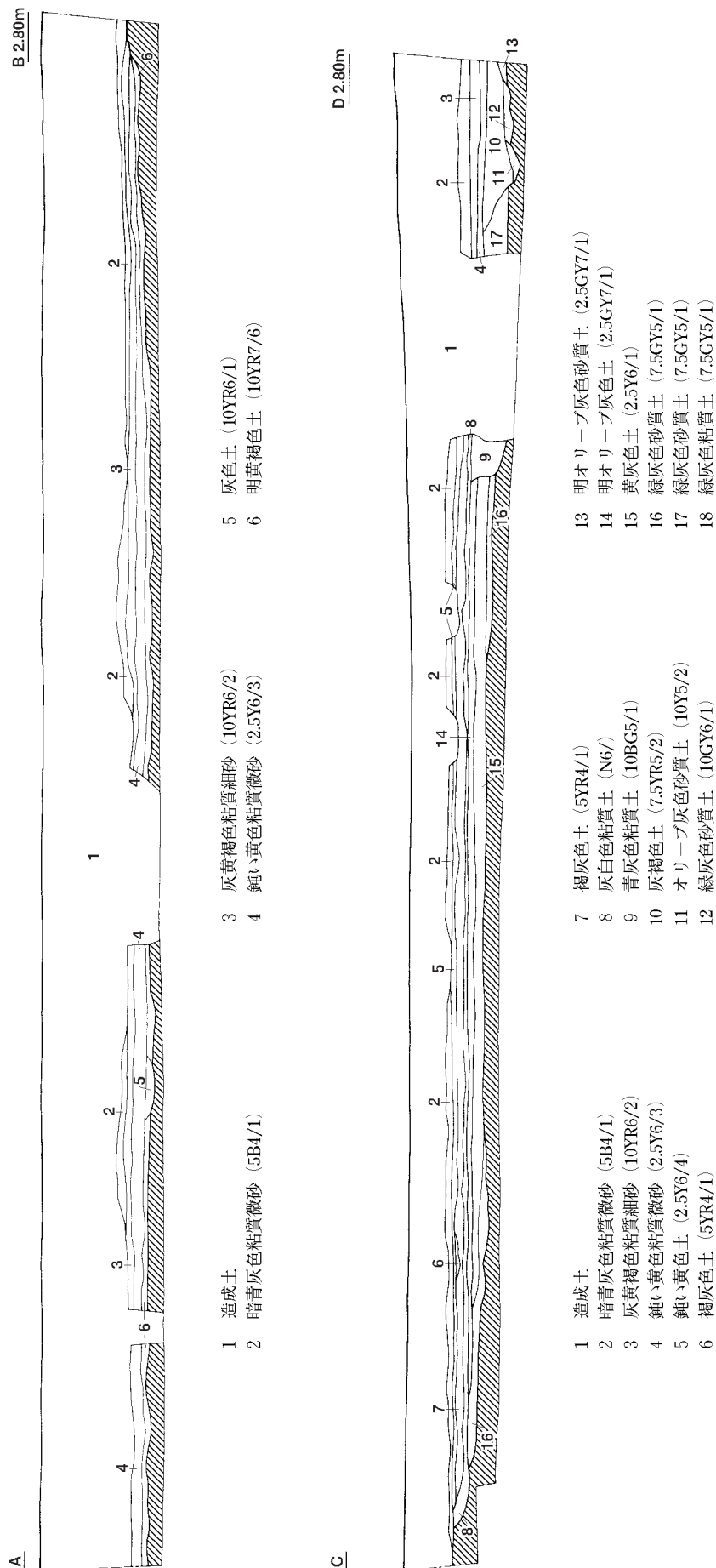
第2節 平成14年度の調査

1 概要

2区は調査対象範囲のほぼ中央に位置し、北東—南西方向に長い調査区である。調査前の現地には、病院関連の駐車場や建物および市道などが存在していた。これらの基盤層は、第33図の第1層が示すように、約1 mの厚い造成土が堆積していた。この造成土を除去した後に本格的な調査を行ったが、調査の経過でも触れたように、多数の攪乱と上部の削平などによって集落の実態が判然とせず、特に遺構空白域である2区中央付近の状況は不明である。



第32図 2区中世以前遺構全体図 (1/400)

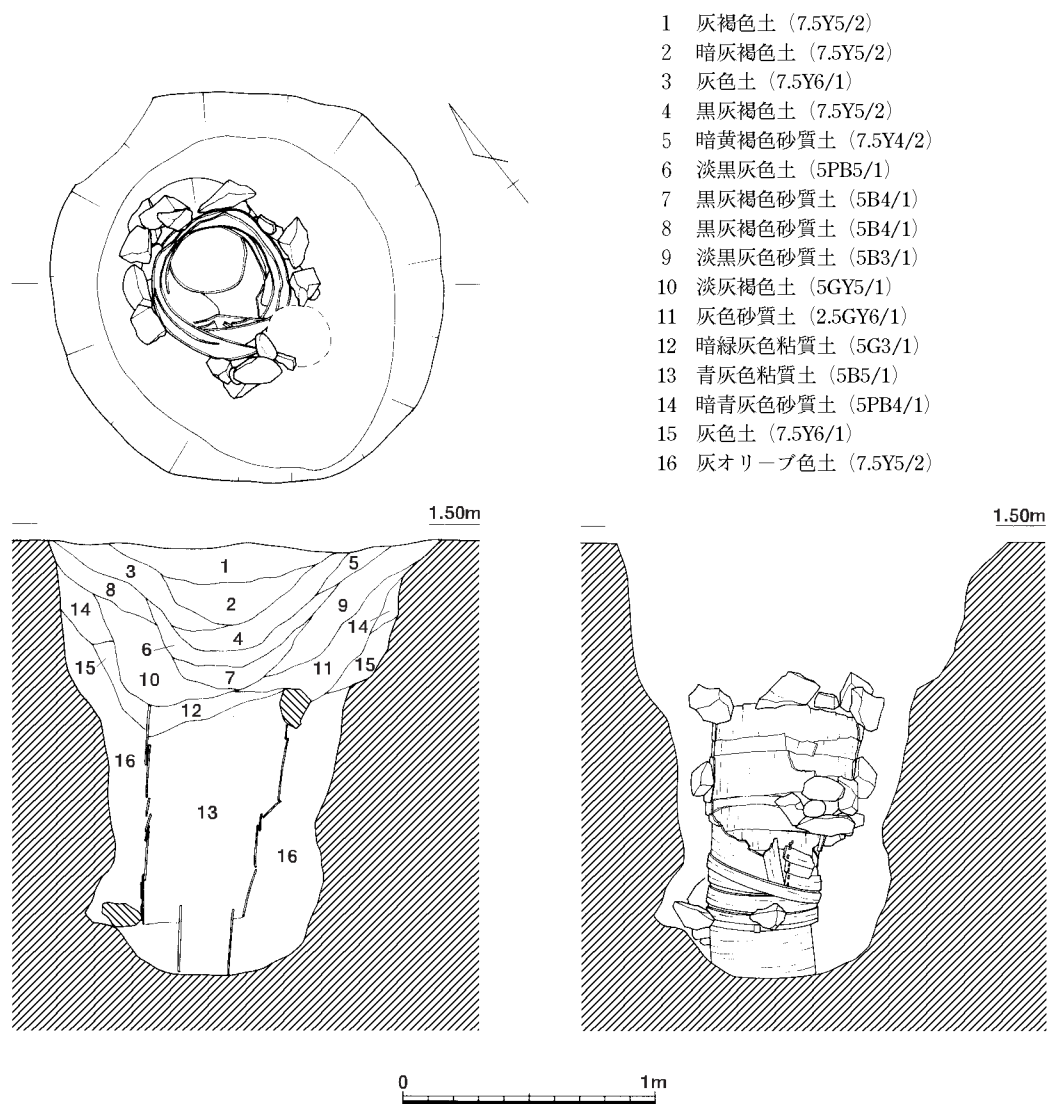


第33図 2区土層断面図 (1/100)

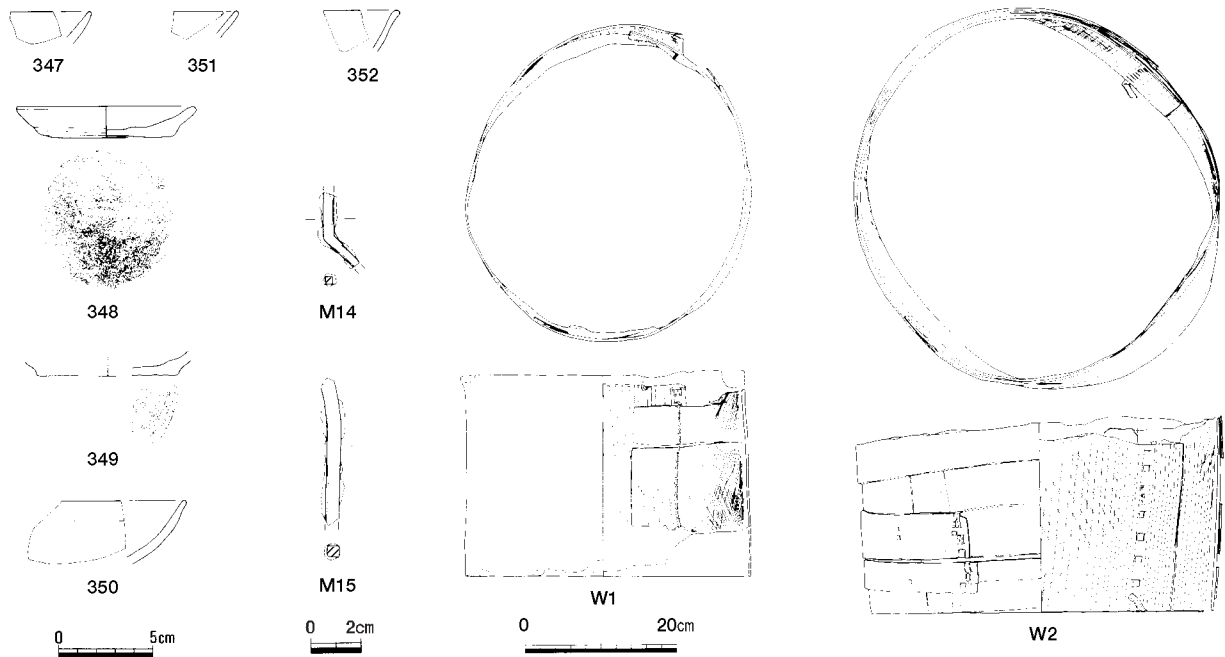
調査成果としては、中世以前の遺構で2区の南側と西側を中心に、井戸1基、土壇2基、溝6条、たわみ1か所を検出した。また、詳細な時期は判然としないが、2区南側で散漫ながら柱穴を41基検出した。ただし、建物などにはまとめきれなかった。近世以降の遺構としては、2区の南側と西側を中心に土壇5基、溝3条、水田を検出した。水田は2区全体に広がる近代の1面とその下位で2区北側、西端、南西端の3か所で、それぞれ近世の2面を確認している。特に、溝9、溝8、溝7の順に再掘された溝群の周辺をみると、溝7の埋没以降に広く水田化が進んだことが窺えた。

なお、これらの溝群の東側には、現代の下水管が埋設されており、この埋設部分の肩口付近には、下水管と同じ北東から南西方向に延びる杭列痕が確認できた。このことから、下水管の埋設以前にもほぼ同位置で水路が存在していたと思われる。つまり、同所は、溝9が機能していた鎌倉時代から現代にいたるまで、主要な水系として使用されていたことが考えられる。出土遺物は、古代から近世までの土器・陶磁器や土製品・鉄製品・木製品などを中心に、整理箱で14箱分が出土した。土器・陶磁器は磨滅を受けたものは少ないが、いずれも小破片となったものが多くみられた。(澤山)

2 中世以前の遺構・遺物



第34図 井戸1 (1/30)



第35図 井戸1出土遺物 (1/3・1/4・1/10)

井戸1 (第32・34・35図、図版4・15)

2区の南東付近に位置する。平面は円形で、断面形は上位が大きく外方開く2段掘りの逆台形を示す。海拔-0.05m付近から湧水がみられ、底部は一部壁面が崩壊している。規模は長径166cm、短径157cm、深さ172cmを測り、底面標高は-0.23mである。構造は曲物を6ないし7段重ねて、水溜として使用しており、その高さは106cmを測る。また、第16層の裏込め土と合わせて、水溜の上端や曲物間の繋ぎ目付近で拳から人頭大の石が配されている。

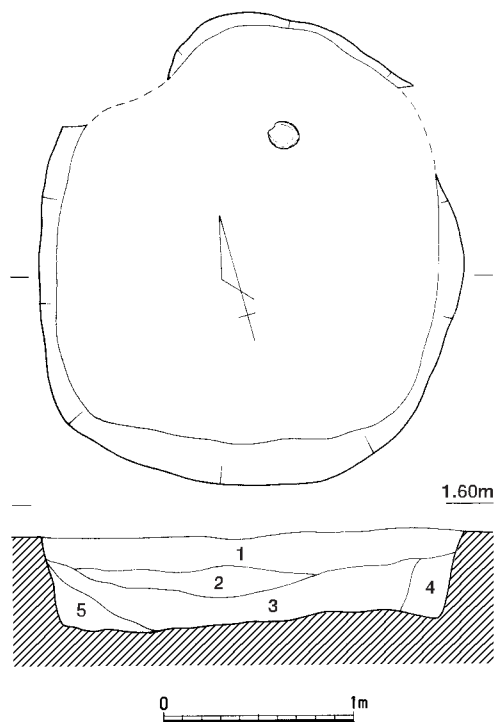
出土遺物は、土師器の皿348、碗350、甕、須恵器の杯349・351、碗347、緑釉陶器の碗352や曲物側W1・W2、鉄釘M14・M15などがある。裏込め下層出土の碗352は、9世紀後半～10世紀前半の京都産とされ、石組み下層では10世紀代の防府産とされる体部小片が出土している。水溜曲物側の下から2段目のW1は半壊、下から1段目のW2は完存であった。下から3・4段目は全壊状態に近く、さらに上段は木質が粘土化し、取り上げ不能であった。遺構の時期は10～11世紀と思われる。(澤山) 土壌8 (第32・36図、図版4・13)

2区の中央付近に位置する大形の土壌である。平面形態は楕円形を呈し、断面は壁面が底部からほぼ直立気味に立ち上がっている。規模は長径250cm、短径223cm、深さ50cm、底面標高0.93mを測る。出土遺物は、土師器の碗353・354、杯355、皿356、丹塗り皿357、甕358や須恵器の甕、白磁碗359などの小片が認められた。遺構の時期は11世紀後半～12世紀頃と思われる。(澤山)

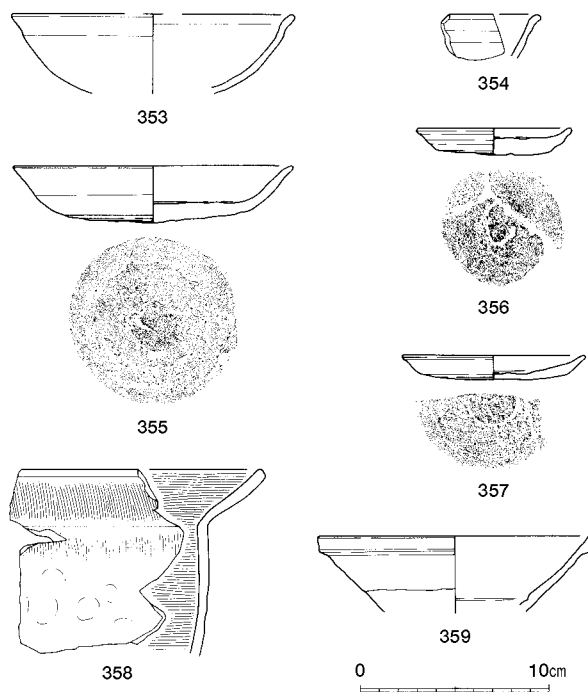
土壌9 (第32・37図)

2区の南東付近に位置し、東側に削平を受ける。平面は楕円形、断面は逆台形である。規模は現状で長径95cm、短径56cm以上、深さ50cm、底面標高0.90mを測る。出土遺物は、土師器の皿360、杯、甕361、土製品C73がみられ、C73は二次焼成を受ける。遺構の時期は平安時代末と思われる。(澤山) 溝7 (第32・38図)

2区の西側に位置し、流路は北東から南西方向に延びる。断面形は逆台形を呈する。規模は幅



- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 鈍い黄褐色土 (10YR5/4) | 4 灰褐色砂質土 (7.5YR5/2) |
| 2 鈍い褐色土 (7.5YR5/4) | 5 鈍い褐色土 (7.5YR5/4) |
| 3 鈍い褐色土 (7.5YR5/4) | |



第36図 土壌 8・出土遺物 (1/40・1/4)

122cm、深さ52cmを測る。

出土遺物は、土師器の杯367、碗362～365、皿、甕、鍋368や須恵器の杯身、蓋366、壺、甕369、備前焼の甕370などや須恵器片を二次加工した円板形土製品C74、布目痕のある平瓦C75などがみられた。溝底部ではウシの下顎骨の一部が出土した。遺構の時期は14世紀頃である。(澤山)

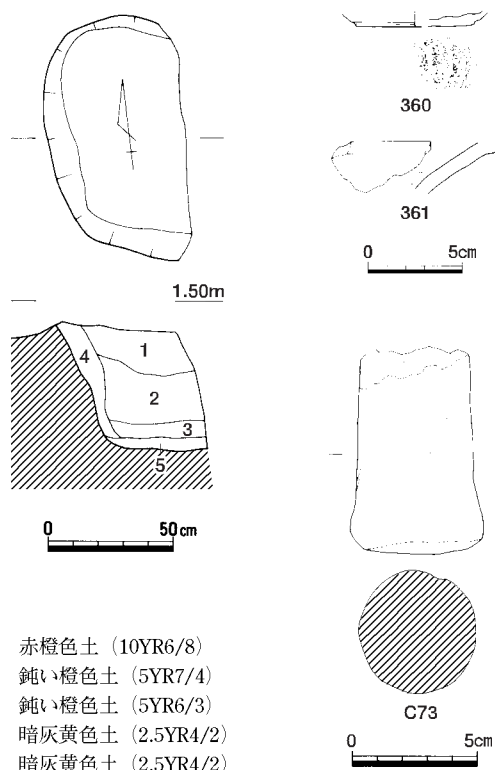
溝 8 (第32・38図)

2区西側に位置し、流路は北東から南西方向に延びる。断面形は皿形を呈し、規模は幅95cm、深さ20cmを測る。溝7に西側肩口を切られている。

出土遺物は、土師器の杯、碗371・372、鍋373や須恵器の杯、壺、甕や瓦、緑釉陶器の皿374などや須恵器片を加工した円板形土製品C76が認められた。皿374は猿投産の9世紀後半とされる。遺構の時期は13世紀頃と思われる。(澤山)

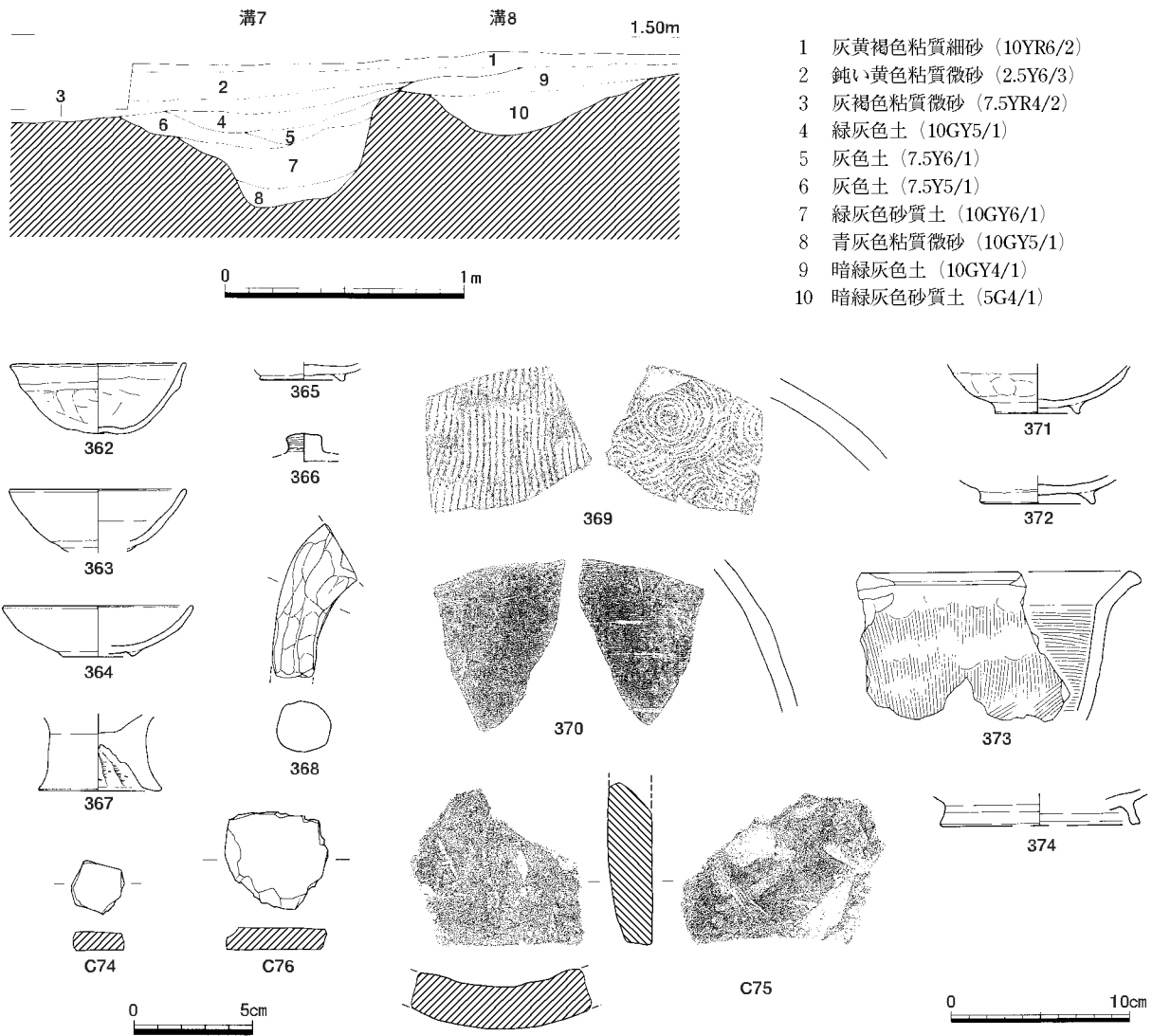
溝 9 (第32・39図)

2区の西側に位置し、流路は北東から南西方向に延びる。断面形は逆台形を呈し、規模は幅56cm、深さ22cmを測る。溝8に南半を切られている。



- | |
|--------------------|
| 1 赤橙色土 (10YR6/8) |
| 2 鈍い橙色土 (5YR7/4) |
| 3 鈍い橙色土 (5YR6/3) |
| 4 暗灰黄色土 (2.5YR4/2) |
| 5 暗灰黄色土 (2.5YR4/2) |

第37図 土壌 9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)

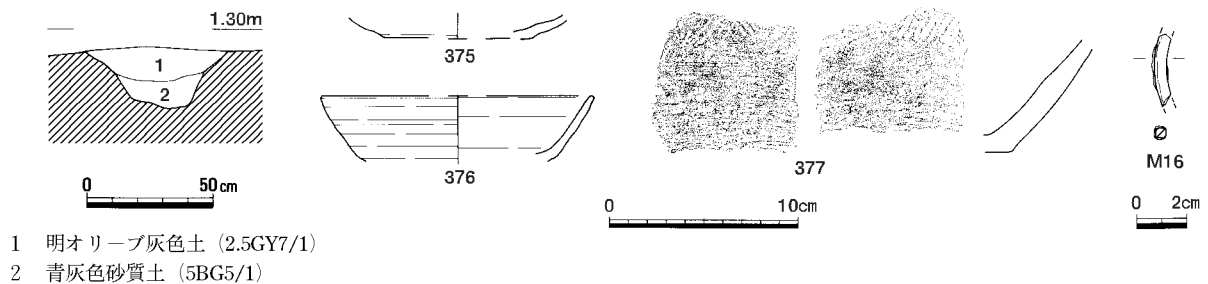


第38図 溝7～8・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)

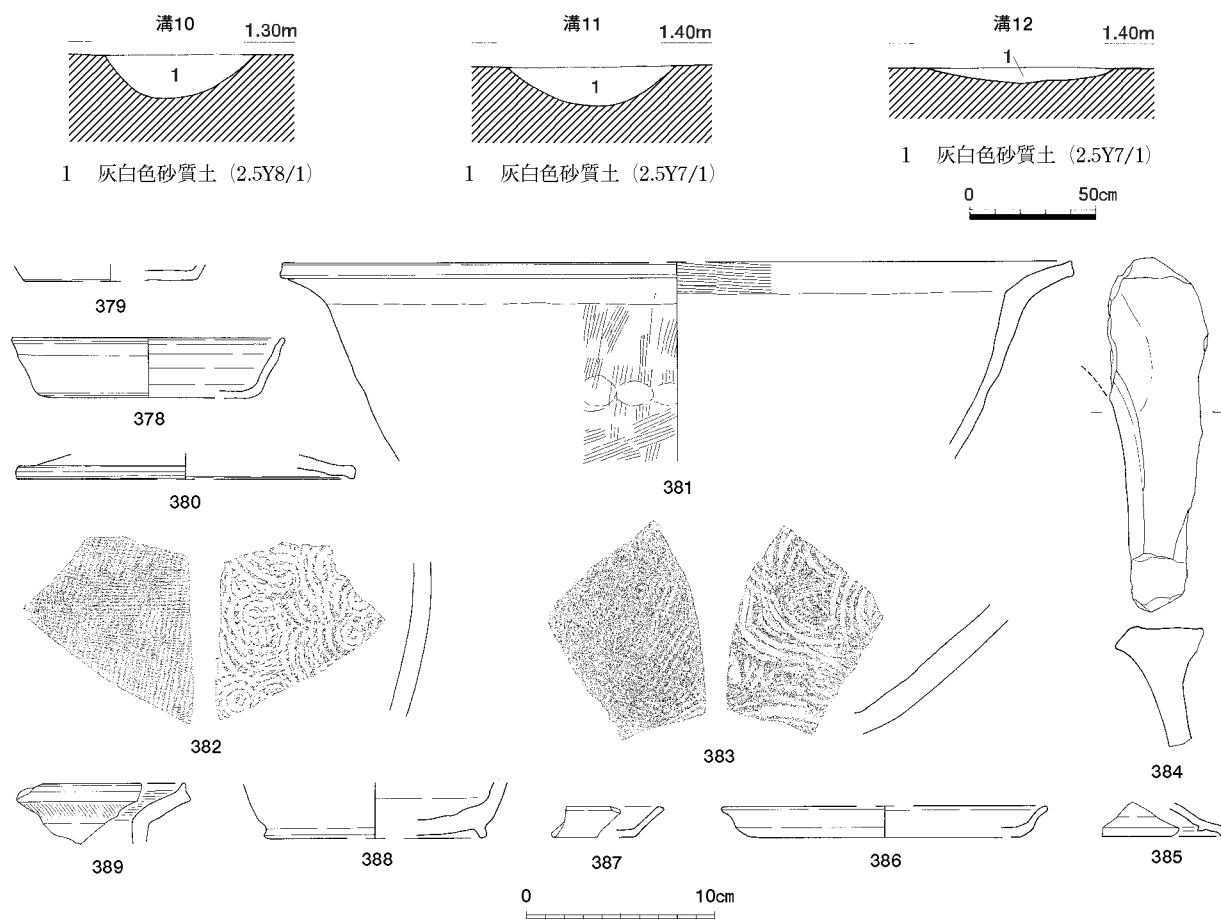
出土遺物は、土師器の皿375、甕、甕や須恵器の杯376、亀山焼の甕377や鉄釘M16などの小片が認められた。遺構の時期は13世紀頃と思われる。(澤山)

溝10 (第32・40図)

2区の南側中央に位置し、流路は北東から南西方向に延び、後述する溝11と連結する。規模は幅58cm、深さ17cmを測る。断面形はU字形を呈する。時期は平安時代後半と思われる。(澤山)



第39図 溝9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4)



第40図 溝10～12・出土遺物 (1/30・1/4)

溝11 (第32・40図)

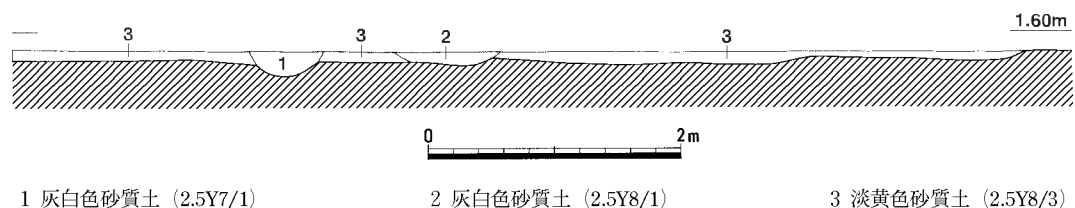
2区の南側中央付近に位置し、流路は北西から南東方向に延びる。規模は幅66cm、深さ15cmを測り、断面形はU字形を呈する。出土遺物は、土師器の丹塗り杯378、碗、甕、鍋381、竈384や須恵器の杯379、蓋380、壺、甕382・383などがある。時期は平安時代後半と思われる。(澤山)

溝12 (第32・40図)

2区の南側に位置し、流路は北東から南西方向に延びる。規模は幅75cm、深さ6cmを測り、断面形は浅い皿形である。溝10と切り合い関係がみられる。出土遺物は、土師器の杯、甕389、竈や須恵器の蓋385、皿386・387、壺388、甕などの小片がみられた。時期は平安時代後半と思われる。(澤山)

たわみ3 (第32・41～42図)

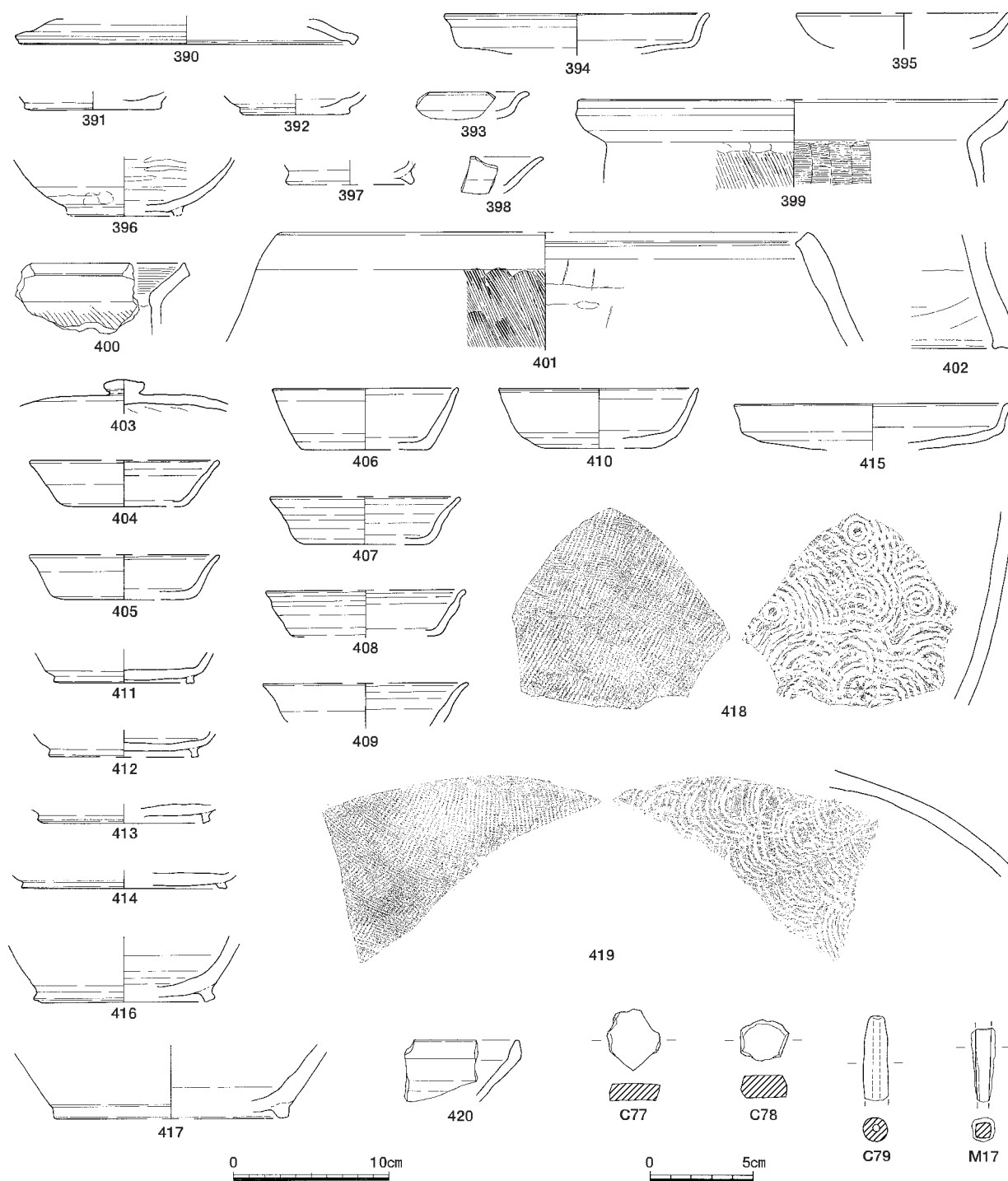
2区の南西部の広い範囲に認められる不定形のたわみであり、深さは約20cmである。同地点が全体的に北東から南西方向にゆるく下がる自然地形にあたるためか、平安時代後半の遺物を多く包含した



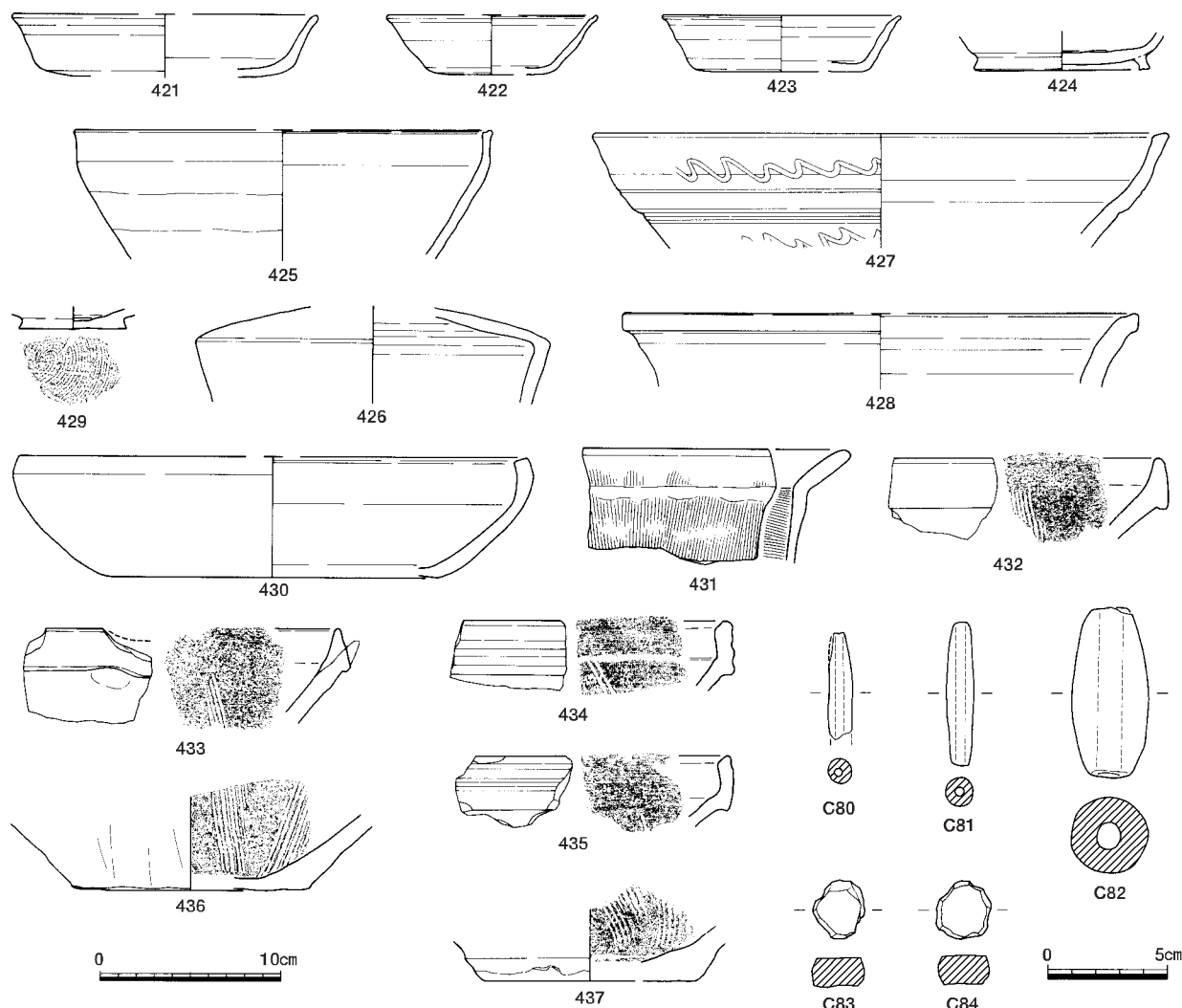
第41図 たわみ3 (1/60)

堆積層が形成された。

出土遺物は、土師器の蓋390、杯391・392、皿393・395、丹塗り皿394、碗396・397、甕399・400、竈401・402や須恵器の蓋403、皿415、杯404～414、壺416・417、甕418・419、東播系播鉢420や緑釉陶器の皿398などの小片や須恵器片を二次加工した円板形土製品C77・C78、管状土錘C79や鉄釘M17などが比較的多くみられた。皿398は京都産で9世紀後半～10世紀前半とされる。時期は平安時代後半と思われる。(澤山)



第42図 たわみ3出土遺物 (1/3・1/4)



第43図 その他の遺物 (1/3・1/4)

その他の遺構・遺物 (第32・42図)

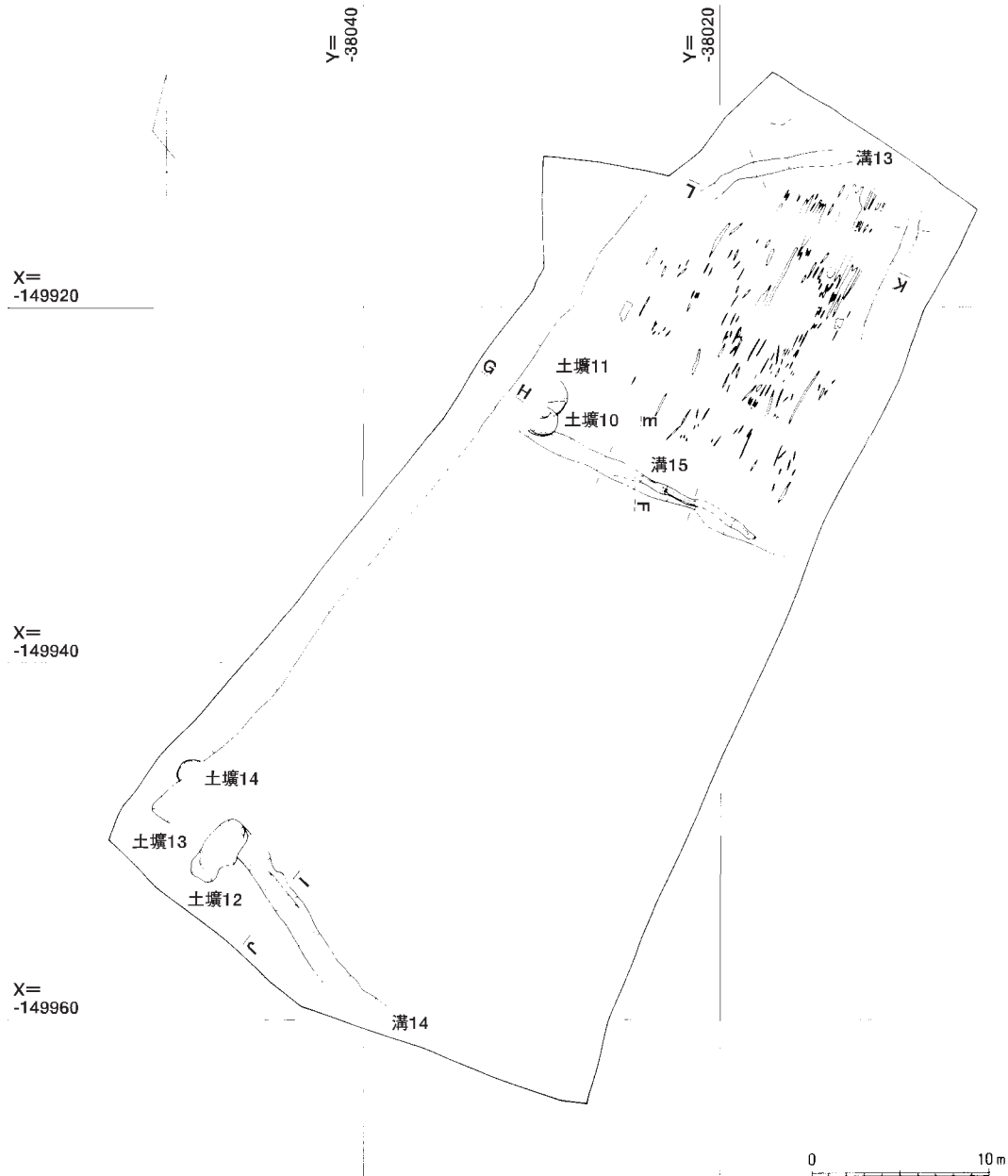
その他の遺構として、2区の南半を中心に散漫ながら柱穴を41基検出した。規模は径15～35cm、深さ15～20cm程度のものであるが、全体に小形のものであり、埋土は褐灰色砂質土細砂を基調とする。このうち27基について遺物が出土しており、古代から中世までの土師器・須恵器の小片が認められた。

包含層および遺構の時期に伴わない出土遺物としては、土師器の杯421、鍋431、丹塗り鉢425、瓦質鉢430、須恵器の杯422～424、碗429、壺426、甕427・428、備前焼播鉢432～437や土製品の管状土錘C80～C82、須恵器片を二次加工した円板形土製品C83・C84などが認められた。(澤山)

3 近世以降の遺構・遺物

土壌10 (第44・45図)

2区の中央付近に位置し、水田層除去後に検出した。土壌11と切り合い関係を有し、現下水道により北西側が削平されているが、平面形態は円形であったと推定される。断面形は逆台形状を呈する。規模は推定径187cm、深さ68cm、底面標高0.79mを測る。出土遺物は、図化し得ていないが、陶磁器、



第44図 2区近世以降遺構全体図 (1/400)

瓦、土師器、須恵器、不明鉄製品などが認められた。

(澤山)

土壇11 (第44・45図)

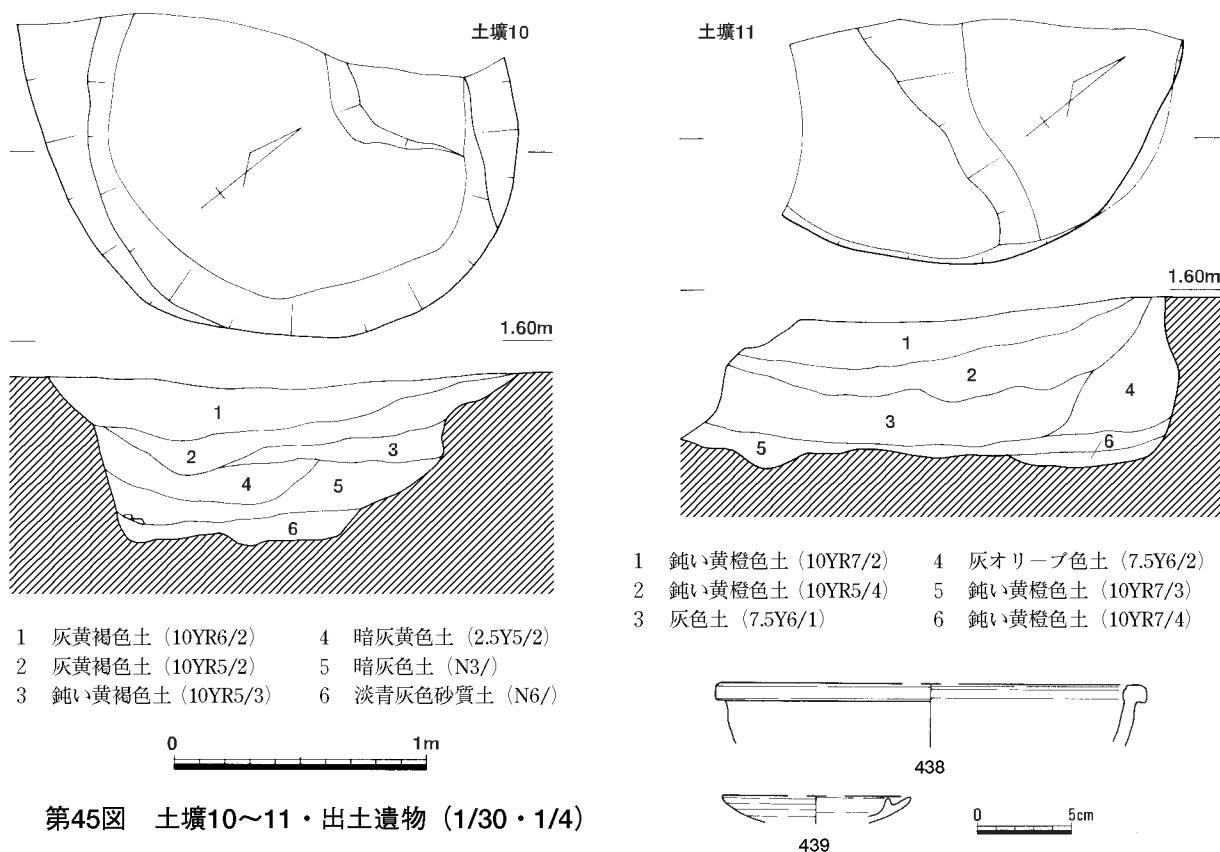
2区の中央付近に位置し、水田層除去後に検出した。土壇10に南西側を切られ、北西側が現下水道により削平されている。平面形態は円形であったと推定され、断面形は袋状を呈する。規模は推定で径190cm、深さ67cm、底面標高0.90mを測る。出土遺物は、灯明皿439、鉢438などの陶磁器、瓦、土師器などが認められた。

(澤山)

土壇12 (第44・46図)

2区の南西端に位置しており、水田層除去後に検出した。平面形態は不整楕円形であると思われるが、北西側が現下水道により削平される。断面形は逆台形状を呈する。規模は長さ393cm、幅208cm、深さ92cm、底面標高0.52mを測る。出土遺物は、陶磁器、瓦、土師器がある。

(澤山)

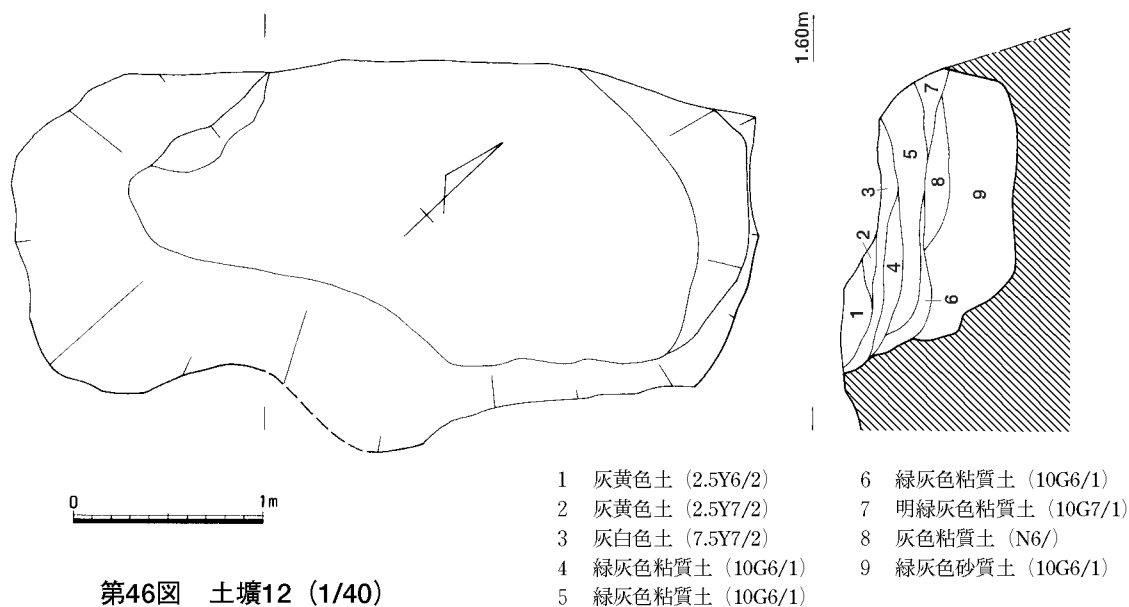


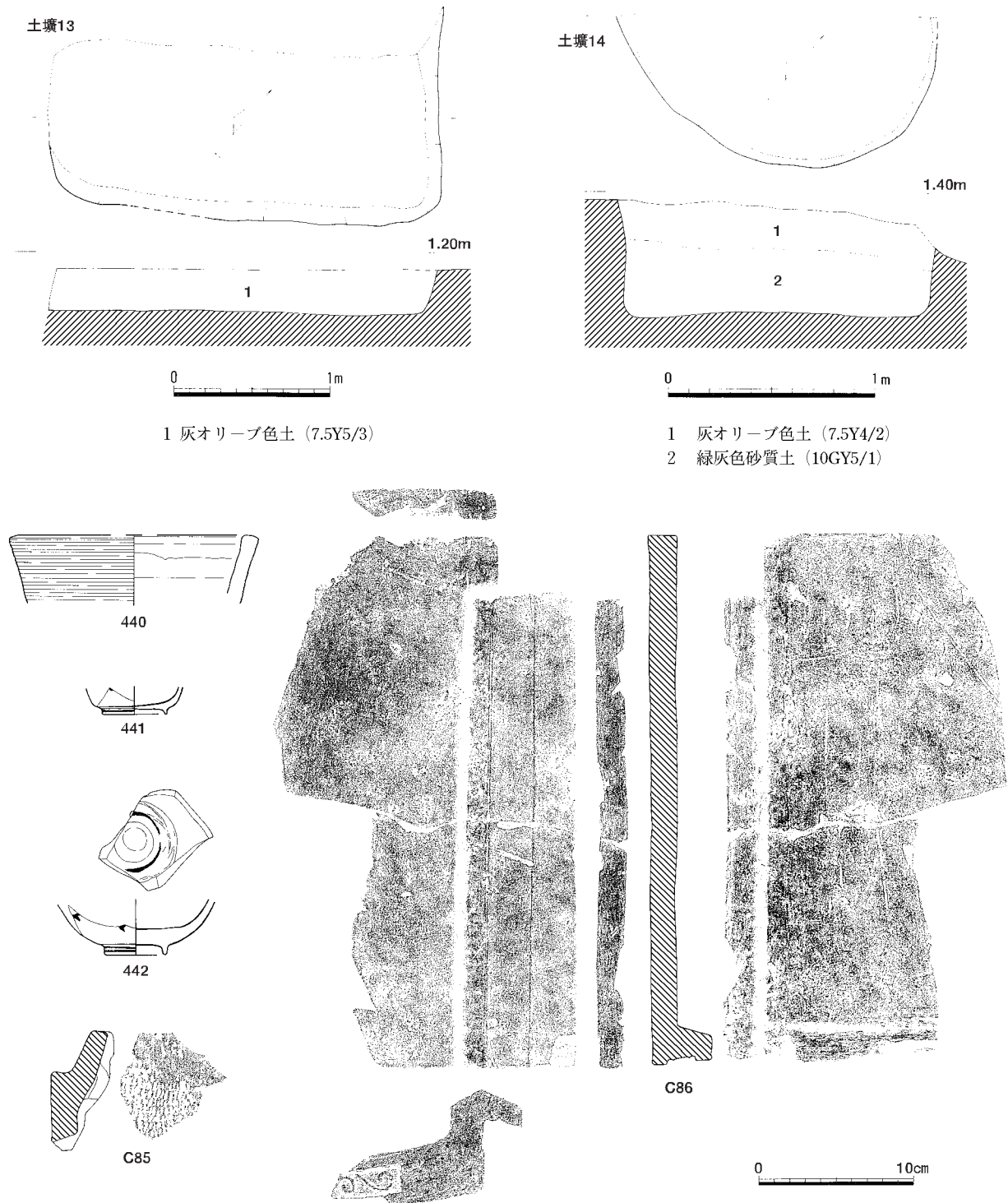
土壌13 (第44・47図)

2区の南西端に位置し、水田層除去後に検出した。土壌14に北側を切られ、南東側が現下水道により削平される。平面形は判然とせず、断面形は底面から外方に開く壁面を有する。規模は現状で長さ250cm以上、幅109cm以上、深さ22cm、底面標高0.90mを測る。出土遺物は、鉢440、染付碗442、杯441などの陶磁器、軒棧瓦C86、丸瓦C85、土師器、須恵器などが認められた。(澤山)

土壌14 (第44・47図)

2区の南西端に位置し、水田層除去後に検出した。東側半分は現下水道により削平されるが、平面



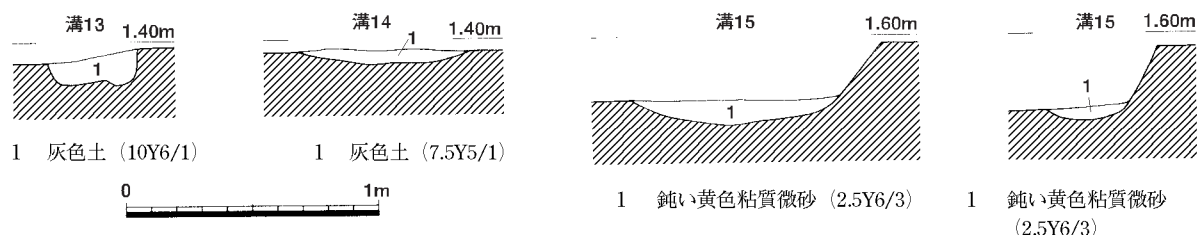


第47図 土壙13～14・出土遺物 (1/40・1/30・1/4)

形は楕円形を呈した推定され、断面は直立した壁面をもつ。規模は推定で径154cm、深さ57cm、底面標高0.79mを測る。出土遺物は陶磁器、瓦、土師器、須恵器などの小片がある。(澤山)

溝13 (第44・48図)

2区の北東端に位置しており、水田層除去後に検出した。北東から南西方向に延びる溝であり、規模は幅35cm、深さ15cmで、断面形は逆台形状である。出土遺物は陶磁器、土師器、須恵器などの小片が認められた。(澤山)



第48図 溝13～15 (1/30)

溝14 (第44・48図)

2区の北端に位置し、水田層除去後に検出された。北東から南西に延びる溝であり、南側水田部縁辺の微高地肩口に沿うものである。規模は幅67cm、深さ5cmであり、断面形は皿状を呈している。出土遺物は、陶磁器、土師器、須恵器などの小片が認められた。(澤山)

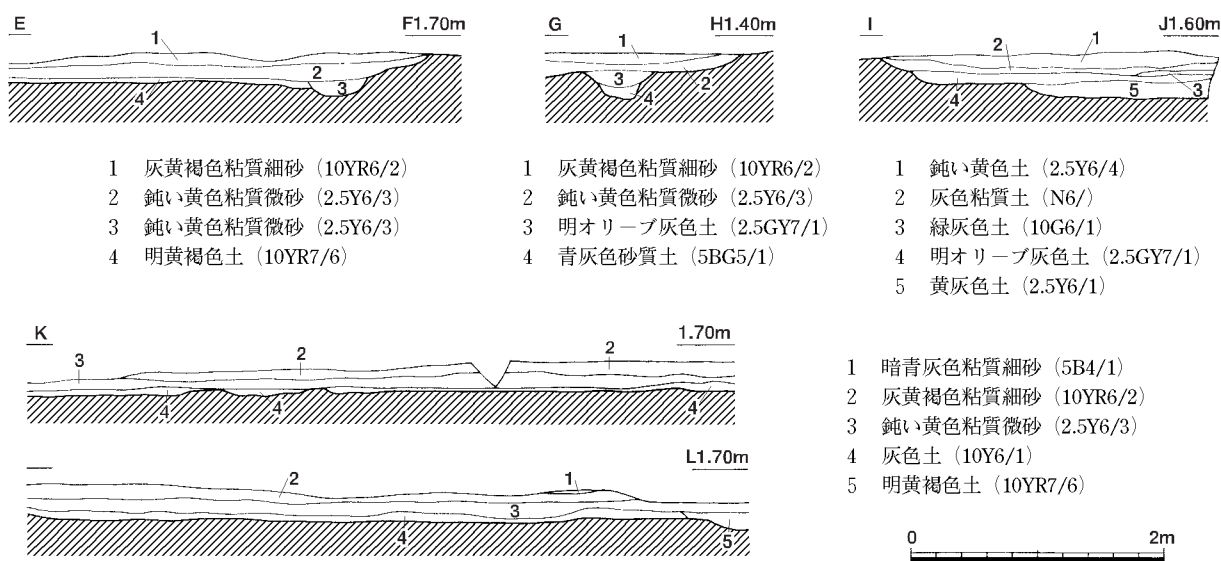
溝15 (第44・48図)

2区の中央付近に位置し、水田層除去後に確認した。東南東から西北西に延びる溝で、北側水田部縁辺に沿い、一部は微高地肩口と共有する。規模は幅81cm、深さ10cmであり、断面形は皿状を呈するが、西北西側に幅が広がり、底も深い。この溝は、現下水道の位置に存在したと思われる水路に、取り付いていたと考えられる。出土遺物は、陶磁器、土師器や鉄釘などの小片が認められた。(澤山)

水田 (第33・44・49図)

出土遺物から2区全体に広がる近代水田1面と、その下位にあたる2区北側、西端、南西端の3か所で近世水田を各2面確認した。近代水田では図化し得ていないが、1区で検出した東西方向の畦畔を一部で確認した。北側の近世水田では、北東—南西方向の耕作痕を検出した。西端の近世水田は、現下水道の埋設前に存在したと思われる水路から、西側の1区に広がる。先述した北側の近世水田より水田面が約20cm低いことから、別の水田である。

南西端の近世水田は、断面観察から数度の開墾が認められる。なお、土壌分析ではC-D断面の第7・8・14・15層よりイネのプラント・オパールが検出されたが、第8・15層は、稲作跡の検証や探查を行う際の判断基準値より低いとされる。(澤山)



第49図 水田 (1/60)

第3節 平成16年度の調査

1 概要

2区の東に接する3区は、県立岡山病院の西半部にあたる。建替以前に病院施設が存在した場所であり、調査はこの建物を取り壊した後、地表下80cmまでの造成土を重機によって取り除いた後に着手した。しかし、建物の基礎がなお地下深く残存していたことから、再び重機を使用してこれらを極力除去した後、人力によって掘削する方法を採った。調査区の南半は地下施設によって大きく破壊されており、西から北にかけても回廊状に並ぶ建物の基礎により攪乱を受けていて、遺構検出が可能な範囲は建物跡からはずれる南西や中庭にあたる北東部分に限定された。もっとも、井戸のように深い掘り方をもつ遺構は基礎による破壊を免れて遺存していたため、廃棄物や瓦礫の残る攪乱坑を一つ一つ清掃して遺構確認をしなければならず、調査は大幅に手間取る結果となった。

さて、厚さ70～100cmほどある造成土の下には灰色の水田層が確認されたが、建物の攪乱によって遺存は悪く、北西と南西に広がる一段低くなった区画において耕作痕と見られる溝をかるうじて検出できた。この水田の床土を除去した海拔1.4mあたりで、平安～鎌倉時代の掘立柱建物2棟や井戸9基、土壇8基、溝1条などを検出した。これらは、攪乱の影響もあってか南西と北東に偏った分布を示すが、それぞれ中心となる時期が異なることからすると本来の在り方を留めているものと思われる。これらの基盤となる砂質土の下層は、海拔0.6mあたりから植物遺体を含む暗灰色シルトと粗砂の互層となり、前述の井戸はいずれもこの層を掘り抜いて地下水を集めていたものと思われる。（亀山）

2 中世以前の遺構・遺物

掘立柱建物1（第50・52図、図版6）

3区中央東側で検出した東西棟の総柱建物である。柱穴には柱痕跡を持つものが多いが、深さは総じて浅い。柱通りは、東西方向に比べて南北方向がやや悪いが、周辺の柱穴との関係や、埋土の状況から総柱と判断した。柱穴からの時期のわかる出土遺物はない。

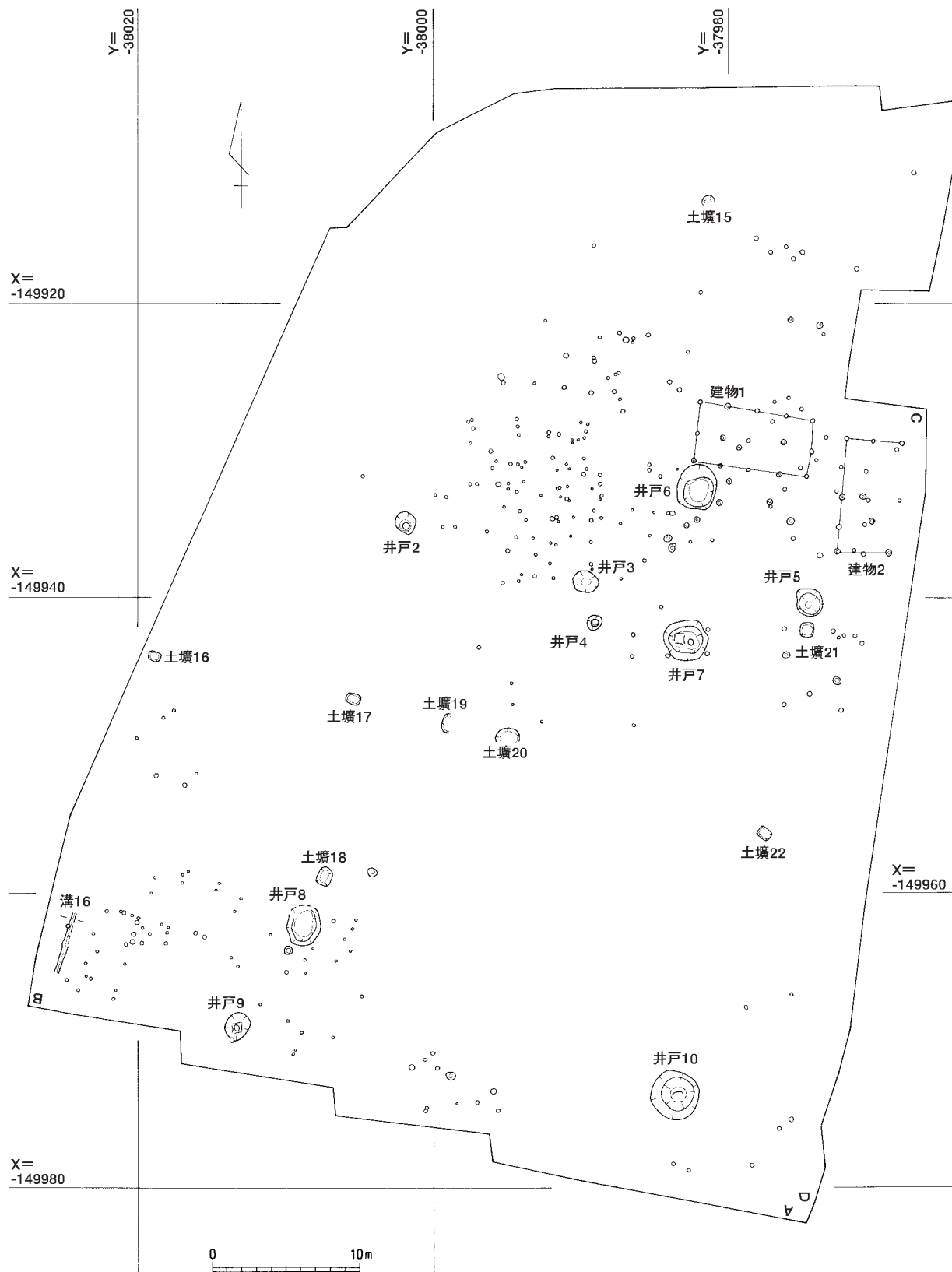
時期は、井戸6や周辺の遺構の分布状況から、10世紀頃と判断される。（杉山）

掘立柱建物2（第50・53図、図版6）

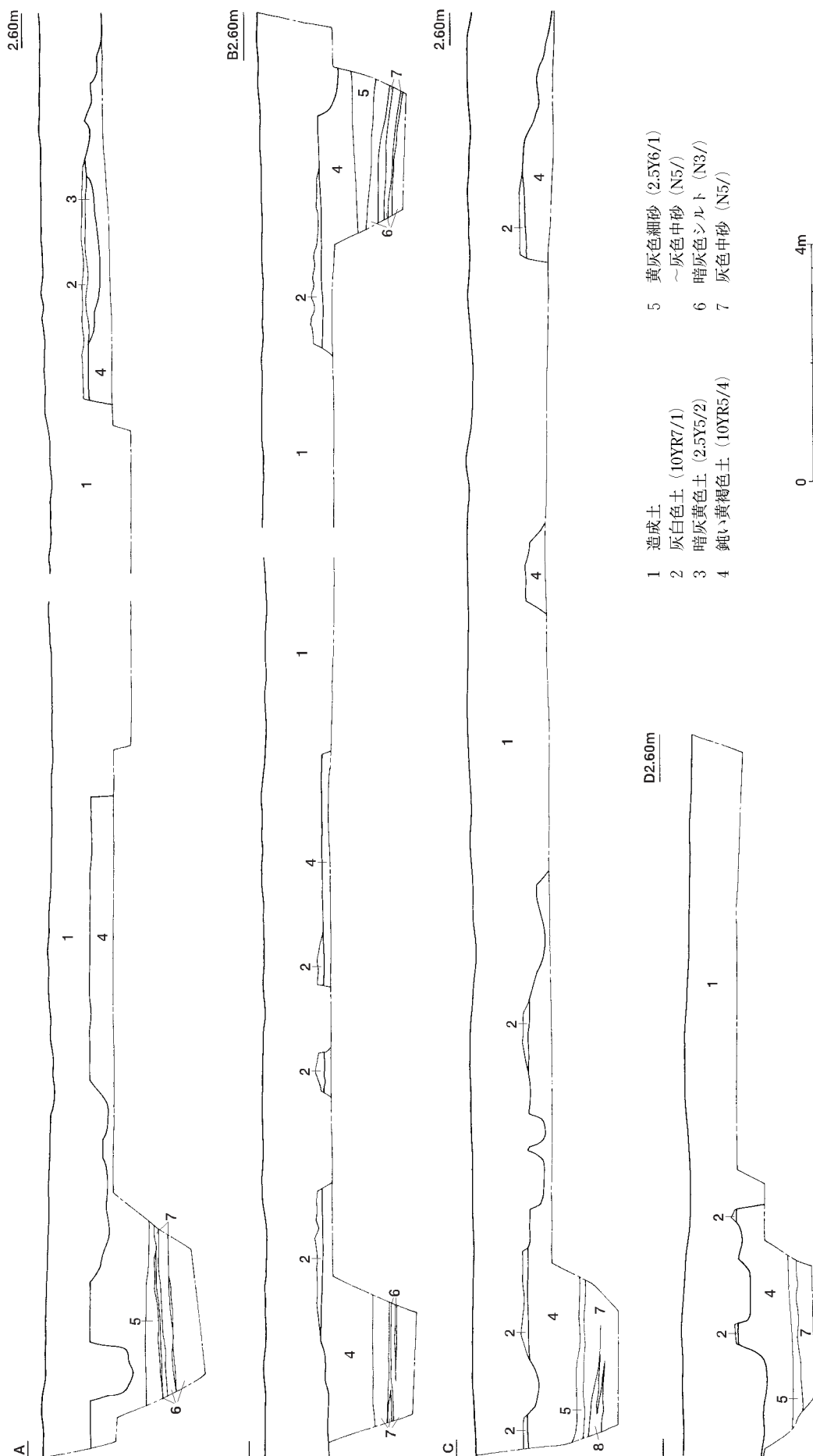
3区中央東端で検出した建物である。側柱に囲まれた内側の柱穴が散漫な状況であることから側柱建物としたが、柱通りのよいものもあり、東柱として使用された柱穴がある可能性は高い。また、東側調査区壁面に関連すると思われる柱痕跡が認められ、規模は東に拡大する可能性もある。柱穴は、柱痕跡の明瞭なものは少ないが、総じて深く埋土に炭を多く含む。遺物には、丹塗り土師器の443・444がある。掘立柱建物1とは埋土の状況が異なることと位置が近接することもあり、同時期の可能性は低いが、周辺の遺構の状況から9～10世紀頃と判断される。（杉山）

井戸2（第50・54図、図版7・15）

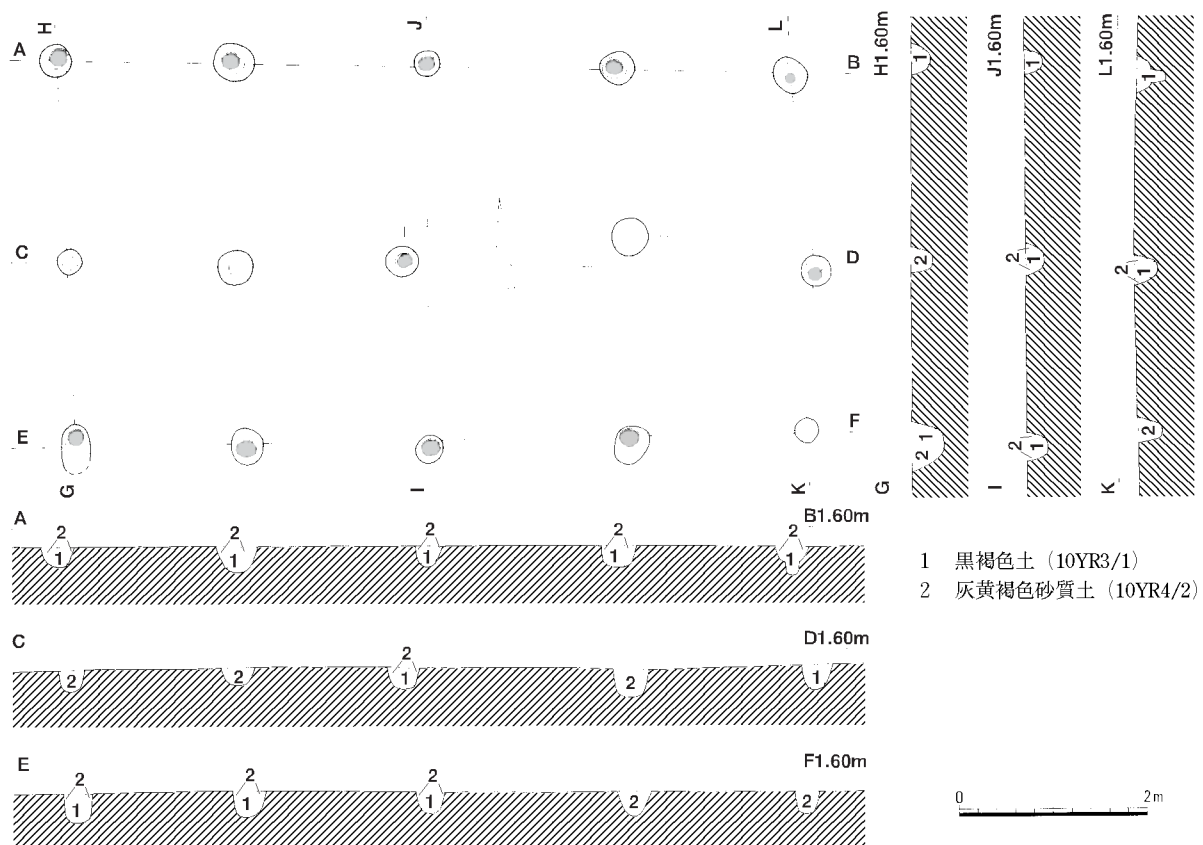
3区中央の西寄りで検出した井戸で、掘り方上面の大半には病棟の基礎掘削がおよんでいた。平面は長径156cmの円形で、検出面からの深さは165cmを測る。南側に比べて、北側上半の断面は傾斜がや



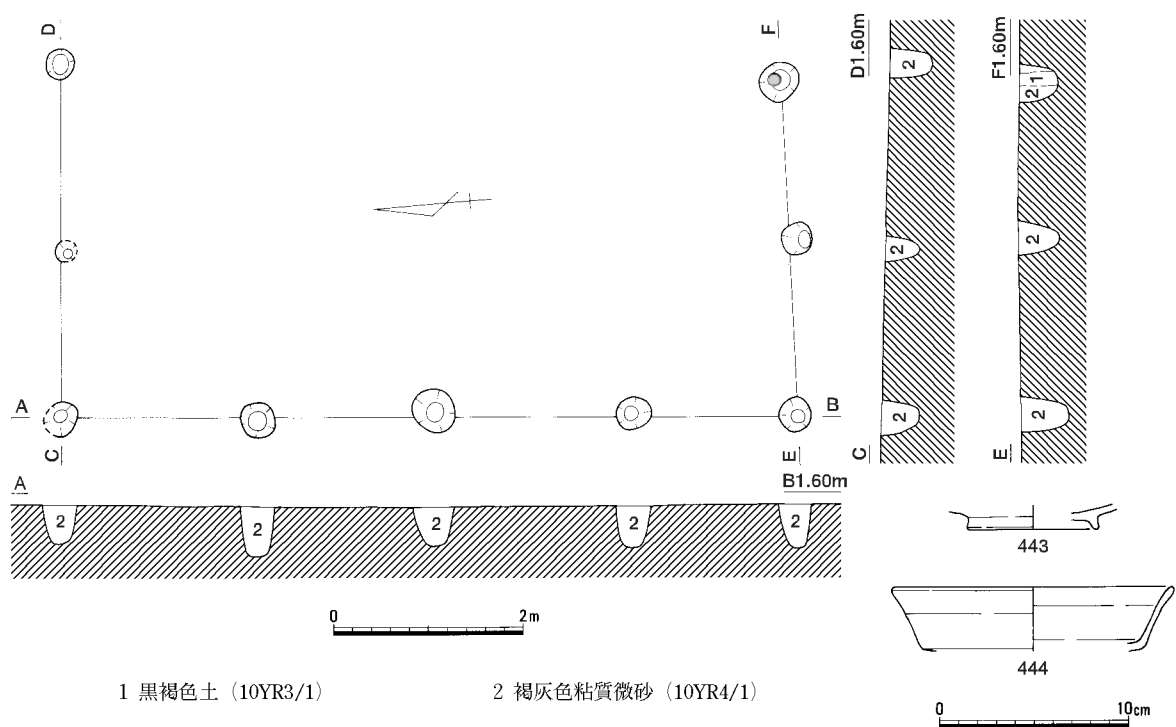
第50図 3区中世以前遺構全体図 (1/400)



第51図 3区土層断面図 (1/100)



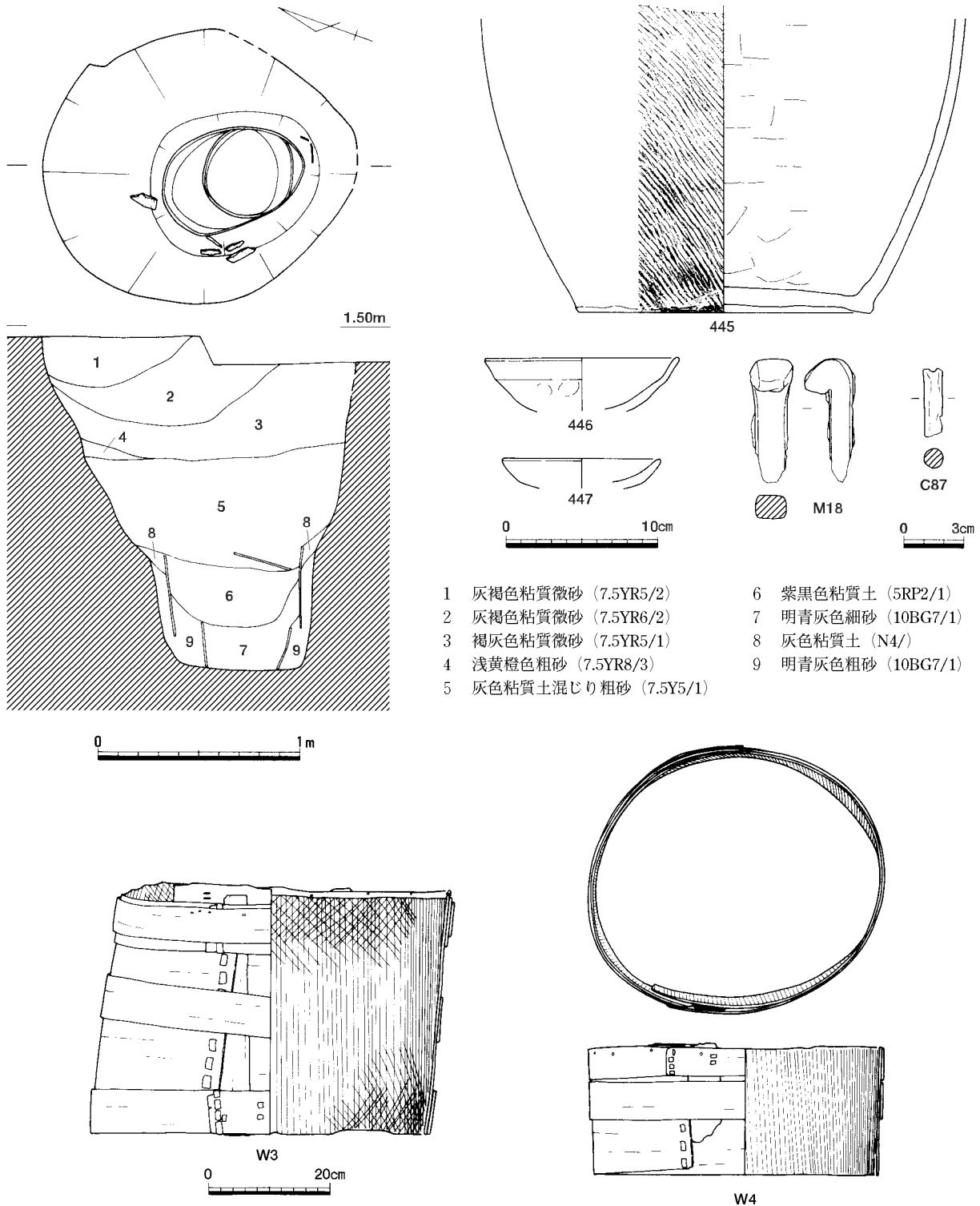
第52図 掘立柱建物1 (1/80)



第53図 掘立柱建物2・出土遺物 (1/80・1/4)

や緩く、水溜が掘り方南寄りに設置されている。底面の標高は-0.2mで、周囲の井戸とほぼ同じである。水溜は、下段に曲物側W4、上段に曲物側W3を使用しており、いずれも底の部分を上にしていた。水溜上段の検出面で、周囲に板材が確認されたことから、縦板組井戸の可能性はある。

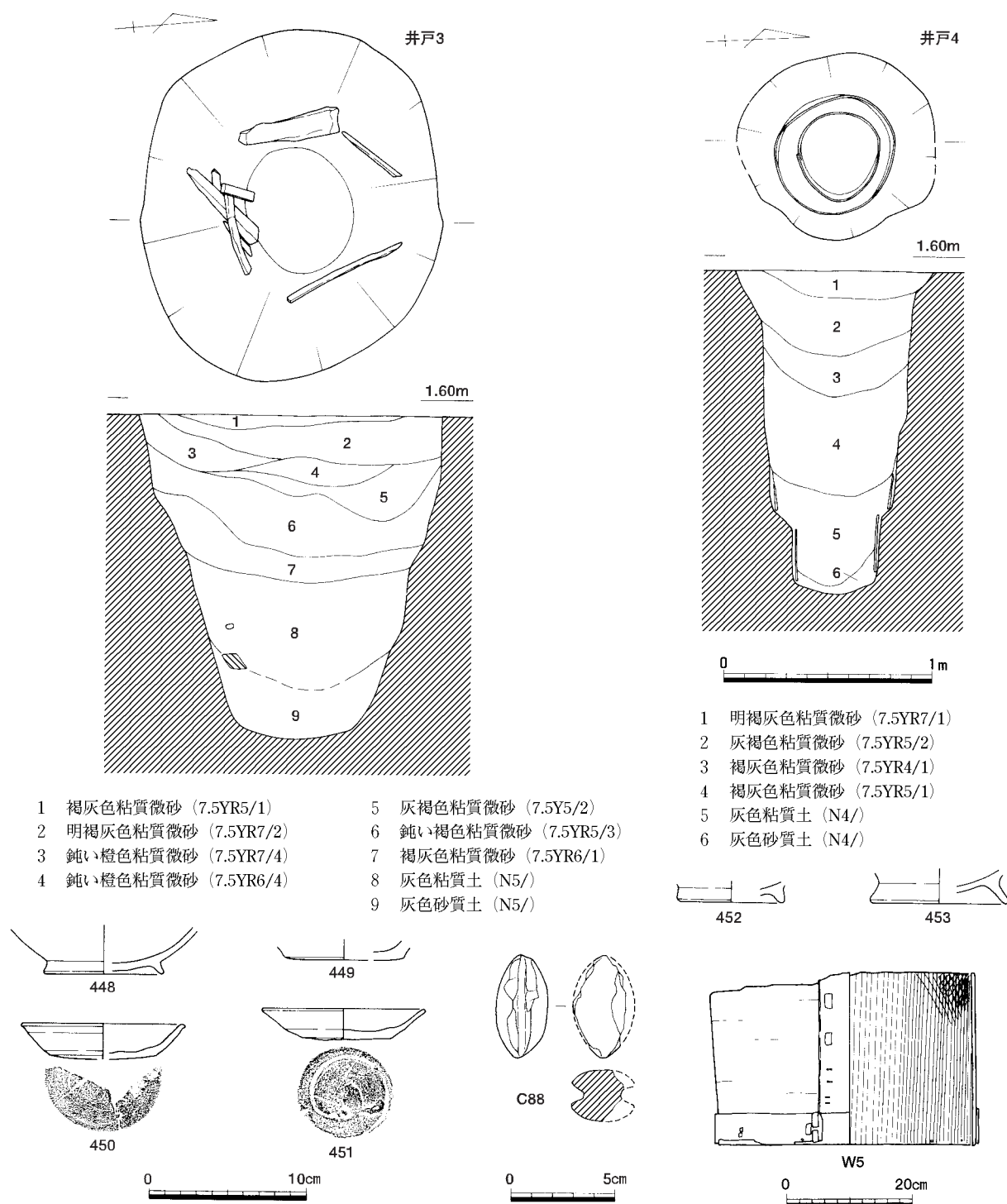
埋土の1～5層からは、亀山焼の甕445、土師器皿446・447、鉄釘M18、棒状土錘C87などが出土している。これらの出土遺物から、遺構の時期は12世紀と考えられる。(柴田)



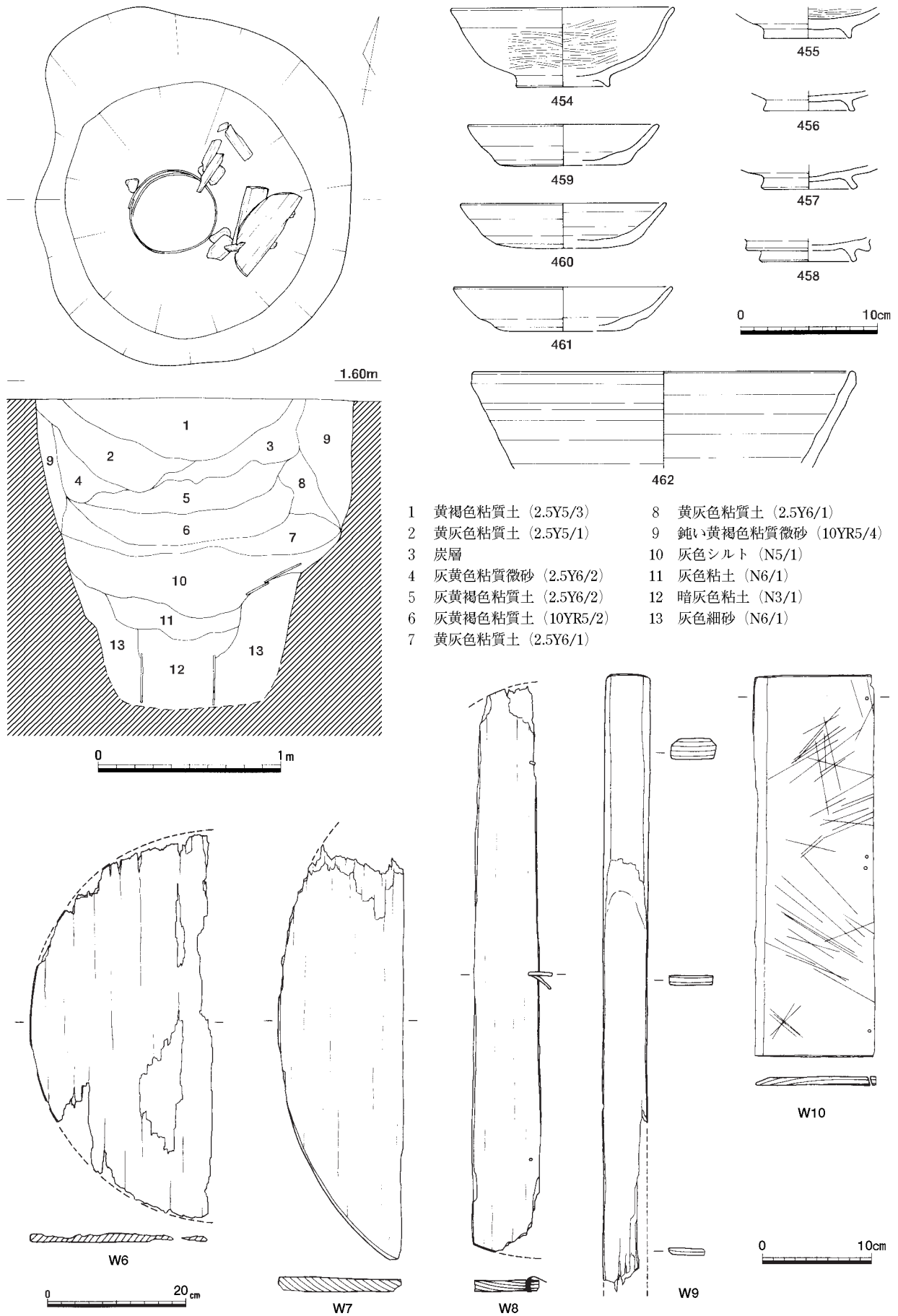
第54図 井戸2・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)

井戸3（第50・55図、図版9）

3区のほぼ中央で検出した素掘りの井戸で、井戸2の東南東11mに位置する。掘り方は、長さ171cm、幅143cmの東西に長い楕円形を呈する。検出面からの深さは154cmあり、底面の標高は-0.03mを測る。底面から高さ50cmの辺りで長さ35~60cm、幅4~12cmの木材が掘り方に接するように出土したが、意図的に配された様子はいかかわれない。上層の埋土から黒色土器碗448や底部をへら切りする土師器の杯449、皿450・451などが出土しており、10世紀末~11世紀初頭と考えられる。（亀山）



第55図 井戸3~4・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)



第56図 井戸5・出土遺物 (1/30・1/4・1/5・1/8)

井戸 4 (第50・55図、図版7・15)

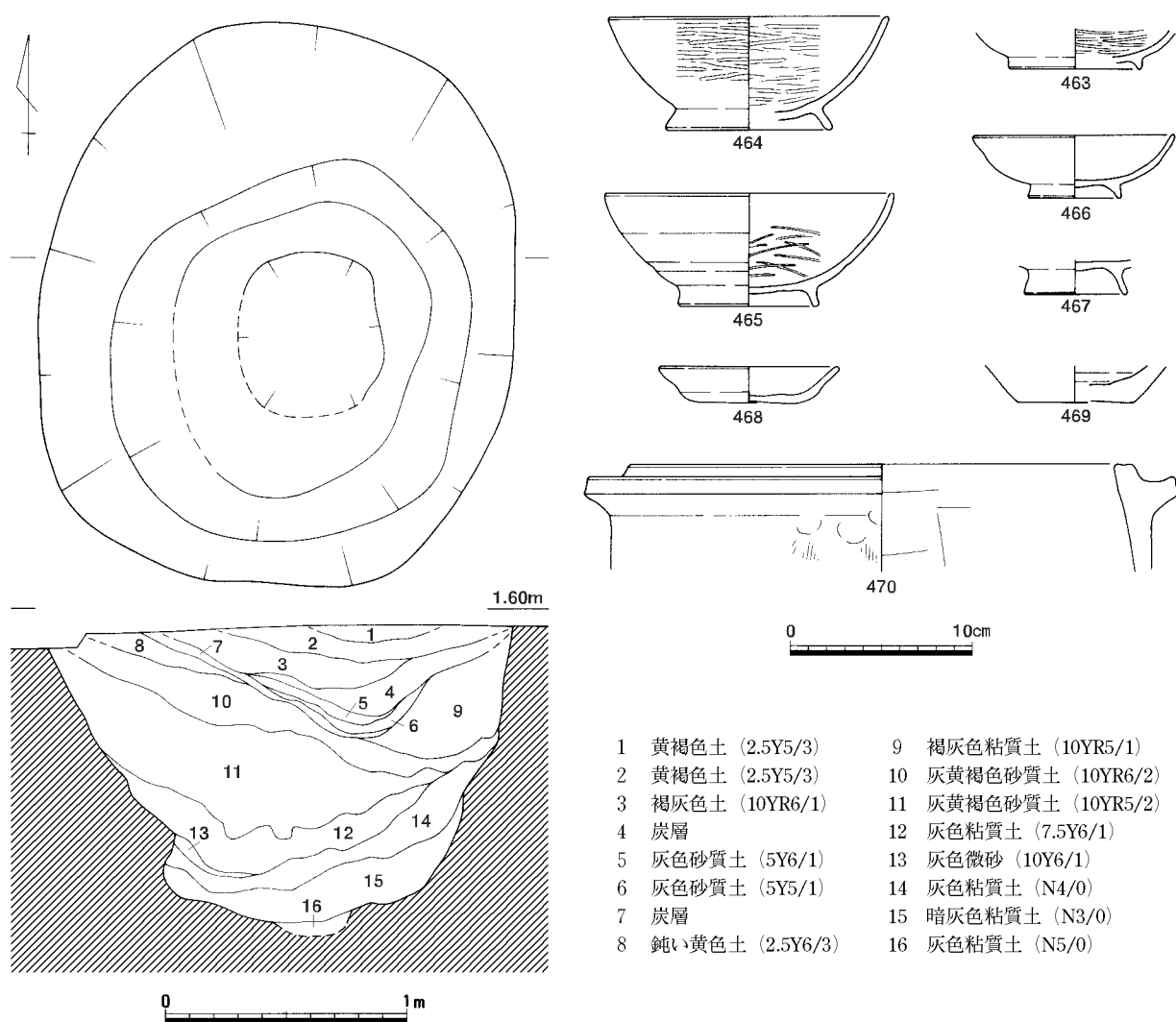
井戸3の南1mで検出した井戸で、3区のほぼ中央に位置する。径91～95cmの円形を呈する掘り方は、深さ155cmにわたって垂直ぎみに掘りこまれており、-0.02mを測る底面の標高は井戸3とほぼ一致する。底部に径46cmの曲物W5を据え、その上に径55cmほどの曲物を数段重ねて井戸側としていたものと思われる。黒色土器452や土師器453から井戸3と近似した時期が想定される。(亀山)

井戸 5 (第50・56図、図版7・16)

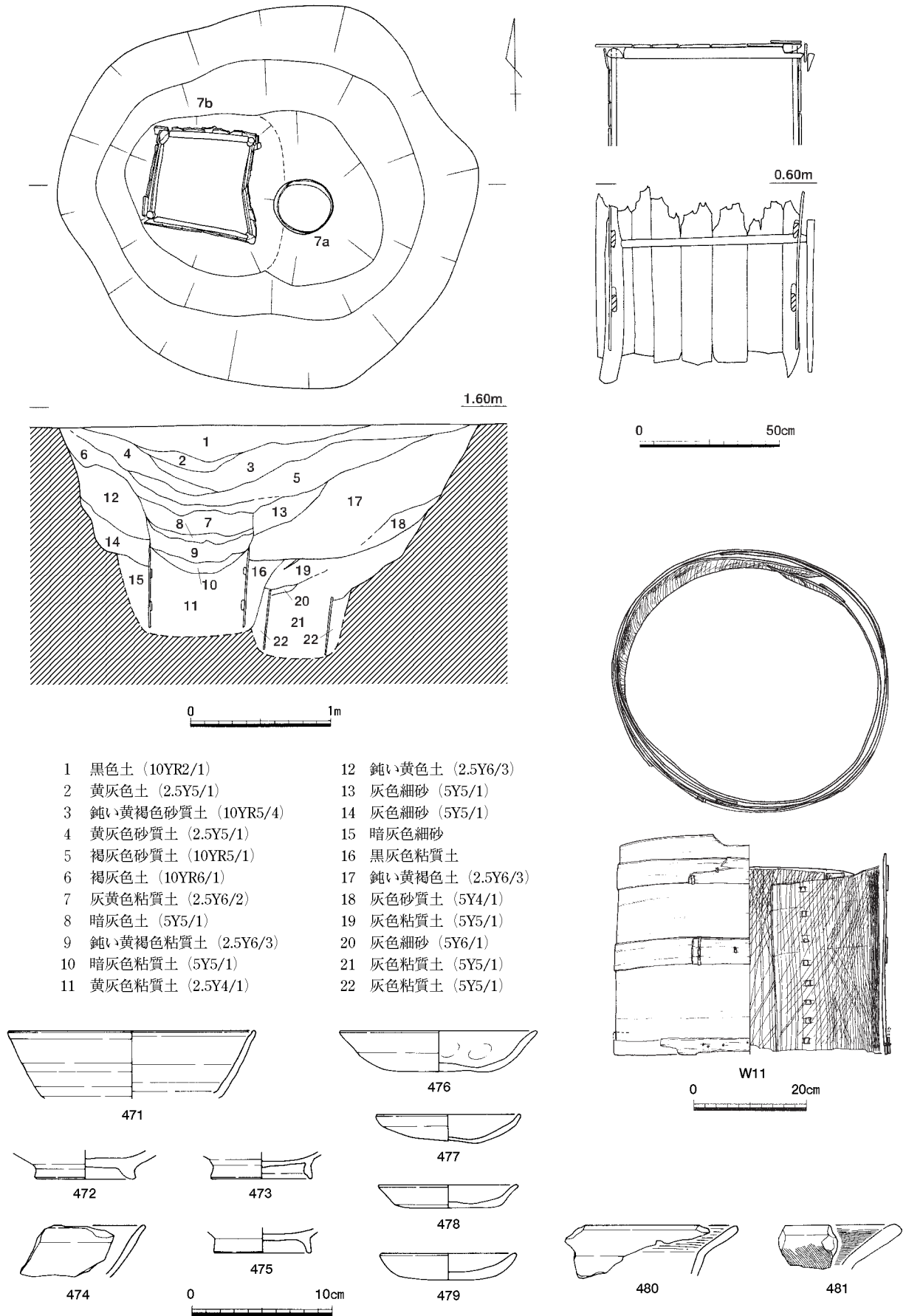
3区中央東端で検出した楕円形の掘り方をもつ井戸である。埋土は大きく13層に分層され、遺物は第1～3層中から完形に近い碗・皿が多く出土した。第13層は井戸側の裏込め土で第4～8・10～12層は井戸材を抜き取った後の埋め戻し土である。第9層は基盤層の崩落土である。第13層土を除去した後に掘り方底面に水溜の曲物に接するように板状の礫が3箇所確認された。南西では確認できていないが、もともとは存在し、曲物の固定のために設置されていたと考えられる。

出土遺物には、土器類のほかに木製品がある。W6～W8は曲げ物の底で、第13層上面で出土した。また、取り上げ時に分解したが、水溜に使用されていた曲物も1段だけ遺存していた。

使用開始時期は明確でないが、出土遺物から11世紀初頭には埋め戻されたと判断される。(杉山)



第57図 井戸6・出土遺物 (1/30・1/4)



第58図 井戸7・出土遺物 (1/40・1/20・1/4・1/10)

井戸6 (第50・57図、図版8)

3区中央東側で検出した井戸で、掘立柱建物1に近接しているが、切り合い関係はなく、先後関係は明確でない。埋土は16層に分層され、第1～7層は最終の埋め戻し土と考えられ、第7層の炭層上面を中心に土師器の完形品が出土した。第8～15層は井戸側の抜き取り後の埋土で、第16層が使用時の堆積土と考えられる。時期は、出土遺物から11世紀前半には埋め戻されたと判断される。(杉山)

井戸7 (第50・58図、図版15)

3区中央東側で検出した長楕円の掘り方を持つ井戸である。埋土は、22層に分層されるが、第1～8層が7bの井戸材を抜き取った後の埋め戻し土、第9～11層が井戸側と水溜内の埋土である。第12～18層は7bを作った際の裏込め土と判断される。第19～21層は、7bの直前に使用されていた7aの井戸材の抜き取り後の埋め戻し土である。このことから7aを造り直すために広く掘削し、7aを埋めた後、第17・18層の底面から新たに7bを掘削して築いたと判断される。出土遺物は第1層中から完形に近い土器が出土した。

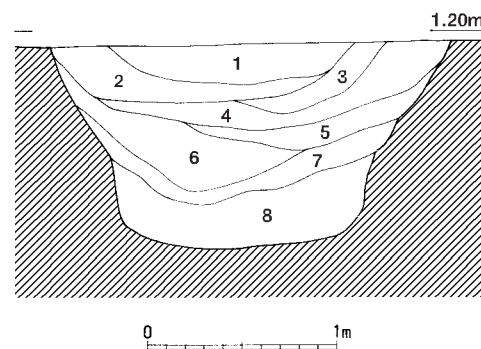
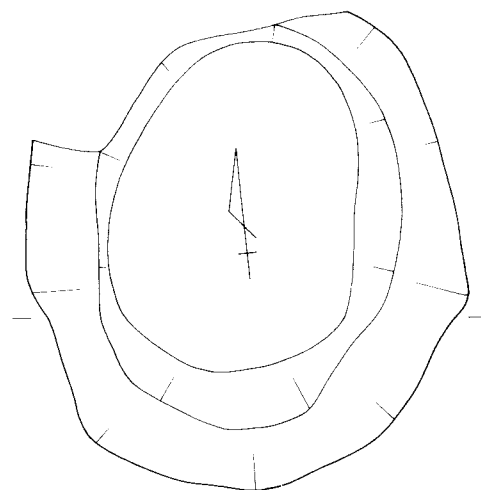
時期は、第25層中から近江産緑釉陶器475が出土したことから、10世紀中頃から12世紀まで使用されたと推察される。(杉山)

井戸8 (第50・59図、図版9)

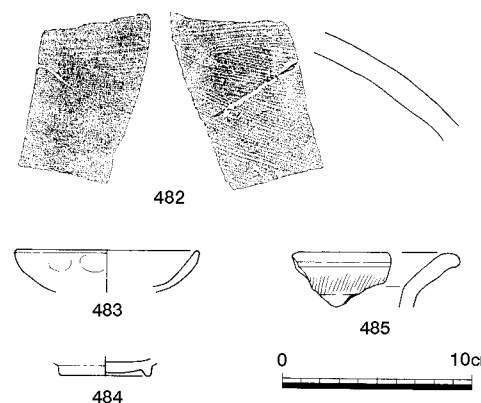
3区の南西で検出した素掘りの井戸で、井戸2の南26mに位置する。掘り方の北側は攪乱によって壊されているが、長さ270cm、幅232cmの南北に長い楕円形に復元される。深さは106cmあり、砂質の埋土には木葉などの腐植物を含む。遺物はおもに上層から出土しているが、その量は少ない。土師器の椀484や鍋485、備前焼の甕482などから、14世紀前半には放棄されたものと推定される。(亀山)

井戸9 (第50・60図、図版8・15)

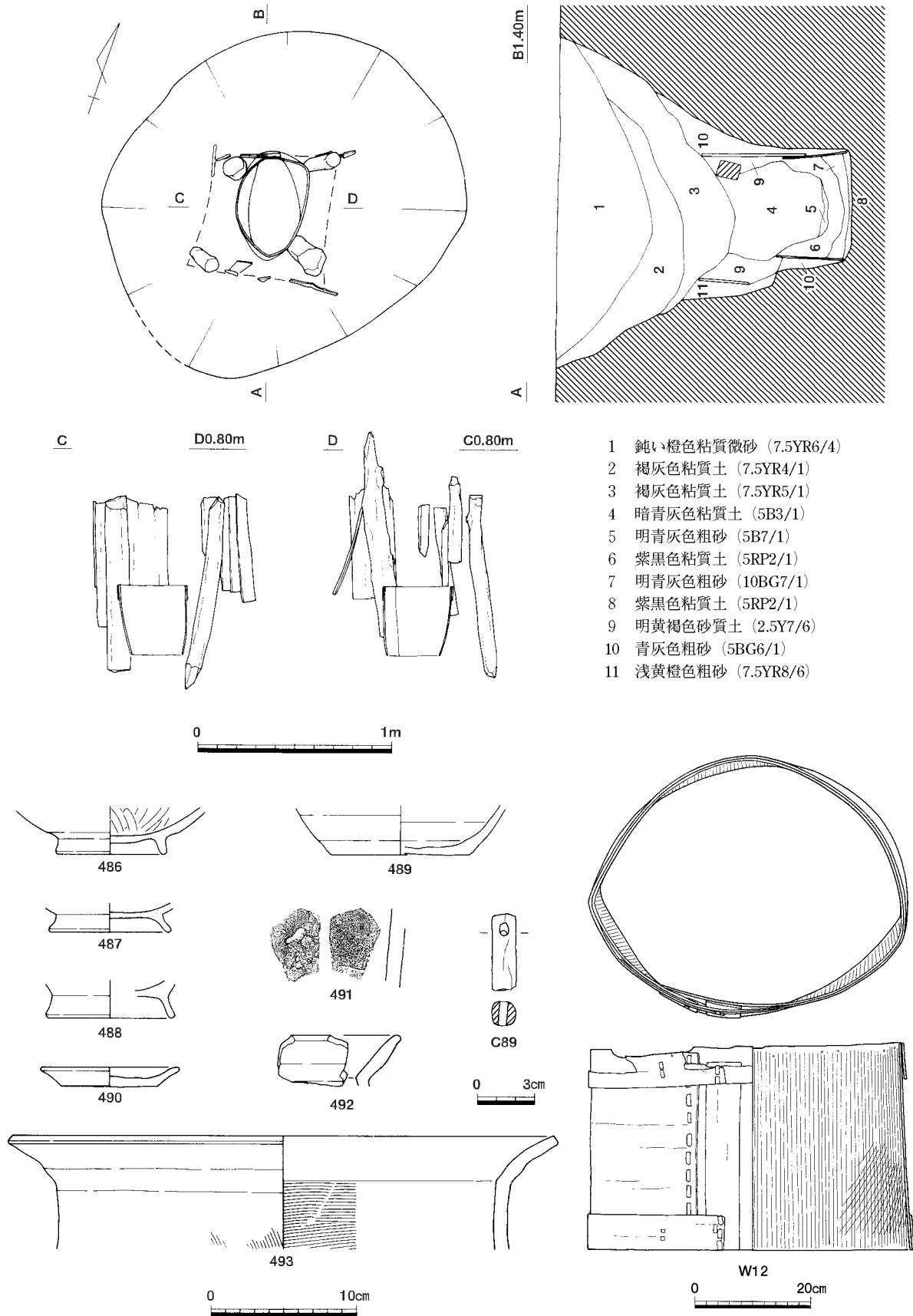
3区南西隅で検出した方形縦板組井戸で、井戸8の南6mに位置する。掘り方平面形は、長径186cmの円形で、検出面からの深さは153cmを測る。断面上半は緩やかにひろがり、ほぼ中央に水溜が設置されている。底面の標高は-0.28mで、周囲の井戸とほぼ同じである。水溜には、底を上にした曲物側W12が出土しているが、土層から判断すると上下二段の可能性が高い。井戸側の内法は約65cmで、4本の隅柱が検出された。隅柱はいずれも丸太材で、東2本のみ先端を尖らせている。横棧は確認されなかった。



- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 鈍い褐色粘質微砂 (7.5YR5/4) | 5 暗褐色粘質微砂 (7.5YR3/3) |
| 2 褐灰色粘質微砂 (7.5YR5/1) | 6 灰色粘質微砂 (N5/) |
| 3 灰褐色粘質微砂 (7.5YR5/2) | 7 灰色粘質微砂 (N5/) |
| 4 鈍い褐色粘質微砂 (7.5YR5/3) | 8 明青灰色微砂 (10BG7/1) |



第59図 井戸8・出土遺物 (1/40・1/4)



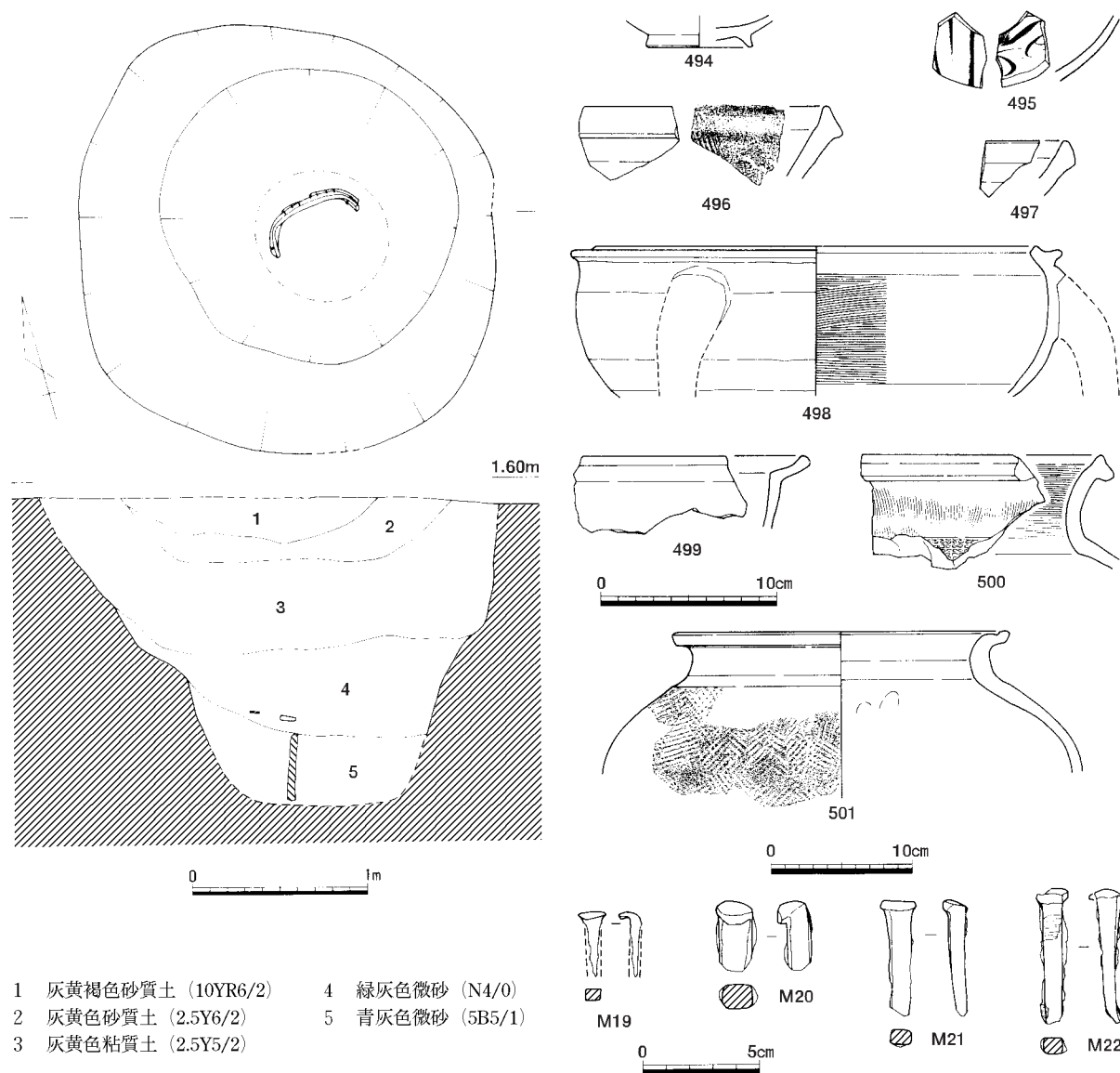
第60図 井戸9・出土遺物 (1/30・1/3・1/4・1/10)

出土遺物は主に1層から小片で出土し、黒色土器碗**486**、土師器碗**487・488**、杯**489**、皿**490**、緑釉陶器**491**、甕**492・493**、棒状土錘**C 89**などがある。4層などの下層からも土器片が出土しているが、時期差は認められない。出土遺物から、遺構の時期は10～11世紀と考えられる。(柴田)

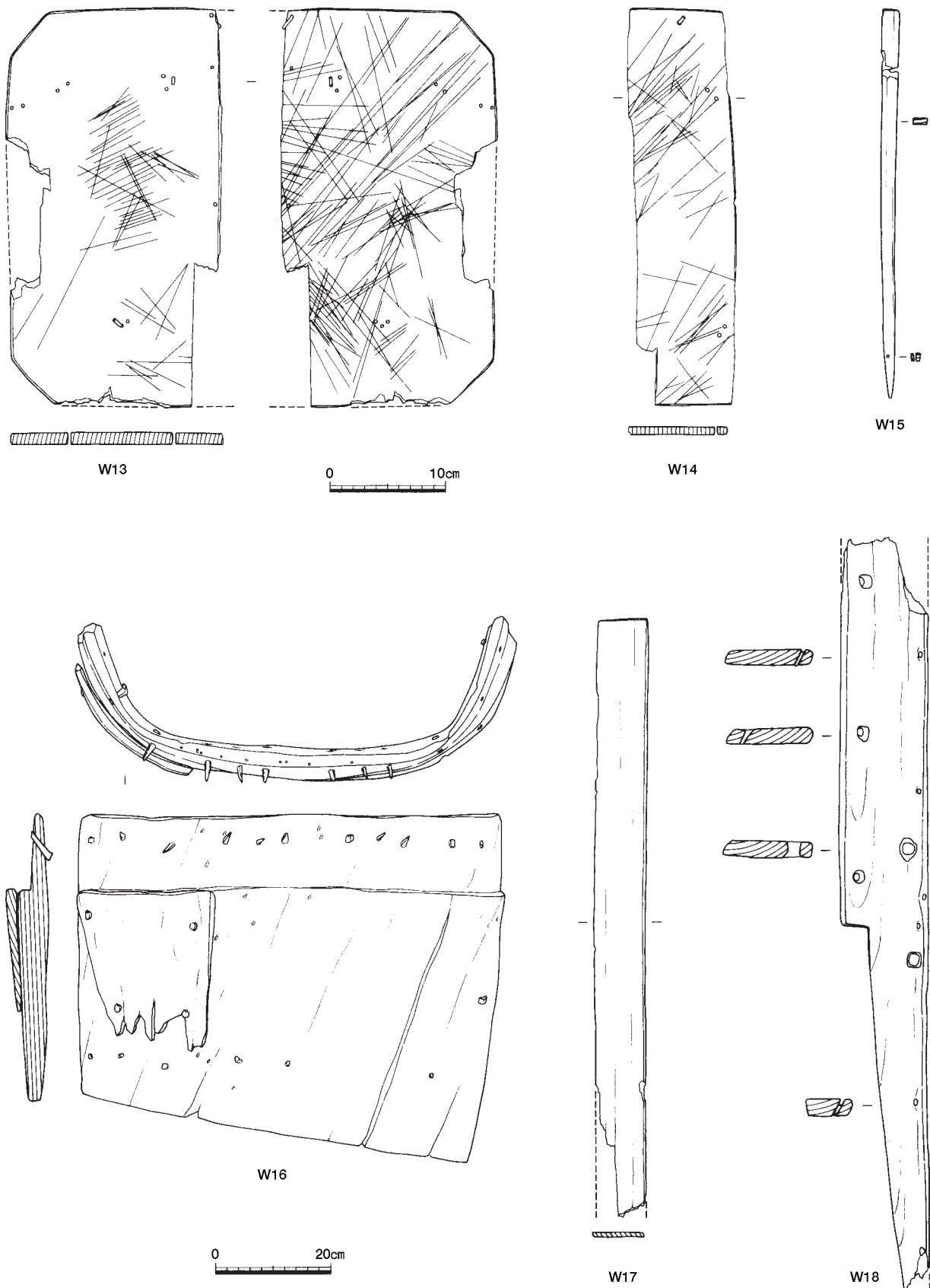
井戸**10** (第50・61・62図、図版8・16)

3区南東端で検出した掘り方円形の井戸である。埋土は大きく5層に分層されるが、第5層については、湧水が顕著で基盤層の砂の流入により十分な観察ができていない。第1～4層は井戸材の抜き取り後の埋め戻し土である。第1・2層中には1cm前後の炭や焼土が多く含まれ、土器片も小片が多く含まれる。底面は湧水のため明確でない。水溜に使用されたと考えられる木製品**W16**が、北側のみに遺存しており、この南側の粘性の強い埋土には植物遺体がみられ、少量の土器片がみられる。

木製品**W16**は、弧の外側は段状に加工されており、ここに別部材を鉄釘で外側から固定し段の幅を広くしている。段の上側には内側から打ち込まれた鉄釘が残存している。これらのことから、水溜のために使用された部材を段のところで積み上げ、釘で固定して使用していたと推察される。



第61図 井戸**10**・出土遺物1 (1/40・1/3・1/4・1/5)



第62図 井戸10出土遺物 2 (1/5・1/10)

時期は、基盤層中に平安時代末頃の土師器が含まれており、鎌倉時代以降に築かれ、出土遺物から15世紀代まで使用されたと考えられる。(杉山)

土壌15 (第50・63図)

3区北側に位置し、楕円形を呈する土壌である。掘り下げ中に土器が集中していたことから精査して検出したため、埋土は14cmのみ残存していた。埋土は2層に分層されるが、第1層は別のピットと考えられる。南側は掘削により削平されているが、遺物は図示した、土師器甕503・504、黒色土器碗502と、口縁部内面にヘラ記号を持つ須恵器甕505以外にも小片が目立つ。

時期は、出土遺物から、10世紀と判断される。(杉山)

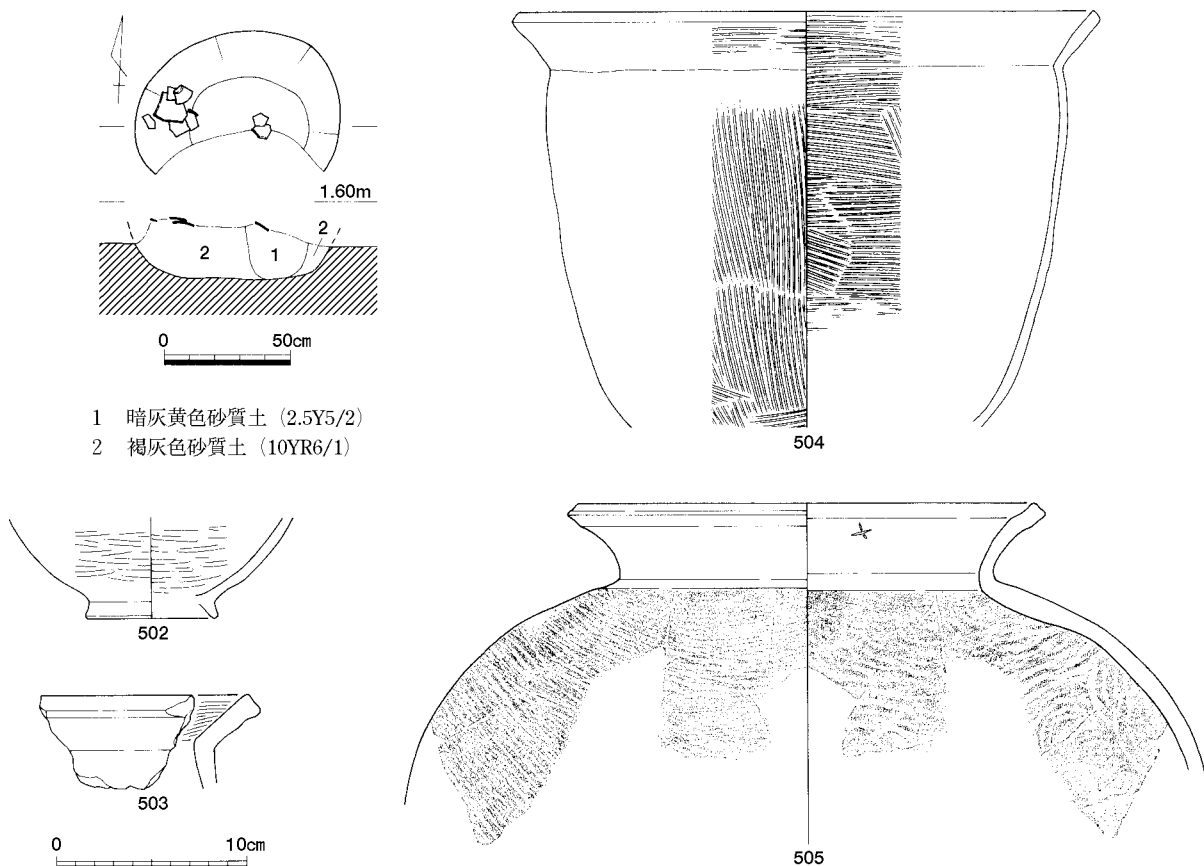
土壌16 (第50・64図、図版9)

3区の西辺にかかって検出した土壌で、井戸2の南西18mに位置する。長さ81cm、幅66cmの東西に長い隅丸方形を呈し、検出面からの深さは30cmを測る。黄灰色をなす埋土から土師器の細片が少量出土したにすぎないが、概ね鎌倉時代を中心とした時期が想定できる。(亀山)

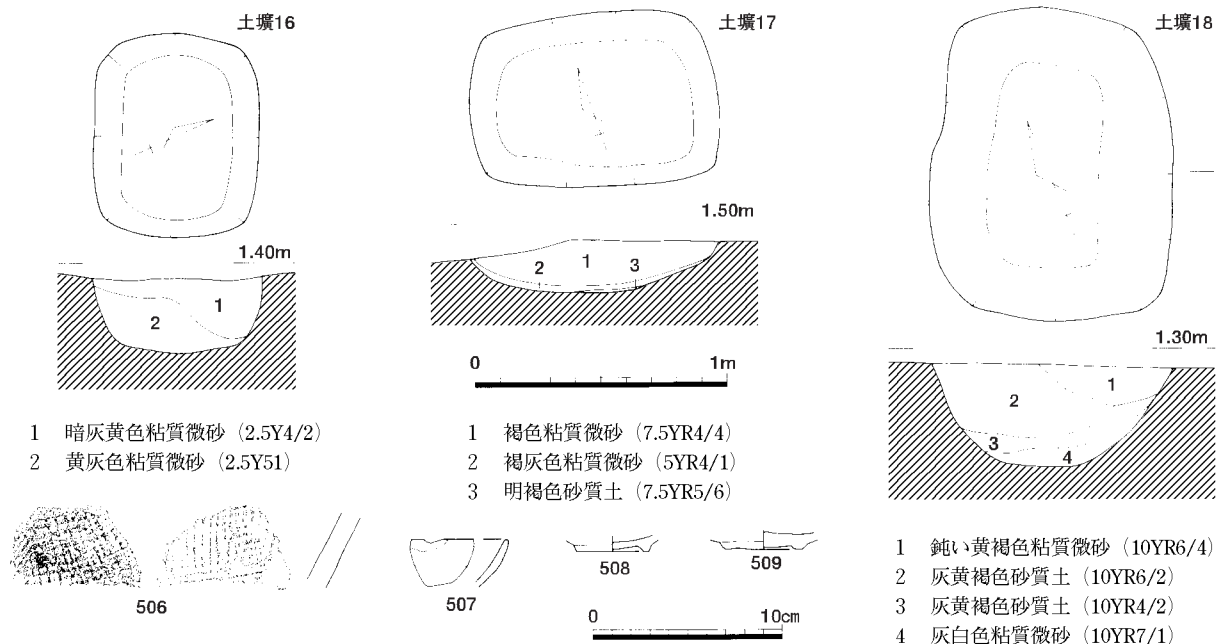
土壌17 (第50・64図、図版9)

3区中央の西寄りで検出した土壌で、土壌16の東13mに位置する。掘り方平面形は、長さ99cm、幅69cmの隅丸方形で、検出面からの深さは20cmを測る。底面はわずかに皿状を呈する。

埋土からは、土師器や瓦質土器の小片が出土している。これらの出土遺物から、遺構の時期は13～14世紀と考えられる。(柴田)



第63図 土壌15・出土遺物 (1/30・1/4)

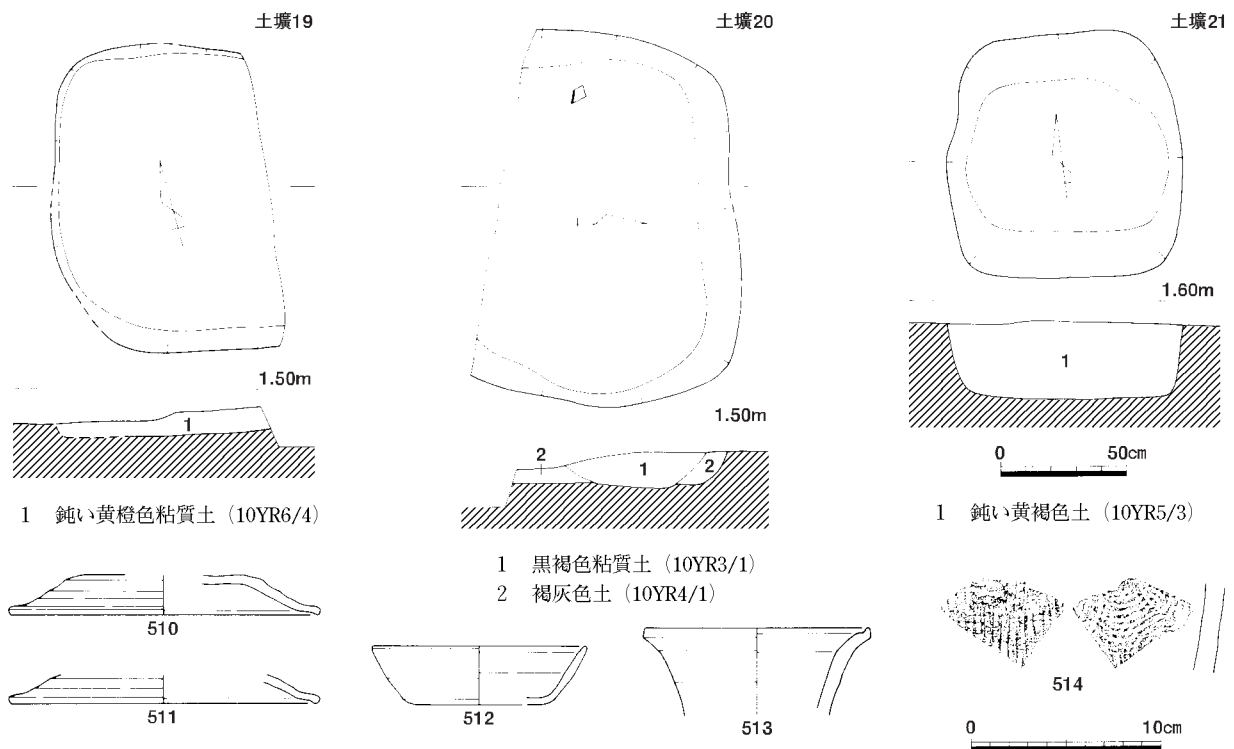


第64図 土壌16～18・土壌18出土遺物 (1/30・1/4)

土壌18 (第50・64図、図版9)

3区の南西で検出した土壌で、井戸8の北1mに位置する。掘り方平面形は、長さ124cm、幅97cmの隅丸方形で、検出面からの深さは41cmを測る。底面はほぼ水平である。

埋土からは、須恵器の甕506、土師器碗507～509が出土している。これらの出土遺物から、遺構の時期は13～14世紀と考えられる。(柴田)



第65図 土壌19～21・出土遺物 (1/30・1/4)



第66図 土壌22・出土遺物 (1/30・1/4)

土壌19 (第50・65図)

3区中央に位置し、東側を建物基礎で削平された不整楕円形の土壌である。埋土は、基盤層との色調や土質に大きな差異はないため、1cm弱の炭の散布状況から平面を推定した。また、断面形についても炭及び遺物の出土状況から判断した。遺物は、図示した須恵器以外に土師器の碎片が認められる。**510・511**は蓋、**512**は杯、**513**は北側底面から出土した壺の口縁部である。

時期は、出土遺物は9世紀代のものだが、周辺の状況からそれ以降の可能性もある。(杉山)

土壌20 (第50・65図)

3区中央で、土壌19の東側に位置する不整楕円形の土壌で、南側を建物基礎で削平されている。第2層には1cm弱の炭を多く含んでいる。出土遺物は、須恵器甕の小片**514**のみで時期は明確でないが、周辺の状況から平安時代中期以降と推察される。(杉山)

土壌21 (第50・65図、図版9)

3区中央東側で、井戸5の南側に近接して位置する方形の土壌である。断面形も箱形を呈するが埋土は単層で出土遺物はなく、性格は不明である。

時期は、周辺の状況から平安時代中～後期頃と推察される。(杉山)

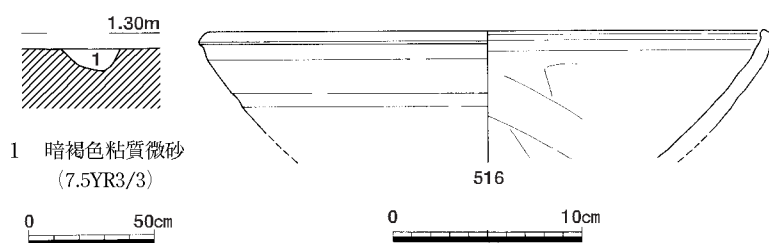
土壌22 (第50・66図)

3区南部東端に位置し、単独で検出した方形の土壌である。掘り下げ中に図示した須恵器片が集中して出土したことから、精査して検出した。埋土は、基盤層土との質的な差異はほとんど認められないが、須恵器の出土状況から形状を判断した。須恵器甕の体部片**515**には外面にタタキ痕がみられる。

時期は、出土遺物と周辺の状況から12世紀後半頃と推察される。(杉山)

溝16 (第50・67図)

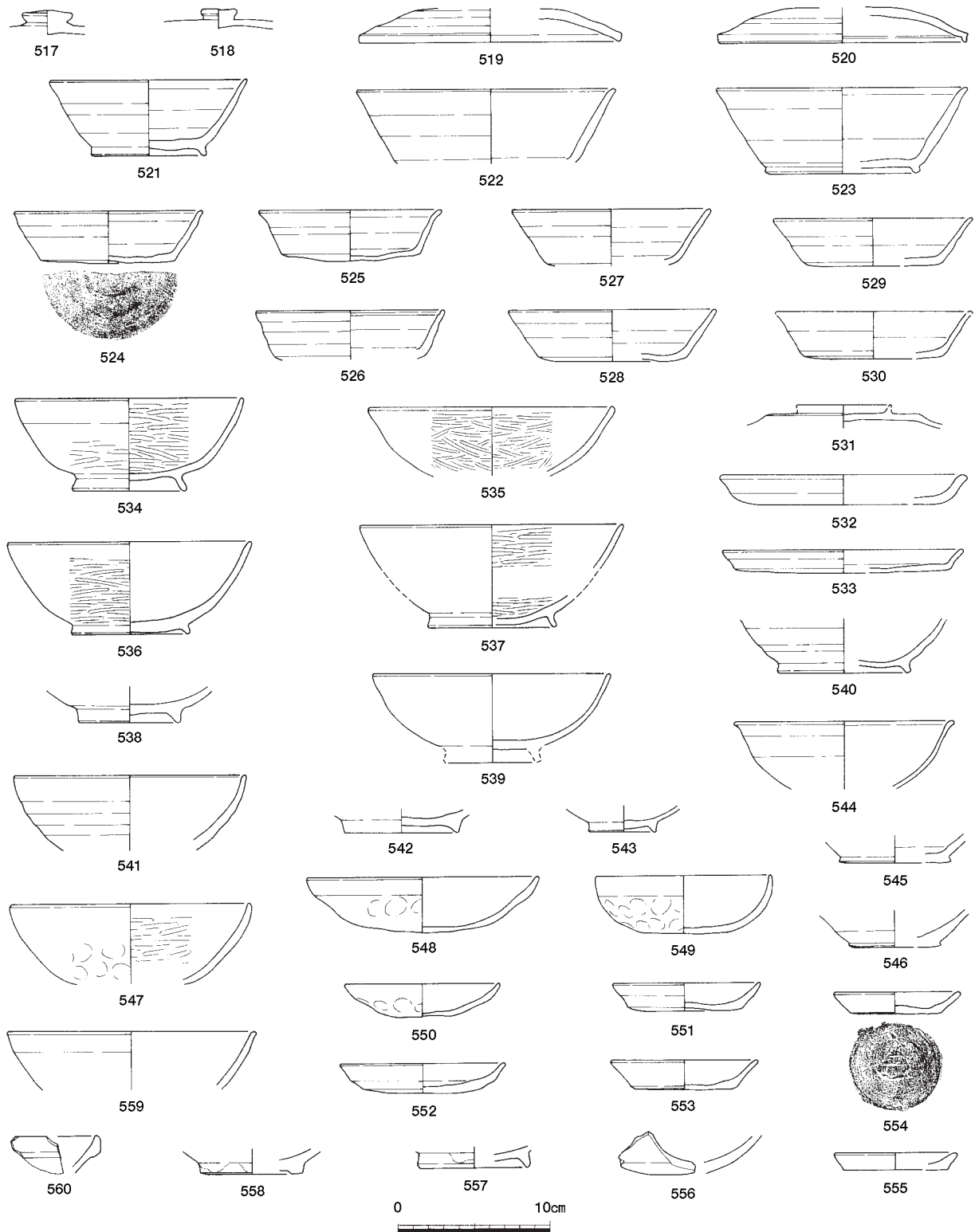
3区南西隅で検出した溝で、南北方向にのびる。検出面での幅は23cmで、断面形は「U」字形を呈する。埋土から東播系の播鉢**516**や土師器片が出土し、遺構の時期は11世紀と考えられる。(柴田)



第67図 溝16・出土遺物 (1/30・1/4)

その他の遺構・遺物（第50・68～70図、図版10）

これまでに報告した遺構以外にも、第50図で示したとおり、調査区内には多くの柱穴が存在している。柱穴は、ほとんどの掘り方が径20～40cmの円形で、検出面からの深さは20～30cmを測るものが多いが、60cmに達するものもある。図示した遺物の多くは、それらから出土した遺物である。



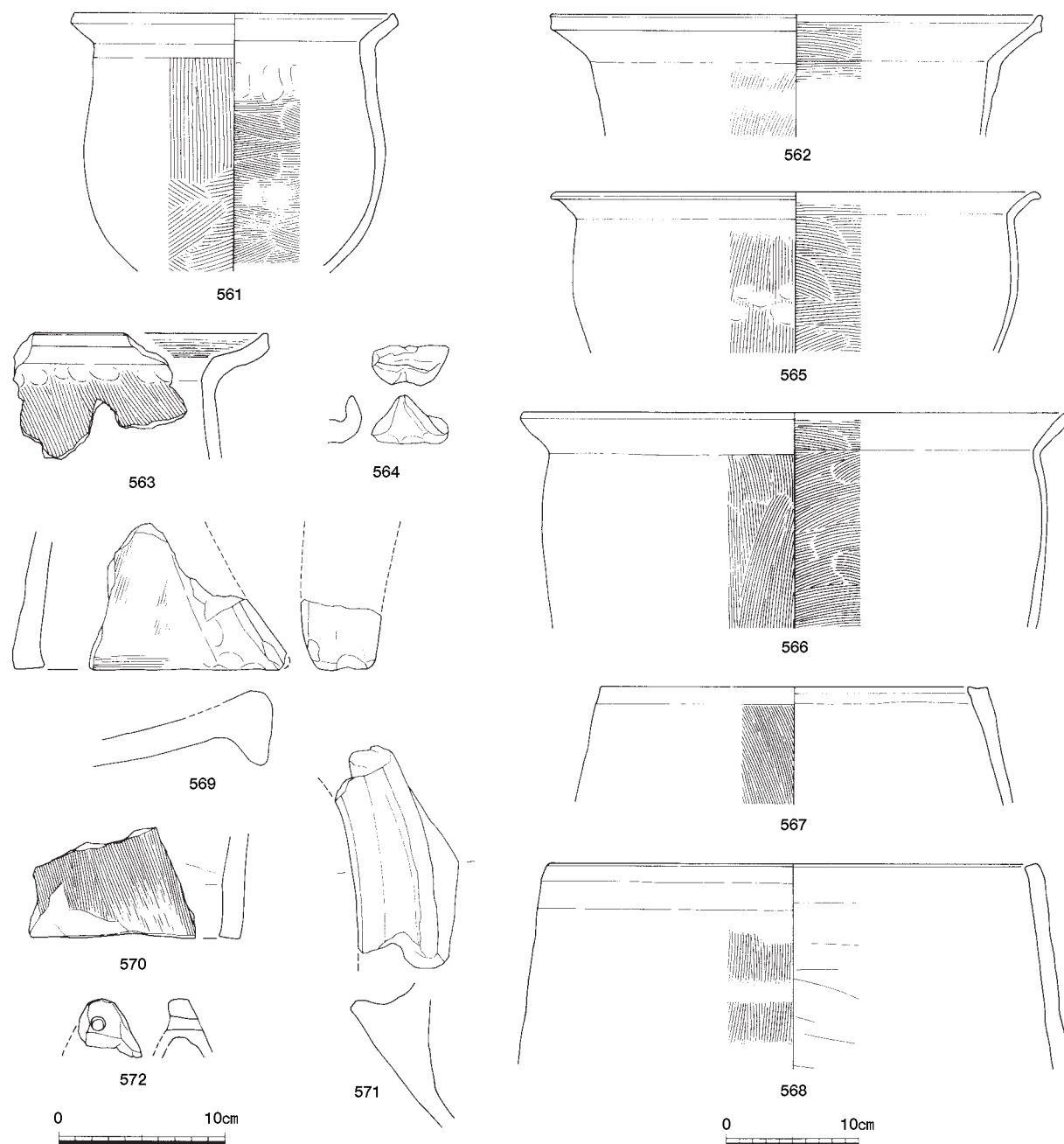
第68図 その他の遺物 1 (1/4)

図示した遺物は、須恵器19点、土師器26点、黒色土器7点、緑釉陶器1点、灰釉陶器1点、白磁3点、備前焼6点、土製品9点、金属製品8点である。

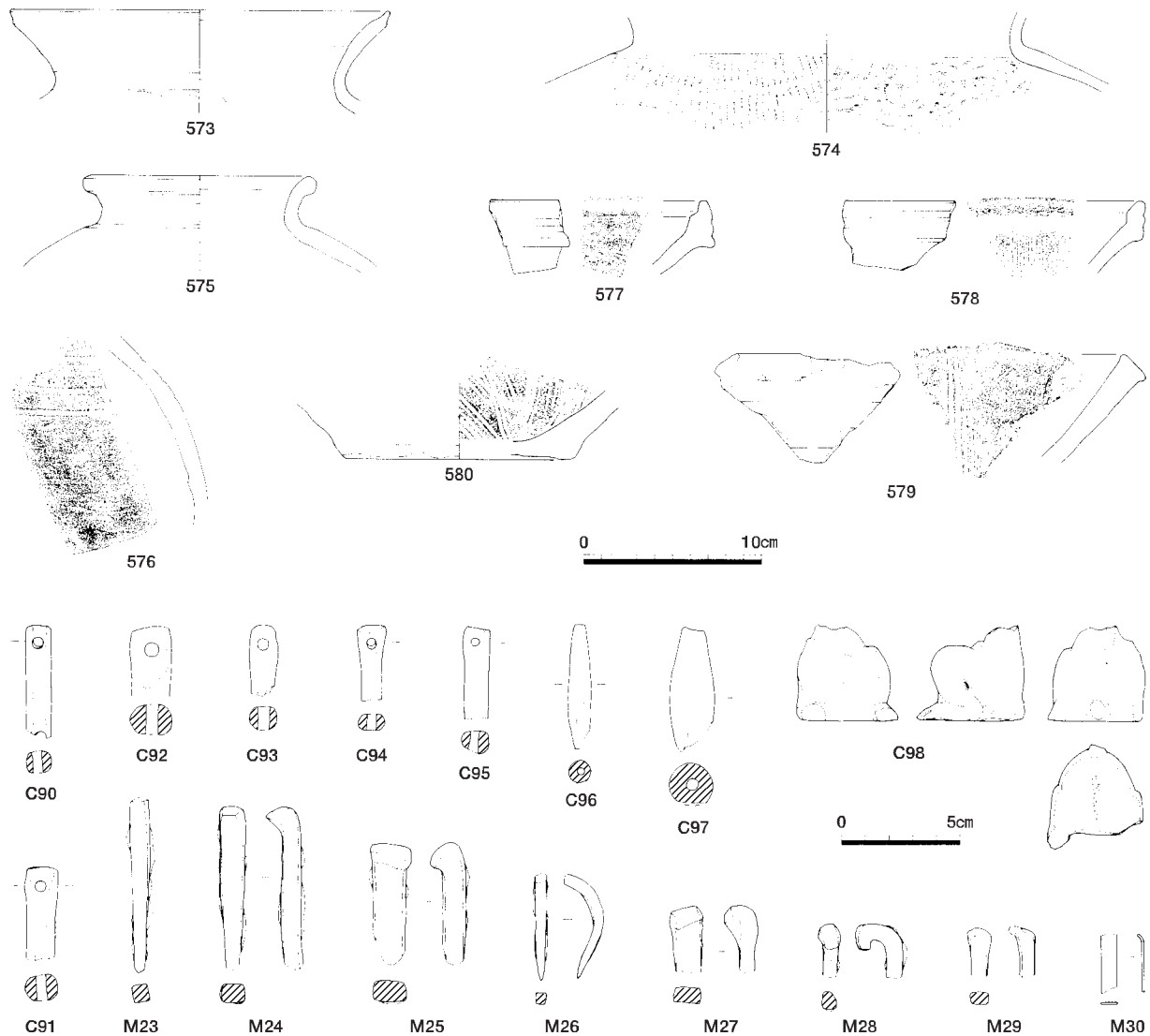
須恵器では、杯蓋517～520・531、高台付杯521～523、杯524～529、皿533、椀546、甕573・574がある。土師器では、杯530・545、皿532・550～555、椀547～549、高台付椀541～544、甕561～566、竈567～571、蛸壺572がある。杯529と皿532は丹塗り土師器である。534～540は黒色土器である。556は緑釉陶器椀で、防長産の可能性がある。557は灰釉陶器椀、558～560は白磁碗である。備前焼では、壺575・576、播鉢577～580を図示した。

土製品では、有孔の棒状土錘C90～C95、管状土錘C96・C97、備前焼の猿形土製品C98を図示した。

金属製品では、鉄釘M22～M28、不明銅製品M29がある。M29の厚さは薄く、部分的に鍍金が残



第69図 その他の遺物 2 (1/4・1/5)



第70図 その他の遺物 3 (1/3・1/4)

存している。

なお、3区南西隅の柱穴群から出土した遺物は、538・545・546・554・566・575・C96で、この内538・545・546・554はそれぞれ同一柱穴内からの出土である。建物1や井戸6の西で検出した柱穴群から出土した遺物は、536・537・539・541・564・565・M24・M27である。建物1南の柱穴群から出土した遺物は、524・525・528・533・551・552・561で、525・528・533・551・552はそれぞれ同一柱穴内からの出土である。土塋15東の柱穴群から出土した遺物は、521である。また、M28は井戸9の検出時に出土、つまり井戸の最上層から出土している。(柴田)

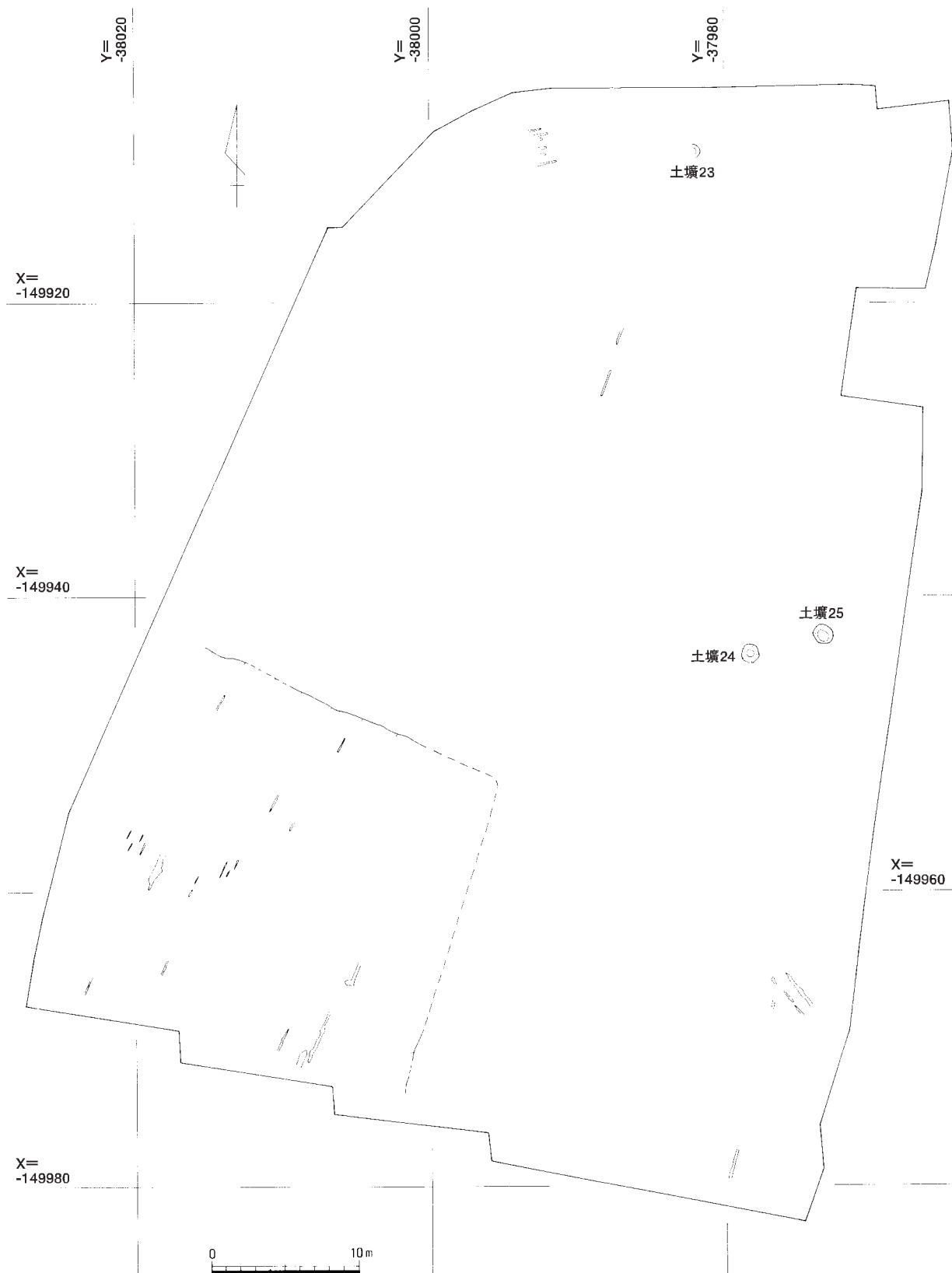
3 近世以降の遺構・遺物

土塋23 (第71・72図)

3区北端に位置する円形の土塋で、西半を建物基礎で削平を受けている。埋土は白色の粗砂の単層で、出土遺物はない。

時期は明確でないが、埋土の状況から近世と判断される。

(杉山)



第71図 3区近世以降遺構全体図 (1/400)

土壌24 (第71・72図)

3区中央東側に位置する円形の土壌である。埋土は自然流入土と判断される4層に分層される。遺物は小片が多く、**581**は肥前系陶器皿の高台を転用した円盤形土製品である。埋土から水田経営時には開口していたと考えられるが、性格は不明で、近世後半頃に機能していたと推察される。(杉山)

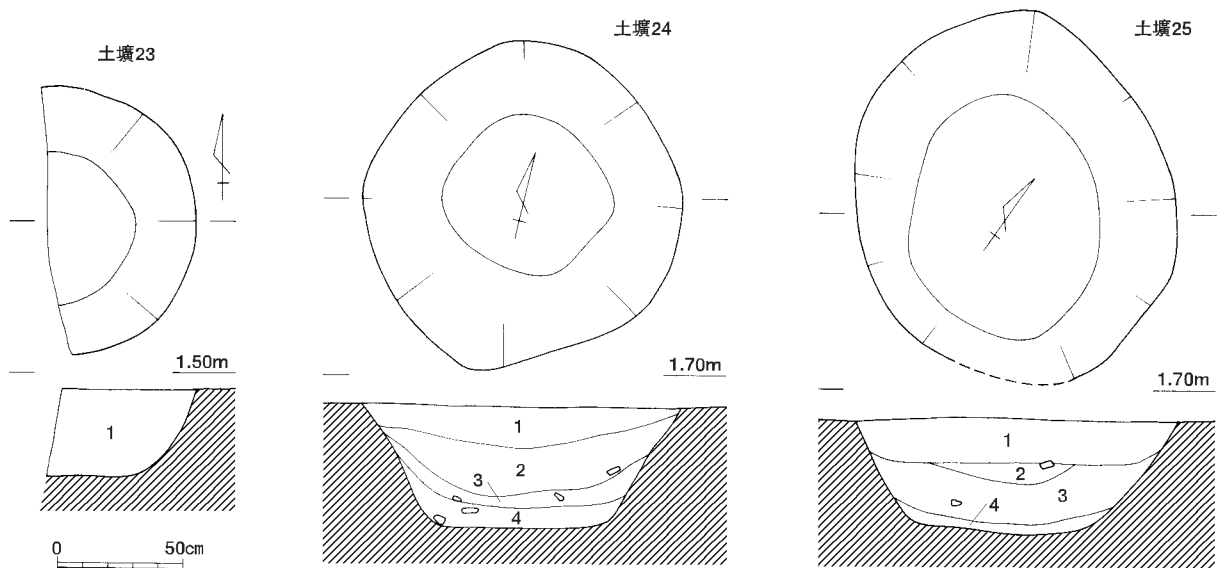
土壌25 (第71・72図)

3区中央東側に位置する円形の土壌で、埋土は、第1層が明治時代の整地土である。遺物は、第2・3層から出土しており、**585**は片口のミニチュアで金雲母がみられる。**586**は円盤形に加工された京焼系碗の高台である。**S2**は砥石片である。

性格は不明だが、時期は近世末から明治時代に機能していたと判断される。(杉山)

水田 (第51・71図)

3区のほぼ全域で灰白色をなす水田層(第51図2層)が確認されたが、標高1.5mを測る田面の遺存は悪く、かろうじて南西部に残る20cmほど低い区画を検出できた。この区画は2区で検出されていないことから東西30mほどの広がりで見られるようで、田面にはN-22°-Eを測る耕作痕が認められた。また、北端で検出された一段低い区画は、2区から続く水田と考えられる。出土遺物には17~19世紀の肥前系陶磁器や関西系陶器などがあり、江戸時代にわたって営まれたものと思われる。(亀山)



1 灰白色粗砂 (2.5Y8/1)

1 黄灰色粘質微砂 (2.5Y6/1)

1 石炭滓

2 暗黄灰色粘質微砂 (2.5Y5/1)

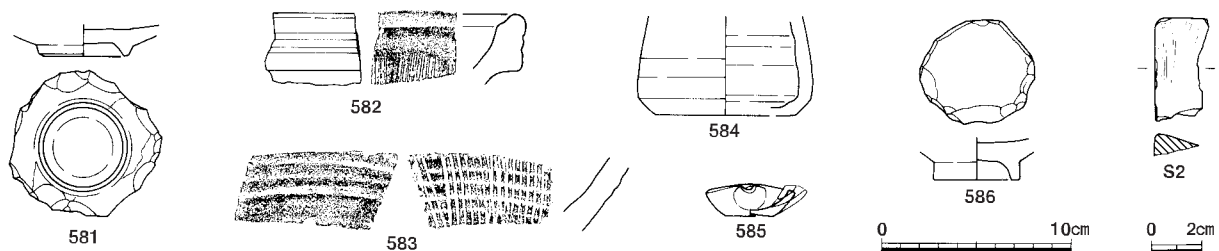
2 灰黄色粘質微砂 (2.5Y6/1)

3 褐灰色粘質微砂 (10YR6/1)

3 灰黄褐色粘質微砂 (10YR6/2)

4 灰黄褐色粘質微砂 (10YR5/2)

4 黄褐色粘質微砂 (2.5Y5/4)



第72図 土壌23~25 (1/30・1/3・1/4)

第2章 調査の概要

遺構名称		桁行 (cm)		梁行 (cm)		面積 (㎡)	主軸	柱穴規模 (cm)		時期	出土遺物
掲載名	調査名	長さ	柱間	長さ	柱間			径	深さ		
掘立柱建物1		771	180～208	407	167～217	30.6	N-81°-W	25～42	19～34	9 C ?	
掘立柱建物2		779	177～208	—	172～200	—	N-5°-E	22～48	36～53	9 C	丹塗土器

遺構名称		平面形態	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	井側水溜	時期	出土遺物
掲載名	調査名		長さ	幅	深さ				
井戸1	2区No8井戸	円形	166	157	172	-23	曲物4	10～11C	土師器・緑釉陶器・釘
井戸2	3区上城9	円形	156	136	165	-20	曲物2	12C	土師器・須恵器・亀山・土鍾・釘
井戸3	3区上城10	楕円形	171	143	154	-3		10～11C	黒色土器・土師器・須恵器・土鍾・貝
井戸4	3区上城11	円形	95	91	155	-2	曲物2	10～11C	黒色土器・土師器・須恵器・土鍾
井戸5	3区No8土城	円形	202	177	171	-21	山物1	10～11C	黒色土器・土師器・束播・土鍾・木器
井戸6	3区No10土城	楕円形	233	197	128	25		10～11C	黒色土器・土師器・須恵器
井戸7a	3区No12土城	円形	—	—	166	-21	山物1	10～11C	土師器・須恵器・緑釉陶器
井戸7b	3区No11土城	円形	303	274	146	0	方形縦板組	10～12C	土師器・緑釉陶器・土鍾
井戸8	3区土城6	楕円形	—	232	106	6		14C	土師器・備前・桃核
井戸9	3区土城5	円形	186	159	153	-28	方形縦板組・曲物1	10～11C	黒色土器・土師器・緑釉陶器・土鍾
井戸10	3区No7土城	円形	353	321	240	-25	部材1	14～15C	土師器・備前・束播・青磁・釘・木器

遺構名称		平面形態	規模 (cm)			底面 標高 (cm)	長軸	時期	出土遺物
掲載名	調査名		長さ	幅	深さ				
上城1	1区No8土城	不整形	—	270	65	52	北東-南西	13～14C	土師器
上城2	1区No7土城	不整形	—	442	40	78			土師器・備前
上城3	1区No6土城	不整形	—	396	58	52	北東-南西		土師器
上城4	1区No21土城	楕円形	90	61	8	101	北西-南東		
土城5	1区No23土城	不整楕円形	117	69	10	102	北東-南西		
土城6	1区No18土城	楕円形	256	149	21	70	北東-南西	12C	土師器・瓦・土鍾
土城7	1区No16土城	円形	158	142	30	80		18C	染付
土城8	2区No11土城	楕円形	223	250	50	93		11～12C	土師器・白磁
土城9	2区No7土城	楕円形	—	—	50	90		12C	土師器・土製品
土城10	2区No4土城	円形	—	—	68	79			陶器・染付・瓦
土城11	2区No5土城	円形	—	—	67	90		18～19C	陶器・染付・備前
土城12	2区No6土城	不整楕円形	393	—	92	52	北東-南西		陶器・染付・瓦
上城13	2区No9土城	長方形	—	—	22	90	北東-南西	19C	染付・備前・瓦
上城14	2区No10土城	楕円形	—	—	57	79			陶器・染付・瓦
上城15	3区No13土城	楕円形	82	—	14	129	東-西	10C	黒色土器・土師器・須恵器
上城16	3区土城7	隅丸方形	81	66	30	104	北西-南東		土師器
土城17	3区土城1	隅丸方形	99	69	20	123	北西-南東	13～14C	土師器・瓦質土器
土城18	3区土城3	隅丸方形	124	97	41	83	北々東-南々西	13～14C	土師器・須恵器
土城19	3区No4土城	不整楕円形	122	—	5	121		9C	須恵器
土城20	3区No3土城	不整楕円形	146	—	13	127			須恵器
土城21	3区No9土城	隅丸方形	98	94	29	121			
土城22	3区No6土城	方形	83	69	6	124	北西-南東	12C	備前
土城23	3区No12土城	円形	107	—	34	109		19C～	
土城24	3区No2土城	円形	133	123	49	109		19C	染付・備前
上城25	3区No1土城	楕円形	146	126	45	112	北西-南東	19C～	土師器・陶器・砥石

遺構名称		規模 (m)			流走方向	性格	時期	出土遺物
掲載名	調査名	検出長	幅	深さ				
溝1	1区No24溝	21.3	0.56	0.05	東北東-西南西			
溝2	1区No22溝		0.30	0.04	北西-南東			
溝3	1区No14溝	14.4	—	—	北々東-南々西	流路		土師器・須恵器
溝4	1区No21溝	1.8	1.60	0.04	北東-南西	耕作痕	18～19C	
溝5	1区No15溝	1.5	1.00	0.16		耕作痕	18～19C	
溝6	1区No15溝	11.1	3.96	0.13		耕作痕	18～19C	
溝7	2区No16溝	25.2	1.22	0.52	北東→南西	流路	14C	土師器・須恵器・備前・瓦
溝8	2区No17溝	20.2	0.95	0.20	北東→南西	流路	13C	土師器・緑釉陶器
溝9	2区No18溝	27.8	0.56	0.22	北東→南西	流路	13C	土師器・須恵器・亀山・釘
溝10	2区No12溝	11.5	0.58	0.17	北東-南西	耕作痕	平安後	土師器・須恵器
溝11	2区No12溝	4.8	0.66	0.15	北西-南東	耕作痕	平安後	土師器・須恵器
溝12	2区No13溝	13.7	0.74	0.06	北東-南西	耕作痕	平安後	土師器・須恵器
溝13	2区No14溝	6.8	0.35	0.15	北東-南西	耕作痕	18～19C	陶器・染付
溝14	2区No15溝	10.2	0.67	0.05	北東-南西	耕作痕	18～19C	陶器・染付
溝15	2区No19溝	14.3	0.81	0.10	東南東-西北西	耕作痕	18～19C	陶器・染付・釘
溝16	3区溝1	4.4	0.23	0.09	北々東-南々西		11C	土師器・束播

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
1	基盤層	弥生土器	甕	13.4			(2.6)	鈍い黄橙色 (10YR6/4)	1mm以下の砂粒	口縁部1/5
2	基盤層	弥生土器	甕	19.0			(3.0)	橙色 (7.5YR6/6)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/10
3	基盤層	弥生土器	甕	16.0			(4.3)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5～1mmの砂粒多	口縁部1/5
4	基盤層	須恵器	杯	11.0			(2.4)	灰色 (N5/0)	0.5mm以下の砂粒	1/10
5	基盤層	須恵器	蓋	16.1		4.7	3.0	灰色 (N6/0)	1～3mmの砂礫	ロクロ左回り、1/3
6	土壇1	土師器	碗	11.2		7.4	3.5	灰白色 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒	早島式土器、完形
7	土壇3	白磁	碗			6.2	(1.0)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	高台部1/5
8	土壇3	土師器	碗			5.3	(0.8)	灰白色 (10YR8/2)	0.5mm以下の砂粒	早島式土器、高台部1/2
9	土壇3	土師器	皿	5.8			0.9	褐灰色 (7.5YR4/1)	精良	底部へら切、2/3
10	土壇3	土師器	皿	7.2			1.5	鈍い褐色 (7.5YR7/4)	精良	底部指押さえ、1/2
11	土壇2・3	土師器	鍋	29.0			(5.7)	灰褐色 (7.5YR4/2)	1.5mm以下の砂粒	口縁部1/8、煤付着
12	土壇2	陶器	甕				(8.5)	灰褐色 (5YR4/2)	1.5mm以下の砂粒	備前、口縁部小片
13	土壇6	土師器	碗	16.2			(4.5)	灰白色 (2.5Y8/1)	精良	早島式土器、口縁部1/9
14	土壇6	土師器	碗	16.2		6.9	(3.0)	灰白色 (2.5Y8/1)	1～3mmの砂礫	早島式土器、口縁部1/10
15	土壇6	土師器	碗			7.0	(5.3)	灰白色 (2.5Y8/2)	1.5mm前後の砂粒	早島式土器、高台部1/1
16	土壇6	土師器	皿	8.9			1.1	鈍い黄橙色 (10YR8/3)	精良	底部へら切、完形
17	土壇6	土師器	鍋			6.0	(4.1)	灰黄褐色 (10YR5/2)	0.5～1mmの砂粒多	口縁部小片
18	溝3	須恵器	碗			10.0	(2.5)	灰白色 (N7/0)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/5
19	溝3	土師器	杯	13.8			3.2	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	1～3mmの砂礫	
20	溝3	土師器	甕	25.2	22.2		(10.4)	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	1.5～7mmの砂礫	口縁一胴部1/8
21	河道上面	白磁	碗	16.0		7.0	(3.6)	灰白色 (N7/0)	精良	口縁部1/8
22	河道上面	土師器	碗	14.5		6.4	6.2	灰白色 (10YR7/1)	2.5mm以下の砂礫	1/5、白色
23	河道上面	土師器	碗			6.8	(3.8)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	精良	1/2、白色
24	河道上面	須恵器	杯			5.6	(1.4)	灰白色 (N7/0)	1mm以下の砂粒多	高台部4/5
25	河道上面	土師器	皿	6.7			1.6	灰白色 (2.5Y8/2)	1.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/3
26	河道上面	土師器	皿	9.8		7.0	(2.0)	浅黄橙色 (10YR8/3)	1mm以下の砂粒	口縁部1/4
27	河道上面	灰釉陶器	碗			5.6	(1.7)	灰色 (N7/0)	精良	東海、高台部1/4
28	河道上面	灰釉陶器	皿			8.2	(1.5)	灰オリーブ色 (7.5Y6/2)	精良	東海、口縁部1/8
29	河道上面	灰釉陶器	皿				(2.1)	灰オリーブ色 (7.5Y6/2)	精良	東海、高台部1/4
30	河道上面	須恵器	指鉢				(5.4)	灰色 (N6/0)	2.5mm以下の砂礫	口縁部小片
31	河道上面	土師器	鍋			6.6	(11.2)	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	1mm以下の砂粒	足部
32	河道上層	黒色土器	碗	11.8			4.0	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	1/3
33	河道上層	黒色土器	碗	15.1		8.3	(3.5)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	口縁部1/3
34	河道上層	黒色土器	碗	14.8			5.8	鈍い褐色 (7.5YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	2/3
35	河道上層	黒色土器	碗	14.8		6.7	(4.2)	灰黄色 (2.5Y7/2)	1～2mmの砂粒	1/5
36	河道上層	黒色土器	碗	14.6		8.2	5.3	把黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	1/2、被熱?
37	河道上層	黒色土器	碗	15.4		7.3	5.1	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/2
38	河道上層	黒色土器	碗			7.2	(1.3)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/2
39	河道上層	黒色土器	碗			7.1	(2.0)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/4
40	河道上層	黒色土器	碗			6.9	(2.0)	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	高台部1/6
41	河道上層	黒色土器	碗			8.4	(2.9)	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	高台部1/1
42	河道上層	黒色土器	碗			7.0	(3.6)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/5
43	河道上層	黒色土器	碗			8.6	(1.3)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/3
44	河道上層	黒色土器	碗	15.5		7.0	3.4	灰白色 (2.5Y8/1)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/4
45	河道上層	黒色土器	碗			8.1	(1.8)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/1
46	河道上層	黒色土器	碗			9.0	(1.7)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/4
47	河道上層	黒色土器	碗			6.8	(1.8)	鈍い褐色 (7.5YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/3
48	河道上層	黒色土器	碗			7.2	(2.0)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/5
49	河道上層	土師器	碗	14.9		9.0	5.7	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	0.5mm前後の砂粒	外面風化、3/4
50	河道上層	土師器	碗			8.1	(3.6)	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	足高台、高台部1/5
51	河道上層	土師器	碗				(2.5)	鈍い褐色 (7.5YR6/3)	0.5～1mmの砂粒	コテ当て、高台部4/5
52	河道上層	土師器	杯	14.5		9.0	(4.1)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台端部欠失
53	河道上層	土師器	碗			8.1	(5.2)	鈍い褐色 (7.5YR6/3)	0.5mm前後の砂粒	足高台、高台部1/5
54	河道上層	土師器	碗			8.4	(2.6)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/1
55	河道上層	土師器	碗			7.1	(1.8)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/1
56	河道上層	土師器	碗			9.0	(1.7)	鈍い褐色 (7.5YR5/4)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/1
57	河道上層	土師器	碗			6.6	(3.5)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/6
58	河道上層	土師器	碗			8.0	(1.1)	黄灰色 (2.5Y4/1)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/4
59	河道上層	土師器	碗			6.6	(1.6)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm前後の砂粒	高台部1/4
60	河道上層	土師器	碗			6.0	(2.4)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/2
61	河道上層	土師器	碗				(1.4)	灰色 (N4/1)	精良	早島式土器、高台部1/4
62	河道上層	土師器	碗	15.0			(2.6)	灰白色 (5Y8/1)	0.5～1mmの砂粒	口縁部1/5、白色
63	河道上層	土師器	碗	15.4		5.8	(4.0)	灰白色 (2.5Y8/2)	精良	口縁部1/5、白色
64	河道上層	土師器	碗			6.0	(1.3)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/1、白色
65	河道上層	土師器	碗			6.2	(1.0)	灰黄色 (2.5Y7/2)	1.5mm前後の砂粒多	高台部1/3、白色
66	河道上層	土師器	碗				(1.2)	灰白色 (10YR8/2)	1mm前後の砂粒	白色、完形

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
67	河道上層	土師器	椀			6.4	(2.1)	灰白色 (2.5Y8/1)	1mm前後の砂粒	高台部3/4、白色
68	河道上層	土師器	椀			6.7	(1.5)	灰白色 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒多	高台部1/1、白色
69	河道上層	須恵器	椀	16.2		7.4	6.8	灰色 (N6/)	1～2mmの砂粒	1/2
70	河道上層	須恵器	椀	14.6		5.8	5.1	灰白色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/3、被熱
71	河道上層	灰釉陶器	椀	14.6		7.4	6.0	灰白色 (N8/)	精良	美濃 (10C後)、輪花、完形
72	河道上層	灰釉陶器	皿	12.0		6.0	2.5	灰白色 (5Y7/1)	精良	美濃 (9C後～10C初)、1/2
73	河道上層	緑釉陶器	皿	15.0		6.8	3.7	明黄褐色 (10YR6/6)	精良	京都 (9C後)、削出高台、1/4
74	河道上層	緑釉陶器	椀			6.5	(1.8)	暗い灰みの緑 (1.5GY3/2.5)	精良	近江 (10C後)、硬陶、トチン
75	河道上層	緑釉陶器	椀			7.0	(2.4)	くすんだ黄緑 (5GY5/5)	精良	近江 (10C後)、硬陶、1/2
76	河道上層	土師器	皿	8.4			4.0	鈍い黄褐色 (7.5YR7/3)	精良	完形
77	河道上層	土師器	皿	15.0		8.8	4.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mmの砂粒多	底部ヘラ切、1/4
78	河道上層	土師器	皿	16.6		9.2	3.9	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	精良	底部ヘラ切、1/4
79	河道上層	土師器	皿	16.8			(3.6)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/5
80	河道上層	土師器	皿	15.8		8.5	3.5	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/3
81	河道上層	土師器	皿	15.6			3.7	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	指押さえ、1/3
82	河道上層	土師器	皿	14.7			(4.0)	灰白色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	指押さえ、1/4
83	河道上層	土師器	杯	10.0		5.7	3.4	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/5
84	河道上層	土師器	杯	11.4		7.2	3.2	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	0.5～1mmの砂粒	底部ヘラ切、1/4
85	河道上層	土師器	杯	11.0		8.9	3.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/2
86	河道上層	土師器	杯			6.2	(1.7)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/2
87	河道上層	土師器	杯			6.2	(1.7)	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、完形
88	河道上層	土師器	皿	10.0		8.8	1.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、完形
89	河道上層	土師器	皿	9.5		6.6	2.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	底部ヘラ切、3/4
90	河道上層	土師器	皿	9.0		6.0	1.7	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	底部ヘラ切、1/4
91	河道上層	土師器	皿	9.6		7.1	2.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/4
92	河道上層	土師器	皿	9.4		6.6	1.9	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	底部ヘラ切、1/4
93	河道上層	土師器	皿	10.6		6.6	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	底部ヘラ切、*
94	河道上層	土師器	皿	10.4		7.6	2.2	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/6
95	河道上層	土師器	皿	11.9		8.4	2.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/4
96	河道上層	土師器	皿	9.2		7.0	1.7	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/4
97	河道上層	土師器	皿	9.6		7.4	1.7	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、完形
98	河道上層	土師器	皿	10.2		6.6	2.2	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	精良	底部ヘラ切、1/2
99	河道上層	土師器	皿	9.4		6.8	2.0	灰色 (5Y5/1)	0.5mm前後の砂粒	3/4
100	河道上層	土師器	皿	10.0		7.0	1.8	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/3
101	河道上層	土師器	皿	10.2		7.4	1.8	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/6
102	河道上層	土師器	皿	9.9		7.7	1.6	鈍い橙色 (5YR7/3)	精良	底部ヘラ切、2/3、復元
103	河道上層	土師器	皿	10.0		8.8	1.5	鈍い橙色 (5YR6/4)	精良	1/5
104	河道上層	土師器	皿	7.6			(1.4)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/7
105	河道上層	土師器	皿	9.2			1.6	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	3/4、復元
106	河道上層	土師器	皿	9.2			1.9	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	3/4
107	河道上層	土師器	皿	9.6		7.2	1.6	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	指押さえ、1/4
108	河道上層	土師器	皿	10.4		8.4	1.5	浅黄色 (2.5Y7/3)	0.5mm以下の砂粒	1/7
109	河道上層	土師器	皿	10.4		8.6	1.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/3
110	河道上層	土師器	皿	8.2		7.2	1.2	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	1/6
111	河道上層	土師器	皿	8.7			1.8	浅黄色 (2.5Y7/3)	0.5mm以下の砂粒	1/4
112	河道上層	土師器	皿	9.4			1.7	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	1/6
113	河道上層	土師器	皿	10.9		8.4	1.9	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	精良	1/4
114	河道上層	土師器	皿	11.4		9.8	1.2	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/7
115	河道上層	土師器	皿	11.0			1.9	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/6
116	河道上層	土師器	皿	10.4			1.9	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	1/2、煤付着
117	河道上層	土師器	皿	10.5			1.9	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	指押さえ、2/3、復元
118	河道上層	土師器	皿	5.6			1.3	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm以下の砂粒	指押さえ、1/5
119	河道上層	土師器	皿	9.0			1.5	灰オリーブ色 (5Y6/2)	0.5mm前後の砂粒	指押さえ、1/6
120	河道上層	土師器	皿	9.5			1.9	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	指押さえ、完形
121	河道上層	土師器	皿	10.0			1.6	灰オリーブ色 (5Y6/2)	精良	指押さえ、1/4
122	河道上層	土師器	皿	10.0			1.4	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	指押さえ、1/4
123	河道上層	土師器	皿	10.6			1.3	灰黄色 (2.5Y7.2)	0.5mm以下の砂粒	指押さえ、1/8
124	河道上層	土師器	皿	10.6			2.1	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	指押さえ、1/4
125	河道上層	土師器	皿	10.3			2.7	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm前後の砂粒	指押さえ、完形
126	河道上層	土師器	甕	36.0			(5.7)	黒色 (5Y2/1)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/10、煤付着
127	河道上層	土師器	甕	38.6			(4.9)	褐灰色 (10YR4/1)	2mm前後の砂粒多	口縁部1/8、煤付着
128	河道上層	土師器	一				(4.0)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	0.5mm前後の砂粒多	把手
129	河道上層	土師器	釜	20.2			(5.7)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	0.5～1mmの砂粒多	口縁部1/8、煤付着
130	河道上層	土師器	甕	20.6			(14.5)	黒色 (10YR2/1)	0.5～1mmの砂粒多	口縁部1/6、煤付着
131	河道上層	須恵器	壺		16.6		(11.3)	灰白色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	頸～胴部2/3
132	河道上層	須恵器	壺		18.0		(8.7)	灰色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	肩部に突帯、1/8

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
133	河道上層	須恵器	壺		17.6		(11.2)	灰色 (N4/)	0.5～1mmの砂粒	胴部1/6
134	河道上層	須恵器	壺			12.2	(2.3)	灰色 (N5/)	0.5mm前後の砂粒	底部1/3
135	河道上層	須恵器	壺		11.8		(9.8)	灰色 (N4/)	精良	胴部1/2
136	河道上層	須恵器	杯			7.0	(1.5)	灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/4
137	河道上層	須恵器	杯			8.4	(0.6)	灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/6
138	河道下層	黒色土器	碗	15.1		8.1	5.9	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	2/3、復元
139	河道下層	黒色土器	碗	14.8		8.5	6.1	オリーブ黒色 (5Y3/1)	0.5mm前後の砂粒	3/4
140	河道下層	黒色土器	碗			9.0	(2.3)	黄灰色 (2.5Y4/1)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/3
141	河道下層	黒色土器	碗			7.3	(1.8)	灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/6
142	河道下層	土師器	碗	12.0		5.4	3.6	灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5mm以下の砂粒	1/2
143	河道下層	土師器	碗	13.8			(3.1)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	1/7
144	河道下層	土師器	碗			9.8	(1.6)	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	1mm以下の砂粒	高台部1/6
145	河道下層	土師器	杯	16.9		8.6	5.8	浅黄色 (2.5Y7/3)	1.5mm以下の砂粒	2/3
146	河道下層	土師器	碗			6.1	(3.0)	鈍い赤褐色 (5YR5/4)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/1、被熱?
147	河道下層	土師器	碗			9.4	(3.9)	灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5mm前後の砂粒	足高台、高台部3/4、被熱?
148	河道下層	土師器	碗			7.7	(2.1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	精良	高台部1/1
149	河道下層	土師器	碗			5.3	(1.0)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/2
150	河道下層	土師器	碗			5.8	(2.0)	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	精良	高台部1/2
151	河道下層	土師器	碗			7.2	(1.7)	灰色 (5Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/2
152	河道下層	土師器	杯	13.7		7.4	3.8	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/2
153	河道下層	土師器	杯	13.8			(3.4)	褐灰色 (7.5YR5/1)	0.5mm前後の砂粒	口縁部1/6
154	河道下層	土師器	杯			7.4	(2.4)	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/4
155	河道下層	土師器	杯			6.8	(1.9)	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5～1mmの砂粒	底部へう切、3/4
156	河道下層	土師器	杯	9.7		4.6	3.9	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm前後の砂粒	底部へう切、1/4
157	河道下層	土師器	杯	9.6		6.2	2.2	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/7
158	河道下層	土師器	杯	9.8		5.8	2.6	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/2
159	河道下層	土師器	杯	10.6		6.0	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/3
160	河道下層	土師器	杯	11.2		7.0	2.9	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	1mm前後の砂粒	底部へう切、1/6
161	河道下層	土師器	皿	8.6		5.4	1.7	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へう切、1/6
162	河道下層	土師器	皿	9.5		7.4	1.4	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/6
163	河道下層	土師器	皿	10.4		8.2	2.2	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	1/2
164	河道下層	土師器	皿	10.9		6.9	2.1	鈍い褐色 (7.5YR7/4)	0.5mm前後の砂粒	底部へう切、1/6
165	河道下層	土師器	皿	11.2		7.2	2.2	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	底部へう切、1/5
166	河道下層	土師器	皿	11.9		8.3	1.9	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	精良	1/4
167	河道下層	須恵器	皿	10.0			(2.2)	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/5
168	河道下層	土師器	皿	11.0			(2.4)	褐色 (5YR6/6)	0.5mm前後の砂粒	1/7
169	河道下層	土師器	皿	11.2			(2.7)	黄灰色 (2.5Y6/1)	精良	口縁部1/6
170	河道下層	土師器	皿	11.2		6.6	2.1	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	0.5mm以下の砂粒	1/6
171	河道下層	土師器	皿	10.2			2.2	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	精良	1/4
172	河道下層	土師器	皿	10.6		7.2	2.5	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/3
173	河道下層	須恵器	杯	16.1			(3.0)	灰白色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/11
174	河道下層	須恵器	碗				(3.3)	灰白色 (5Y8/1)	0.5mm前後の砂粒	口縁部小片、墨書
175	河道下層	須恵器	碗	15.1			(3.7)	灰色 (7.5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	口縁部1/8
176	河道下層	須恵器	碗	16.4			(4.0)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm前後の砂粒	1/5
177	河道下層	須恵器	碗			5.4	(1.7)	灰白色 (5Y7/1)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/1
178	河道下層	土師器	甕	9.3			(3.1)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒多	口縁部1/8
179	河道下層	土師器	甕	17.2	19.2		(11.2)	灰色 (5Y6/1)	1mm前後の砂粒	口縁→胴部1/6、煤付着
180	河道下層	土師器	甕	33.5			(6.3)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5～1mmの砂粒	口縁部1/6
181	河道下層	土師器	釜	22.4			(5.3)	鈍い褐色 (5YR6/3)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/8
182	河道下層	土師器	釜	24.0			(8.7)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/6
183	河道下層	須恵器	壺			16.2	(7.3)	灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒	底部1/3、被熱?
184	河道下層	須恵器	甕	22.4			(6.2)	オリーブ灰色 (10Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	口縁部1/6
185	河道内貝層	黒色土器	碗			6.0	(1.1)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/1
186	河道内貝層	黒色土器	碗			7.0	(2.0)	黄灰色 (2.5Y5/1)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/3
187	河道内貝層	黒色土器	碗			7.0	(3.2)	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/1
188	河道内貝層	黒色土器	碗			8.0	(1.2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/6
189	河道内貝層	黒色土器	碗			8.6	(1.8)	黒色 (N2/)	0.5mm以下の砂粒	高台部2/3
190	河道内貝層	黒色土器	碗			9.0	(2.0)	黄灰色 (2.5Y6/2)	精良	高台部1/6
191	河道内貝層	土師器	碗	13.0		7.7	5.1	鈍い褐色 (7.5YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	1/2
192	河道内貝層	土師器	碗			7.4	(1.8)	黄灰色 (2.5Y6/1)	3～5mmの礫	高台部1/1
193	河道内貝層	土師器	碗			9.6	(2.7)	鈍い褐色 (5YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	足高台、高台部1/8
194	河道内貝層	土師器	碗	15.6			(4.3)	灰白色 (2.5Y8/1)	0.5～1mmの砂粒	口縁部1/9、白色
195	河道内貝層	須恵器	碗	15.4		7.6	6.1	灰色 (N6/)	0.5mm以下の砂粒	見込コテ当て、高台部1/2
196	河道内貝層	須恵器	碗			6.0	(1.8)	灰白色 (N7/)	0.5mm前後の砂粒	底部糸切、1/2
197	河道内貝層	須恵器	碗			7.0	(1.2)	灰白色 (5Y7/1)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/7
198	河道内貝層	須恵器	碗			6.0	(1.1)	灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒	底部糸切、1/5

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
199	河道内貝層	須恵器	椀			5.6	(1.5)	灰白色 (N6/)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/4
200	河道内貝層	土師器	皿	10.8		8.2	1.7	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	2mmの礫	1/5
201	河道内貝層	土師器	杯			6.6	(1.3)	鈍い褐色 (7.5YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/3
202	河道内貝層	土師器	杯			7.1	(2.1)	鈍い橙色 (5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/5、被熱?
203	河道内貝層	土師器	甕				(6.9)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	0.5mm前後の砂粒多	口縁部小片
204	河道内貝層	土師器	甕	35.0	32.2		(9.6)	灰黄色 (2.5Y6/2)	1mm以下の砂粒多	口縁部1/8、煤付着
205	河道内貝層	須恵器	壺				(1.6)	灰色 (N4/)	0.5mm前後の砂粒	口縁部小片
206	河道内貝層	須恵器	壺				(2.8)	灰色 (N6/)	0.5mm以下の砂粒	胴部片、肩部に突帯、被熱?
207	河道内貝層	須恵器	甕		38.4	20.4	(21.6)	灰白色 (2.5Y8/1)	精良	底部1/2
208	河道獣骨周辺	黒色土器	椀			8.2	(2.2)	黄灰色 (2.5Y4/1)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/2
209	河道獣骨周辺	土師器	杯	15.0			(3.6)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	精良	口縁部1/3
210	河道獣骨周辺	土師器	杯	15.2		8.6	6.5	鈍い橙色 (5YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	足高台、完形
211	河道獣骨周辺	土師器	椀	14.9		8.0	5.4	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	精良	足高台、完形
212	河道獣骨周辺	須恵器	椀	14.0		6.4	5.8	黄灰色 (2.5Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	1/2
213	河道獣骨周辺	須恵器	杯			10.8	(1.3)	灰白色 (5Y7/1)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/4、軟質
214	河道獣骨周辺	土師器	皿	11.2		9.2	2.1	灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5mm以下の砂粒	1/8
215	河道獣骨周辺	土師器	皿	10.5		8.4	1.6	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	精良	底部指押さえ、1/8
216	河道獣骨周辺	土師器	釜				(5.1)	黒色 (10YR1.7/1)	2mm前後の砂粒多	口縁部小片
217	河道獣骨周辺	土師器	甕				(4.1)	鈍い黄橙色 (10YR6/4)	2mm前後の砂粒多	口縁部小片
218	河道獣骨周辺	須恵器	甕				(2.9)	灰色 (N5/)	2mmの礫	口縁部小片
219	河道肩口	土師器	杯	9.9		5.6	2.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/2
220	河道肩口	土師器	杯	10.0		6.4	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、3/4
221	河道肩口	土師器	杯	9.8		6.0	2.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/4
222	河道肩口	土師器	杯	10.3		5.9	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、3/4
223	河道肩口	土師器	杯	10.2		6.4	2.6	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、完形
224	河道肩口	土師器	杯	10.0		6.5	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/3
225	河道肩口	土師器	杯	9.8		6.0	2.4	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/3
226	河道肩口	土師器	皿	9.4		9.0	1.9	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm前後の砂粒多	底部指押さえ、1/4
227	河道肩口	土師器	皿	9.8			1.5	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	1mm以下の砂粒多	底部指押さえ、1/4
228	河道肩口	土師器	杯	15.0		8.8	5.2	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	足高台、1/4
229	河道肩口	土師器	杯			5.8	(1.4)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/2
230	河道肩口	土師器	杯	10.4		6.6	2.6	灰黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/6
231	河道肩口	土師器	杯	10.2		6.4	2.4	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/4
232	河道肩口	土師器	杯	10.2		5.8	2.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/4
233	河道肩口	土師器	皿	8.4			1.8	黄灰色 (2.5Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	底部指押さえ、1/4
234	河道肩口	土師器	甕				(8.3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	1mm前後の砂粒多	口縁-胴部片
235	河道肩口	土師器	甕		23.5		(16.2)	褐灰色 (10YR4/1)	1mm以下の砂粒多	胴部1/4
236	河道肩口	土師器	甕				(2.4)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5～1mmの砂粒多	口縁部小片
237	河道肩口	土師器	椀	14.9		7.0	6.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	完形
238	河道肩口	土師器	椀				(2.6)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/5
239	河道肩口	土師器	椀			7.2	(1.2)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	高台部13/4
240	河道肩口	土師器	皿	9.8		7.6	2.0	浅黄色 (2.5Y7/3)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、1/4
241	河道肩口	土師器	甕	36.0	34.8		(16.1)	灰黄褐色 (10YR5/2)	1mm以下の砂粒多	1/8
242	河道肩口	土師器	甕				(3.0)	鈍い黄褐色 (10YR5/3)	2～3mmの砂粒多	口縁部小片
243	河道肩口	土師器	甕				(4.3)	灰黄褐色 (10YR4/2)	0.5mm前後の砂粒多	口縁部小片
244	河道肩口	土師器	椀			7.2	(1.9)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/1
245	河道肩口	土師器	杯	14.4		7.4	4.0	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	精良	底部へら切、1/3
246	河道肩口	須恵器	椀			7.3	(1.9)	灰色 (N6/)	1～2mmの砂粒	高台部1/6
247	河道肩口	須恵器	壺		18		(8.6)	暗灰黄色 (5PB3/1)	0.5～1mmの砂粒	胴部1/4
248	河道肩口	土師器	椀			9.0	(2.2)	灰白色 (10YR8/2)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/2
249	河道肩口	土師器	杯	10.6		7.2	2.0	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒多	底部へら切、1/2
250	河道肩口	土師器	杯	10.5		7.3	2.2	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒	底部へら切、完形
251	河道肩口	土師器	杯	10.5		7.5	2.2	鈍い黄橙色 (10YR7/4)	0.5～1mmの砂粒	底部へら切、2/3
252	河道肩口	土師器	杯	12.0		7.7	4.5	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	精良	底部へら切、完形
253	河道肩口	土師器	甕	31.6	28.0		(23.9)	黄灰色 (2.5Y4/1)	2mm以下の砂粒	胴部穿孔、1/3
254	たわみ1	青白磁	合子蓋			6.5	(1.3)	緑灰色 (7.5GY6/1)	精良	1/8
255	たわみ1	白磁	碗			6.0	(2.0)	灰白色 (5Y7/1)	精良	高台部3/4
256	たわみ1	土師器	鍋				(10.0)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒	底部片
257	たわみ1	土師器	竈				(12.5)	灰褐色 (5YR4/2)	3mm以下の砂粒	底部片
258	たわみ2	黒色土器	椀	15.8			(4.6)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm前後の砂粒	口縁部1/6
259	たわみ2	黒色土器	椀			7.1	(3.7)	灰白色 (10YR8/2)	2～3mmの砂粒	高台部1/1
260	たわみ2	黒色土器	椀			8.4	(1.4)	灰白色 (2.5Y5/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/5
261	たわみ2	黒色土器	椀			6.6	(1.2)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	2mm以下の砂粒	高台部1/3
262	たわみ2	黒色土器	椀			6.8	(0.7)	灰白色 (10YR8/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/3
263	たわみ2	黒色土器	椀			6.0	(1.7)	オリブ黒色 (5Y3/1)	0.5mm前後の砂粒	高台部11/6
264	たわみ2	黒色土器	椀			9.0	(1.7)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/6

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
265	たわみ2	黒色土器	碗	14.9		7.1	6.0	浅黄橙色 (10YR8/3)	精良	1/2
266	たわみ2	土師器	碗			6.3	(2.2)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	精良	高台部1/2
267	たわみ2	土師器	碗			11.0	(1.8)	浅黄橙色 (10YR8/3)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/5
268	たわみ2	土師器	碗			8.0	(1.6)	浅黄色 (2.5Y7/3)	精良	高台部1/1
269	たわみ2	土師器	碗			7.4	(1.7)	鈍い橙色 (5YR6/4)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/1
270	たわみ2	土師器	碗			6.3	(2.4)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/2
271	たわみ2	土師器	碗			6.8	(1.5)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5～1mmの砂粒	高台部1/5
272	たわみ2	土師器	碗	14.7			(2.8)	灰白色 (10YR8/2)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/6、白色
273	たわみ2	土師器	碗			7.3	(1.2)	灰白色 (2.5Y8/2)	1mm前後の砂粒多	高台部1/3、白色
274	たわみ2	土師器	碗			7.0	(1.1)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/2
275	たわみ2	土師器	碗			8.8	(1.3)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/7
276	たわみ2	土師器	碗			7.0	(2.4)	灰白色 (10YR8/2)	0.5mm前後の砂粒	高台部1/3
277	たわみ2	須恵器	碗			6.2	(1.5)	灰白色 (N7/)	精良	1/4
278	たわみ2	須恵器	碗			6.6	(2.3)	灰白色 (N7/)	精良	底部糸切、1/4
279	たわみ2	須恵器	碗			6.3	(1.7)	灰白色 (2.5Y7/1)	3～5mmの礫	高台部1/1
280	たわみ2	須恵器	碗			6.0	(1.6)	灰白色 (5Y7/1)	0.5mm以下の砂粒	1/3、軟質
281	たわみ2	須恵器	碗	11.3			(4.0)	灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒	口縁部1/8
282	たわみ2	須恵器	碗			5.2	(1.5)	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/4
283	たわみ2	須恵器	碗			8.6	(3.2)	灰白色 (N7/)	0.5mm前後の砂粒	底部糸切、1/3
284	たわみ2	須恵器	碗			8.1	(1.2)	灰白色 (N7/)	精良	底部1/5
285	たわみ2	土師器	杯	15.5		8.6	3.3	灰白色 (5Y8/1)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/4
286	たわみ2	土師器	杯			6.8	(1.4)	灰黄色 (2.5Y7/2)	1mm前後の砂粒	底部へら切、1/6
287	たわみ2	土師器	杯			7.6	(1.7)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/2
288	たわみ2	土師器	杯			8.6	(1.8)	灰黄褐色 (10YR4/2)	2～5mmの礫	底部へら切、1/6
289	たわみ2	土師器	杯			5.8	(0.9)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	精良	底部へら切、1/2
290	たわみ2	土師器	皿	10.0		7.8	1.7	浅黄色 (2.5Y7/3)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、完形
291	たわみ2	土師器	皿	8.8		7.0	1.2	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm前後の砂粒多	底部へら切、1/6
292	たわみ2	土師器	皿	9.1		6.5	1.1	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/5
293	たわみ2	土師器	皿	9.6		7.6	1.2	鈍い黄橙色 (10YR7/4)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/4
294	たわみ2	土師器	皿	10.5		9.3	(1.8)	鈍い橙色 (5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒多	口縁部1/6
295	たわみ2	須恵器	杯			9.0	(1.0)	灰色 (N5/)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/5
296	たわみ2	須恵器	杯			8.3	(1.8)	灰白色 (N6/)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/7
297	たわみ2	須恵器	壺			14.2	(2.1)	灰白色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/8
298	たわみ2	黒色土器	碗				(2.3)	鈍い褐色 (7.5YR7/4)	精良	托付、高台部小片
299	たわみ2	緑釉陶器	皿				(1.6)	浅黄色 (7.5Y7/3)	精良	京都、口縁部小片
300	たわみ2	須恵器	壺			12.1	(3.3)	灰白色 (N7/)	0.5mm前後の砂粒	底部1/5
301	たわみ2	須恵器	壺			13.3	(2.7)	灰白色 (N7/)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/6
302	たわみ2	須恵器	壺			12.5	(4.2)	灰色 (N6/)	0.5～1mmの砂粒	底部1/8
303	たわみ2	須恵器	一				(2.0)	暗灰色 (N3/)	精良	瓦質、口縁部小片
304	たわみ2	須恵器	平瓶				(4.8)	灰色 (N5/)	0.5mm前後の砂粒	把手
305	たわみ2	土師器	甕	17.1			(4.5)	橙色 (5YR6/6)	2mm前後の砂粒	口縁ー胴部1/6
306	たわみ2	土師器	甕				(3.7)	黄灰色 (2.5Y4/1)	0.5～2mmの砂粒多	口縁部小片
307	たわみ2	土師器	釜				(7.4)	灰黄色 (2.5Y6/2)	1.5mm前後の砂粒多	口縁部小片
308	たわみ2	土師器	甕				(6.6)	灰黄褐色 (10YR6/2)	1～1.5mmの砂粒多	底部片
309	たわみ2	土師器	甕				(5.1)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm以下の砂粒多	基部片
310	たわみ2	土師器	甕				(5.9)	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm以下の砂粒多	基部片
311	たわみ2	土師器	甕				(5.2)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	0.5～1mmの砂粒多	焚口基底部片
312	水田	白磁	皿	11.7		5.9	2.7	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	高台部露胎、1/4
313	水田	白磁	皿				(3.3)	灰白色 (2.5GY8/1)	精良	口縁部1/8
314	水田	陶器	碗			6.3	(1.9)	灰白色 (5Y8/2)	精良	瀬戸美濃、1/9
315	水田	土師器	碗			6.2	(1.8)	灰白色 (10YR8/1)	2.5mm以下の砂礫	早島式土器、高台部5/6
316	水田	陶器	杯	10.0		6.2	2.7	灰色 (5Y4/1)	精良	備前、1/3
317	水田	染付	碗			5.4	(2.1)	オリーブ灰色 (5GY5/1)	精良	肥前、高台部1/3
318	水田	染付	徳利			5.7	(2.2)	灰白色 (10Y7/1)	精良	肥前、1/3
319	水田	須恵器	播鉢				(6.0)	オリーブ灰色 (5GY5/1)	1.5mm以下の砂粒	口縁部小片
320	水田	陶器	播鉢				(6.0)	灰褐色 (7.5YR5/2)	1.5mm以下の砂粒	備前、口縁部小片
321	水田	土師器	甕	24.6	19.6		(7.6)	褐色 (7.5YR4/3)	2mm以下の砂粒	口縁ー胴部1/8
322	包含層	弥生土器	甕	15.4			(2.4)	鈍い黄橙色 (10YR7/4)	0.5mm前後の砂粒多	口縁部1/7
323	包含層	土師器	甕				(6.7)	鈍い黄橙色 (10YR7/4)	1.5mm以下の砂粒	口縁ー胴部片
324	包含層	須恵器	杯	18.3		12.0	6.4	オリーブ灰色 (2.5GY6/1)	1mm以下の砂粒	1/8
325	包含層	須恵器	壺			7.8	(1.8)	灰白色 (N7/0)	1.5mm以下の砂粒	高台部3/4
326	柱穴	黒色土器	碗			7.4	(2.4)	鈍い褐色 (7.5YR7/4)	1.5mm以下の砂粒	高台部1/8
327	柱穴	黒色土器	碗			8.6	(1.6)	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/8
328	包含層	土師器	碗	14.8		6.6	(4.9)	灰白色 (10YR8/1)	2mm以下の砂粒	1/2
329	包含層	土師器	碗			8.4	(1.9)	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	1mm以下の砂粒	高台部1/2
330	包含層	土師器	皿	9.5		7.0	1.6	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm以下の砂粒	底部へら切、1/2

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
331	包含層	緑釉陶器	耳皿			5.3	3.4	オリーブ黄色 (7.5Y6/3)	精良	京都 (9C後)、底部糸切、硬陶
332	包含層	緑釉陶器	皿			6.0	(1.2)	浅黄色 (7.5Y7/3)	精良	京都、軟陶、陰刻花文
333	包含層	緑釉陶器	椀			7.4	(2.0)	くすんだ黄緑 (5GY5/5)	精良	近江 (10C後)、軟陶、1/6
334	包含層	緑釉陶器	椀				(1.6)	オリーブ黄色 (7.5Y6/3)	精良	京都、硬陶、口縁部小片
335	包含層	白磁	碗				(2.7)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	口縁部小片
336	包含層	白磁	碗				(3.3)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	口縁部小片
337	包含層	青磁	碗				(2.7)	オリーブ灰色 (5GY6/1)	精良	口縁部小片、雷文
338	土壌7	染付	碗	13.3			(3.6)	灰白色 (5Y8/1)	精良	景徳鎮 (16末～17初)、1/8
339	水田	陶器	皿			3.8	(3.1)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	精良	肥前、鉄絵、胎土目、1/2
340	水田	染付	碗			3.8	(2.6)	灰白色 (N8/0)	精良	肥前、三重網、高台部1/3
341	水田	陶器	椀				(3.2)	灰オリーブ色 (5Y6/2)	精良	口縁部小片
342	水田	染付	皿				(2.2)	灰白色 (N8/1)	精良	肥前 (18C後)、蛇ノ目釉剥ぎ
343	水田	陶器	小杯			3.3	(2.2)	灰色 (10Y5/1)	精良	高台部1/1
344	水田	陶器	拵鉢				(3.6)	赤褐色 (10R4/3)	1mm以下の砂粒	備前、口縁部小片
345	水田	陶器	灯明皿	7.5			(1.1)	灰褐色 (7.5YR4/2)	精良	備前、下皿、1/8
346	水田	陶器	灯明皿	8.8			(1.9)	黒褐色 (2.5Y3/1)	0.5mm以下の砂粒	備前、下皿、1/5
347	井戸1	須恵器	椀				(1.8)	灰白色 (5Y8/1)	精良	口縁部小片
348	井戸1	土師器	皿	9.3		6.9	1.7	鈍い橙色 (2.5YR6/4)	1mm以下の砂粒	底部ヘラ切、完形
349	井戸1	須恵器	杯			7.4	(1.3)	暗灰色 (N3/0)	精良	底部ヘラ切、1/8
350	井戸1	土師器	椀				(3.3)	鈍い橙色 (5YR6/4)	精良	口縁部小片
351	井戸1	須恵器	杯				(1.4)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	口縁部小片
352	井戸1	緑釉陶器	椀				(2.0)	オリーブ灰色 (10Y6/2)	精良	京都 (9C後～10C前)、硬陶
353	土壌8	土師器	椀	14.7			(4.2)	灰白色 (2.5Y8/2)	精良	早島式土器、1/6
354	土壌8	土師器	椀				(2.4)	灰白色 (2.5Y8/2)	精良	早島式土器、口縁部小片
355	土壌8	土師器	杯	14.7		9.1	3.5	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1～3mmの砂礫	底部ヘラ切、完形
356	土壌8	土師器	皿	8.0		6.1	1.5	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/3
357	土壌8	土師器	皿	9.5		7.8	1.3	鈍い橙色 (5YR6/4)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、丹塗、1/3
358	土壌8	土師器	甕				(9.9)	黒褐色 (2.5Y3/1)	2mm前後の砂粒	口縁・胴部片
359	土壌8	白磁	碗	14.3			(4.1)	灰色 (7.5Y7/1)	精良	口縁部1/5
360	土壌9	土師器	皿			6.2	(0.8)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/8
361	土壌9	土師器	甕				(2.3)	明赤褐色 (5YR5/6)	1～3mmの砂礫	口縁部小片
362	溝7	土師器	椀	9.7			3.9	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	1mm前後の砂粒	復元完形
363	溝7	土師器	椀	9.8			(3.5)	灰白色 (10YR8/2)	1mm前後の砂粒	早島式土器、1/4
364	溝7	土師器	椀	10.4		3.9	2.9	灰白色 (2.5Y8/1)	1mm前後の砂粒	早島式土器、1/4
365	溝7	土師器	椀			4.7	(1.0)	灰白色 (2.5Y7/1)	精良	高台部
366	溝7	須恵器	蓋				(1.5)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	つまみ
367	溝7	土師器	杯			6.6	(4.2)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	1～2mmの砂粒	高台部1/1
368	溝7	土師器	鍋				(8.6)	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	1mm前後の砂粒	足部
369	溝7	須恵器	甕				(5.2)	灰色 (7.5Y6/1)	精良	胴部片
370	溝7	須恵器	甕				(8.5)	灰白色 (10Y8/1)	1mm前後の砂粒	備前?、胴部片
371	溝8	土師器	椀			4.7	(2.8)	鈍い橙色 (7.5YR7/3)	1～3mmの砂礫	早島式土器
372	溝8	土師器	椀			6.1	(1.6)	灰白色 (2.5Y8/1)	1mm前後の砂粒	早島式土器、高台部1/1
373	溝8	土師器	鍋				(8.4)	灰褐色 (7.5Y4/2)	1mm前後の砂粒多	口縁・胴部片、煤付着
374	溝8	緑釉陶器	皿			11.2	(1.9)	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	精良	猿投 (9C後)、硬陶、1/8
375	溝9	土師器	皿			7.8	(1.3)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、
376	溝9	須恵器	杯	14.2			(3.5)	灰色 (N6/0)	精良	口縁部1/10
377	溝9	須恵器	甕				(6.0)	灰白色 (N7/0)	1～3mmの砂礫	亀山、底部片
378	溝11	土師器	杯	14.3		11.5	3.2	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	1～2mmの砂粒	丹塗、1/6
379	溝11	須恵器	杯			9.2	(0.8)	灰白色 (2.5Y8/1)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/8
380	溝11	須恵器	蓋	17.6			(1.3)	灰色 (N6/0)	1mm以下の砂粒	口縁部1/8
381	溝11	土師器	鍋	41.8			(10.4)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm前後の砂粒多	口縁・胴部1/8
382	溝11	須恵器	甕				(8.0)	灰色 (N4/0)	精良	胴部片
383	溝11	須恵器	甕				(6.3)	黄灰色 (2.5Y5/1)	1mm前後の砂粒	胴部片
384	溝11	土師器	甕				(19.0)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	1～2mmの砂粒	焚火片
385	溝12	須恵器	蓋				(1.8)	灰色 (N5/0)	精良	口縁部小片、煤付着
386	溝12	須恵器	皿	17.1		15.5	1.6	灰白色 (2.5Y7/1)	精良	口縁部1/12
387	溝12	須恵器	皿				(1.2)	灰色 (7.5Y6/1)	精良	口縁部小片
388	溝12	須恵器	壺			11.8	(3.0)	灰色 (N6/0)	1mm前後の砂粒	高台部1/6
389	溝12	土師器	甕				(3.2)	鈍い褐色 (7.5YR6/3)	1mm前後の砂粒多	口縁部小片
390	たわみ3	土師器	蓋	21.2			(1.6)	橙色 (5YR6/6)	精良	口縁部1/4
391	たわみ3	土師器	杯			8.8	(1.2)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	1mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/4
392	たわみ3	土師器	杯			6.7	(1.2)	灰白色 (5Y8/1)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、1/4
393	たわみ3	土師器	皿				(2.1)	灰白色 (10YR8/2)	1mm前後の砂粒	口縁部小片
394	たわみ3	土師器	皿	16.8		14.8	(2.6)	橙色 (2.5YR6/6)	1mm前後の砂粒	口縁部1/4、丹塗
395	たわみ3	土師器	皿	13.7			(2.3)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	精良	口縁部1/6
396	たわみ3	土師器	椀			7.4	(3.6)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm前後の砂粒	高台部1/3

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
397	たわみ 3	土師器	碗			7.8	(1.5)	橙色 (2.5YR6/6)	1mm以下の砂粒	高台部1/6
398	たわみ 3	緑釉陶器	皿				(2.4)	オリーブ黄色 (7.5Y6/3)	精良	京都 (9C後)、口縁部小片
399	たわみ 3	土師器	甕				(5.3)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	1～2mmの砂粒	口縁部1/8
400	たわみ 3	土師器	甕	27.4			(4.8)	灰褐色 (7.5YR5/2)	1～2mmの砂粒	口縁部小片
401	たわみ 3	土師器	甕				(7.3)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	1mm前後の砂粒	口縁部1/6
402	たわみ 3	土師器	甕	33.6			(7.3)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	1mm前後の砂粒	基底部片
403	たわみ 3	須恵器	蓋				(2.1)	灰色 (5Y6/1)	1mm以下の砂粒	大井部、基台状つまみ
404	たわみ 3	須恵器	杯			8.3	3.0	灰色 (5Y6/1)	1.5mm前後の砂粒	1/10
405	たわみ 3	須恵器	杯	12.0		9.2	2.9	灰白色 (5Y7/1)	精良	1/10
406	たわみ 3	須恵器	杯	12.2		8.2	3.9	灰白色 (5Y7/1)	1mm以下の砂粒	1/6
407	たわみ 3	須恵器	杯	11.8		8.1	3.1	灰色 (7.5Y6/1)	1mm以下の砂粒	1/8
408	たわみ 3	須恵器	杯	12.1		9.6	3.0	灰色 (N6/1)	1mm前後の砂粒	1/6
409	たわみ 3	須恵器	杯	12.7			(2.8)	灰白色 (5Y7/1)	精良	口縁部1/8
410	たわみ 3	須恵器	杯	13.2		8.5	3.8	灰色 (5Y6/1)	1mm前後の砂粒	1/4
411	たわみ 3	須恵器	杯	12.7		9.0	(2.0)	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm前後の砂粒	高台部1/4
412	たわみ 3	須恵器	杯			9.6	(1.6)	灰色 (7.5Y6/1)	1mm前後の砂粒	高台部1/6
413	たわみ 3	須恵器	杯			10.2	(1.2)	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm以上の砂粒	高台部1/4
414	たわみ 3	須恵器	杯			13.0	(1.1)	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm前後の砂粒	高台部1/4
415	たわみ 3	須恵器	皿			16.8	(3.0)	灰白色 (5Y8/1)	1～3mmの砂礫	1/6
416	たわみ 3	須恵器	壺	17.6		11.6	(4.3)	灰色 (N6/0)	1～4mmの砂礫	高台部1/6
417	たわみ 3	須恵器	壺			15.0	(4.7)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm前後の砂粒	高台部1/8
418	たわみ 3	須恵器	甕				(12.5)	灰色 (10Y6/1)	精良	胴部片、車輪文
419	たわみ 3	須恵器	甕				(7.0)	灰色 (7.5Y6/1)	1mm以下の砂粒	胴部片
420	たわみ 3	須恵器	擂鉢				(3.7)	灰白色 (N7/0)	1mm前後の砂粒	東播、口縁部小片
421	包含層	土師器	杯				3.4	灰白色 (2.5Y8/2)	精良	須恵器?、1/9
422	包含層	須恵器	杯	16.8		6.6	3.3	灰白色 (10Y8/1)	1mm以下の砂粒	1/6
423	包含層	須恵器	杯	10.5		9.7	3.1	灰色 (N5/0)	1mm以下の砂粒	1/4
424	包含層	須恵器	杯	13.1		9.8	(2.1)	灰色 (N6/0)	1mm以下の砂粒	高台部1/4
425	包含層	土師器	鉢		19.6		(7.2)	灰白色 (10YR8/2)	1～2mmの砂粒	口縁～体部1/8、丹塗
426	包含層	須恵器	壺	22.9			(5.3)	灰色 (N5/0)	精良	胴部1/5
427	包含層	須恵器	甕				(6.2)	灰色7.5Y5/1)	1mm前後の砂粒	口縁部1/8
428	包含層	須恵器	甕	31.6			(4.1)	灰白色 (N7/0)	1mm前後の砂粒	口縁部1/6
429	包含層	須恵器	碗	28.3	24.8	5.9	(1.1)	灰白色 (10Y7/1)	1mm以上の砂粒	底部糸切、1/2
430	包含層	土師器	鉢			14.2	6.6	黒色 (N2/0)	精良	瓦質、1/10
431	包含層	土師器	鍋	24.0			(6.4)	鈍い橙色 (5YR6/4)	1mm前後の砂粒	口縁部片
432	包含層	陶器	擂鉢				(4.1)	鈍い赤褐色 (2.5YR4/3)	1～3mmの砂礫	備前、口縁部小片
433	包含層	陶器	擂鉢				(5.3)	鈍い橙色 (2.5YR6/4)	1mm以上の砂粒	備前、口縁部小片
434	包含層	陶器	拵鉢				(3.9)	灰色 (N5/0)	精良	備前、口縁部小片
435	包含層	陶器	擂鉢				(4.0)	灰赤色 (2.5YR4/2)	1～2mmの砂粒	備前、口縁部小片
436	包含層	陶器	擂鉢			13.0	(4.2)	灰小片 (N7/0)	1mm以下の砂粒	備前、底部1/5
437	包含層	陶器	擂鉢			11.8	(3.2)	灰色 (N6/0)	1mm以上の砂粒	備前、底部1/6
438	土壇11	陶器	鉢	22.7			(3.3)	灰オリーブ (7.5Y5/3)	精良	口縁部1/12
439	土壇11	陶器	灯明皿	9.9			(1.4)	赤褐色 (10R4/3)	精良	備前、下皿、1/10
440	土壇13	陶器	鉢	16.2			(4.4)	鈍い赤褐色 (2.5YR4/2)	精良	口縁部1/8
441	土壇13	染付	杯			4.0	(1.7)	灰白色 (N8/0)	精良	高台部1/2
442	土壇13	染付	碗			3.8	(3.5)	灰白色 (N8/0)	精良	肥前、蛇ノ目釉剥ぎ、5/6
443	掘立柱建物 2	土師器	皿			6.8	(1.3)	灰白色 (2.5Y8/2)	1mm以下の砂粒多	丹塗、高台部1/6
444	掘立柱建物 2	土師器	杯	14.6		11.6	3.4	灰白色 (2.5Y8/2)	1mm以下の砂粒	丹塗、口縁部1/6
445	井戸 2	須恵器	甕			24.1	(24.0)	暗灰色 (N3/)	1～4mmの砂礫	亀山、胴～底部1/8
446	井戸 2	土師器	皿	12.6			(3.4)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	精良	口縁部1/8
447	井戸 2	土師器	皿	9.2			(2.1)	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	口縁部小片
448	井戸 3	黒色土器	碗			7.5	(2.9)	浅黄褐色 (10YR8/3)	精良	高台部1/4
449	井戸 3	土師器	杯			7.6	(1.3)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	精良	底部へう切、1/8
450	井戸 3	土師器	皿	10.6			1.6	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm以下の砂粒	底部へう切、1/2
451	井戸 3	土師器	皿	10.4			2.2	褐色 (5YR6/6)	1mm以下の砂粒多	底部へう切、復元完形
452	井戸 4	黒色土器	碗		6.4		(1.3)	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	1mm前後の砂粒	高台部1/4
453	井戸 4	土師器	碗		8.5		(2.2)	鈍い褐色 (5YR6/4)	1mm以上の砂粒	高台部1/5
454	井戸 5	土師器	碗	15.8	6.8	5.8		褐灰色 (10YR4/1)	1mm以下の砂粒	高台部1/4
455	井戸 5	土師器	碗	6.5			(1.4)	灰黄褐色 (10YR6/2)	1.5mm以下の砂粒	高台部1/2
456	井戸 5	黒色土器	碗	6.2			(2.3)	鈍い黄褐色 (10YR7/4)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/1
457	井戸 5	黒色土器	碗			6.7	(1.8)	鈍い褐色 (7.5YR7/3)	1mm以上の砂粒多	高台部3/4
458	井戸 5	黒色土器	托			6.6	(1.7)	鈍い褐色 (7.5YR7/3)	1mm以下の砂粒多	高台部1/2
459	井戸 5	土師器	杯	13.6		8.8	3.1	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/4
460	井戸 5	土師器	杯	14.9		9.8	3.4	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/2
461	井戸 5	土師器	杯	15.8		8.3	3.2	鈍い褐色 (7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	底部へう切、1/2
462	井戸 5	須恵器	鉢	27.8			(7.0)	灰色 (5Y6/1)	2mm以下の砂粒多	東播、口縁～胴部1/6

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
463	井戸6	黒色土器	椀			7.2	(2.2)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	精良	高台部1/4
464	井戸6	土師器	椀	15.2		9.0	6.2	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	2mm以下の砂粒多	口縁部1/2
465	井戸6	土師器	椀	15.8		7.4	6.2	灰白色 (10YR7/1)	1mm以下の砂粒多	須恵質、高台部1/6
466	井戸6	土師器	椀	10.8		5.0	3.5	灰褐色 (7.5YR6/2)	1mm以下の砂粒	完形
467	井戸6	土師器	椀			5.4	(1.8)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	1mm以下の砂粒	高台部1/2
468	井戸6	土師器	皿	9.6		5.4	2.0	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	2mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/2
469	井戸6	須恵器	壺			6.5	(2.0)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm以下の砂粒多	底部1/5
470	井戸6	土師器	釜	26.1	29.8		(5.9)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm前後の砂粒	口縁部1/8
471	井戸7	須恵器	杯	17.4			(4.8)	灰灰色 (2.5Y6/1)	1mm以下の砂粒	口縁部1/8
472	井戸7	土師器	椀			6.8	(2.1)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/4
473	井戸7	土師器	椀			7.0	(1.9)	灰白色 (2.5Y8/2)	0.5mm以下の砂粒	高台部1/1
474	井戸7	緑釉陶器	椀				(4.1)	灰みの貴緑色 (2.5GY5/2)	精良	近江 (10C中)、硬陶、1/6
475	井戸7	緑釉陶器	椀			6.8	(1.7)	灰みの貴緑色 (2.5GY5/2)	精良	近江 (10C中)、三叉トチン
476	井戸7	土師器	杯	13.9		8.2	2.9	黄灰色 (2.5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	1/6
477	井戸7	土師器	皿	10.1		4.6	2.4	灰黄褐色 (10YR5/2)	0.5mm以下の砂粒	3/4
478	井戸7	土師器	皿	9.7		7.6	1.7	橙色 (7.5YR7/6)	1～3mmの砂礫	底部ヘラ切、1/3
479	井戸7	土師器	皿	9.5		6.6	2.0	灰黄褐色 (10YR5/2)	1.5mm以下の砂粒	1/4
480	井戸7	土師器	甕				(3.6)	浅黄色 (2.5Y7/3)	1mm以下の砂粒多	口縁部小片
481	井戸7	土師器	甕				(3.2)	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm以下の砂粒多	口縁部小片
482	井戸8	須恵器	甕				(5.6)	灰色 (N4/)	1mm前後の砂粒	備前焼、胴部片
483	井戸8	土師器	椀	9.6			(1.6)	灰黄褐色 (10YR6/2)	精良	口縁部1/3
484	井戸8	土師器	椀			2.4	(9.0)	灰白色 (10YR8/2)	精良	早島式土器、高台部1/4
485	井戸8	土師器	鍋				(2.9)	灰黄褐色 (10YR5/2)	2mm以下の砂粒	口縁部小片
486	井戸9	黒色土器	椀			7.2	(3.3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	精良	高台部小片
487	井戸9	土師器	椀			8.2	(1.4)	灰白色 (5Y8/1)	精良	高台部1/2
488	井戸9	土師器	椀			8.5	(2.3)	鈍い橙色 (5YR6/3)	1mm前後の砂粒	底部ヘラ切、高台部1/6
489	井戸9	土師器	杯			9.5	(3.4)	灰黄色 (2.5Y7/2)	1mm以下の砂粒	底部ヘラ切、1/6
490	井戸9	土師器	皿			6.6	(1.3)	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	精良	底部ヘラ切、1/4
491	井戸9	緑釉陶器	一				(5.4)	オリーブ灰色 (10Y4/2)	精良	防炎? (10C)、軟陶、小片
492	井戸9	土師器	甕				(5.0)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm以下の砂粒	口縁部小片
493	井戸9	土師器	甕	26.2	31.0		(8.2)	黒色 (N2/)	精良	口縁～胴部1/12
494	井戸10	土師器	椀			5.8	(1.8)	灰白色 (2.5Y8/2)	精良	早島式土器、高台部1/4
495	井戸10	青磁	碗				(4.2)	オリーブ灰色 (10Y6/2)	精良	竜泉窯、体部小片
496	井戸10	須恵器	拵鉢				(4.2)	赤褐色 (10R4/3)	1mm以下の砂粒	備前、口縁部小片
497	井戸10	須恵器	拵鉢				(3.2)	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm以下の砂粒	束拵、口縁部小片
498	井戸10	土師器	鍋	25.0	27.4		(8.6)	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm前後の砂粒多	三足、口縁部1/6
499	井戸10	土師器	鍋				(4.1)	黒色 (N2/)	2mm以下の砂粒	口縁部1/12
500	井戸10	須恵器	甕				(6.5)	灰色 (N4/)	1mm以下の砂粒	亀山、口縁部1/12
501	井戸10	須恵器	甕	23.4	34.0		(10.2)	灰色 (N5/)	1mm以下の砂粒	束拵、口縁～胴部1/5
502	土壌15	黒色土器	椀			6.6	(5.3)	灰白色 (10YR8/2)	0.5～1mmの砂粒	1/8
503	土壌15	土師器	甕				(4.9)	灰褐色 (7.5YR4/2)	1～3.5mmの砂礫	口縁部小片
504	土壌15	土師器	甕	30.2			(21.9)	灰黄褐色 (10YR6/2)	0.5～1mmの砂粒	1/8
505	土壌15	須恵器	甕	23.6	42.1		(15.0)	灰色 (N5/)	1～3.5mmの砂礫	口縁～胴部1/8
506	土壌18	須恵器	甕				(0.8)	灰色 (10Y4/1)	1mm前後の砂粒	胴部片
507	土壌18	土師器	椀				(2.5)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒	早島式土器、口縁部小片
508	土壌18	土師器	椀			3.8	(0.8)	灰色 (N7/)	精良	早島式土器、高台部1/4
509	土壌18	土師器	椀			4.9	(1.0)	灰白色 (10YR8/2)	1mm以下の砂粒	早島式土器、高台部4/5
510	土壌19	須恵器	蓋	18.2			(2.1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1.5mm以下の砂粒	1/8
511	土壌19	須恵器	蓋	16.0			(1.5)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm以下の砂粒	1/12
512	土壌19	須恵器	杯	11.0		7.6	3.1	灰白色 (2.5Y7/1)	1mm以下の砂粒	1/8
513	土壌19	須恵器	壺	12.2			(4.2)	灰白色 (2.5Y7/1)	2mm以下の砂粒	口頸部1/4
514	土壌20	須恵器	甕				(6.6)	灰色 (N6/0)	1mm以下の砂粒	胴部片
515	土壌22	須恵器	甕				(20.3)	灰色 (N6/)	3～8mmの砂礫	備前、胴部片
516	溝16	須恵器	拵鉢	29.6			(6.8)	灰白色 (2.5Y7/1)	0.5～3mmの砂礫	束拵、口縁～体部1/10
517	包含層	須恵器	蓋				(3.3)	灰色 (10YR6/1)	1mm以下の砂粒	基石状つまみ
518	包含層	須恵器	蓋				(1.3)	黄灰色 (2.5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	基石状つまみ
519	包含層	須恵器	蓋	17.0			(2.2)	黄灰色 (2.5Y6/1)	精良	1/9
520	包含層	須恵器	蓋	16.2			(2.3)	灰色 (5B6/)	0.5～1mmの砂粒	1/6
521	柱穴	須恵器	杯	12.8		7.3	5.0	灰色 (N6/)	1mm以下の砂粒	3/4、復元完形
522	包含層	須恵器	杯	16.6			(4.9)	灰色 (N6/1)	1～3mmの砂礫多	口縁部1/8
523	包含層	須恵器	杯	16.4		9.5	5.7	灰白色 (N6/)	1～3mmの砂礫	1/3、復元完形
524	柱穴	須恵器	杯	12.8		9.1	3.3	灰白色 (5Y7/1)	1～2.5mmの砂粒	2/3
525	柱穴	須恵器	杯	11.8		9.0	3.4	灰色 (N6/)	1mm以下の砂粒	1/2、復元完形
526	包含層	須恵器	杯	12.3		10.0	3.3	灰白色 (2.5Y7/1)	精良	口縁部小片
527	包含層	須恵器	杯	13.0		8.0	3.7	灰白色 (5Y7/1)	1mmの砂粒	口縁部小片
528	包含層	須恵器	杯	13.6		9.8	3.4	灰白色 (2.5Y7/1)	1～5.5mmの砂礫	1/7

番号	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)				色 調	胎 土	特 徴
				口径	胴径	底径	器高			
529	包含層	須恵器	杯	13.0		7.7	3.2	灰色 (7.5Y6/1)	1～4.5mmの砂礫多	1/5
530	包含層	土師器	杯			9.2	(3.0)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒多	丹塗、1/4
531	包含層	須恵器	蓋				(1.6)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm以下の砂粒多	環状つまみ、大井部
532	包含層	土師器	皿	15.8		12.9	2.0	鈍い黄橙色 (10YR7/2)	1mm以下の砂粒	丹塗、1/5
533	柱穴	須恵器	皿	15.6		14.4	1.7	灰白色 (10YR8/2)	1～7mmの砂礫	3/4
534	包含層	黒色土器	碗	15.0		7.5	3.1	浅黄色 (2.5Y7/3)	精良	高台部1/3
535	包含層	黒色土器	碗	15.8			(4.6)	灰白色 (10YR8/2)	精良	1/8
536	柱穴	黒色土器	碗	16.2		7.6	5.7	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm前後の砂粒多	1/2
537	包含層	黒色土器	碗	17.2		8.2	6.8	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	精良	1/10
538	包含層	黒色土器	碗			6.5	(2.4)	灰白色 (5Y8/1)	精良	高台部2/3
539	柱穴	黒色土器	碗	15.4			5.0	褐灰色 (10YR4/1)	1～4mmの砂粒	1/3
540	包含層	黒色土器	碗			8.5	(3.4)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	精良	1/3
541	柱穴	土師器	碗	15.3			(4.9)	灰白色 (5Y8/1)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/8
542	包含層	土師器	碗			7.4	(1.6)	鈍い黄橙色 (10YR7/4)	1mm以下の砂粒	高台部1/2
543	包含層	土師器	碗			4.3	(1.7)	灰白色 (2.5Y8/1)	0.5mm以下の砂粒	早島式土器、高台部2/3
544	包含層	土師器	碗	14.3			(4.4)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒多	早島式土器、口縁部1/8
545	柱穴	土師器	杯			7.2	(1.8)	橙色 (5YR6/6)	1mm以下の砂粒	底部1/4
546	柱穴	須恵器	碗			6.0	(2.4)	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	底部糸切、1/6
547	包含層	土師器	碗	15.5			(5.3)	鈍い橙色 (7.5YR7/4)	1mm以下の砂粒	1/4
548	包含層	土師器	碗	15.2			3.6	浅黄色 (2.5Y7/3)	0.5mm以下の砂粒	1/3
549	包含層	土師器	碗	11.4			4.0	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒多	1/3
550	包含層	土師器	皿	10.3			2.2	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm以下の砂粒多	3/4、復元完形
551	柱穴	土師器	皿	9.8		7.5	1.9	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒	底部へう切、完形
552	柱穴	土師器	皿	10.6		7.8	2.0	灰黄褐色 (10YR5/2)	1mm以下の砂粒	底部へう切、1/3
553	包含層	土師器	皿	9.5		6.8	2.0	鈍い橙色 (5YR6/4)	1mm以下の砂粒多	底部へう切、1/2
554	包含層	土師器	皿	8.2		5.6	1.4	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	1mm以下の砂粒	底部へう切、完形
555	包含層	土師器	皿	7.8		7.0	1.1	灰白色 (5Y7/1)	1mm以下の砂粒多	底部へう切、1/5
556	柱穴	緑釉陶器	碗				(2.9)	柔かい黄緑色 (2GY7.5/4)	精良	防炎? (10C)、体部片、軟陶
557	包含層	灰釉陶器	碗			7.0	(1.4)	オリーブ灰色 (10YR5/2)	精良	東海、高台部1/6
558	包含層	白磁	碗			6.6	(1.6)	灰白色 (2.5GY8/1)	精良	高台部1/3
559	包含層	白磁	碗	16.1			(3.9)	灰白色 (7.5Y7/1)	精良	口縁部1/10
560	包含層	白磁	碗				(2.5)	灰白色 (10YR7/1)	精良	口縁部小片
561	柱穴	土師器	甕	19.2	18.2		(15.4)	鈍い赤褐色 (5YR5/4)	1mm以下の砂粒	1/4
562	包含層	土師器	甕	27.0			(9.1)	灰黄褐色 (10YR6/2)	1mm以下の砂粒	口縁～胴部1/12、復元
563	包含層	土師器	甕				(7.6)	鈍い黄褐色 (10YR5/3)	2mm以下の砂粒多	口縁～胴部片
564	柱穴	土師器	甕				(3.0)	鈍い赤褐色 (5YR5/4)	1mm前後の砂粒多	把手
565	柱穴	土師器	甕	36.4	33.7		(12.1)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	1mm以下の砂粒多	口縁～胴部1/6
566	柱穴	土師器	甕	40.8	38.2		(16.4)	灰褐色 (7.5YR4/2)	1mm前後の砂粒	口縁～胴部1/8
567	包含層	土師器	甕	28.0			(8.9)	橙色 (5YR6/6)	2mm以下の砂粒多	口縁～胴部1/6
568	包含層	土師器	甕	36.8			(15.4)	灰赤色 (10R4/2)	1～4mmの砂粒	口縁～胴部1/4
569	包含層	土師器	甕				(8.8)	鈍い褐色 (7.5YR5/4)	1～4.5mmの砂粒	焚口基部片
570	包含層	土師器	甕				(6.7)	灰褐色 (7.5Y5/2)	2mm以下の砂粒多	基部片
571	包含層	土師器	甕				(8.7)	鈍い褐色 (7.5YR5/3)	2mm以下の砂粒多	焚口片
572	包含層	土師器	蛸壺				(3.6)	橙色 (7.5YR7/6)	2mm以下の砂粒	吊手部
573	包含層	須恵器	甕	21.3			(5.8)	赤褐色 (10R4/3)	1mm前後の砂粒多	口縁部1/4
574	包含層	須恵器	甕				(4.5)	黄灰色 (2.5Y6/1)	1mm前後の砂粒	胴部1/5
575	柱穴	陶器	壺	13.5			(5.9)	灰赤色 (2.5Y5/2)	1～3mmの砂礫	備前、口縁～胴部1/5
576	包含層	陶器	壺				(11.3)	褐灰色 (5YR4/1)	1mm以下の砂粒多	備前、胴部片
577	包含層	陶器	拵鉢				(4.3)	暗赤灰色 (10R4/1)	1mm前後の砂粒	備前、口縁部片
578	包含層	陶器	拵鉢				(4.0)	褐灰色 (10YR5/1)	1mm前後の砂粒多	備前、口縁部片
579	包含層	陶器	拵鉢				(5.7)	灰色 (7.5Y5/1)	1mm以下の砂粒	備前、口縁部片
580	包含層	陶器	拵鉢			13.2	(3.9)	灰赤色 (10R5/2)	0.5～2mmの砂粒多	備前、底部1/4
581	土壇24	染付	皿			4.2	(1.7)	青緑みの灰色 (5GY6/1)	精良	肥前、蛇ノ目釉剥ぎ、転用
582	土壇24	陶器	拵鉢				(3.7)	赤 (10R5/6)	0.5mm以下の砂粒	備前、口縁部片
583	土壇24	陶器	拵鉢				(4.1)	灰黄褐色 (10YR5/2)	1mmの砂粒	備前、体部片
584	土壇24	陶器	徳利		9.2	7.2	(5.5)	灰赤色 (2.5YR5/2)	0.5mm以下の砂粒	備前、胴～底部1/3
585	土壇25	土師器	片口	4.1		2.6	1.7	浅黄褐色 (10YR8/3)	精良	ミニチュア、完形
586	土壇25	陶器	碗			4.5	(2.2)	浅黄色 (2.5Y7/3)	精良	京系、高台部、転用

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	器 種	法 量 (cm)			重量 (g)	色 調	胎 土	特 徴
			長さ	幅	孔径				
C 1	土壇 6	平瓦	(16.5)	(13.0)			灰白色 (5Y7/1)	1~2mmの砂粒多	厚さ1.8cm、格子目叩き、布目
C 2	溝 3	羽口	(5.3)	(2.1)			鈍い赤褐色 (2.5YR5/5)	3mm以下の砂礫多	
C 3	河道	丸瓦	(13.0)	(8.3)			灰色 (N5/0)	3mm以下の砂礫多	厚さ2.2cm、布目
C 4	河道	平瓦	(8.0)	(7.5)			灰色 (N6/)	0.5mm前後の砂粒多	厚さ2.4cm、格子目叩き、布目
C 5	河道	円板形土製品	2.1	2.1		5.1	灰色 (N7/0)	精良	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C 6	河道	円板形土製品	2.6	2.6		9.8	灰色 (N6/0)	1mm以下の砂粒	厚さ1.3cm、須恵器片加工
C 7	河道	棒状土錘	7.2	1.2	0.3	13.7	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	両端に孔
C 8	河道	棒状土錘	7.4	1.0	0.2	9.4	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	両端に孔
C 9	河道	棒状土錘	(8.0)	1.2	0.4	(15.3)	浅黄色 (2.5Y7/3)	精良	両端に孔
C10	河道	棒状土錘	(5.3)	1.1	0.3	(7.9)	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	端欠損
C11	河道	管状土錘	3.9	1.5	0.3	8.5	黒色 (10YR2/1)	1.5mm以下の砂粒	完形
C12	河道	管状土錘	(3.5)	1.4	0.3	(6.3)	黄灰色 (2.5Y4/1)	1mm以下の砂粒	一端欠損
C13	河道	管状土錘	6.4	2.8	1.0	54.9	鈍い黄褐色 (10YR5/4)	1mm以下の砂粒	完形
C14	河道	管状土錘	(5.9)	3.1	1.1	(44.6)	灰黄色 (2.5Y6/2)	1.5mm以下の砂粒	両端欠損
C15	河道	有溝土錘	5.0	2.9		27.5	灰黄色 (2.5Y7/2)	精良	完形
C16	河道	—	(6.9)	(3.9)			暗灰黄色 (2.5Y5/2)	0.5mm以下の砂粒	径7.6cmの円柱、スサ入、1/5
C17	河道	硯	14.3	(7.7)			灰色 (N5/0)	1mm前後の砂粒	須恵器壺高台部転用
C18	河道内貝層	棒状土錘	(5.4)	1.1	0.3	(9.0)	鈍い黄褐色 (10YR5/3)	精良	端欠損
C19	河道内貝層	棒状土錘	(4.7)	1.1	0.3	(7.3)	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm以下の砂粒	一端欠損
C20	河道内貝層	棒状土錘	(4.6)	1.2	0.3	(8.0)	灰黄色 (2.5Y6/2)	0.5mm以下の砂粒	一端欠損
C21	河道内貝層	棒状土錘	(4.5)	1.0	0.2	(5.7)	鈍い黄褐色 (10YR5/3)	0.5mm以下の砂粒	端欠損
C22	河道内貝層	棒状土錘	(4.1)	1.0	0.2	(5.7)	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	端欠損
C23	河道内貝層	棒状土錘	(2.6)	1.2	0.3	(4.9)	灰色 (5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	一端欠損
C24	河道内貝層	棒状土錘	(2.3)	1.0	0.3	(2.7)	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	精良	一端欠損
C25	河道内貝層	棒状土錘	(2.0)	0.9	0.3	(2.4)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	端欠損
C26	河道内貝層	棒状土錘	(3.0)	0.9	0.3	(3.4)	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	端欠損
C27	河道内貝層	棒状土錘	(3.4)	1.1	0.4	(5.0)	灰黄色 (2.5Y6/2)	精良	一端欠損
C28	河道内貝層	棒状土錘	(3.6)	1.0	0.2	(5.9)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	一端欠損
C29	河道内貝層	棒状土錘	(3.7)	1.0	0.3	(5.2)	鈍い黄褐色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	端欠損
C30	河道内貝層	棒状土錘	(3.7)	1.3	0.3	(7.4)	鈍い黄褐色 (10YR6/4)	精良	端欠損
C31	河道内貝層	管状土錘	3.7	1.4	0.3	7.4	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	一端欠損
C32	河道内貝層	円板形土製品	2.7	2.5		10.2	青灰色 (5B5/1)	1mm以下の砂粒	厚さ1.1cm、須恵器片加工
C33	たわみ 1	円板形土製品	2.6	2.4		9.2	青灰色 (5B5/1)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.0cm、須恵器片加工
C34	たわみ 2	平瓦	(8.0)	(5.0)			灰色 (5Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	厚さ1.4cm、格子目叩き、布目
C35	たわみ 2	平瓦	(8.0)	(6.3)			灰色 (5Y6/1)	0.5mm前後の砂粒	厚さ1.9cm、格子目叩き、布目
C36	たわみ 2	円板形土製品	1.9	1.9		3.8	灰色 (N5/0)	0.5mm以下の砂粒	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C37	たわみ 2	円板形土製品	2.2	1.9		5.2	灰色 (N4/0)	精良	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C38	たわみ 2	円板形土製品	2.1	1.9		4.6	灰色 (N5/0)	1mm以下の砂粒	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C39	たわみ 2	円板形土製品	2.4	1.8		6.2	灰色 (N5/0)	1.5mm以下の砂粒	厚さ1.0cm、須恵器片加工
C40	たわみ 2	円板形土製品	2.0	1.7		6.4	灰色 (N6/0)	精良	厚さ1.4cm、須恵器片加工
C41	たわみ 2	円板形土製品	2.2	1.9		6.4	灰色 (N6/0)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.3cm、須恵器片加工
C42	たわみ 2	円板形土製品	2.4	2.1		8.8	灰色 (5Y6/1)	精良	厚さ1.4cm、須恵器片加工
C43	たわみ 2	円板形土製品	2.4	1.9		6.5	灰色 (5Y6/0)	精良	厚さ1.1cm、須恵器片加工
C44	たわみ 2	円板形土製品	2.7	1.9		8.1	灰色 (N5/0)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.1cm、須恵器片加工
C45	たわみ 2	円板形土製品	2.6	2.3		7.6	灰色 (N7/0)	精良	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C46	たわみ 2	円板形土製品	2.7	2.2		9.5	灰色 (N5/0)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.3cm、須恵器片加工
C47	たわみ 2	円板形土製品	2.5	2.4		7.5	灰色 (N6/0)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.0cm、須恵器片加工
C48	たわみ 2	円板形土製品	2.7	2.6		6.9	灰色 (N4/0)	精良	厚さ0.8cm、須恵器片加工
C49	たわみ 2	円板形土製品	2.5	2.4		9.7	灰色 (N5/0)	1mm以下の砂粒	厚さ1.4cm、須恵器片加工
C50	たわみ 2	円板形土製品	2.2	2.0		8.7	灰色 (N5/0)	精良	厚さ1.5cm、須恵器片加工
C51	たわみ 2	円板形土製品	2.3	2.1		6.8	暗青灰色 (10BG4/1)	1mm以下の砂粒	厚さ1.2cm、須恵器片加工
C52	たわみ 2	円板形土製品	2.2	2.1		7.1	灰色 (N6/0)	1.5mm以下の砂粒	厚さ1.2cm、須恵器片加工
C53	たわみ 2	円板形土製品	2.5	2.4		7.6	灰色 (N5/0)	精良	厚さ1.1cm、須恵器片加工
C54	たわみ 2	円板形土製品	2.4	2.3		8.4	灰色 (N6/0)	精良	厚さ1.4cm、須恵器片加工
C55	たわみ 2	円板形土製品	2.4	2.4		7.3	灰色 (N5/0)	精良	厚さ0.9cm、須恵器片加工
C56	たわみ 2	円板形土製品	2.9	2.8		11.1	灰色 (7.5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.1cm、須恵器片加工
C57	たわみ 2	円板形土製品	3.1	2.8		13.5	灰色 (N6/0)	精良	厚さ1.3cm、須恵器片加工
C58	たわみ 2	円板形土製品	3.0	2.9		15.4	灰色 (N5/0)	精良	厚さ1.3cm、須恵器片加工
C59	たわみ 2	棒状土錘	(3.0)	1.3	0.3	(5.2)	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	1mm以下の砂粒	一端欠損
C60	たわみ 2	棒状土錘	(3.4)	1.1	0.4	()	鈍い黄褐色 (10YR7/3)	精良	一端欠損
C61	たわみ 2	棒状土錘	(4.2)	1.1		(6.1)	鈍い黄褐色 (10YR7/2)	0.5mm以下の砂粒	両端欠損
C62	たわみ 2	有溝土錘	5.4	3.2		(44.5)	灰白色 (10YR8/2)	2.5mm以下の砂礫	
C63	たわみ 2	管状土錘	(7.0)	3.1	1.1	(37.6)	鈍い橙色 (5YR6/4)	1mm以下の砂粒	一端欠損
C64	たわみ 2	—	(5.8)	2.9		(39.5)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	2mm以下の砂粒	厚さ2.0cm、窯道具?
C65	たわみ 2	—	(7.4)	4.3		(57.0)	橙色 (7.5YR6/6)	1mm以下の砂粒	厚さ1.9cm、窯道具?
C66	水田	円板形土製品	2.3	2.2		9.7	灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5mm以下の砂粒	厚さ1.3cm、須恵器片加工

番号	出土遺構	器 種	法 量 (cm)			重量 (g)	色 調	胎 土	特 徴
			長さ	幅	孔径				
C 67	水田	円板形土製品	2.4	2.2		4.8	灰色 (10Y5/1)	粘両端	厚さ0.7、須恵器片加工
C 68	水田	円板形土製品	2.6	2.2		9.5	暗灰色 (N4/0)	1mm以下の砂粒	厚さ1.2、須恵器片加工
C 69	水田	円板形土製品	2.9	2.6		10.0	黒褐色 (10YR3/1)	1mm以下の砂粒	厚さ1.4、須恵器片加工
C 70	包含層	平瓦	(11.0)	(9.8)			灰白色 (2.5Y7/1)	2mm以下の砂粒	格子目叩き、布目
C 71	水田	泥仏	(3.8)	2.8		(10.9)	鈍い黄橙色 (10YR7/3)	0.5mm以下の砂粒	千手観音、型作
C 72	水田	管状土鍾	(4.9)	(3.4)	1.0	(46.7)	鈍い黄色 (2.5Y6/4)	0.5mm以下の砂粒	表面剥落
C 73	土壌9	—	(8.2)	(5.2)		232.1	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm前後の砂粒	被蝕?
C 74	溝7	円板形土製品	2.2	2.2		5.2	灰色 (N6/0)	精良	厚さ0.8、須恵器片加工
C 75	溝7	平瓦	(7.0)	(7.3)			灰白色 (10Y8/1)	1～2mmの砂粒	厚さ2.5、布目
C 76	溝8	円板形土製品	4.3	4.0		21.8	灰色 (N5/0)	1mm前後の砂粒	厚さ0.9、須恵器片加工
C 77	たわみ3	円板形土製品	3.0	2.4		7.4	灰色 (7.5Y4/1)	1mm前後の砂粒	厚さ0.8、須恵器片加工
C 78	たわみ3	円板形土製品	2.3	1.9		6.6	灰白色 (10Y7/1)	1mm以下の砂粒	厚さ1.3、須恵器片加工
C 79	たわみ3	管状土鍾	(4.1)	1.2	0.3	(8.7)	灰褐色 (7.5YR5/2)	1mm以下の砂粒	一端欠損
C 80	包含層	管状土鍾	(4.4)	1.1	0.3	(8.2)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm以下の砂粒	一端欠損
C 81	包含層	管状土鍾	6.0	1.1	0.3	8.2	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	精良	完形
C 82	包含層	管状土鍾	7.0	3.2	1.0	66.0	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	1mm前後の砂粒	完形
C 83	包含層	円板形土製品	2.3	2.1		6.6	灰白色 (10Y7/1)	1mm以下の砂粒	厚さ1.3、須恵器片加工
C 84	包含層	円板形土製品	2.5	2.2		21.8	灰色 (N5/0)	1mm前後の砂粒	厚さ0.9、須恵器片加工
C 85	土壌13	丸瓦	(7.7)	(8.7)			灰色 (N5/0)	精良	厚さ2.8、玉縁式、煙瓦
C 86	土壌13	軒棧瓦	34.1	(17.5)			浅黄色 (2.5Y8/3)	精良	厚さ1.8、唐草2転、煙瓦
C 87	井戸2	棒状土鍾	(3.4)	1.0	0.4	(3.4)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒	1/2残存
C 88	井戸2	石溝土鍾	4.9	(2.5)		(24.8)	鈍い橙色 (7.5YR6/4)	3～7mmの砂礫	一部欠損
C 89	井戸2	棒状土鍾	(4.1)	1.4	0.6	(9.8)	鈍い黄橙色 (10YR6/4)	3mm以下の砂粒	2/3残存
C 90	包含層	棒状土鍾	(4.8)	1.2	0.5	(8.3)	鈍い黄橙色 (10YR6/4)	1mm以下の砂粒	4/5残存両端に孔
C 91	包含層	棒状土鍾	(4.0)	1.5	0.5	(7.8)	灰褐色 (7.5YR5/2)	0.5mmの砂粒	2/3残存
C 92	包含層	棒状土鍾	(2.7)	1.8	0.6	(6.3)	鈍い黄橙色 (10YR6/3)	0.5mm以下の砂粒	1/3残存
C 93	包含層	棒状土鍾	(3.1)	1.3	0.5	(3.7)	鈍い橙色 (7.5YR7/3)	1mm以下の砂粒	1/2残存
C 94	包含層	棒状土鍾	(3.1)	1.3	0.5	(3.5)	浅黄色 (2.5Y7/3)	1mm以下の砂粒	1/2残存
C 95	包含層	棒状土鍾	(4.0)	1.2	0.4	(5.8)	褐色 (7.5YR4/1)	1mm以下の砂粒	2/3残存
C 96	柱穴	管状土鍾	(5.2)	1.0	0.3	(4.5)	鈍い黄橙色 (10YR6/4)	1mm以下の砂粒	一部欠損
C 97	包含層	管状土鍾	(5.3)	1.9	0.4	(12.6)	鈍い黄橙色 (10YR5/3)	1mm以下の砂粒	一部欠損
C 98	カクラン	猿形土製品	4.6	4.3			鈍い赤褐色 (5YR4/3)	精良	上半部欠損、「長古作」、備前

番号	出土遺構	種 類	材 質	法 量 (cm)			重量 (g)	時 期	備 考
				長さ	幅	厚さ			
M 1	河道	釘	鉄	(6.0)	1.3	0.8	(4.2)	10～11C	頭部折り曲げ
M 2	河道	刀子	鉄	(4.7)	1.1	0.5	(4.6)	10～11C	両端欠損
M 3	河道	刀	鉄	(24.6)	4.2	0.6	(178.1)	10～11C	茎欠損
M 4	たわみ2	—	銅	13.7	(2.9)	0.3	(22.6)	10～11C	椀?
M 5	たわみ2	釘	鉄	(2.2)	0.6	0.5	(0.7)	10～11C	頭部欠損
M 6	たわみ2	釘	鉄	(5.6)	1.2	0.8	(10.5)	10～11C	頭部欠損
M 7	水田	鉾	鉄	0.8	0.6	0.1	(0.2)		完存
M 8	水田	銭	銅	2.5	2.5	0.1	1.2	近世	古寛永
M 9	水田	釘	鉄	(2.3)	0.9	0.5	(1.5)		頭部・身部欠損
M10	水田	銭	銅	2.4	2.4	0.1	2.7	近世	古寛永?
M11	水田	釘	鉄	(6.1)	1.0	0.6	(7.1)		頭部折り曲げ、身部欠損
M12	水田	釘	鉄	(7.9)	0.9	0.5	(6.4)		頭部欠損
M13	水田	釘	鉄	(11.8)	1.2	1.0	(21.9)		両端欠損
M14	井戸1	釘	鉄	(3.0)	0.7	0.7	(1.1)	11C	頭部・身部欠損
M15	井戸1	釘	鉄	(5.8)	0.6	0.6	(5.6)	11C	頭部・身部欠損
M16	溝9	釘	鉄	(3.5)	0.6	0.6	(0.9)		頭部・身部欠損
M17	たわみ3	釘	鉄	(3.6)	1.1	1.1	(7.0)	9C	頭部・身部欠損
M18	井戸2	釘	鉄	(6.1)	2.2	1.2	(32.7)	12C	頭部折り曲げ、身部欠損
M19	井戸10	釘	鉄	(2.8)	1.2	0.5	(2.0)	14～15C	頭部折り曲げ、身部欠損
M20	井戸10	釘	鉄	(3.0)	1.6	1.0	(9.5)	14～15C	頭部折り曲げ、身部欠損
M21	井戸10	釘	鉄	(5.0)	1.5	1.0	(9.0)	14～15C	頭部折り曲げ、身部欠損
M22	井戸10	釘	鉄	(5.8)	1.4	1.1	(9.9)	14～15C	頭部折り曲げ、木質付着
M23	包含層	釘	鉄	(7.4)	0.8	0.7	(13.0)		頭部欠損
M24	包含層	釘	鉄	(6.9)	1.2	0.8	(19.7)		頭部折り曲げ
M25	柱穴	釘	鉄	(5.2)	1.7	1.0	(25.1)		頭部折り曲げ、身部欠損
M26	包含層	釘	鉄	(4.4)	0.6	0.5	(2.4)		頭部欠損
M27	包含層	釘	鉄	(3.0)	1.6	1.0	(9.4)		頭部折り曲げ、身部欠損
M28	柱穴	釘	鉄	(2.3)	0.9	0.7	(5.0)		頭部折り曲げ、身部欠損
M29	包含層	釘	鉄	(2.1)	1.0	0.8	(3.0)		頭部折り曲げ、身部欠損
M30	包含層	金具	銅	(2.5)	0.6	0.1	(0.6)	近世?	鍍金

第2章 調査の概要

番号	出土遺構	種 類	木 取	法 量 (cm)				時 期	備 考
				長さ	幅	高さ	厚さ		
W 1	井戸1	曲物側		40.9	37.6	27.0		11C	1列綴、平行ケビキ
W 2	井戸1	曲物側		50.1	48.0	25.7		11C	1列綴、斜格子ケビキ、簀3段
W 3	井戸2	曲物側		71.9	41.3	41.5		12C	1列綴、釘留、斜格子ケビキ、簀3段
W 4	井戸2	曲物側		49.7	44.3	21.9		12C	1列綴、釘留、平行ケビキ、簀2段
W 5	井戸4	曲物側		46.3	42.8	27.6		10～11C	1列綴、釘留、斜格子ケビキ、簀1段
W 6	井戸5	曲物底	板目	(55.6)	(26.7)		1.4	10～11C	1/2残存
W 7	井戸5	曲物底	板目	(31.6)	(9.6)		1.0	10～11C	1/4残存
W 8	井戸5	曲物底	板目	(43.1)	(5.2)		0.7	10～11C	綴穴
W 9	井戸5		板目	(34.3)	(2.8)		1.4	10～11C	一端欠損
W10	井戸5	折敷	板目	31.9	(11.1)		1.1	10～11C	1/3残存、線条痕、綴穴
W11	井戸7	曲物側		50.7	46.4	39.6		10～11C	1列綴、釘留、斜格子ケビキ、簀3段
W12	井戸9	曲物側		54.8	44.8	35.8		10～11C	1列綴、釘留、斜格子ケビキ、簀2段
W13	井戸10	折敷	板目	34.5	(18.8)		0.9	14～15C	1/2残存、両面に線条痕、綴穴
W14	井戸10	折敷	板目	34.5	(9.8)		0.7	14～15C	1/4残存、線条痕、綴穴
W15	井戸10	杭	板目	67.3	4.1		1.3	14～15C	下端に孔
W16	井戸10	樋?		61.0	(73.8)		7.1	14～15C	鉄釘遺存
W17	井戸10	板材	板目	(102.2)	9.1		1.0	14～15C	一端欠損
W18	井戸10	部材	板目	(129.3)	15.3		2.9	14～15C	両端欠損、樋穴、鉄釘遺存

第3章 総括

第1節 調査地の変遷

奈良時代以前

この遺跡の基盤となる砂質土層からは弥生～古墳時代にわたる遺物が出土しており、この微高地が形成された時期を物語る。これらは幾分摩滅しているものの、破片としては大形であり、比較的距離からの流入が想定できる。

平安時代

この遺跡で確認された遺構の中で最も古く位置づけられるのは3区の掘立柱建物2で、9世紀に比定される。また、1区の河道や2区のたわみからもこの時期の土師器や須恵器、緑釉陶器などが出土していて、調査地一帯が居住域として利用されていたものと思われる。

続く10～11世紀には遺構が増加し、多数の柱穴や井戸・土壇などが残されている。この時期の掘立柱建物は詳細不明ながら、柱穴は3区の北東と、2区の南から3区の南西に及ぶ範囲に集中しており、井戸もその南縁や北縁に列をなして分布する。さらにこれらは、その位置関係から井戸2・3・4、井戸6・7a・7b、井戸1・8・土壇8のまとまりを抽出することが可能であり、それぞれに変遷が推定される。これらが屋敷地のような一定の空間的広がりには帰属していたことを示す手掛かりに乏しいものの、少なくとも複数の居住単位を認めてよいように思われる。この時期、1区の河道へ獣骨や貝殻などの食物残渣とともに廃棄された多量の土器の中に、緑釉陶器や灰釉陶器などが含まれていることを想えば、これらを鹿田荘の経営に携わる人々の住居と想定することは許されるだろう。

鎌倉時代以降

13～14世紀には遺構数が著しく減少し、その分布も井戸8・10など3区の南西に偏る。2区には、埋没しつつある北側の河道から南へ導水する水路が掘削され、居住域周辺も耕地として利用されていたものと推定される。

しかし、室町時代にはもはや居住域として利用されず、専ら耕地としての活用が図られたようで、17～18世紀にはほぼ全域が水田化されたものと思われる。大正時代の岡山医学専門学校・付属病院建設などを契機に市街地化が進むまで、永く農村の景観を保ち続けた。

(亀山)

第2節 鹿田遺跡の自然科学分析

1 はじめに

鹿田遺跡では、ほぼ全域にわたって中世～近代の水田と思われる土層が確認されている。このため、1区と2区の堆積層について稲作の可能性を検討するとともに、当時の環境を復元する手掛かりを得ることを目的として土壌分析を古環境研究所に依頼した。

また、1区の北西で検出された古代の河道についても、その堆積環境を知るために、堆積層の土壌分析をあわせて依頼した。

2 分析結果

プラント・オパール分析（第8・33図、表2）

1区の北西壁土層断面（第8図）では、分析を行ったすべての試料からイネのプラント・オパールが検出されている。このうち明治時代の旧耕作土ではプラント・オパール密度が10,500個/gと非常に高い値である。このことは、同層において稲作が行われていたことを示すものであり、耕作土であるという所見に矛盾しない。近世～近代の畦畔とされる2層および近世の耕作土とされる3層では、プラント・オパール密度が10,000個/g、7,500個/gであり、稲作跡の検証や探査を行う際の判断基準である5,000個/gを大きく上まわっている。したがって、これらについては稲作跡（水田畦畔および水田耕作土）である可能性が極めて高いと判断される。なお、中世～近世の耕作土とされる4層、中世の河道最上層の12層および微高地上の近世～近代の耕作土とされる試料No.4では、プラント・オパール密度が1,100個/g～2,100個/gとやや低い値である。したがって、これらについては調査地点もしくは近傍において稲作が行われていた可能性が考えられる。仮に、この地点で稲作が行われていたとするならば、プラント・オパール密度が低いことの原因として、1）稲作の行われていた期間が短かった、2）稲藁の大部分が水田の外へ持ち出されていた、3）土層の堆積速度が速かった、4）稲の生産性が低かった、などがあげられる。イネ以外の分類群の検出状況を見てみると、各試料でネザサ節型とクマザサ属型が、また、旧耕作土でヨシ属、2層でシバ属がそれぞれ検出されている。これらのことから、旧耕作土の時期の1区周辺は比較的湿った環境であったと推定される。その他の層では周辺にネザサ節やクマザサ属などのササ類が生育していたと推定される。

2区の南西壁土層断面（第33図）では、近世以降の7層、中・近世以降の8・14・15層よりイネのプラント・オパールが検出されている。このうち、7層と14層ではプラント・オパール密度がそれぞれ9,100個/g、13,700個/gであり、いずれも稲作跡の判断基準値を大きく上まわっている。このことから、両層については稲作跡（水田跡）である可能性が極めて高いと考えられる。一方、8層と15層ではともにプラント・オパール密度が2,300個/gと低い値である。したがって、これらの層においても稲作が行われていた可能性が考えられるものの、上層あるいは他所からプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。イネ以外の分類群では、各試料でヨシ属、ススキ属、ネザサ節型とクマザサ属型が、また、15層でシバ属がそれぞれ検出されている。こうしたことから、これらの層が堆積

した時期の2区周辺は比較的乾いた環境であったと推定される。なお、周辺にはヨシの生育する湿地も見られたと推定される。

種実同定（第13図、表3）

1区の河道内貝層（第13図C-D断面7層）からは、コナギが多く検出された。コナギは水田に普通に見られ、ときにため池や河川の浅水域にも生育する。また、他の抽水植物も検出されていることから、この地点は湿潤な堆積環境であったと推定される。なお、栽培植物のオオムギ、ヒョウタン類は畑作物であることから、周辺で畑作が行われていたことがうかがえる。ただし、貝を含む堆積物であることから、これらが貝とともに投棄された可能性も考えられる。詳細な検討を行うためには、当該時期の貝層以外の堆積物についても分析を行うことが必要である。

珪藻分析（第13図、表4）

1区の河道最上層（第13図C-D断面1層）では、珪藻殻密度は非常に低い。堆積速度が速かった、淘汰により珪藻などの微遺体が堆積されなかった、珪藻の生育できない乾燥した環境であったことなどが考えられる。

古代の河道埋土（第13図C-D断面19層）では陸生珪藻と中～下流性河川指標種群が優先し、沼沢湿地付着性種群、生態性が不定の珪藻が低率ながら多様に出現する。また、真塩性種で汽水泥質干潟指標種群が低率に伴われる。こうしたことから、堆積地は河川の影響のある湿地の環境が示唆される。

河道内の貝層（第13図C-D断面7層）からは珪藻が検出されず、河道最上層と同様、堆積速度が速かった、淘汰により珪藻などの微遺体が堆積されなかった、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったことなどが考えられる。

寄生虫卵分析（第13図、表5）

1区の河道最上層（第13図C-D断面1層）では、寄生虫卵および明らかな消化残滓は検出されず、花粉密度も非常に低い。こうしたことから、寄生虫卵が分解によって失われたのか、当初より含まれていなかったのかは判断できない。

古代の河道埋土（第13図C-D断面19層）からは、少量の回虫卵、鞭虫卵、異形吸虫卵および石細胞が検出された。花粉密度は比較的高い。以上のことから、寄生虫卵が分解によって失われたとは考えにくく、人為環境からの若干の汚染があったと考えられる。

河道内の貝層（第13図C-D断面7層）からは、寄生虫卵および明らかな消化残滓は検出されなかったが、花粉密度は比較的高い。したがって、寄生虫卵のみが分解によって失われたとは考えにくく、当初より寄生虫卵は含まれていなかったと考えられる。このことは、人為環境から汚水が流れ込むような影響は受けていなかったことを意味する。

表2 鹿田遺跡のプラント・オパール分析結果

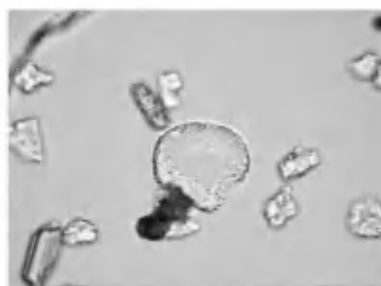
検出密度(単位:×100個/g)

分類群(和名・学名) \ 試料	西壁					微高地
	旧耕土	2層	3層	4層	12層	No.4
イネ科 Gramineae (Grasses)						
イネ <i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	105	100	75	14	11	21
ヨシ属 <i>Phragmites</i> (reed)	15					
シバ属 <i>Zoysia</i>		8				
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)						
ネザサ節型 <i>Pleioblastus</i> sect <i>Nezasa</i> type	38	15	33	14	6	14
クマザサ属型 <i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	30	31	91	21	28	21
その他 Others	15		8	7		7
未分類等 Unknown	158	107	182	62	90	129
プラント・オパール総数	360	260	390	117	135	193

分類群(和名・学名) \ 地点名 土層	南壁				
	7	8	14	15	18
イネ科 Gramineae (Grasses)					
イネ <i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	91	23	137	23	
ヨシ属 <i>Phragmites</i> (reed)	6	6	6	6	6
ススキ属型 <i>Miscanthus</i> type	12	17	6	6	12
シバ属 <i>Zoysia</i>				17	
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)					
ネザサ節型 <i>Pleioblastus</i> sect <i>Nezasa</i> type	43	23	30	17	17
クマザサ属型 <i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>) type	18	17	6	6	6
その他 Others	12	23			6
未分類等 Unknown	219	133	143	85	52
プラント・オパール総数	402	244	328	158	98



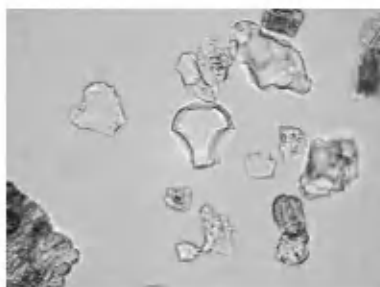
イネ



ヨシ属



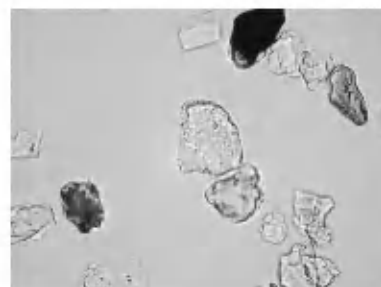
ススキ属型



シバ属



ネザサ節型



クマザサ属型

表3 鹿田遺跡における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	貝塚
				No.25
Herb		草本		
Alismataceae		オモダカ科	種子	2
<i>Hordeum vulgare</i> L.	* *	オオムギ	果実	2
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実	2
<i>Monochoria vaginalis</i> Presl var. <i>Plantaginea</i> Solms Laub.		コナギ	種子	43
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実	1
<i>Chenopodium-Amaranthus</i>		アカザ属ーヒユ属	種子	3
<i>Mollugo pentaphylla</i> L.		ザクロソウ	種子	3
Caryophyllaceae		ナデシコ科	種子	1
<i>Ranunculus scleratus</i> L.		タガラシ	果実	1
<i>Viola</i>		スミレ属	種子	2
Solanaceae		ナス科	種子	1
<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.	* *	ヒョウタン類	種子	1
Compositae		キク科	果実	2
<i>Chara</i>		シャジクモ属	卵胞子	1
Total		合計		65
Unknown		不明種実		2

* * 栽培植物 (500cm²中0.25mm篩)

鹿田遺跡の種実

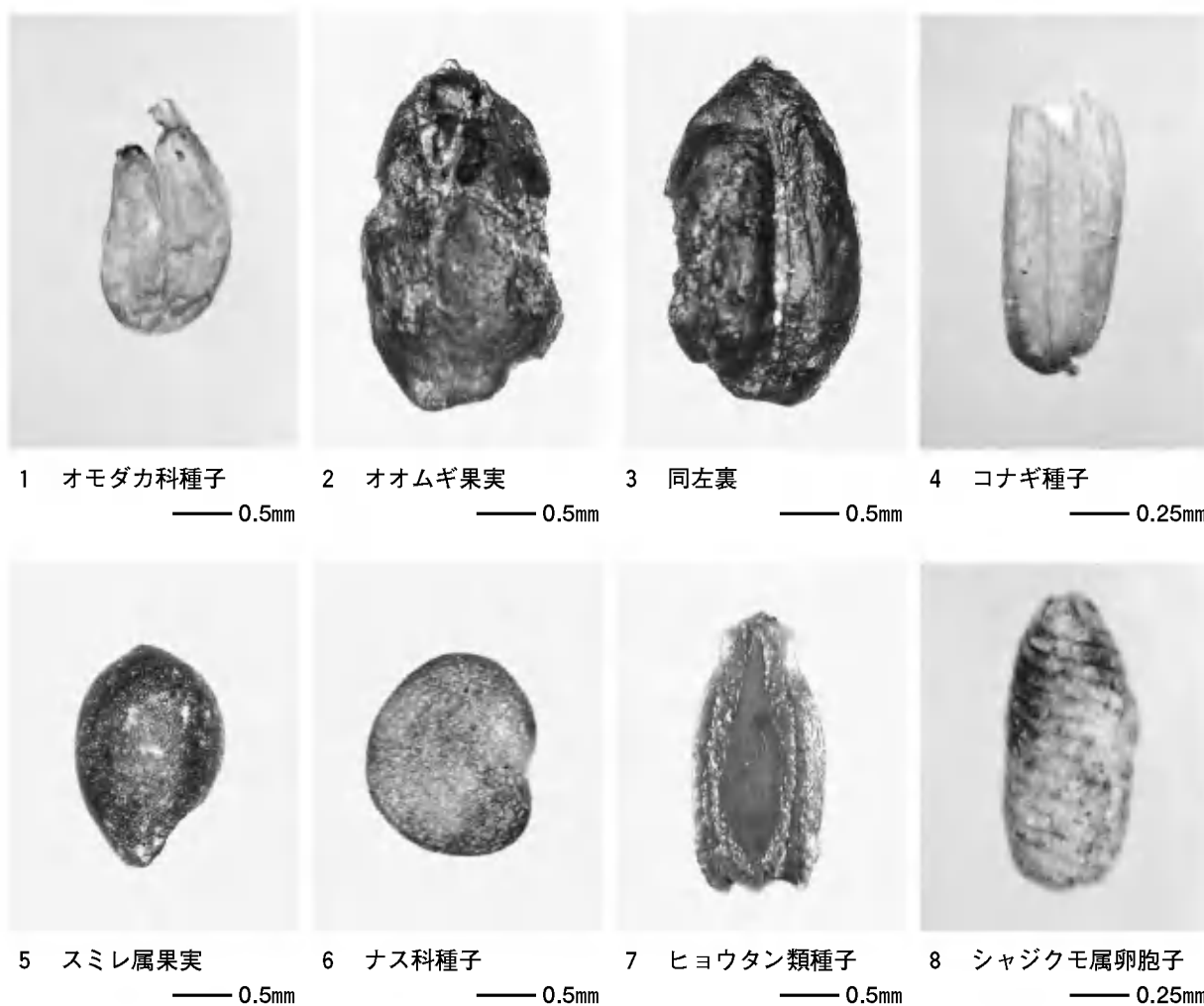


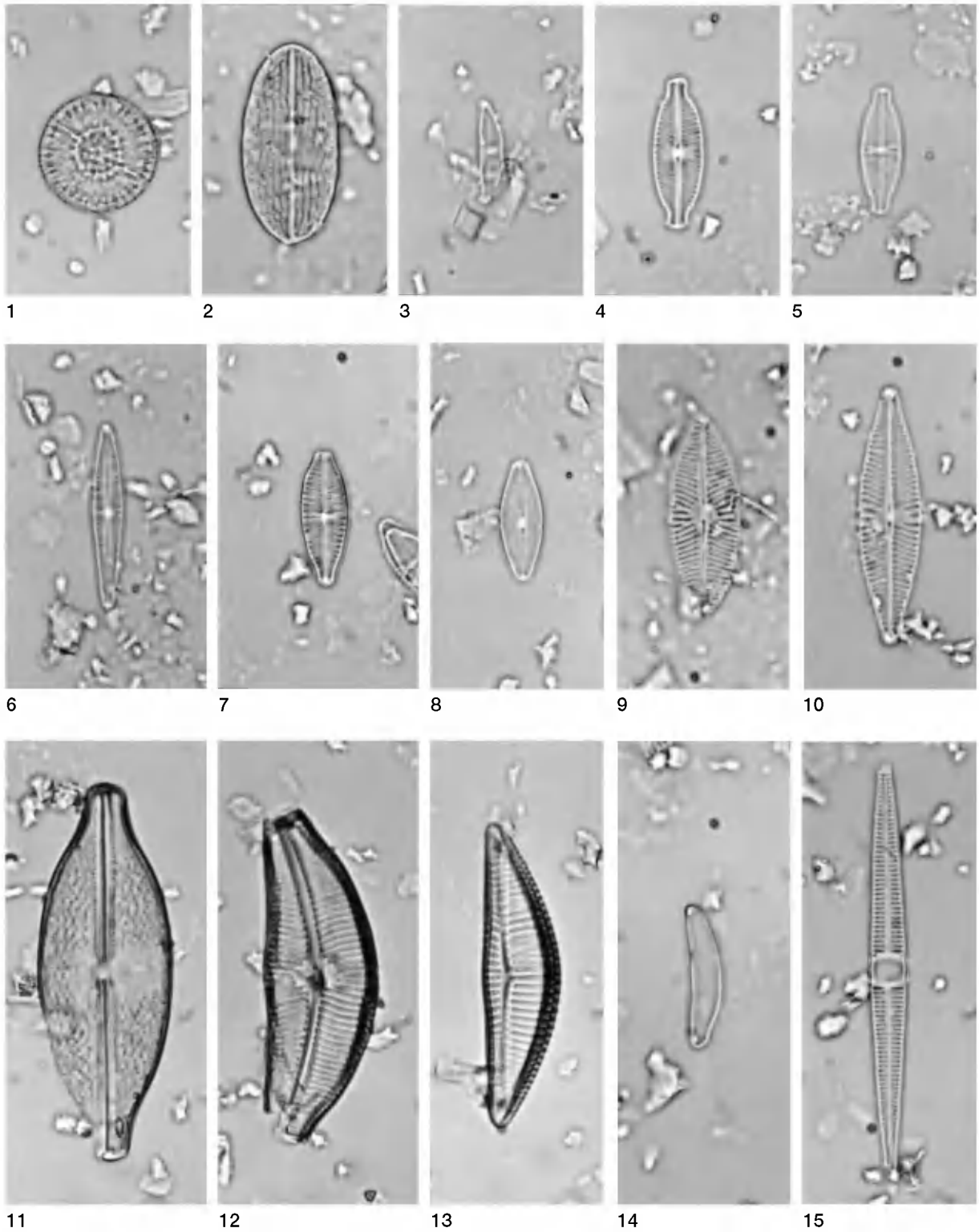
表4 鹿田遺跡における珪藻分析結果

分類群		No.9上層 ⑦	No.11上層 ⑨	No.25
貧塩性種(淡水生種)				
<i>Achnanthes lanceolata</i>			1	
<i>Amphora montana</i>			6	
<i>Anomoeoneis sphaerophora</i>			1	
<i>Cocconeis placentula</i>			2	
<i>Cyclotella</i> sp.		1	1	
<i>Cymbella gracilis</i>			1	
<i>Cymbella mesiana</i>			2	
<i>Cymbella sinuata</i>			1	
<i>Cymbella tumida</i>			1	
<i>Eunotia minor</i>			3	
<i>Fragilaria construens</i> v. <i>venter</i>			1	
<i>Fragilaria ulna</i>			2	
<i>Gomphonema augur</i>			1	
<i>Gomphonema gracile</i>			3	
<i>Gomphonema minutum</i>			2	
<i>Gomphonema parvulum</i>			15	
<i>Gyrosigma</i> sp.			1	
<i>Hantzschia amphioxys</i>			1	
<i>Navicula capitata</i>			1	
<i>Navicula clementoides</i>			1	
<i>Navicula confervacea</i>			24	
<i>Navicula contenta</i>			1	
<i>Navicula elginensis</i>			5	
<i>Navicula erifuga</i>			2	
<i>Navicula gallica</i>			1	
<i>Navicula kotschy</i>			3	
<i>Navicula pupula</i>			2	
<i>Navicula rhychocephala</i>			3	
<i>Navicula viridula</i> v. <i>rostellata</i>			1	
<i>Rhopalodia gibba</i>			1	
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>			1	
<i>Stephanodiscus</i> sp.			1	
中塩性種(汽水生種)				
<i>Achnanthes brevipes</i>		1		
<i>Diploneis pseudovalis</i>			1	
<i>Navicula menisculus</i> v. <i>upsaliensis</i>			8	
真塩性種(海水生種)				
<i>Actinocyclus</i> sp.			1	
<i>Coscinodiscus</i> sp.			1	

表5 鹿田遺跡における寄生虫卵分析結果

分類群		No.9上層 ⑦	No.11上層 ⑨	No.25
学名	和名			
Helminth eggs	寄生虫卵			
<i>Ascaris</i>	回虫卵		1	
<i>Trichuris</i>	鞭虫卵		5	2
<i>Metagonimus-Heterophyes</i>	異形吸虫卵		1	

鹿田遺跡の珪藻



— 10 μm

1. *Cyclotella* sp. 2. *Cocconeis placentula* 3. *Amphora montana* 4. *Navicula elginensis* 5. *Navicula kotschy*
 6. *Gomphonema gracile* 7. *Gomphonema parvulum* 8. *Navicula confervacea* 9. *Navicula upsaliensis*
 10. *Navicula rhychocephala* 11. *Anomoeoneis sphaerophora* 12. *Cymbella tumida* 13. *Cymbella mesiana*
 14. *Eunotia minor* 15. *Fragilaria ulna*

第3章 総括

整理番号	出土地点	取上番号	大分類	小分類	部位	L/R	部 分	破損度	色調	風化度	計測値mm	重量g	成長度	備考
1	1区No.12	B32	哺乳綱	ウシ	ト顎骨	L	完形(切歯部先端欠損)	偽切創(内側)、Cmなし?	茶褐色	ViV	残存全長357.6、咬合面長P-P30.63・M-M89.39・M-M48.38・M-M567.62、歯冠長P-M140.38	439.02	M ₁ 小窩連結	片減り、P ₂ 外側に放出
2	1区No.12	B17	哺乳綱	ウシ	ト顎骨	R	完形(筋突起一部欠損)	偽切創(外・内側)、Cmなし?	茶褐色	ViV		466.72	M ₁ 小窩連結	穿孔人為的か不明
3	1区No.12		哺乳綱	ウシ	P ₃ 上顎	R	完形	なし	茶褐色	ViV	咬合面長21.11、L33面幅14.98、歯冠長21.11、歯冠幅16.56、歯根一咬合面37.75、歯根又一咬合面24.42	9.09		
4	1区No.12		哺乳綱	ウシ	I ₃ 下顎	R	完形	なし	茶褐色	ViV	咬合面長13.03、咬合面一歯根37.72	2.00		
5	1区No.12		哺乳綱	ウシ	I ₃ 下顎	R	完形	なし	茶褐色	ViV	咬合面長12.36、咬合面幅10.94、歯根一咬合面37.14	2.40		
6	1区No.12	B03	哺乳綱	ウシ	頸椎	M	完形(後位、左右横突起一部欠損)	Cmなし?	茶褐色	ViV	BParc80.59、GI Pa64.31、Bfcar30.98	3.80		
7	1区No.12	B29	哺乳綱	ウシ	胸椎	M	完形(椎体、後位、下位一部欠損)	偽切創、棘突起、Cmなし?	茶褐色	ViV		93.33	uf(後位)、f(前位)	
8	1区No.12	B13	哺乳綱	ウシ	胸椎	M	完形(ト位、棘突起欠損)	Cmなし?	茶褐色	ViV	PI44.49	55.42	f	
9	1区No.12	B07	哺乳綱	ウシ	腰椎	M	完形(横突起、棘突起欠損)	不明	茶褐色	ViV	Bfcr52.61、TL61.10、HFcr35.71	112.21	f	
10	1区No.12	B27	哺乳綱	口不明、中～大型	椎骨	M	椎体+棘突起(一部欠損)	不明	茶褐色	ViV		40.22		
11	1区No.12	B06	哺乳綱	口不明、中～大型	椎骨	M	椎体+棘突起(一部欠損)	不明	茶褐色	ViV		26.33		
12	1区No.12	B21	哺乳綱	ウシ	肩甲骨	L	完形(後位、骨冠部一部欠損)	偽切創(外側)	茶褐色	ViV	SLC56.96、LG60.90、BG52.77	251.40	d,f	
13	1区No.12	B09	哺乳綱	ウシ	上腕骨	L	完形	近位端偽切創、Cmなし?	茶褐色	ViV	GLC258.55、GI I286.10、BT76.25、BD78.58、SD38.49、Bp91.40、Dp111.34	358.55	f	
14	1区No.12	B22	哺乳綱	ウシ	上腕骨	R	完形	遠位端前位C1aタイプ?	茶褐色	ViV	BT76.40、BD86.26、SD39.28	400.71	f	
15	1区No.12	B19	哺乳綱	ウシ	大腿骨	R	完形(遠位端前位一部欠損)	偽切創(近位端小髁、了骨幹部後位)	茶褐色	ViV	GLC337.60、Bd97.42、SD36.86、DC45.46	518.30	d,p,f	
16	1区No.12	B23	哺乳綱	ウシ	頭骨	L	完形	Cm有(D1aタイプ、遠位端外側)	茶褐色	ViV	SD33.85、BP76.36、GL310.75、LI295.30、Bd52.34、Dd41.39、近位端前後最大幅69.54	292.90	d,p,f	
17	1区No.12	B23	哺乳綱	ウシ	中足骨	L	完形	偽切創(dia後位)	茶褐色	ViV	SD28.70、BP48.40、GL212.16、GLI195.70、Bd55.63	192.67	d,p,f	
18	1区No.12	B30	哺乳綱	ウシ	中足骨	R	完形(遠位端一部欠損)	偽切創(dia前位)	茶褐色	ViV	SD25.40、GL205.90、Bp43.51	144.21	d,p,f	
19	1区No.12	B34	哺乳綱	ウシ	距骨	L	完形	Cmなし?	茶褐色	ViV	DM33.92、GCM56.24、DT33.75、GI161.42、Bd37.98	43.64	f	
20	1区No.12	B35	哺乳綱	ウシ	中心足根骨	L	完形	Cmなし?	茶褐色	ViV	Bd47.74	26.08	f	
21	1区No.12	B32	哺乳綱	ウシ	基節骨	L	完形	偽切創、前位	茶褐色	ViV	Bp29.11、SD24.90、GI56.16、近位関節最大高33.95	22.97	d,p,f	
22	1区No.12	B33	哺乳綱	ウシ	基節骨	r	完形	Cmなし?	茶褐色	ViV	Bp27.56、近位関節最大高30.20	16.84	d,p,f	
23	1区No.12		哺乳綱	ウシ	中節骨	r	完形	Cmなし?	茶褐色	ViV	Bp33.34、GL39.22、SD26.66、Bd27.08、近位関節最大高33.08	17.78		
24	1区No.12		哺乳綱	口不明	助骨	R	dia	Cmなし?	茶褐色	ViV		46.68		
25	1区No.12	B23	哺乳綱	口不明	助骨	dia		Cmなし?	茶褐色	ViV		33.63		
26	No.11		哺乳綱	ヒト	大腿骨	L	dia	Cm有(D1aタイプ、内側)	茶褐色	ViV	残存全長324.45	195.00		
27	No.11		哺乳綱	ニホンジカ	角	L	角冠+第1枝+角幹	Cm有(D1aタイプ、第1枝基部)	茶褐色	ViV	残存全長248.15、角幹前後長33.08	168.02		
28	No.11		哺乳綱	口不明、中～大型	尺骨	L	dia		茶褐色	ViV		31.75		
29	No.11下層		哺乳綱	口不明、中～大型	頭蓋骨	dia			茶褐色	ViV		62.70	f?	
30	No.11上層		哺乳綱	ウシ	肩甲骨	R	前位+骨幹部		茶褐色	ViV	GLP72.06	115.80	f	
31	No.11上層		哺乳綱	ウシ	肩甲骨	R	遠位端+骨幹部		茶褐色	ViV	SLC49.14	123.94	f	
32	No.11下層		哺乳綱	口不明、中～大型	肩甲骨	R	dia		茶褐色	ViV		26.40		
33	No.11上層		哺乳綱	偶蹄目、中型	上腕骨	L	近位端(大結節)	Cm有(D1Bタイプ、後位)	茶褐色	ViV		12.57	P,uf	
34	No.11下層		哺乳綱	ウシ	上腕骨	L	dia		茶褐色	ViV	SD31.58	86.03		
35	No.11上層		哺乳綱	口不明、中～大型	上腕骨	L	dia		茶褐色	ViV		230.34		

第2節 鹿田遺跡の自然科学分析

整理 番号	出土地点	取 番号	人分類	小分 類	部位	L R	部 分	破損度	色調	風化 度	計測値mm	重量 g	成長 度	備考
36	No.11下層		哺乳綱	ウシ	中手骨	L	完形	Cm有 (C1aタイプ、前位)	茶褐色	ViV	SD37.16、Bp58.10、Bd63.16	255.09	d,p:f	
37	No.11下層		哺乳綱	ウシ	中手骨	L	完形	Cmなし?	茶褐色	ViV	SD34.22、Bp58.08、Bd62.32、GL178.50、LI171.65	32.38	d,p:f	
38	No.11下層		哺乳綱	ウシ	中手骨	L	dia+遠位端		茶褐色	ViV	Bd65.88	97.72	d:f	
39	1区No.11下層		哺乳綱	ウシ	距骨	L	完形		茶褐色	ViV	GLI63.14、GLm59.02、Bd43.24、Dm35.02、DI39.14	74.50	f	
40	1区No.11		哺乳綱	H不明	肋骨		dia		茶褐色	ViV		34.20		
41	1区No.11上層		哺乳綱	ヒト	頭蓋骨		dia		茶褐色	ViV		23.13	uf	
42	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	歯冠部	R	M ₂		茶褐色	ViV		15.27	エナメル咬耗開始	
43	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	歯冠部	L	M ₁		茶褐色	ViV	歯冠長32.04、歯冠幅24.48	38.82	小窩独立	
44	1区No.11上層		哺乳綱	H不明、中型	頭蓋骨	R	前頭骨		茶褐色	ViV		6.19		
45	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	歯冠部	L	M ₂		茶褐色	ViV	歯冠長30.18、歯冠幅13.90	16.80		
46	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	上腕骨	L	dia		茶褐色	ViV		52.63		被蝕による黒変か
47	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	桡骨	L	完形	偽切創(dist)	茶褐色	ViV	Bp81.33、SD44.00	367.61	d,p:f	
48	1区No.11上層		哺乳綱	ウマ	肩甲骨	R	関節上結節		茶褐色	ViV		51.86	f	
49	1区No.11上層		哺乳綱	H不明	尺骨	L	骨幹部	Cmなし?	茶褐色	ViV	Bpc34.16	79.88	f	
50	1区No.11上層		哺乳綱	H不明	尺骨	L	骨幹部	Cmなし?	茶褐色	ViV		51.28		
51	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	中手骨	R	近位端+骨幹部		茶褐色	ViV	Bp59.16、SD34.69	136.50	p,f	
52	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	寛骨	R	寛骨F4+坐骨		茶褐色	ViV		65.65	f	
53	1区No.11上層		哺乳綱	H不明、中～大型	寛骨		寛骨F4破片		茶褐色	ViV		20.85		
54	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	踵骨	R	完形		茶褐色	ViV	GL129.12、GB41.80、GW52.90	127.15	f	
55	1区No.11上層		哺乳綱	イノシシ類	第4中足骨	L	近位端+dia		茶褐色	ViV	残存長72.98、近位関節最大高24.67	13.47	f	
56	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	基節骨	r	完形		茶褐色	ViV	GL48.14	17.31	d,p:f	
57	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	基節骨	r	完形		茶褐色	ViV	GL57.52、近位最大25.78/33.30	74.52	d,p:f	
58	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	距骨	R	完形(外側一部欠損)	Cm有(D1aタイプ、後位)	茶褐色	ViV	Dm37.18、GLm59.08、DI36.41	74.53	f	
59	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	踵骨	L	完形	Cm有(D1aタイプ、plox後位)	茶褐色	ViV	GL130.74、GW48.79、GB40.48	124.86	f	
60	1区No.11上層		哺乳綱	ウシ	末節骨	L	完形		茶褐色	ViV	GL53.68、関節部最大幅26.44	19.18	f	
61	1区No.11上層		哺乳綱	H不明、中～大型	肋骨		dia		茶褐色	ViV		10.42		
62	1区No.11上層		鳥綱	H不明	大腿骨	L	plox+dia	Cm有(Aaタイプ、plox)	茶褐色	ViV	残存長69.41	3.93	f	



1 1区南西（北東から）



2 土壌 1～3（西から）



3 土壌 5（南東から）



4 土壌 6（北西から）



5 土壌 7（南西から）

図版 2



1 1区北東（南から）



2 河道（北東から）



1 河道内獸骨出土状況（北東から）



2 河道内緑釉陶器出土状況（西から）



3 河道肩口土器出土状況（西から）



4 河道内貝層検出状況（北西から）



5 河道内遺物出土状況（西から）

図版 4



1 2区 (北西から)



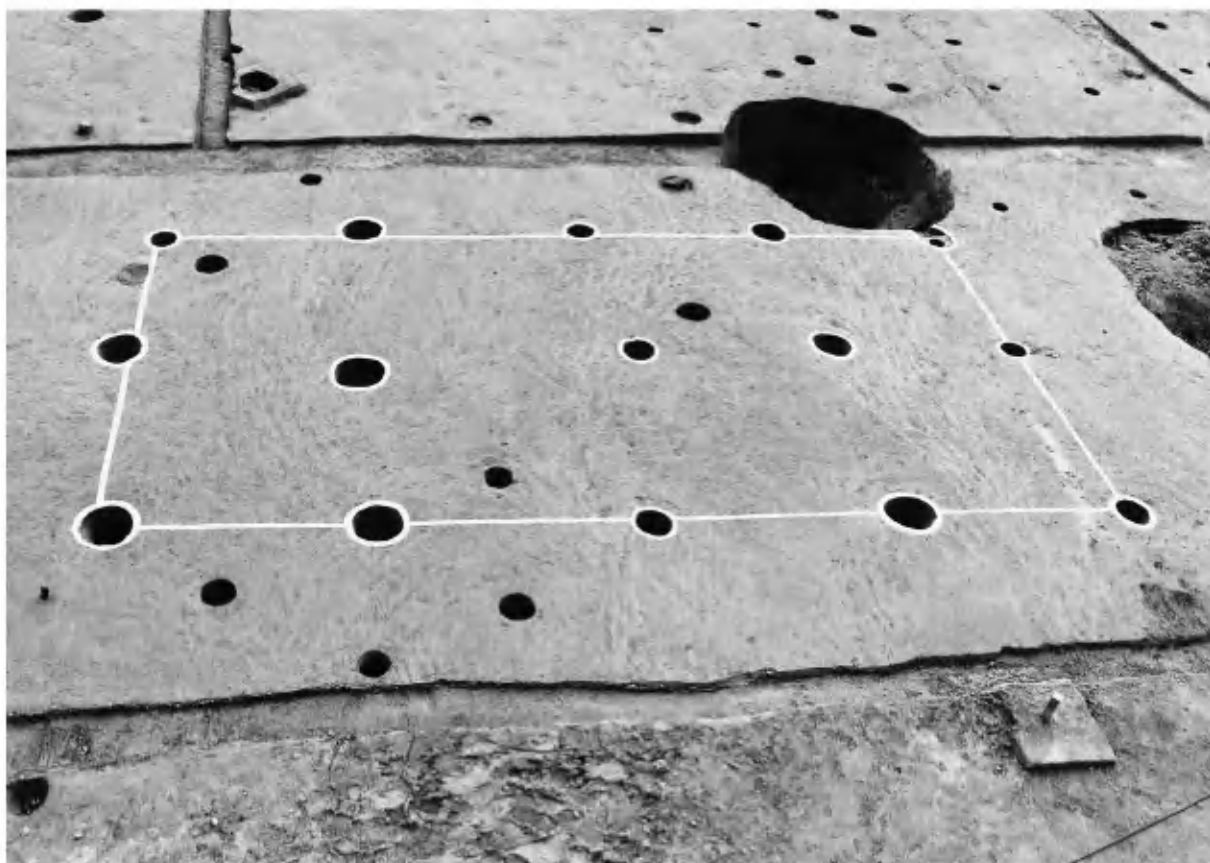
- 2 井戸1土層断面 (南西から)
- 3 井戸1水溜 (南西から)
- 4 土壌8 (南から)



1 3区南（北西から）



2 3区北（西から）



1 掘立柱建物 1 (北から)



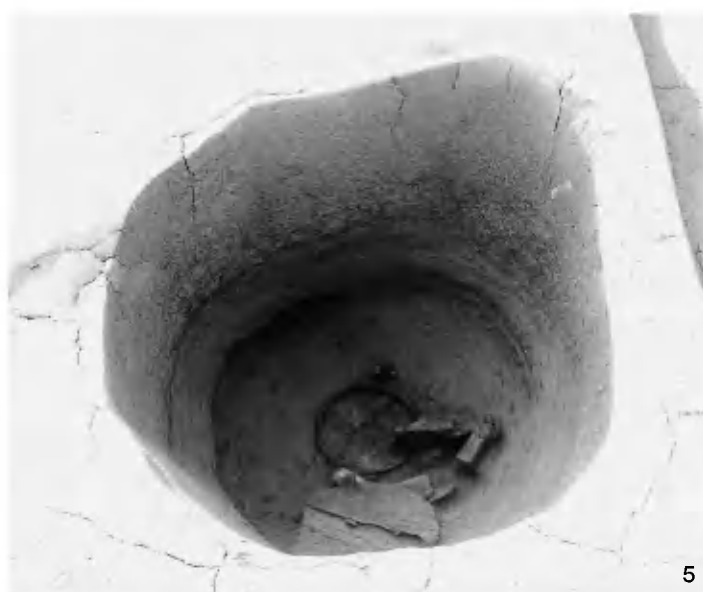
2 掘立柱建物 2 (北から)



1 井戸 2 (北東から)
2 井戸 2 水溜 (西から)



3 井戸 4 (東から)
4 井戸 4 水溜 (東から)



5 井戸 5 (東から)
6 井戸 5 水溜 (東から)

図版 8



1 井戸 7 (東から)
2 井戸 7 井戸側 (東から)



3 井戸 9 (北東から)
4 井戸 9 井戸側 (西から)



5 井戸 10 (北から)
6 井戸 10 水溜 (東から)



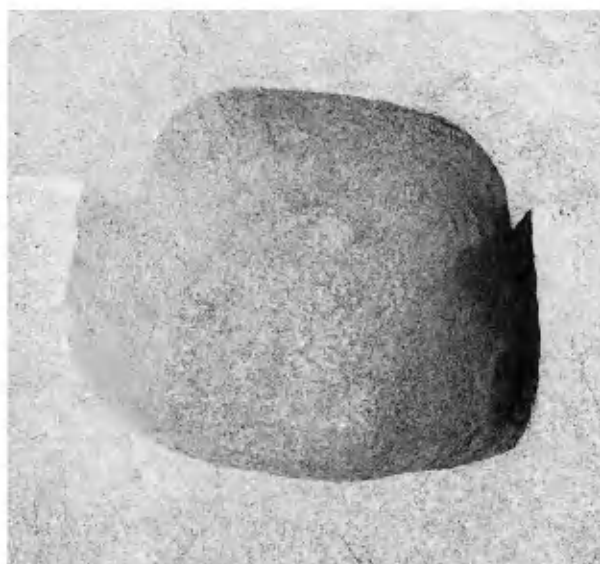
1 井戸 3 (東から)



2 井戸 8 (南から)



3 土壇16 (東から)



4 土壇18 (南から)

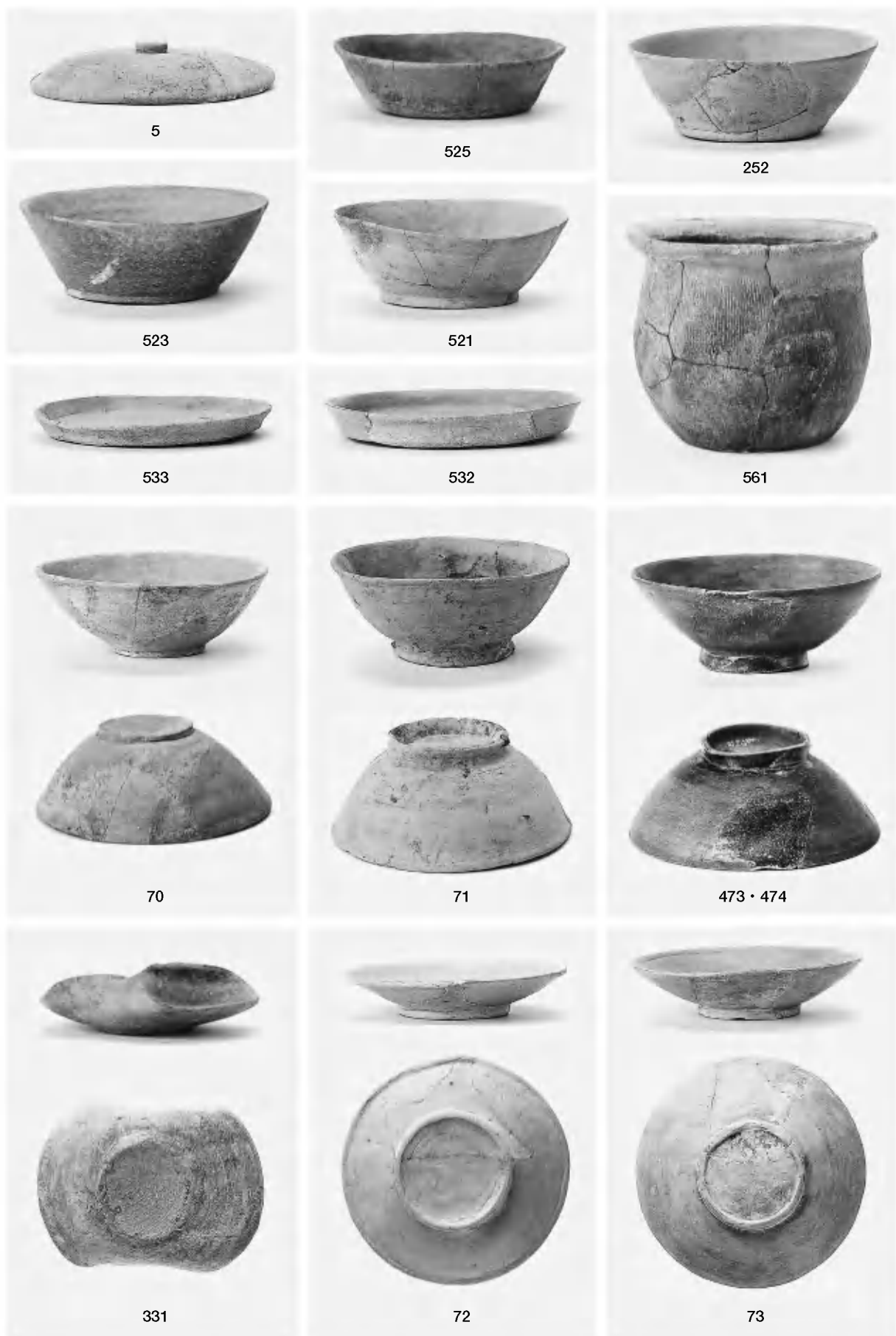


5 土壇17 (東から)



6 土壇21 (南から)

图版10

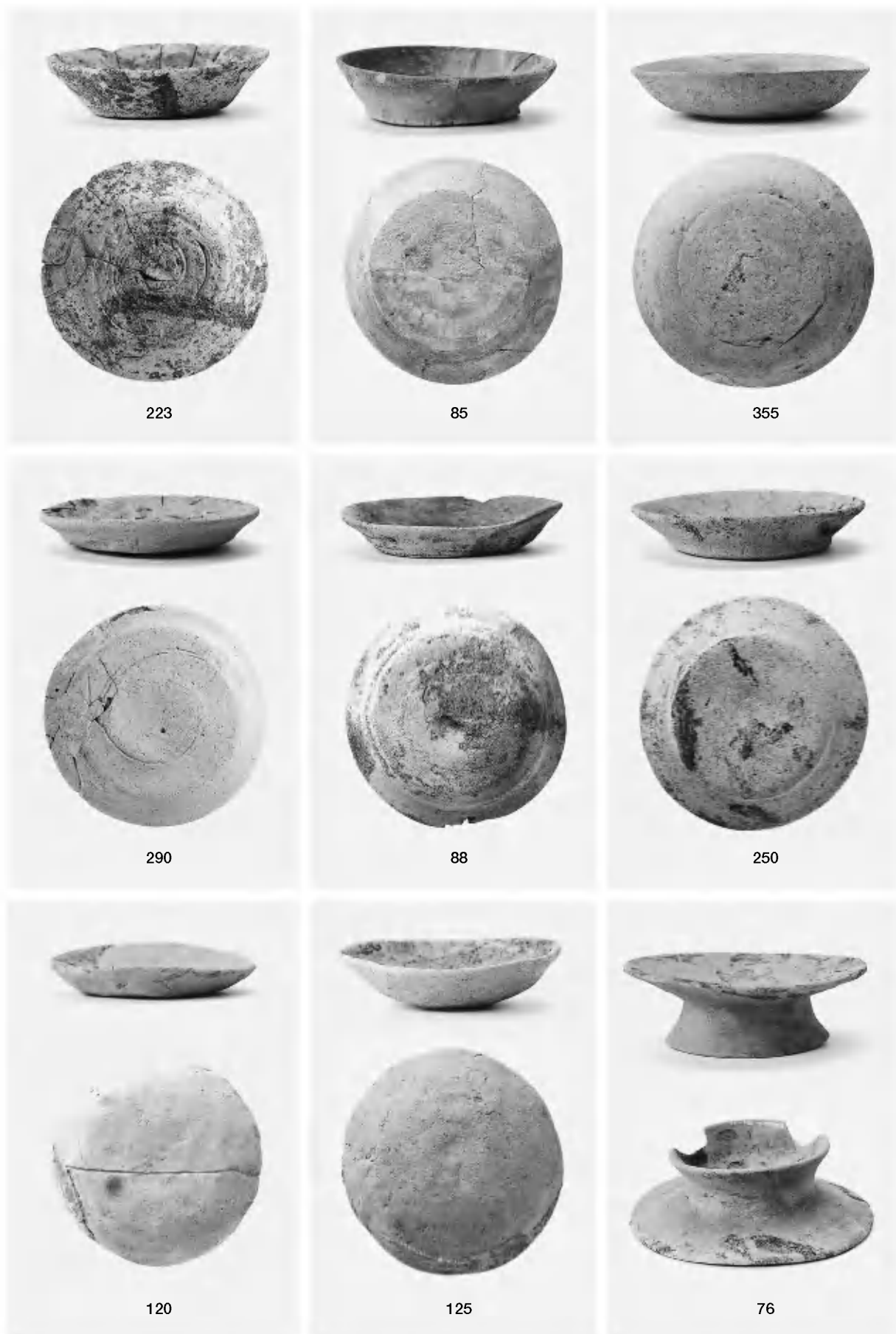


出土土器 1 · 陶器

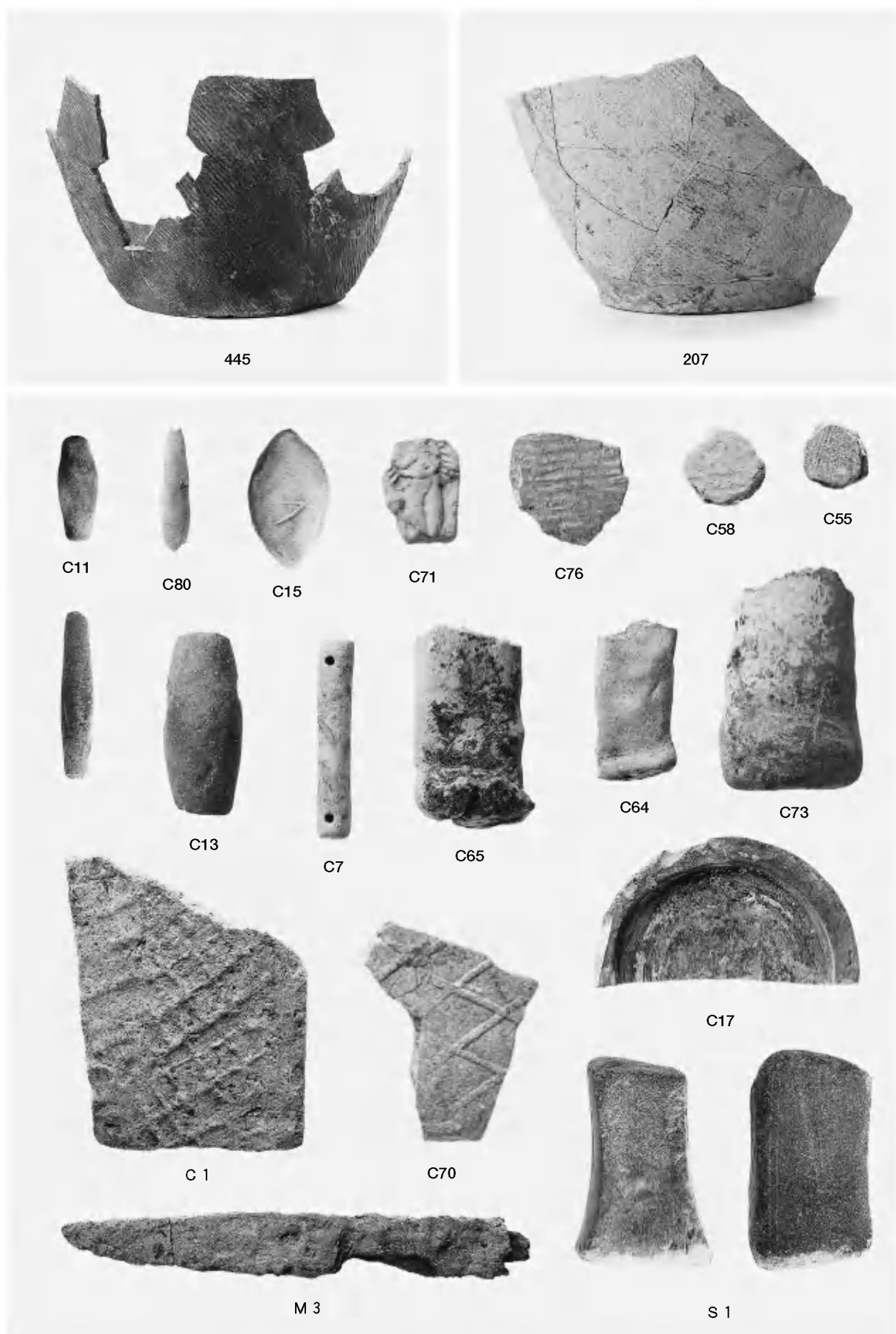




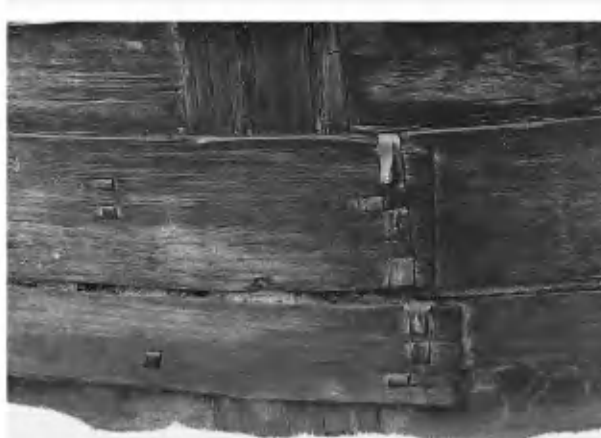
出土土器 3



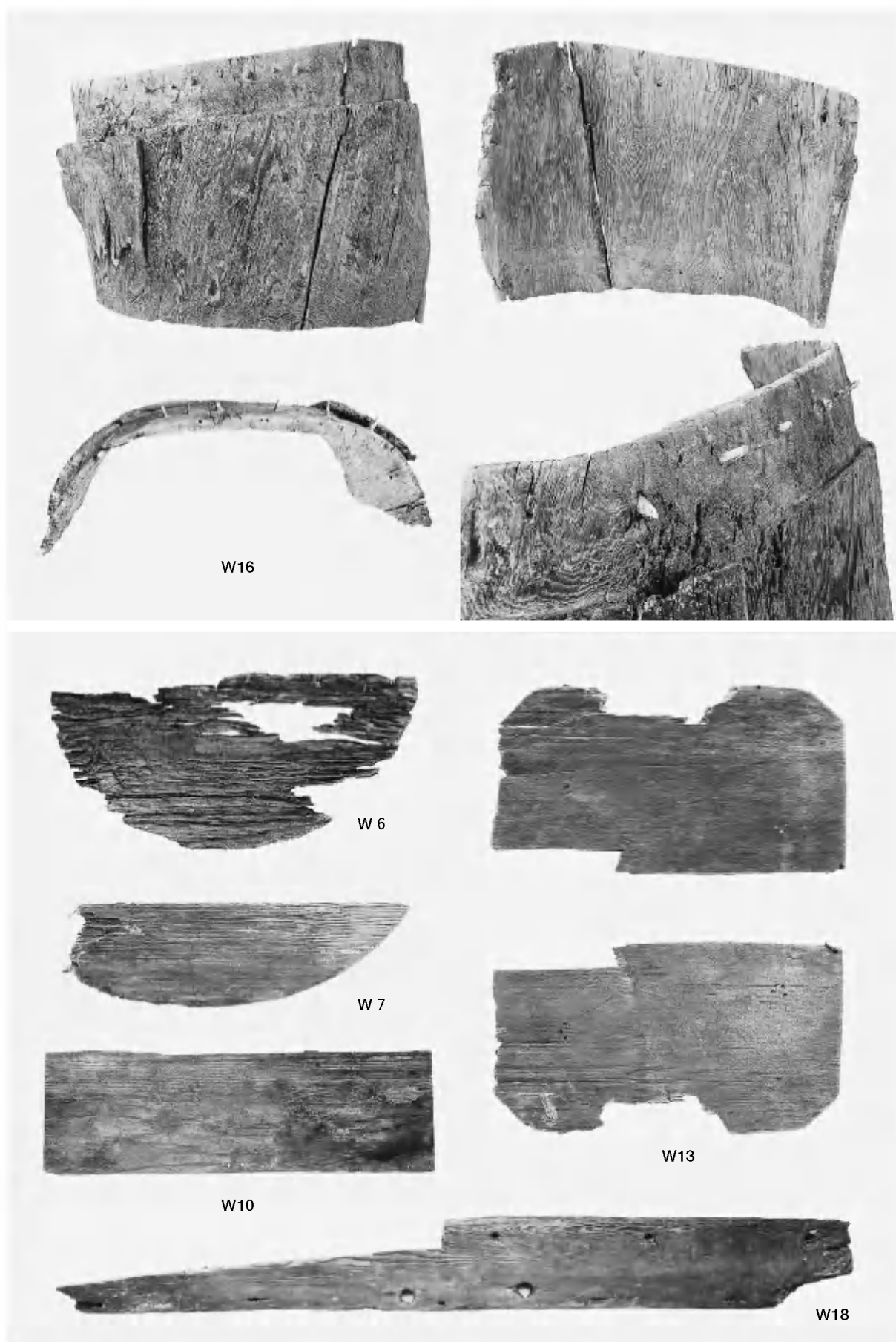
出土土器 4



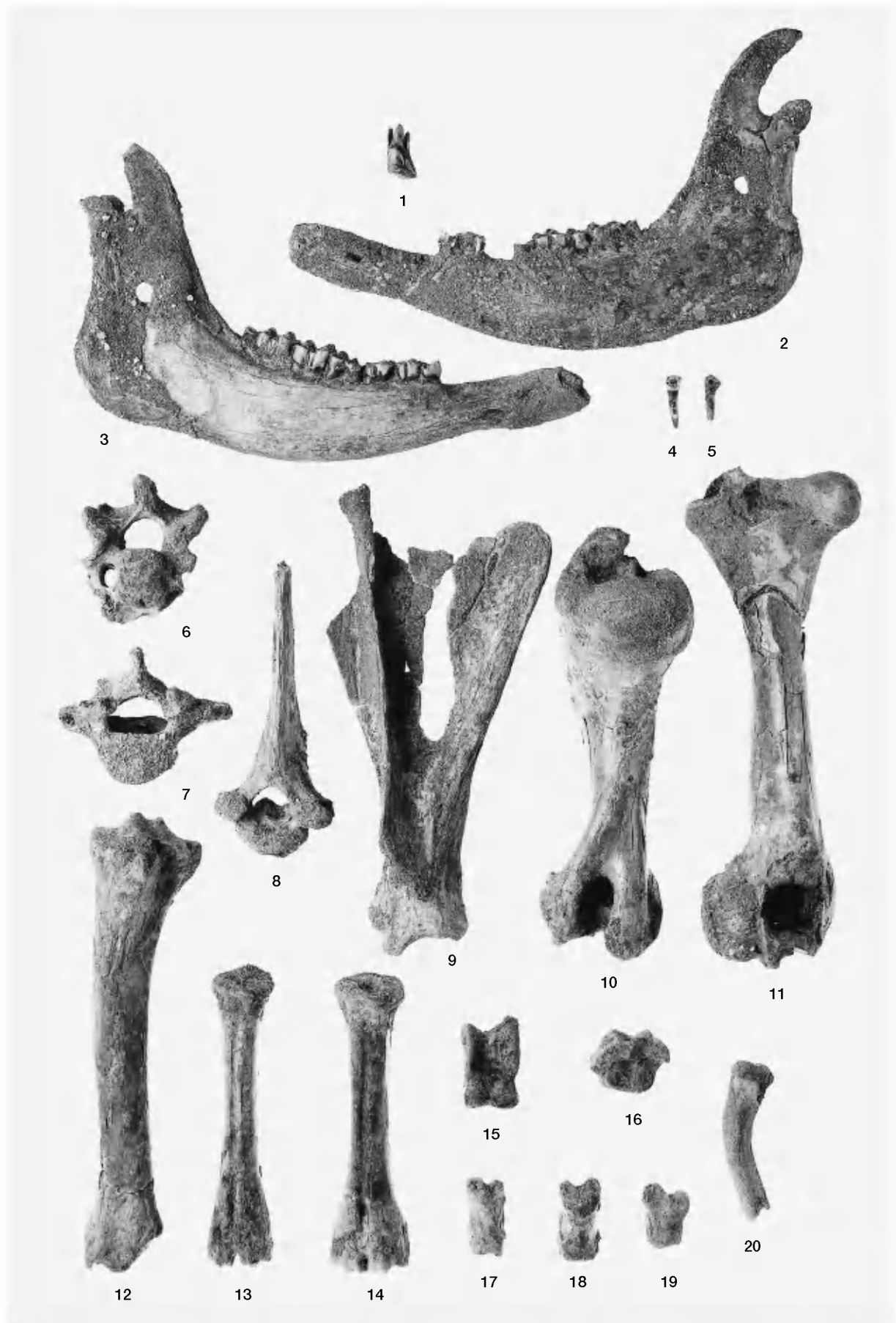
出土土器 5・土製品・石製品・金属製品



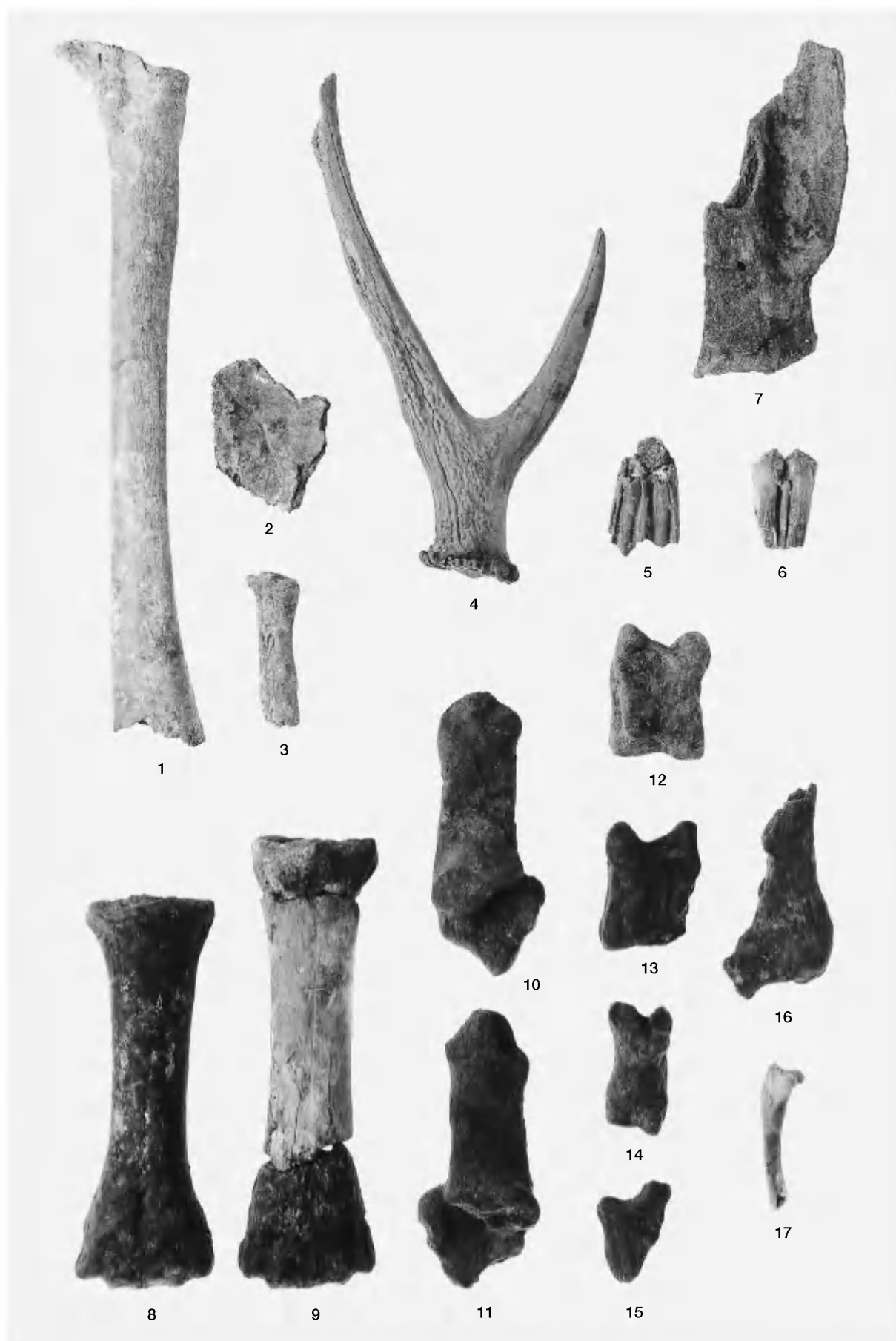
出土木製品 1



出土木製品 2



出土動物遺体 1 (1～19 ウシ、20 不明)



出土動物遺体2 (1～2 ヒト、3 イノシシ、4 ニホンシカ、5～15 ウシ、16～17 ウマ)

報告書抄録

ふ り が な		しかたいせき							
書 名		鹿田遺跡							
副 書 名		県立岡山病院第Ⅰ期・第Ⅱ期整備事業に伴う発掘調査							
巻 次									
シ リ ー ズ 名		岡山県埋蔵文化財発掘調査報告							
シ リ ー ズ 番 号		207							
編 著 者 名		亀山行雄・柳瀬昭彦・井上 弘・柴田英樹・澤山孝之・渡邊恵里子・杉山一雄・稲谷知子							
編 集 機 関		岡山県古代吉備文化財センター							
所 在 地		〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3 TEL 086-293-3211 http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm							
発 行 機 関		岡山県教育委員会							
所 在 地		〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6 TEL 086-224-2111							
発 行 年 月 日		西暦2007年 2 月28日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名		ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
しかた 鹿 田 遺 跡		おかやまけんおかやまし 岡山県岡山市 しかたほんまち 鹿田本町 3—16	33201	332012283	34° 38′ 7″	133° 55′ 9″	2001.4.1 ～9.30 2002.7.1 ～9.30 2004.8.2 ～10.31	1,950 1,290 3,400	県立岡山病院第Ⅰ期・第Ⅱ期整備事業
所 収 遺 跡 名		種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物				特記事項
鹿 田 遺 跡		集 落	平安～室町時代	掘立柱建物2・井戸10・土壇17・溝10・たわみ3・河道1	土器(土師器・須恵器・黒色土器)、陶器(緑釉・灰釉・備前)、磁器(青磁・白磁)、土製品(瓦・土錘・硯)、石製品(砥石)・木製品(折敷・曲物)・金属製品(刀・釘)・自然遺物(貝・獣骨)				鹿田荘所在推定地
			江戸時代	土壇8・溝6・水田	土器(土師器)、陶器(備前・肥前・京)、磁器(青花・染付)、土製品(瓦・土錘・泥仏)、金属製品(銭・釘)				
要 約		9世紀から11世紀を主体とし、14世紀までの時期幅をもつ掘立柱建物・井戸・土壇・溝・河道などを確認した。出土遺物の中には、緑釉陶器や灰釉陶器など貴重な遺物が含まれていることから、調査地付近にその所在が比定される鹿田荘との関わりが注目される。							

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 207

鹿 田 遺 跡

県立岡山病院第Ⅰ期・第Ⅱ期整備事業に伴う発掘調査

平成19年2月28日 印刷

平成19年2月28日 発行

編 集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山県岡山市西花尻1325-3

発 行 岡山県教育委員会
岡山県岡山市内山下2-4-6

印 刷 サンコー印刷株式会社
岡山県総社市真壁871-2



本文用紙は古紙配合率100%再生紙を使用しています